

経済学部 経営情報学科 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	2
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	3
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	4
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	5
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	7
		2年			
	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	8
		2年			
	文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	9
		2年			
	言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	10
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	11	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	12	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	13	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	15
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	16
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 高西 敏正	1学期	1	2	17
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 加倉井 美智子	1学期	1	2	18
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 高西 敏正	2学期	1	2	19
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 徳永 政夫	2学期	1	2	20
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 加倉井 美智子	2学期	1	2	21
		1年			
	自己管理論 生田カツ工、稲月正	2学期	1	2	22
		1年			
	キャリア・デザイン 眞鍋 和博	1学期	1	2	23
		1年			
	キャリア・デザイン 見館 好隆	1学期	1	2	24
		1年			
コミュニケーションと思考法 眞鍋 和博	2学期	1	2	25	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 見館 好隆	1学期	2	2	26	
	2年				
大学論・学問論 休講	1学期	1	2		
	1年				
法律の読み方 小野 憲昭 他	2学期	1	2	27	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	28	
	1年				
統計を読む・統計をつくる 山本 努	1学期	1	2	29	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズI (サッカー) 磯貝 浩久	1学期	1	1	30
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) 濱崎 裕介	1学期	1	1	31
		1年			
	フィジカル・エクササイズI(ソフトボール) 濱崎 裕介	1学期	1	1	32
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 加倉井 美智子	1学期	1	1	33
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 高西 敏正	1学期	1	1	34
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 美山 泰教	1学期	1	1	35
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 美山 泰教	1学期	1	1	36
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 鯨 吉夫	1学期	1	1	37
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 鯨 吉夫	1学期	1	1	38
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 磯貝 浩久	2学期	1	1	39
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 濱崎 裕介	2学期	1	1	40	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 濱崎 裕介	2学期	1	1	41	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 美山 泰教	2学期	1	1	42	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 美山 泰教	2学期	1	1	43	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) 鯨 吉夫	2学期	1	1	44	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー) 磯貝 浩久	2学期	1	1	45	
		1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 鯨 吉夫	2学期	1	1	46	
		1年				
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	47	
		1年				
	■教養演習科目	教養基礎演習I 伊野 憲治 他	1学期	1	2	48
			1年			
		教養基礎演習I 日高 京子	1学期	1	2	49
		1年				
教養基礎演習I 小林 道彦		1学期	1	2	50	
		1年				
教養基礎演習I 神原 ゆうこ		1学期	1	2	51	
		1年				
教養基礎演習I 稲月 正		1学期	1	2	52	
		1年				
教養基礎演習I 廣川 祐司		1学期	1	2	53	
		1年				
教養基礎演習I (防衛セミナー) 戸蒔 仁司		1学期	1	2	54	
		1年				
教養基礎演習I 伊原木 大祐		1学期	1	2	55	
	1年					
教養基礎演習I 二宮 正人	1学期	1	2	56		
	1年					
教養基礎演習I 高西 敏正	1学期	1	2	57		
	1年					
教養基礎演習II 伊野 憲治 他	2学期	1	2	58		
	1年					
教養基礎演習II 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	59		
	1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習Ⅱ 日高 京子	2学期	1	2	60
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 小林 道彦	2学期	1	2	61
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 神原 ゆうこ	2学期	1	2	62
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 徳永 政夫	2学期	1	2	63
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 稲月 正	2学期	1	2	64
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 廣川 祐司	2学期	1	2	65
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	1	2	66
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ 伊原木 大祐	2学期	1	2	67
		1年			
教養基礎演習Ⅱ 二宮 正人	2学期	1	2	68	
	1年				
教養基礎演習Ⅱ 高西 敏正	2学期	1	2	69	
	1年				
教養演習AⅠ 伊野 憲治 他	1学期	2	2	70	
	2年				
教養演習AⅠ 高西 敏正	1学期	2	2	71	
	2年				
教養演習AⅠ 日高 京子	1学期	2	2	72	
	2年				
教養演習AⅠ 小林 道彦	1学期	2	2	73	
	2年				
教養演習AⅠ 神原 ゆうこ	1学期	2	2	74	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	75
		2年			
	教養演習AⅠ 稲月 正	1学期	2	2	76
		2年			
	教養演習AⅠ 伊原木 大祐	1学期	2	2	77
		2年			
	教養演習AⅡ 伊野 憲治 他	2学期	2	2	78
		2年			
	教養演習AⅡ 徳永 政夫 他	2学期	2	2	79
		2年			
	教養演習AⅡ 日高 京子	2学期	2	2	80
		2年			
	教養演習AⅡ 小林 道彦	2学期	2	2	81
		2年			
	教養演習AⅡ 神原 ゆうこ	2学期	2	2	82
		2年			
	教養演習AⅡ(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	83
		2年			
教養演習AⅡ 稲月 正	2学期	2	2	84	
	2年				
教養演習AⅡ 伊原木 大祐	2学期	2	2	85	
	2年				
教養演習BⅠ 伊野 憲治 他	1学期	3	2	86	
	3年				
教養演習BⅠ 高西 敏正	1学期	3	2	87	
	3年				
教養演習BⅠ 日高 京子	1学期	3	2	88	
	3年				
教養演習BⅠ 小林 道彦	1学期	3	2	89	
	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ	1学期	3	2	90
	神原 ゆうこ	3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー)	1学期	3	2	91
	戸蒔 仁司	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	92
	稲月 正	3年			
	教養演習BⅠ	1学期	3	2	93
	伊原木 大祐	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	94
	徳永 政夫 他	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	95
	伊野 憲治 他	3年			
	教養演習BⅡ	2学期	3	2	96
	日高 京子	3年			
教養演習BⅡ	2学期	3	2	97	
小林 道彦	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	98	
神原 ゆうこ	3年				
教養演習BⅡ(防衛セミナー)	1学期	3	2	99	
戸蒔 仁司	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	100	
稲月 正	3年				
教養演習BⅡ	2学期	3	2	101	
伊原木 大祐	3年				
プロジェクト演習Ⅰ	2学期	2	2	102	
見館 好隆	2年				
プロジェクト演習Ⅱ	1学期	3	2	103	
見館 好隆	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし(ノウシカ)	1学期	1	2	104
	竹川 大介	1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	動物のみかた 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	105
		1年			
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	106
		1年			
	自然史へのいざない 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	107
		1年			
	くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	108
		1年			
	現代人のこころ 田中 信利	1学期	1	2	109
		1年			
	数のたのしみ 高妻 倫太郎	集中	1	2	110
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	111
		1年			
	思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	112
		1年			
	ものがたりと人間 休講	1学期	1	2	
	1年				
文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	113	
	1年				
言語とコミュニケーション 休講	2学期	1	2		
	1年				
芸術と人間 花田 伸一	2学期	1	2	114	
	1年				
文学を読む 馬場 美佳 他	2学期	1	2	115	
	1年				
戦争と人間 戸蔭 仁司 他	1学期	1	2	116	
	1年				
現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	117	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	118
		1年			
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	119
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	120
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	121
		1年			
	共生の作法 重松 博之 他	2学期	1	2	122
		1年			
	北九州学 日高 京子	2学期	1	2	123
		1年			
	市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	124
		1年			
	企業と社会 遠藤 雄二	2学期	1	2	125
		1年			
	つながりの人間学 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁	1学期	1	2	126
		1年			
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	127
		1年			
現代社会の諸問題 重松 博之 他	2学期	1	2	128	
	1年				
現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	129	
	1年				
国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	130	
	1年				
国際紛争と国連 戸蔭 仁司	1学期	1	2	131	
	1年				
民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	132	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	開発と統治 三宅 博之 他	2学期	1	2	133
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	2学期	1	2	134
		1年			
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	135
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	136
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	137
		1年			
	歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	138
		1年			
	そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	139
		1年			
	戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	140
		1年			
	都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	141
	1年				
ものと人間の歴史 中野 博文	1学期	1	2	142	
	1年				
人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	143	
	1年				
教養特講I (生命と物質) 日高 京子 他	1学期	1	2	144	
	1年				
教養特講I (生命の境界線) 中道 壽一 他	2学期	1	2	145	
	1年				
教養特講II (セクシュアル・ライツ) 文学部 河嶋 静代 他	2学期	1	2	146	
	1年				
教養特講III (誰にも負けない私のイギリス案内) 山崎 勇治	2学期	1	2	147	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	教養特講Ⅳ(報道・情報・営業、テレビはいま)	2学期	1	2	148
	見館 好隆 他	1年			
■教職関連科目	日本史	2学期	1	2	149
	内山 一幸	1年			
	西洋史	1学期	1	2	150
	疇谷 憲洋	1年			
	東洋史	2学期	1	2	151
	藤野 月子	1年			
	社会学	1学期	1	2	152
	稲月 正	1年			
	人文地理学	2学期	1	2	153
	吉津 直樹	1年			
	土地地理学	1学期	1	2	154
	野井 英明	1年			
	地誌学	1学期	1	2	155
	吉津 直樹	1年			
日本国憲法	2学期	1	2	156	
植木 淳	1年				
倫理学	2学期	1	2	157	
伊原木 大祐	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング	1学期	1	2	158
	浅羽 修丈	済・再履営・群			
	エンドユーザコンピューティング	1学期	1	2	159
	浅羽 修丈	営・再履済・群			
	データ処理	2学期	1	2	160
	佐藤 貴之	営 1 - 3			
データ処理	2学期	1	2	161	
中尾 泰士	営 1 - 1				
データ処理	2学期	1	2	162	
中尾 泰士	営 1 - 2				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 中尾 泰士	1学期	2	2	163
		2年			
	情報表現 中尾 泰士	2学期	2	2	164
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	2学期	2	2	165
		2年			
	プログラミング基礎 浅羽 修丈	1学期	2	2	166
		2年			
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 木梨 安子	1学期	1	1	167
		営 1 - A			
	英語I 船方 浩子	1学期	1	1	168
		営 1 - B			
	英語I 下條 かおり	1学期	1	1	169
		営 1 - C			
	英語I 安丸 雅子	1学期	1	1	170
		営 1 - D			
	英語I 渡邊 晶子	1学期	1	1	171
		営 1 - E			
	英語II ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	172
		営 1 - A			
	英語II 船方 浩子	2学期	1	1	173
		営 1 - B			
英語II 下條 かおり	2学期	1	1	174	
	営 1 - C				
英語II 安丸 雅子	2学期	1	1	175	
	営 1 - D				
英語II 木梨 安子	2学期	1	1	176	
	営 1 - E				
英語III ロバート・マーフィ	1学期	1	1	177	
	営 1 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	178
		営 1 - B			
	英語III ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	179
		営 1 - C			
	英語III ホセ・クルーズ	1学期	1	1	180
		営 1 - D			
	英語III 大塚 由美子	1学期	1	1	181
		営 1 - E			
	英語IV ポール・ガラフ・スティール	2学期	1	1	182
		営 1 - A			
	英語IV デビッド・アダム・ストット	2学期	1	1	183
		営 1 - B			
	英語IV ロバート・マーフィ	2学期	1	1	184
		営 1 - C			
	英語IV ホセ・クルーズ	2学期	1	1	185
		営 1 - D			
	英語IV デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	186
		営 1 - E			
英語V 永末 康介	1学期	2	1	187	
	営 2 - A				
英語V 葛西 宏信	1学期	2	1	188	
	営 2 - B				
英語V 村田 希巳子	1学期	2	1	189	
	営 2 - C				
英語V 渡邊 嘉則	1学期	2	1	190	
	営 2 - D				
英語V 吉田 禎子	1学期	2	1	191	
	営 2 - E				
英語VI ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	1	192	
	営 2 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VI 永末 康介	2学期	2	1	193
		営2 - B			
	英語VI 葛西 宏信	2学期	2	1	194
		営2 - C			
	英語VI 渡邊 嘉則	2学期	2	1	195
		営2 - D			
	英語VI 吉田 禎子	2学期	2	1	196
		営2 - E			
	英語VII クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	197
		営2 - A			
	英語VII マーニー・セイディ	1学期	2	1	198
		営2 - B			
	英語VII ホセ・クルーズ	1学期	2	1	199
		営2 - C			
	英語VII ケネス・ギブソン	1学期	2	1	200
		営2 - D			
	英語VII 木梨 安子	1学期	2	1	201
	営2 - E				
英語VIII クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	202	
	営2 - A				
英語VIII ジャマール・ミラー	2学期	2	1	203	
	営2 - B				
英語VIII ホセ・クルーズ	2学期	2	1	204	
	営2 - C				
英語VIII ケネス・ギブソン	2学期	2	1	205	
	営2 - D				
英語VIII マーニー・セイディ	2学期	2	1	206	
	営2 - E				
英語IX 伊藤 晃	1学期	3	1	207	
	済営律政3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語X 杉山 智子	2学期	3	1	208
		済営律政3年			
	英語XI ダニー・ミン	1学期	3	1	209
		済営律政3年			
	英語XII ダニー・ミン	2学期	3	1	210
		済営律政3年			
■第二外国語	中国語I 有働 彰子	1学期	1	1	211
		済営1年			
	中国語II 有働 彰子	2学期	1	1	212
		済営1年			
	中国語III 王 占華	1学期	1	1	213
		済営1年			
	中国語IV 王 占華	2学期	1	1	214
		済営1年			
	中国語V 正野 留加	1学期	2	1	215
		済営人律政群2年			
	中国語VI 正野 留加	2学期	2	1	216
		済営人律政群2年			
	中国語VII 王 晨	1学期	2	1	217
		済営人律政群2年			
中国語VIII 王 晨	2学期	2	1	218	
	済営人律政群2年				
上級中国語I 唐 雋	1学期	3	1	219	
	英国済営比人3年				
上級中国語II 唐 雋	2学期	3	1	220	
	英国済営比人3年				
上級中国語III 王 占華	1学期	3	1	221	
	英国済営比人3年				
上級中国語IV 王 占華	2学期	3	1	222	
	英国済営比人3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語I 金 貞淑	1学期	1	1	223
		済営群 1年			
	朝鮮語II 金 貞淑	2学期	1	1	224
		済営群 1年			
	朝鮮語III 金 貞淑	1学期	1	1	225
		済営群 1年			
	朝鮮語IV 金 貞淑	2学期	1	1	226
		済営群 1年			
	朝鮮語V チャン ユンヒャン	1学期	2	1	227
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VI チャン ユンヒャン	2学期	2	1	228
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VII チャン ユンヒャン	1学期	2	1	229
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VIII チャン ユンヒャン	2学期	2	1	230
		済営比人律政群 2年			
	上級朝鮮語I 金 貞淑	1学期	3	1	231
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語II 金 貞淑	2学期	3	1	232
		英中国済営比人 3年			
上級朝鮮語III 金 貞愛	1学期	3	1	233	
	英中国済営比人 3年				
上級朝鮮語IV 金 貞愛	2学期	3	1	234	
	英中国済営比人 3年				
ロシア語I 芳之内 雄二	1学期	1	1	235	
	済営比人 1年				
ロシア語II 芳之内 雄二	2学期	1	1	236	
	済営比人 1年				
ロシア語III ナタリア・シエストコーワ	1学期	1	1	237	
	済営比人 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語Ⅳ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	238
		済営比人 1年			
	ロシア語Ⅴ 芳之内 雄二	1学期	2	1	239
		済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅵ 芳之内 雄二	2学期	2	1	240
		済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅶ ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	241
		済営比人律政 2年			
	ロシア語Ⅷ ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	242
		済営比人律政 2年			
	ドイツ語Ⅰ 古賀 正之	1学期	1	1	243
		済営人 1年			
	ドイツ語Ⅱ 古賀 正之	2学期	1	1	244
		済営人 1年			
	ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	245
		済営人 1年			
	ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	246
		済営人 1年			
	ドイツ語Ⅴ 山下 哲雄	1学期	2	1	247
		済営比人律政 2年			
ドイツ語Ⅵ 山下 哲雄	2学期	2	1	248	
	済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅶ 山下 哲雄	1学期	2	1	249	
	済営比人律政 2年				
ドイツ語Ⅷ 山下 哲雄	2学期	2	1	250	
	済営比人律政 2年				
フランス語Ⅰ 中川 裕二	1学期	1	1	251	
	済営人 1年				
フランス語Ⅱ 中川 裕二	2学期	1	1	252	
	済営人 1年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語III	山下 広一	1学期	1	1	253
				済営人1年		
	フランス語IV	山下 広一	2学期	1	1	254
				済営人1年		
	フランス語V	坂田 由紀	1学期	2	1	255
				済営比人律政2年		
	フランス語VI	坂田 由紀	2学期	2	1	256
				済営比人律政2年		
	フランス語VII	山下 高之	1学期	2	1	257
				済営比人律政2年		
	フランス語VIII	山下 高之	2学期	2	1	258
				済営比人律政2年		
	スペイン語I	青木 文夫	1学期	1	1	259
				済営1年		
	スペイン語II	青木 文夫	2学期	1	1	260
				済営1年		
	スペイン語III	辻 博子	1学期	1	1	261
				済営1年		
スペイン語IV	辻 博子	2学期	1	1	262	
			済営1年			
スペイン語V	辻 光博	1学期	2	1	263	
			済営比人律政2年			
スペイン語VI	辻 光博	2学期	2	1	264	
			済営比人律政2年			
スペイン語VII	辻 博子	1学期	2	1	265	
			済営比人律政2年			
スペイン語VIII	辻 博子	2学期	2	1	266	
			済営比人律政2年			
■留学生特別科目	日本語A	国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子	1学期(ペア)	1	2	267
			留学生1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語 A 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子	1学期 (ペア)	1	2	268
		留学生 1年			
	日本語 B 清水 順子	1学期 (ペア)	1	2	269
		留学生 1年			
	日本語 B 清水 順子	1学期 (ペア)	1	2	270
		留学生 1年			
	日本語 C 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子	2学期 (ペア)	1	2	271
		留学生 1年			
	日本語 C 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子	2学期 (ペア)	1	2	272
		留学生 1年			
	日本語 D 清水 順子	2学期 (ペア)	1	2	273
		留学生 1年			
	日本語 D 清水 順子	2学期 (ペア)	1	2	274
		留学生 1年			
日本事情 (人文) A		1学期	1	2	275
	留学生 1年				
日本事情 (人文) B		2学期	1	2	276
	留学生 1年				
日本事情 (社会) A 山崎 勇治		1学期	1	2	277
	留学生 1年				
日本事情 (社会) B 山崎 勇治		2学期	1	2	278
	留学生 1年				
■専門教育科目 ■必修科目	入門演習 浦野 恭平	1学期	1	2	279
		1年			
	入門演習 松本 守	1学期	1	2	280
		1年			
	入門演習 齋藤 朗宏	1学期	1	2	281
		1年			
	入門演習 隈本 覚	1学期	1	2	282
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目	入門演習	1学期	1	2	283
	梅澤 俊浩	1年			
	入門演習	1学期	1	2	284
	池田 欽一	1年			
	入門演習	1学期	1	2	285
	別府 俊行	1年			
	入門演習	1学期	1	2	286
	平山 克己	1年			
	入門演習	1学期	1	2	287
	山下 剛	1年			
	基礎演習	1学期	2	2	288
	山下 剛	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	289
	松本 守	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	290
	吉田 祐治	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	291
	浦野 恭平	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	292
	平山 克己	2年			
基礎演習	1学期	2	2	293	
池田 欽一	2年				
基礎演習	1学期	2	2	294	
梅澤 俊浩	2年				
基礎演習	1学期	2	2	295	
隈本 覚	2年				
基礎演習	1学期	2	2	296	
別府 俊行	2年				
基礎演習	1学期	2	2	297	
西澤 健次	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目	基礎演習	1学期	2	2	298
	白石 和孝	2年			
	基礎演習	1学期	2	2	299
	齋藤 朗宏	2年			
	演習I	1学期	3	2	300
	松本 守	3年			
	演習I	1学期	3	2	301
	池田 欽一	3年			
	演習I	1学期	3	2	302
	梅澤 俊浩	3年			
	演習I	1学期	3	2	303
	浦野 恭平	3年			
	演習I	1学期	3	2	304
	隈本 寛	3年			
	演習I	1学期	3	2	305
	齋藤 朗宏	3年			
	演習I	1学期	3	2	306
	高橋 秀直	3年			
	演習I	1学期	3	2	307
	白石 和孝	3年			
演習I	1学期	3	2	308	
西澤 健次	3年				
演習I	1学期	3	2	309	
吉村 英俊	3年				
演習I	1学期	3	2	310	
平山 克己	3年				
演習I	1学期	3	2	311	
福井 直人	3年				
演習I	1学期	3	2	312	
別府 俊行	3年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■必修科目	演習I	1学期	3	2	313
	山岡 敏秀	3年			
	演習I	1学期	3	2	314
	吉田 祐治	3年			
	演習I	1学期	3	2	315
	越出 均	3年			
	演習I	1学期	3	2	316
	山下 剛	3年			
	演習I	1学期	3	2	317
	王 効平	3年			
	演習II	2学期	3	2	318
	松本 守	3年			
	演習II	2学期	3	2	319
	池田 欽一	3年			
	演習II	2学期	3	2	320
	梅澤 俊浩	3年			
	演習II	2学期	3	2	321
	浦野 恭平	3年			
	演習II	2学期	3	2	322
	隈本 覚	3年			
演習II	2学期	3	2	323	
齋藤 朗宏	3年				
演習II	2学期	3	2	324	
高橋 秀直	3年				
演習II	2学期	3	2	325	
白石 和孝	3年				
演習II	2学期	3	2	326	
西澤 健次	3年				
演習II	2学期	3	2	327	
吉村 英俊	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■必修科目	演習II 平山 克己	2学期	3	2	328
		3年			
	演習II 福井 直人	2学期	3	2	329
		3年			
	演習II 別府 俊行	2学期	3	2	330
		3年			
	演習II 山岡 敏秀	2学期	3	2	331
		3年			
	演習II 吉田 祐治	2学期	3	2	332
		3年			
	演習II 越出 均	2学期	3	2	333
		3年			
	演習II 山下 剛	2学期	3	2	334
		3年			
	演習II 王 効平	2学期	3	2	335
		3年			
	経営学入門 福井 直人	1学期	1	2	336
		1年Aグループ			
	経営学入門 福井 直人	1学期	1	2	337
	1年Bグループ				
プログラミングI 武藤 直彦	1学期	1	2	338	
	営1-1				
プログラミングI 武藤 直彦	1学期	1	2	339	
	営1-2				
プログラミングI 武藤 直彦	1学期	1	2	340	
	営1-3				
プログラミングI 隈本 覚	1学期	1	2	341	
	1年(再履修)				
簿記論I 白石 和孝	1学期	1	2	342	
	1年Aグループ				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■必修科目	簿記論I 岡部 勝成	1学期	1	2	343
		1年Bグループ			
	簿記論II 白石 和孝	2学期	1	2	344
		1 - 1			
	簿記論II 任 章	2学期	1	2	345
		1 - 2			
	簿記論II 岡部 勝成	2学期	1	2	346
		1 - 3			
	コンピュータシステム 武藤 直彦	2学期	1	2	347
		1 - 1			
	コンピュータシステム 武藤 直彦	2学期	1	2	348
		1 - 2			
	コンピュータシステム 武藤 直彦	2学期	1	2	349
		1 - 3			
	マネジメント論基礎 浦野 恭平	2学期	1	2	350
		1年Aグループ			
マネジメント論基礎 浦野 恭平	2学期	1	2	351	
	1年Bグループ				
企業論基礎 山岡 敏秀	2学期	1	2	352	
	1年Aグループ				
企業論基礎 山岡 敏秀	2学期	1	2	353	
	1年Bグループ				
■選択科目A	演習III 池田 欽一	1学期	4	2	354
		4年			
	演習III 梅澤 俊浩	1学期	4	2	355
		4年			
	演習III 浦野 恭平	1学期	4	2	356
		4年			
	演習III 永津 美裕	1学期	4	2	357
		4年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目A	演習III 隈本 覚	1学期	4	2	358
		4年			
	演習III 齋藤 朗宏	1学期	4	2	359
		4年			
	演習III 白石 和孝	1学期	4	2	360
		4年			
	演習III 西澤 健次	1学期	4	2	361
		4年			
	演習III 平山 克己	1学期	4	2	362
		4年			
	演習III 福井 直人	1学期	4	2	363
		4年			
	演習III 別府 俊行	1学期	4	2	364
		4年			
	演習III 山岡 敏秀	1学期	4	2	365
		4年			
	演習III 吉田 祐治	1学期	4	2	366
		4年			
	演習III 松本 守	1学期	4	2	367
		4年			
演習III 吉村 英俊	1学期	4	2	368	
	4年				
演習IV 池田 欽一	2学期	4	2	369	
	4年				
演習IV 梅澤 俊浩	2学期	4	2	370	
	4年				
演習IV 浦野 恭平	2学期	4	2	371	
	4年				
演習IV 永津 美裕	2学期	4	2	372	
	4年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■選択科目A	演習IV	2学期	4	2	373
	隈本 覚	4年			
	演習IV	2学期	4	2	374
	齋藤 朗宏	4年			
	演習IV	2学期	4	2	375
	白石 和孝	4年			
	演習IV	2学期	4	2	376
	西澤 健次	4年			
	演習IV	2学期	4	2	377
	平山 克己	4年			
	演習IV	2学期	4	2	378
	福井 直人	4年			
	演習IV	2学期	4	2	379
	別府 俊行	4年			
	演習IV	2学期	4	2	380
	山岡 敏秀	4年			
演習IV	2学期	4	2	381	
吉田 祐治	4年				
演習IV	2学期	4	2	382	
吉村 英俊	4年				
演習IV	2学期	4	2	383	
松本 守	4年				
数学	1学期	1	2	384	
吉田 祐治	営1年				
経営統計	2学期	1	2	385	
吉田 祐治	1年				
経済学入門A	1学期	1	2	386	
牛房 義明	1年Aケル-7'				
経済学入門A	1学期	1	2	387	
魏 芳	1年Bケル-7'				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目A	経済学入門B	1学期	1	2	388
	後藤 尚久	1年Aグループ			
	経済学入門B	1学期	1	2	389
	安岡 匡也	1年Bグループ			
	統計学I	1学期	1	2	390
	林田 実	1年			
	ミクロ経済学I	2学期	1	2	391
	朱 乙文	1年			
	マクロ経済学I	2学期	1	2	392
	田中 淳平	1年			
	プログラミングII (新JAVA)	1学期	2	2	393
	平山 克己	2年(新カリ)			
	プログラミングII (旧VB)	2学期	2	2	394
	閉講	2年(旧カリ)			
	データ構造	2学期	2	2	394
	隈本 覚	2年			
	データ解析	2学期	2	2	395
	齋藤 朗宏	2年Aグループ			
	データ解析	2学期	2	2	396
	齋藤 朗宏	2年Bグループ			
データベース	1学期	2	2	397	
池田 欽一	2年				
経営戦略	2学期	2	2	398	
浦野 恭平	2年				
経営組織論	1学期	2	2	399	
山下 剛	2年				
企業ファイナンスI	1学期	2	2	400	
松本 守	2年				
企業ファイナンスII	2学期	2	2	401	
松本 守	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	マーケティングI 別府 俊行	1学期	2	2	402
	2年				
	マーケティングII 別府 俊行	2学期	2	2	403
	2年				
	人事管理論 福井 直人	2学期	2	2	404
	2年				
	財務会計論I 西澤 健次	1学期	2	2	405
	2年				
	財務会計論II 西澤 健次	2学期	2	2	406
	2年				
	原価計算論I 梅澤 俊浩	1学期	2	2	407
	2年				
	原価計算論II 梅澤 俊浩	2学期	2	2	408
	2年				
	簿記論III 白石 和孝 他	2学期	2	2	409
	2年				
	工業簿記 大崎 美泉	集中	2	2	410
	2年				
ミクロ経済学II 朱 乙文	1学期	2	2	411	
2年					
マクロ経済学II 田中 淳平	1学期	2	2	412	
2年					
システム設計I 平山 克己	1学期	3	2	413	
3年					
システム設計II 平山 克己	2学期	3	2	414	
3年					
情報ネットワーク 休講	1学期	3	2		
3年					
オペレーションズ・リサーチ 齋藤 朗宏	1学期	3	2	415	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	情報管理 池田 欽一	2学期	3	2	416
	3年				
	経営数学 吉田 祐治	2学期	3	2	417
	3年				
	証券市場論 休講	1学期	3	2	
	3年				
	中小企業論 別府 俊行	1学期	3	2	418
	3年				
	経営学特殊講義A 高橋 秀直	1学期	3	2	419
	3年				
	経営学特殊講義B 吉村 英俊	1学期	3	2	420
	3年				
	生産マネジメントA 休講	1学期	3	2	
	3年				
	生産マネジメントB 棚次 奎介	2学期	3	2	421
	3年				
	国際経営A 王 効平	1学期	3	2	422
	3年				
	国際経営B 王 効平	2学期	3	2	423
	3年				
情報マネジメントA 越出 均	1学期	3	2	424	
3年					
情報マネジメントB 越出 均	2学期	3	2	425	
3年					
コーポレートガバナンス 休講	2学期	3	2		
3年					
地域企業分析 休講	2学期	3	2		
3年					
国際会計論 白石 和孝	1学期	3	2	426	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目A	管理会計論 休講	1学期	3	2	
		3年			
	情報会計 大崎 美泉	1学期	3	2	427
		3年			
	会計監査論 池口 慶一	1学期	3	2	428
		3年			
	経営分析 休講	1学期	3	2	
		3年			
	税務会計 畠中 瞳	1学期	3	2	429
		3年			
	外書講読 松本 守	2学期	3	2	430
		3年			
	業界研究I 土山 勇 他	1学期	3	2	431
		3年			
	業界研究II 浦野 恭平	集中	3	2	432
		3年			
	ビジネス英語A (選抜クラス) アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	433
		3年選抜クラス			
	ビジネス英語A アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	434
		3年			
ビジネス英語A アンデリュー・ジッツマン	1学期	3	2	435	
	3年				
ビジネス英語A 林 裕二	1学期	3	2	436	
	3年				
ビジネス英語B (選抜クラス) アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	437	
	3年選抜クラス				
ビジネス英語B アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	438	
	3年				
ビジネス英語B アンデリュー・ジッツマン	2学期	3	2	439	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	ビジネス英語B	2学期	3	2	440
	林 裕二	3年			
	会社法I	1学期	3	2	441
	高橋 衛	3年			
会社法II	2学期	3	2	442	
高橋 衛	3年				
統計学II	林田 実	2学期	1	2	443
		1年			
■選択科目B	民法総則	1学期(ペア)	1	4	444
	小野 憲昭	1年			
	都市経済論	1学期	1	2	445
	古賀 哲矢	1年			
	日本行政論	2学期	1	2	446
	森 裕亮	1年			
	金融論I	1学期	2	2	447
	後藤 尚久	2年			
	金融論II	2学期	2	2	448
	後藤 尚久	2年			
	経済地理学I	1学期	2	2	449
	柳井 雅人	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	450
	柳井 雅人	2年			
国際経済論I	1学期	2	2	451	
魏 芳	2年				
国際経済論II	2学期	2	2	452	
魏 芳	2年				
産業組織論I	1学期	2	2	453	
後藤 宇生	2年				
産業組織論II	2学期	2	2	454	
吉田 友紀	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	地域経済I 田村 大樹	1学期	2	2	455
		2年			
	地域経済II 杉浦 勝章	2学期	2	2	456
		2年			
	北九州経済分析I 城戸 宏史	1学期	2	2	457
		2年			
	北九州経済分析II 城戸 宏史	2学期	2	2	458
		2年			
	地域政策 休講	2学期	2	2	
		2年			
	国際法I 二宮 正人	1学期	2	2	459
		2年			
	国際法II 二宮 正人	2学期	2	2	460
		2年			
	雇用関係法 石田 信平	1学期	2	2	461
		2年			
	所得保障法 津田 小百合	2学期	2	2	462
		2年			
	企業活動と法 今泉 恵子	1学期	2	2	463
		2年			
企業取引法I 今泉 恵子	2学期	2	2	464	
	2年				
社会サービス法 津田 小百合	2学期	2	2	465	
	2年				
労使関係法 石田 信平	1学期	2	2	466	
	2年				
都市経営論 古賀 哲矢	2学期	2	2	467	
	2年				
国際協力論I 大平 剛	1学期	2	2	468	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目B	国際協力論II 大平 剛	2学期	2	2	469
		2年			
	公共経済学 牛房 義明	2学期	3	2	470
		3年			
	環境経済学 牛房 義明	1学期	3	2	471
		3年			
	財政学I 休講	1学期	3	2	
		3年			
	財政学II 休講	2学期	3	2	
		3年			
	国際マクロ経済学I 末永 勝昭	1学期	3	2	472
		3年			
	国際マクロ経済学II 末永 勝昭	2学期	3	2	473
		3年			
	国際貿易論I 水戸 康夫	1学期	3	2	474
		3年			
	国際貿易論II 水戸 康夫	2学期	3	2	475
		3年			
	ファイナンス論 武田 寛	2学期	3	2	476
		3年			
都市財政I 大野 正久	1学期	3	2	477	
	3年				
都市財政II 大野 正久	2学期	3	2	478	
	3年				
地域金融分析 休講	2学期	3	2		
	3年				
経済学特殊講義A 畔津 憲司	1学期	3	2	479	
	3年				
経済学特殊講義B 畔津 憲司	2学期	3	2	480	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	企業取引法II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	企業法の現代的展開	2学期	3	2	481
	木村 友久	3年			
	情報公開・個人情報保護法	2学期	3	2	482
	岡本 博志	3年			
	独占禁止法	1学期	3	2	483
	高場 俊光	3年			
	証券市場と法	2学期	3	2	484
	前越 俊之	3年			
	知的財産法	1学期	3	2	485
	木村 友久	3年			
	都市政策論	2学期	3	2	
	休講	3年			
Advanced Reading and Discussion	1学期	3	2	486	
デニス・ジョーンズ	3年				
ビジネス英語研究	2学期	3	2	487	
松田 智	3年				
上級英語I	1学期	3	2	488	
アンデリュー・ジッツマン	3年				
上級英語II	2学期	3	2	489	
アンデリュー・ジッツマン	3年				
■自由科目	職業指導A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	職業指導B	2学期	2	2	
休講	2年				
■教職に関する科目	道徳教育の研究	1学期	2	2	490
	黒田 耕司	2年			
	教育実習3	1学期	4	2	491
恒吉 紀寿 他	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	492
	黒田 耕司	1年			
	教育原理	2学期	1	2	493
	見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	494
	税田 慶昭	2年			
	教育制度	1学期	3	2	495
	見玉 弥生	3年			
	商業科教育法A	1学期	2	2	496
	綾部 眞道	2年			
	商業科教育法B	2学期	2	2	497
	綾部 眞道	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	498
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	499
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	500
	大塚 一徳	2年			
	教育実習1	2学期	3	2	501
黒田 耕司 他	3年				
教育実習2	1学期	4	2	502	
恒吉 紀寿 他	4年				
教育相談	1学期	2	2	503	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	504	
楠 凡之	2年				
教職実践演習	2学期	4	2	505	
未開講	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	505
	五十嵐 亮	2年			

経済学部 経営情報学科 (2010年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	教育法規	2学期	3	2	506
	見玉 弥生	3年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	
	休講	2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	507
	弓野 勝族	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	508	
	1年					
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	509	
	1年					
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	510	
	1年					
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	511	
	1年					
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	512	
	1年					
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	513	
	1年					
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)			2	2	
	2年					
	家族の再生 (昼のみ開講)			2	2	
	2年					
文化と政治 (昼のみ開講)			2	2		
2年						
言語と認知 (昼のみ開講)			2	2		
2年						
共生社会論 (昼のみ開講)			2	2		
2年						
戦争と平和 (昼のみ開講)			2	2		
2年						
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	514		
1年						
共同体と身体 (昼のみ開講)			2	2		
2年						
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	515	
1年						

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 中島 俊介	2学期	1	2	516
		1年			
	フィジカル・ヘルスI 内田 若希	1学期	1	2	517
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 休講	2学期	1	2	
		1年			
	自己管理論 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	キャリア・デザイン (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	コミュニケーションと思考法 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	プロフェッショナルの仕事 (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	大学論・学問論 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
法律の読み方 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
社会調査 休講	2学期	1	2		
	1年				
統計を読む・統計をつくる (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 休講	1学期	1	1		
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 徳永 政夫	2学期	1	1	518	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養基礎演習II (昼のみ開講)		1	2	
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	教養演習AⅡ (昼のみ開講)		2	2	
		2年			
	教養演習BⅠ (昼のみ開講)		3	2	
		3年			
	教養演習BⅡ 二宮 正人	2学期	3	2	519
	3年				
プロジェクト演習Ⅰ (昼のみ開講)		2	2		
	2年				
プロジェクト演習Ⅱ (昼のみ開講)		3	2		
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし(人間と生命) 日高 京子	2学期	1	2	520
		1年			
	動物のみかた (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	地球の生いたち 休講	2学期	1	2	
		1年			
	自然史へのいざない (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
くらしと化学 秋貞 英雄	1学期	1	2	521	
	1年				
現代人のこころ 森永 今日子	1学期	1	2	522	
	1年				
数のたのしみ (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
私たちと宗教 (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
思想と現代 休講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものがたりと人間 (昼のみ開講)		1	2	1年	
	文化と表象 (昼のみ開講)		1	2	1年	
	言語とコミュニケーション (昼のみ開講)		1	2	1年	
	芸術と人間 (昼のみ開講)		1	2	1年	
	文学を読む 休講	2学期	1	2	1年	
	戦争と人間 (昼のみ開講)		1	2	1年	
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	1年	523
	民主主義とは何か 休講	1学期	1	2	1年	
	人権論 休講	1学期	1	2	1年	
	ジェンダー論 休講	1学期	1	2	1年	
障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	1年	524	
共生の作法 (昼のみ開講)		1	2	1年		
北九州学 休講	2学期	1	2	1年		
市民活動論 西田 心平	2学期	1	2	1年	525	
企業と社会 休講	1学期	1	2	1年		

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	つなぐりの人間学 (昼のみ開講)		1	2	526
		1年			
	現代社会と倫理 休講	1学期	1	2	527
		1年			
	現代社会の諸問題 重松 博之 他	2学期	1	2	528
		1年			
	現代の国際情勢 休講	1学期	1	2	529
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	530
		1年			
	国際紛争と国連 休講	1学期	1	2	531
		1年			
	民族・エスニシティ問題 (昼のみ開講)		1	2	532
		1年			
	開発と統治 休講	2学期	1	2	533
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	2学期	1	2	534
		1年			
	テロリズム論 (昼のみ開講)		1	2	535
		1年			
国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	536	
	1年				
歴史の読み方I 小林 道彦	1学期	1	2	537	
	1年				
歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	538	
	1年				
そのとき世界は (昼のみ開講)		1	2	539	
	1年				
戦後の日本経済 (昼のみ開講)		1	2	540	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	532
		1年			
	もとと人間の歴史 (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	人物と時代の歴史 山崎 勇治 他	1学期	1	2	533
		1年			
	教養特講I (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講II (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	教養特講III (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
教養特講IV (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
■教職関連科目	日本史 内山 一幸	2学期	1	2	534
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	535
		1年			
	東洋史 藤野 月子	2学期	1	2	536
		1年			
	社会学 稲月 正	1学期	1	2	537
		1年			
	人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	538
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	539
		1年			
地誌学 吉津 直樹	1学期	1	2	540	
	1年				
日本国憲法 休講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学 伊原木 大祐	2学期	1	2	541
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング 中尾 泰士	2学期	1	2	542
	群・夜間主コース				
	データ処理 中尾 泰士	1学期	1	2	543
	群・夜間主コース				
	情報表現 (昼のみ開講)		2	2	
	2年				
プログラミング基礎 (昼のみ開講)		2	2		
2年					
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I 杉山 智子	1学期	1	1	544
	済営夜 1年				
	英語II 杉山 智子	2学期	1	1	545
	済営夜 1年				
	英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	546
	済営夜 1年				
	英語IV クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	547
	済営夜 1年				
	英語V 伊藤 晃	1学期	2	1	548
	済営夜 2年				
	英語VI 漆原 朗子	2学期	2	1	549
	済営夜 2年				
	英語VII ダニー・ミン	1学期	2	1	550
	済営夜 2年				
英語VIII ダニー・ミン	2学期	2	1	551	
済営夜 2年					
■第二外国語	中国語I 一木 達彦	1学期	1	1	552
	済営律政夜 1年				
	中国語II 一木 達彦	2学期	1	1	553
済営律政夜 1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語Ⅲ 王 占華	1学期	1	1	554
		済営律政夜 1年			
	中国語Ⅳ 王 占華	2学期	1	1	555
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅰ 金 光子	1学期	1	1	556
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅱ 金 光子	2学期	1	1	557
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅲ 金 光子	1学期	1	1	558
		済営律政夜 1年			
	朝鮮語Ⅳ 金 光子	2学期	1	1	559
		済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅰ 芳之内 雄二	1学期	1	1	560
		済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅱ 芳之内 雄二	2学期	1	1	561
		済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅲ 芳之内 雄二	1学期	1	1	562
		済営律政夜 1年			
	ロシア語Ⅳ 芳之内 雄二	2学期	1	1	563
		済営律政夜 1年			
ドイツ語Ⅰ 山下 哲雄	1学期	1	1	564	
	済営律政夜 1年				
ドイツ語Ⅱ 山下 哲雄	2学期	1	1	565	
	済営律政夜 1年				
ドイツ語Ⅲ 山下 哲雄	1学期	1	1	566	
	済営律政夜 1年				
ドイツ語Ⅳ 山下 哲雄	2学期	1	1	567	
	済営律政夜 1年				
フランス語Ⅰ 福島 勲	1学期	1	1	568	
	済営律政夜 1年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語II	福島 勲	2学期	1	1	569
				済営律政夜 1年		
	フランス語III	福島 勲	1学期	1	1	570
				済営律政夜 1年		
	フランス語IV	福島 勲	2学期	1	1	571
				済営律政夜 1年		
	スペイン語I	岡住 正秀	1学期	1	1	572
				済営律政夜 1年		
	スペイン語II	岡住 正秀	2学期	1	1	573
				済営律政夜 1年		
	スペイン語III	岡住 正秀	1学期	1	1	574
				済営律政夜 1年		
スペイン語IV	岡住 正秀	2学期	1	1	575	
			済営律政夜 1年			
■専門教育科目 ■必修科目	入門演習	閉講	1学期	1	2	
				1年		
	基礎演習	齋藤 朗宏	1学期	2	2	576
				2年		
	演習I	福井 直人	1学期	3	2	577
				3年		
	演習II	福井 直人	2学期	3	2	578
				3年		
	経営学入門	浦野 恭平	1学期	1	2	579
				1年		
プログラミングI	閉講	1学期	1	2		
			1年			
簿記論I	池口 慶一	1学期	1	2	580	
			1年			
簿記論II	池口 慶一	2学期	1	2	581	
			1年			

経済学部 経営情報学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■必修科目	コンピュータシステム	2学期	1	2	582	
	泉 英明	1年				
	マネジメント論基礎	2学期	1	2	583	
	西村 香織	1年				
	企業論基礎	2学期	1	2	584	
	中間 信博	1年				
	■選択科目A	演習III	1学期	4	2	585
		池田 欽一	4年			
		演習IV	2学期	4	2	586
池田 欽一		4年				
数学		1学期	1	2	587	
休講		1年				
経営統計		2学期	1	2	587	
吉田 祐治		1年				
経済学入門A		1学期	1	2	588	
藤井 敦		1年				
経済学入門B		1学期	1	2	589	
畔津 憲司		1年				
統計学I		1学期	1	2	590	
林田 実		1年				
ミクロ経済学I		2学期	1	2	591	
朱 乙文		1年				
マクロ経済学I		2学期	1	2	592	
田中 淳平	1年					
プログラミングII (新JAVA)	1学期	2	2	593		
平山 克己	2年 (新カリ)					
プログラミングII (旧VB)	2学期	2	2	594		
閉講	2年 (旧カリ)					
データ構造	2学期	2	2	594		
隈本 覚	2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	データ解析	2学期	2	2	
	休講(昼のみ開講)	2年			
	データベース	1学期	2	2	595
	池田 欽一	2年			
	経営戦略	2学期	2	2	596
	浦野 恭平	2年			
	経営組織論	1学期	2	2	597
	山下 剛	2年			
	企業ファイナンスI	1学期	2	2	598
	篠崎 伸也	2年			
	企業ファイナンスII	2学期	2	2	599
	内田 交謹	2年			
	マーケティングI	1学期	2	2	600
	別府 俊行	2年			
	マーケティングII	2学期	2	2	
	休講(昼のみ開講)	2年			
	人事管理論	2学期	2	2	601
	福井 直人	2年			
	財務会計論I	1学期	2	2	602
	西澤 健次	2年			
財務会計論II	2学期	2	2		
休講(昼のみ開講)	2年				
原価計算論I	1学期	2	2	603	
梅澤 俊浩	2年				
原価計算論II	2学期	2	2		
休講(昼のみ開講)	2年				
簿記論III	2学期	2	2		
休講(昼のみ開講)	2年				
工業簿記	1学期	2	2		
休講(昼のみ開講)	2年				

経済学部 経営情報学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目A	ミクロ経済学II 朱 乙文	1学期	2	2	604
		2年			
	マクロ経済学II 田中 淳平	1学期	2	2	605
		2年			
	システム設計I 休講	1学期	3	2	
		3年			
	システム設計II 休講	2学期	3	2	
		3年			
	情報ネットワーク 隈本 寛	1学期	3	2	606
		3年			
	オペレーションズ・リサーチ 休講 (昼のみ開講)	1学期	3	2	
		3年			
	情報管理 池田 欽一	2学期	3	2	607
		3年			
	経営数学 休講	2学期	3	2	
		3年			
	証券市場論 孫 月	2学期	3	2	608
		3年			
	中小企業論 休講	1学期	3	2	
		3年			
経営学特殊講義A 休講 (昼のみ開講)	1学期	3	2		
	3年				
経営学特殊講義B 休講 (昼のみ開講)	2学期	3	2		
	3年				
生産マネジメントA 休講 (昼のみ開講)	1学期	3	2		
	3年				
生産マネジメントB 休講	2学期	3	2		
	3年				
国際経営A 休講	1学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	国際経営B	2学期	3	2	
	休講	3年			
	情報マネジメントA	1学期	3	2	
	休講	3年			
	情報マネジメントB	2学期	3	2	
	休講	3年			
	コーポレートガバナンス	2学期	3	2	609
	晴山 英夫	3年			
	地域企業分析		3	2	
	休講(昼のみ開講)	3年			
	国際会計論	1学期	3	2	
	休講(昼のみ開講)	3年			
	管理会計論	1学期	3	2	610
	梅澤 俊浩	3年			
	情報会計	1学期	3	2	
	休講	3年			
	会計監査論	1学期	3	2	
	休講	3年			
	経営分析	1学期	3	2	611
	西澤 健次	3年			
税務会計	1学期	3	2		
休講(昼のみ開講)	3年				
業界研究I	1学期	3	2		
(昼間開講)	3年				
業界研究II	集中	3	2		
(昼間開講)	3年				
ビジネス英語A	1学期	3	2	612	
林 裕二	3年				
ビジネス英語B	2学期	3	2	613	
林 裕二	3年				

経済学部 経営情報学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目A	会社法I	1学期	3	2	614
	高橋 衛 ※2007、2008年度入学生のみ受講可	3年			
	会社法II	2学期	3	2	
	休講	3年			
	統計学II	2学期	1	2	615
	林田 実	1年			
■選択科目B	民法総則		1	4	
	休講	1年			
	都市経済論	2学期	1	2	
	休講	1年			
	日本行政論		1	2	
	休講	1年			
	金融論I	1学期	2	2	
	休講	2年			
	金融論II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	経済地理学I	1学期	2	2	616
	柳井 雅人	2年			
	経済地理学II	2学期	2	2	617
	杉浦 勝章	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	618
	魏 芳	2年			
国際経済論II	2学期	2	2	619	
魏 芳	2年				
産業組織論I	1学期	2	2		
休講	2年				
産業組織論II	2学期	2	2		
休講	2年				
地域経済I	1学期	2	2		
休講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	地域経済II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	北九州経済分析I	1学期	2	2	
	休講(昼のみ開講)	2年			
	北九州経済分析II	2学期	2	2	
	休講(昼のみ開講)	2年			
	地域政策	2学期	2	2	620
	松永 裕己	2年			
	国際法I	1学期	2	2	621
	二宮 正人	2年			
	国際法II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	雇用関係法	1学期	2	2	622
	石田 信平	2年			
	所得保障法	2学期	2	2	623
	津田 小百合	2年			
	企業活動と法	1学期	2	2	624
	今泉 恵子	2年			
	企業取引法I	2学期	2	2	
	休講	2年			
社会サービス法	2学期	2	2		
休講	2年				
労使関係法	2学期	2	2		
休講	2年				
都市経営論	2学期	2	2		
休講	2年				
国際協力論I	1学期	2	2	625	
大平 剛	2年				
国際協力論II	2学期	2	2	626	
大平 剛	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■選択科目B	公共経済学	2学期	3	2	
	休講	3年			
	環境経済学	1学期	3	2	
	休講	3年			
	財政学I	1学期	3	2	627
	安岡 匡也	3年			
	財政学II	2学期	3	2	628
	安岡 匡也	3年			
	国際マクロ経済学I	1学期	3	2	629
	末永 勝昭	3年			
	国際マクロ経済学II	2学期	3	2	630
	末永 勝昭	3年			
	国際貿易論I	1学期	3	2	631
	山口 実	3年			
	国際貿易論II	2学期	3	2	632
	山口 実	3年			
	ファイナンス論	2学期	3	2	
	休講	3年			
	都市財政I	1学期	3	2	
	休講 (昼のみ開講)	3年			
都市財政II	2学期	3	2		
休講 (昼のみ開講)	3年				
地域金融分析	2学期	3	2		
休講	3年				
経済学特殊講義A	1学期	3	2		
休講 (昼のみ開講)	3年				
経済学特殊講義B	2学期	3	2		
休講 (昼のみ開講)	3年				
企業取引法II	2学期	3	2	633	
前越 俊之	3年				

経済学部 経営情報学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■選択科目B	企業法の現代的展開 (昼間開講)		3	2	634
		3年			
	情報公開・個人情報保護法 (昼間開講)		3	2	634
		3年			
	独占禁止法 休講	1学期	3	2	634
		3年			
	証券市場と法 休講		3	2	634
		3年			
	知的財産法 (昼間開講)		3	2	634
		3年			
	都市政策論 古賀 哲矢	2学期	3	2	634
		3年			
	Advanced Reading and Discussion 休講	2学期	3	2	634
		3年			
ビジネス英語研究 休講	2学期	3	2	634	
	3年				
上級英語I 休講 (昼間開講)		3	2	634	
	3年				
上級英語II 休講 (昼間開講)		3	2	634	
	3年				
■自由科目	職業指導A 綾部 眞道	1学期	2	2	635
		2年			
	職業指導B 綾部 眞道	2学期	2	2	636
		2年			
■教職に関する科目	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	637
		2年			
	教育実習3 恒吉 紀寿	1学期	4	2	638
		4年			
■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	639
		1年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育原理	2学期	1	2	640
	見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	641
	税田 慶昭	2年			
	教育制度	1学期	3	2	642
	見玉 弥生	3年			
	商業科教育法A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	商業科教育法B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	特別活動の研究	1学期	2	2	643
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	644
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	645
	大塚 一徳	2年			
教育実習1	2学期	3	2	646	
黒田 耕司	3年				
教育実習2	1学期	4	2	647	
恒吉 紀寿	4年				
教育相談	1学期	2	2	648	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	649	
楠 凡之	2年				
教職実践演習	2学期	4	2		
未開講	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育法規	2学期	3	2	
休講	3年				

経済学部 経営情報学科 (2010年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	障害児の心理と指導	2学期	2	2	650
	税田 慶昭	2年			
■教職に関する科目 ■選択科目	教育社会学	1学期	2	2	651
	児玉 弥生	2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論	1学期	2	2	652
	弓野 勝族	2年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から敗戦（1945）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【維新の三傑】
- 第3回 不平等条約と条約改正
- 第4回 明治14年政変と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第5回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第6回 明治憲法体制【伊藤博文】
- 第7回 日露戦争【山県有朋】
- 第8回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第9回 21カ条要求【大隈重信】
- 第10回 原敬と協調外交【原敬】
- 第11回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第12回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第13回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【東条英機】【吉田茂】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点
- 2回 家族制度の歴史
- 3回 家族の機能
- 4回 ハードウェアとしての家族
- 5回 システムとしての家族① - しつけ・教育
- 6回 システムとしての家族② - 役割・役割分担
- 7回 システムとしての家族③ - 勢力・権威
- 8回 現代家族の課題-離婚の原因
- 9回 現代家族の課題-離婚制度
- 10回 現代家族の課題-中高年の離婚
- 11回 現代家族の課題-夫婦間暴力
- 12回 現代家族の課題-児童虐待
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-高齢社会と家族
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 定期試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかで育まれたものである。グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なるものであり、その違いを理解するのが困難なこともある。本講義では、その違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、自分なりの姿勢を身に着けるための手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、Power Pointのキーワードを書き写しただけで、安心せず、ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化
- 第2回 異文化理解とは
- 第3回 家族は普遍的か？
- 第4回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダー
- 第7回 伝統と普遍的価値観
- 第8回 中間試験 / 経済活動に見る文化：導入
- 第9回 経済活動にみる文化②：贈与・交換とは
- 第10回 経済活動にみる文化③：現代の贈与・交換
- 第11回 開発の現場における「文化の差異」
- 第12回 「貧しさ」とは何か
- 第13回 中間試験の講評 / 文化と世界観①：儀礼
- 第14回 文化と世界観②：宗教・呪術・占い
- 第15回 講義のまとめ 文化をめぐる問題の現状

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 20%、期末試験 80% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイから読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。2年次以上対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、世界観、経済活動、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

相当量の板書をするので、ノートはこまめにとること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる① - 統計から見る家族
- 3回 家族を見つめる② - 現代家族のゆくえ
- 4回 家族を見つめる③ - 家族論の変化
- 5回 家族モデルを考える① - 戦後に形成された家族のモデル
- 6回 家族モデルを考える② - 家族モデルの特徴と役割
- 7回 家族モデルを考える③ - 家族モデルのゆくえ
- 8回 家族の危機を回避する① - 家族の発達課題
- 9回 家族の危機を回避する② - 夫婦のかかわり
- 10回 家族の危機を回避する③ - 中高年の夫婦について
- 11回 家族の危機を回避する④ - 夫婦のコミュニケーション
- 12回 家族の危機を回避する⑤ - 親子のかかわり
- 13回 家庭裁判所の利用を考える① - 家庭裁判所の概要
- 14回 家庭裁判所の利用を考える② - 家庭裁判所の役割
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 定期試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の対立がしばしば政治的な問題となり、その解決のために異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。
講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半はグローバリゼーションの具体的な現場が抱える問題に注目して講義を行う。

教科書 /Textbooks

以下の参考文献を各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩竹美加子 1996 『民俗学の政治性』 未来社
- ウルリヒ・ベック 2010 『世界リスク社会論』 ちくま学芸文庫
- 吉田憲司1999 『文化の「発見」』 岩波書店
- 関根政美 2000 『多文化主義社会の到来』 朝日選書
- 陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社
- デヴッド・ヘルド 2002 『グローバル化とは何か』 法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか
- 第2回 自文化・異文化を知ること / 知らないこととはどういうことか？
- 第3回 自文化を知ることの政治性：ナショナリズムと文化
- 第4回 自文化を知ることの政治性の裏面：先住民・少数民族の文化に関して
- 第5回 異文化を知ることの政治性①：「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第6回 異文化を知ることの政治性②：植民地主義と博物館
- 第7回 普遍的な概念はあるか？
- 第8回 中間試験
- 第9回 グローバリゼーションの時代と人の移動
- 第10回 中間試験講評 / ナショナリズム・エスノナショナリズムと紛争
- 第11回 共生のための政治①：多文化主義
- 第12回 共生のための政治②：多文化主義の限界？
- 第13回 文化帝国主義
- 第14回 「わからないもの / こと」を取り巻く政治①グローバルな危機への対応
- 第15回 「わからないもの / こと」を取り巻く政治②リスク社会

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%
そのほか講義中に課した提出物にすばらしいものがあれば評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

中間試験を無断欠席した学生は、評価割合をこえて厳しく減点することもある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ビジョン科目「人間と文化」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。「人間と文化」が異文化理解の基礎であるならば、「文化と政治」はより時事的な問題を用いる応用的な講義となります。

キーワード /Keywords

ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ: 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% × 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障とは何か(1)
- 第3回 安全保障とは何か(2)
- 第4回 戦争概論
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争、近代戦争
- 第7回 両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
- 第8回 戦争の変質(勢力均衡、アメリカ的戦争観)
- 第9回 原爆の開発過程
- 第10回 原爆の完成と投下
- 第11回 核兵器の種類と威力
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」「防衛セミナー」などを受講しておくこと、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (5) 【分業体制】
- 7回 確認テスト
- 8回 生活世界論のはじまり(1) 【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(例年2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。
この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを精神的な観点から考察する。継続的な受講により、生活世界と自己とのつながりが以前よりもはっきりと理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- B・スネル『精神の発見—ギリシア人におけるヨーロッパ的思考の発生に関する研究』（新井靖一訳）、創文社。
 - ミシェル・フーコー『監獄の誕生—監視と処罰』（田村椒訳）、新潮社。
- その他の参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体のイメージ 1【九鬼周造】
- 3回 日本的身体のイメージ 2【溝口健二】
- 4回 現代社会と身体の規律 1【シュレーバー】
- 5回 現代社会と身体の規律 2【オーウェル】
- 6回 社会身体論の展望
- 7回 中間考査（2回～6回の内容確認テストを実施）
- 8回 近代社会の勃興と心身二元論【デカルト】
- 9回 古代ギリシャの身体観 1【プラトンからホメロスへ】
- 10回 古代ギリシャの身体観 2【ソポクレス】
- 11回 古代ギリシャの身体観 3【通時的総括】
- 12回 キリスト教共同体と身体【アウグスティヌス】
- 13回 産業社会と身体【ドイツ表現主義】
- 14回 身体としての共同体
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

内容確認テスト...40% 期末テスト...60%
(※内容確認テストを受けていない者は、期末テストの受験資格を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。
「生活世界の哲学」、もしくは同担当者による「倫理学」の単位を取得している場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年度よりテストを2回にわたって実施するので注意されたい。テスト方式・時間の詳細は初回の授業で説明する。この説明を聞かなかった場合に生じる不利益はすべて受講者本人の自己責任とする。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 権力 規律と監視

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著、ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体に行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【あるがまま・とらわれ】
- 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
- 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
- 11回～12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、人権文化について。【人権・平和】
- 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
キャリアプラン 【仕事】【遊び】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 生田カツ工、稲月正

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第 1回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とは何か。被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9回 健康な体と感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせる。
- 第 11回 救急法II応急手当の方法、心肺蘇生法の手順など、事故・災害時の身の守り方、人命救助の具体的方法を学習する。
- 第 12回 障害とノーマライゼーション【作業療法士】：障害者の地域福祉、関係法、ケアマネジメントの基本理念、自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14回 自己管理まとめ【保健師】：小試験・ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②まとめ(小試験・ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 1 1回目の総論で「自己管理のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語をしない。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は正直に自己管理授業用の欠席届を提出する。
- 5 救急法の実技時には、上靴、スラックスなど着用する。
- 6 最終回の「自己管理まとめ」授業は小試験のため必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 授業内のレポート...30% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また将来のために有意義な大学生活を営むために、

- ①アイデンティティを獲得するために、自分について深く知る
- ②働くこと、つまり様々な業界や企業、そして働き方などを知る
- ③多様な人々と協働する力を身に付けるために、初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会で働く上でお互いが気持ちよく活動するための最低限の倫理感、社会人マナーを身につける
- ⑤将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間したいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア (社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 進路について (就職活動や公務員試験、教員試験、大学院進学など)
- 4回 自分を知る① (働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施)
- 5回 自分を知る② (一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン)
- 6回 働くということ (仕事を考える視点、仕事のやりがい) ※社会人ゲストを予定
- 7回 社会人としての倫理やマナー① (傾聴、多様性理解)
- 8回 社会人としての倫理やマナー② (アサーショントレーニング)
- 9回 キャリアとお金 (雇用形態と賃金、生活費シミュレーション)
- 10回 大学生活を面白くする方法 (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 11回 地域活動に挑戦する (地域活動を体験した先輩とのディスカッション)
- 12回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 13回 就職活動を知る (就職活動を体験した先輩とのディスカッション)
- 14回 学生生活を考える (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 まとめ (総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

必修ではありませんが、将来の進路のために大学生生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」が本講義いずれかを履修することをお勧めします。また、毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でポイントになります。また、複雑化・成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく問題を発見し解決に導いていくための『考える力』が求められます。授業の前半コミュニケーションの部分では、外部から企業研修等で活躍されている講師が担当します。講師の話を聞くだけでなく現実場面を設定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。後半では、仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用します。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 全体ガイダンス	【授業の目的、授業のルール】
2回 会話とストレートトーク	【コミュニケーションとは、大切さ】
3回 言動の基本、伝え方	【話力とは、聞き手に心を開いて話をする】
4回 話し方に心理学を応用する(1)	【行動パターンによるコミュニケーション】
5回 話し方に心理学を応用する(2)	【良い人間関係を作るコミュニケーション】
6回 話し方に心理学を応用する(3)	【日常会話、スピーチ、プレゼンテーション】
7回 応対マナー	【どう話すのか、話す時の立ち振る舞い】
8回 電話応対	【電話・手紙のマナー】
9回 敬語を上手に使い話力を高める	【敬語の使い方】
10回 話し方のTPO	【シチュエーションを考える】
11回 プレゼンテーションをやってみる	【考えをまとめて発表する】
12回 思考法(1)	【ロジカルシンキング、演繹法、帰納法】
13回 思考法(2)	【ロジカルシンキング、ロジックツリー】
14回 思考法(3)	【クリティカルシンキング】
15回 まとめ	【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。しかし、抽選に当たったにも関わらず、授業に参加しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、論理的思考法、帰納法、演繹法、クリティカルシンキング

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的>現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実 ③将来の進路の手掛かりやヒント ④大学時代に何をすべきかを学びます。

<進め方>講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果>将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることができます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。以下は過去の実績です。

<2011年度>マイナビ、スターフライヤー、東芝ロジスティクス、北九州市役所、ナフコ、アイ・ケイ・ケイ、ベネッセコーポレーション、日本生命、西日本高速道路(NEXCOWest Japan)、デンソー九州、山口銀行(北九州銀行)、ジェイアイエヌ(JiNS)、フリーアナウンサー長崎真友子氏

<2010年度>ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行(北九州銀行)

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

以下書籍はその参考例です。

○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

○中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社

○モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社

見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

第15回 まとめ

※2011年度の実績

マイナビ、スターフライヤー、東芝ロジスティクス、北九州市役所、ナフコ、アイ・ケイ・ケイ、ベネッセコーポレーション、日本生命、西日本高速道路(NEXCOWest Japan)、デンソー九州、山口銀行(北九州銀行)、ジェイアイエヌ(JiNS)、フリーアナウンサー長崎真友子氏

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員までメールなどで連絡をしてください。
※1学期の「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。
※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の5項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁(マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁
※授業終了後、キャリアセンターにて座談会を開催する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法が存在形式】【法源】【罪刑法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 判例の読み方 【判例】【先例】【認定事実】【判決理由】
- 7回 民事判例を読む①【判例研究の方法】【判例部分の抽出】【判例研究の目的】
- 8回 民事判例を読む②【判例評価の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 9回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 10回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 11回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 12回 民法の視点から社会を読む②【人工生殖】【親子関係】【相続権】
- 13回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 14回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'12』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計を読む・統計をつくる【昼】

担当者名 /Instructor 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

統計を用いて戦後（あるいは明治以後）の日本の地域変動・社会変動を読み解いていく。近代化、産業化、都市化、高齢化、少子化、過疎化、未婚・晩婚化、地域人口移動などに関わる統計指標が紹介され、それに基づく、社会分析を紹介する。

教科書 /Textbooks

山本努・徳野貞雄・加来和典・高野和良『現代農山村の社会分析』学文社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

谷富夫・山本努『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市化・産業化・過疎化について
- 2回 過疎の変貌について
- 3回 人口の社会動態、自然動態について
- 4回 ある村の家族と職業の変化について
- 5回 地域意識、定住経歴について
- 6回 人口Uターンの基本分析について
- 7回 人口Uターンの生活構造分析について
- 8回 日本の人口推移と近代化の概略について
- 9回 少子化・未婚化と地域社会について
- 10回 1990～2010年ころに見る過疎化の最新段階について
- 11回 少子型過疎、集落分化型過疎の出現
- 12回 高齢者減少型過疎の出現と市町村合併
- 13回 社会調査とは何か
- 14回 量的(統計)分析と社会調査の類型について
- 15回 まとめ、補足、

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・90%
 遅刻・欠席はマイナス評価として反映する・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 1.教科書を持参して授業に参加のこと。教科書ナシでは授業は理解できません。
- 2.授業の進行次第ではプリントを配りますから、こちらも持参して授業に出て下さい。

履修上の注意 /Remarks

「統計を読む・統計をつくる」という科目名から数学のような印象をもつ学生がいるようですが、本講義は社会科学をベースにした講義です。統計学のごく入門的な話題が少し紹介されるかもしれませんが、数学的な統計の授業を期待している学生には受講を勧めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市化、産業化、過疎化、量的(統計)分析、社会調査

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 濱崎 裕介 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、テニスの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 濱崎 裕介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、ソフトボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バレーボールの基礎(1) <オーバーパス>
- 3回 バレーボールの基礎(2) <アンダーパス>
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブカットをセッターに>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <サーブカットからアタックまで>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルールの習得>
- 9回 バレーボールの応用(1) <フォーメーション>
- 10回 バレーボールの応用(2) <ゲーム展開>
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 4回 フライト練習(3) <ドライブ>
- 5回 フライト練習(4) <スマッシュ>
- 6回 サービス練習(1) <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 濱崎 裕介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 濱崎 裕介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
 - 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
 - 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
 - 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
 - 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
 - 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
 - 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
 - 9回 サッカーの戦術の応用説明
 - 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
 - 11回 審判法の習得と試しのゲーム
 - 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
 - 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
 - 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「生命と物質」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、私たちが普段口にする食物など、身近な話題から対象となる物質を探し出し、生物学的な意義を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 「文系のための生命科学 第2版」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回～8回 DNA抽出実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 9回 プレゼンテーション(1)
- 10回 プレゼンテーション(2)
- 11回 プレゼンテーション(3)
- 12回 遺伝学実習
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房、2007年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。
 毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修することを希望します。
 この演習は2年生・3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：
本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、現代社会と若者について論じているテキスト『希望難民ご一行様』の批判的読解を試みることを通して、レジュメの作りかた、議論の行い方、論点の見つけ方を学び、後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

古市憲寿・本多由紀 2010 『希望難民ご一行様』光文社新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：『希望難民ご一行様』
- 第8・9回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第10・11・12・13・14回 レポート構想報告
- 第15回 文章を推敲する：レポートの相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第15回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・現代社会や若者に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。
- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(4000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析事例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析事例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析事例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度... 40% 課題(レポート)... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジュメを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2001）『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鬼頭秀一（1996）『自然保護を問いなおす—環境倫理とネットワーク』ちくま新書
○大江正章（2008）『地域の力—食・農・まちづくり』岩波新書
その他、必要に応じて授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジュメを精読してのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

原則として、後期に開講する「教養基礎演習Ⅱ」とセットで履修すること。

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J.-P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』 岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、第三回の授業までに上記のテキスト購入しておく必要がある (税込735円)。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。この授業は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！入門編」です。
この演習では、2012ロンドンオリンピック世界最終予選兼アジア大陸予選（FIVB, World Olympic Qualification Tournament: WOQT）の全日本の試合を題材に、実際の映像情報や公式情報を使い、ゲームを詳細に見直すことで、受講者に、バレーボールという競技の本質への理解を深めてもらうとともに、勝利のためには何が必要なのかを確認してもらうことを目的としています。この入門編を通じ、バレーボールの試合の流れを正しく掴む力、チームの特徴を捉える力、ゲームの勝因や敗因を特定する力、さらにはチームや個々の選手の今後の課題を明確にする力を養います。つまり受講者の皆さんには、バレーボールを科学するための基礎的な枠組みの習得に加え、試合を左右する戦術的要素に対する正確な視点の確立を目指してほしいと思っています。
また作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、受講者の皆さんには、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力、⑥問題解決のための構想を練る力、⑦プレゼン能力、⑧質疑応答力を身につけ、高めていってほしいと思っています。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 スキルチェック
- 事例学習『FIVB World Grand Prix 2010 JPN-NED』の試合を題材に
 - 第3回 ゲーム分析の基礎①：映像によるゲームの確認【作業枠組み】
 - 第4回 ゲーム分析の基礎②：公式記録の探し方とその見方【FIVB】【VIS】【Match Info】
 - 第5回 ゲーム分析の基礎③：コメント・戦評等の収集と活用【TV】【新聞】【日本バレーボール協会】
- 作業課題『FIVB, World Olympic Qualification Tournament (WOQT: 5/19-27, TKO-JPN)』の試合から選択
 - 第6回 グループ分けと作業内容の指示【分析対象試合の振り分け, 2試合 / Group】【PPT】
 - 第7回 グループ作業①：監督・選手コメントや戦評、公式記録等からの情報の収集
 - 第8回 グループ作業②：映像の確認によるゲームの流れの理解と課題の抽出
 - 第9回 グループ作業③：資料作成【試合の基本情報シートの作成】
 - 第10回 グループ作業④：資料作成【対戦チームとの比較分析シートの作成】【映像での再確認】
 - 第11回 グループ作業⑤：資料作成【担当2試合間の比較分析シートの作成】【映像での再確認】
 - 第12回 グループ作業⑥：プレゼン内容の最終確認【打合せ】【トライアル】
 - 第13回 グループ発表とフロア・ディスカッション【Group A】【Group B】
 - 第14回 グループ発表とフロア・ディスカッション【Group C】
対象6試合を通じたフリーディスカッション【クロス分析】
- 第15回 まとめ
- 夏休みの課題（個人研究）『The Olympic Games, London 2012: 7/27-8/12』の試合から選択

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

最大で12人を予定しています。受講希望者が多い場合は、初回の授業時に選考を行います。したがって受講希望者は、最初の授業には必ず出席するようにしてください。

原則としてIとIIはセットで受講してください。

欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

夏休みの課題（個人研究）もあります（IIの授業内で発表してもらいます）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。

あなたの『バレーボールカ』を伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール ゲーム分析 ロンドンオリンピック 全日本 FIVB WOQT 2012 VIS 公式記録

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初めてあった人や普段話したことがない人の中にいたり、自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいのが困ったことなどはありませんか。そんな中、身体活動を通して、知らない人同士で自然に打ち解け、楽しみを感じたことはありませんでしたか。身体活動は、健康体力の増進のみならず、コミュニケーションづくりにも有効な方法なのです。本演習では、身体活動やグループワークを通して、どうしたら、コミュニケーション能力(人間関係力)を高めることができるかを焦点に考えていきたいと思ひます。
 また、学内と離れた場所での野外活動(キャンプ実習)を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介と他己紹介
- 3回 人間関係力とは
- 4回 人間関係力演習(1)簡単なゲームを通して
- 5回 人間関係力演習(2)簡単なゲームを通して
- 6回 人間関係力演習(3)身体活動を通して
- 7回 人間関係力演習(4)身体活動を通して
- 8回 人間関係力演習(5)身体活動を通して
- 9回 人間関係力演習(6)身体活動を通して
- 10回 人間関係力演習(7)身体活動を通して
- 11回 野外活動とは?
- 12回 キャンプ実習についての講義(1)
- 13回 キャンプ実習についての講義(2)
- 14回 キャンプ実習についての講義(3)
- 15回 キャンプ実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習については、別途参加費がかかります(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、活動に際してのマナーやP D C Aサイクルの基本を身につけることを目的とする。特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回スーツを着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。

「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「人間と生命」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、新聞記事やニュースなど、身近な話題から対象となるトピックを探し出し、生物学的な背景を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回 実験の準備および説明
- 8回～9回 DNA鑑定実験(学期内のいずれかの土曜日午後に実施)
- 10回 プレゼンテーション(1)
- 11回 プレゼンテーション(2)
- 12回 プレゼンテーション(3)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習が始める前に大学図書館を見学しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：
教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行う。具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、受講者同士の問題関心に近いテキストをディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げることを試みる。その成果を活かし、学期末には1の4000字レポートを書くことを目指す。この演習を通して、ひとつのテーマについてじっくり取り組むという、研究の基礎的な姿勢を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くということ。
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか? : 教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3・4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5・6・7・8・9回 テキスト輪読と議論
- 第10・11・12・13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する: レポート相互添削
- 第15回 報告会と演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

4000字のレポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とするが、教養基礎演習IIのみ受講したい者は、必ず事前に相談すること(受講のためのレポート課す場合がある)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くことが目的です。そのために自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
 スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポートを書くことをめざす。したがって原則として「教養基礎演習I」「教養基礎演習II」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

II（2学期）では、まず、教養基礎演習Iで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

Iと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
 /Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、調査やフィールドワークをするための基礎的な能力を身につけることを目的とする。環境問題やコミュニティ問題などの地域社会が抱える問題の多くは、1つの学問分野では解決することが困難な複合的要因によって発生している。そのため、その解決策を模索する際には、地域社会に出て実際に調査することが必要である。「地域の人々から学ぶ」という学習方法・姿勢の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

宮本常一・安溪遊地（2008）『調査されるという迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジーン・レイヴ,エティエンヌ・ウエンガー（1993 = 1991）『状況に埋め込まれた学習-正統的周辺参加-』（佐伯胖訳）産業図書
 ○ジョン・デューイ（2004 = 1938）『経験と教育』（市村尚久訳）講談社学術文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：レポート報告会①（夏季課題レポートの報告）
- 第3回：レポート報告会②（夏季課題レポートの報告）
- 第4回：レポート報告会③（夏季課題レポートの報告）
- 第5回：調査する意味について①（「地域社会から学ぶ」とは何か？）
- 第6回：調査する意味について②
- 第7回：調査をする上での注意点
- 第8回：調査の方法について（量的調査と質的調査）
- 第9回：テキスト（『調査されるという迷惑』）の輪読①
- 第10回：テキストの輪読②
- 第11回：テキストの輪読③
- 第12回：調査計画の作成の方法について
- 第13回：調査計画の作成と報告①
- 第14回：調査計画の作成と報告②
- 第15回：調査計画の作成と報告③ + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

事前準備（夏季課題レポート）の完成度：30%
 調査計画の完成度：30%
 授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この演習を受講する者は、事前に示す課題について夏季休業中にレポートを作成してから、授業にのぞんでもらう。

履修上の注意 /Remarks

原則として「教養基礎演習I」を受講した者を対象とする。
 （教養基礎演習IIのみを受講したい者は事前に申し出ること。夏季課題レポートについて指示するため。）

教養基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者には1年次である程度、興味・関心のあるテーマを自分で見つけることを目指してほしい。春季休業中に実際に「地域社会」に出て調査を行うことが望ましい。

キーワード /Keywords

調査・フィールドワーク、地域社会から学ぶ、調査計画の作成方法

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の古典を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J. -P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論 1
- 4回 読解と議論 2
- 5回 読解と議論 3
- 6回 読解と議論 4
- 7回 読解と議論 5
- 8回 読解と議論 6
- 9回 読解と議論 7
- 10回 読解と議論 8
- 11回 読解と議論 9
- 12回 読解と議論 10
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキストを購入しておくこと (税込735円) 。
本演習は全体の後半部にあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項としてテキストの前半100頁ほどを自分自身で読み通しておくことが必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。この授業は2年生以上の学生も参加する合同演習です。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。
この演習では、教養基礎演習I(入門編)で経験した「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭(頭脳)」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題(ポイント)を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんに身につけ、高めていってほしいと思います。

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス, 夏休みの課題(個人研究)の発表
- 第2回 夏休みの課題(個人研究)の発表の続き, バレーボールとアナリストの役割
- 【連続得点をとるための分析軸I: サービス⇒レセプション(サービスによって先手を取る)】
- 第3回 戦術理解I: レセプションフォーメーション&サービス
- 第4回 ゲーム映像からの分析I①: フォーメーションのチェック
- 第5回 ゲーム映像からの分析I②: ローテーションごとに結果を整理(レセプションの評価)
- 第6回 分析結果の発表I: サービスの狙い目はどこか
- 【連続得点をとるための分析軸II: レセプション⇒アタック(相手チームの攻撃パターンを知る)】
- 第7回 戦術理解II: アタックフォーメーション
- 第8回 ゲーム映像からの分析II①: レセプション⇒攻撃(軌跡化)
- 第9回 ゲーム映像からの分析II②: レセプション⇒攻撃(選手ごとの特徴)
- 第10回 分析結果の発表II: どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか
- 【連続得点をとるための分析軸III: デイグ⇒アタック(拾って攻撃につなげる)】
- 第11回 戦術理解III A: ブロックシステム, フロアディフェンスフォーメーション
- 第12回 ケーススタディIII A: チーム事情に応じたシステムを考えよう
- 第13回 戦術理解III B: アタック&ブロックフォローフォーメーション
- 第14回 ケーススタディIII B: 高さを理解した攻撃を考えよう(2つの最高到達点の比較から)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

夏休みの課題(個人研究)を行ってこよう

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

最大で12人を予定しています。
IとIIはセットで受講してもらうことを原則とします。
欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きな人、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

自分自身を人に理解してもらうためにはどうしたらいいでしょうか。初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていきます。本演習では、身体活動を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることを主眼においています。

また、学内と離れた場所での野外活動（スキー実習）を通して、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜資料配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 自分自身を理解するためには (1)
- 3回 自分自身を理解するためには (2)
- 4回 自分自身を人に理解させるためには (1)
- 5回 自分自身を人に理解させるためには (2)
- 6回 身体活動を用いた自己表現 (1)
- 7回 身体活動を用いた自己表現 (2)
- 8回 身体活動を用いた自己表現 (3)
- 9回 身体活動を用いた自己表現 (4)
- 10回 身体活動を用いた自己表現 (5)
- 11回 身体活動を用いた自己表現 (6)
- 12回 スキー実習についての講義 (1)
- 13回 スキー実習についての講義 (2)
- 14回 スキー実習についての講義 (3)
- 15回 スキー実習のふり返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養ってきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 5回 キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 6回 キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 7回 キャンプ実習の実施
- 8回 キャンプ実習の評価
- 9回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（1）安全性と有効性
- 10回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（2）プログラム作成
- 11回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画（3）プログラム作成
- 12回 中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（1）
- 13回 中高齢者にあった身体活動プログラムの実施（2）
- 14回 中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。（約4000円）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「生命と物質」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、私たちが普段口にする食物など、身近な話題から対象となる物質を探し出し、生物学的な意義を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 「文系のための生命科学 第2版」 東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回～8回 DNA抽出実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 9回 プレゼンテーション(1)
- 10回 プレゼンテーション(2)
- 11回 プレゼンテーション(3)
- 12回 遺伝学実習
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房、2007年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習 AI II」とセットで履修することを希望します。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える①：

本演習では、漠然と現代社会に関する問題や異文化に関する問題に関するフィールド調査をすることに興味があり、漠然と卒業論文などでこれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

漠然と卒業論文で（インタビュー調査、参与観察などの）質的調査をとりいれてみたいと考えている学生はいると思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、受講者の関心に応じて現代社会または異文化に関する文献を購読するとともに、質的調査の方法論に興味関心にどのように生かすことができるかを学び、自身の問題関心を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関する質的調査の結果を用いたテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

（候補：春日直樹『人類学で世界を見る』、菅原和孝（編）『フィールドワークへの挑戦』など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社

○箕浦康子（編）1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 具体的な現場から社会を理解することについて（講義）
- 第3回 インタビュー調査の方法と実践①
- 第4回 インタビュー調査の方法と実践②
- 第5回 言葉からわかることの限界
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第10回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・具体的に何らかのフィールドワークを行う必要は特にありませんが、各自で、なんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- ・演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。具体的な説明は第1回で行う。

履修上の注意 /Remarks

- ・教養演習 AIも続けて受講することが望ましいです。
- ・輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・履修を希望する場合、第1回か第2回のいずれかに必ず出席してください。

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会や異文化に関する具体的な問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、人間と文化、文化と政治）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

- ・ 現代社会、文化、質的調査

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J. -P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』 岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス 1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2 回 ガイダンス 2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3 回 読解と議論 1
- 4 回 読解と議論 2
- 5 回 読解と議論 3
- 6 回 読解と議論 4
- 7 回 読解と議論 5
- 8 回 読解と議論 6
- 9 回 読解と議論 7
- 10 回 読解と議論 8
- 11 回 読解と議論 9
- 12 回 読解と議論 10
- 13 回 復習と補助学習 1
- 14 回 復習と補助学習 2
- 15 回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3 回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習への参加を希望している者は、第三回の授業までに上記のテキストを購入しておく必要がある (税込735円) 。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際、同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「A」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践的な企画力・運営力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度50%
 活動への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(1) 体力測定
- 8回 健康増進プログラムの計画(2) 安全性と有効性
- 9回 健康増進プログラムの計画(3) プログラム作成
- 10回 健康増進プログラムの実施
- 11回 健康増進プログラムの評価
- 12回 スキー実習の計画(1) 野外活動の意義
- 13回 スキー実習の計画(2) 安全性と有効性
- 14回 スキー実習の計画(3) プログラム作成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「人間と生命」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、新聞記事やニュースなど、身近な話題から対象となるトピックを探し出し、生物学的な背景を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回 実験の準備および説明
- 8回～9回 DNA鑑定実験(学期内のいずれかの土曜日午後に実施)
- 10回 プレゼンテーション(1)
- 11回 プレゼンテーション(2)
- 12回 プレゼンテーション(3)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 ゼミ論文をかいてもらう(400字×20枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
 コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 演習運営方針に関する話し合い。
 2~14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
 無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
 小林担当の「教養演習AI」とセットで履修することを希望します。
 AIを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、3年生との合同演習です。
 受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える②：

本演習では、1学期の演習を踏まえて、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。現代社会または異文化に関するテキストの輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関するテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、ジェームス・スコット『モラル・エコノミー』、竹沢尚一郎『社会とは何か』など、または、世界思想社社会学ベーシックシリーズから適宜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 問題関心をいかに深めるか：テキストの選定
- 第2回 問題関心へのアプローチ法について：1学期のレポート返却とコメント
- 第3回 問題関心共有のための議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められます。具体的な説明は第1回で行います。
- ・ 本演習は自分の問題関心を深めることが目的です。議論やレポート作成に主体的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 教養演習AIの受講者を対象とするが、テキスト輪読のみに興味あるなど、教養演習AIIからの受講を希望する者は事前に相談すること。
- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業(教養基礎演習、人間と文化、文化と政治)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス(戸蒔)

2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート（8000字程度）を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講を義務づける。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会（4）
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会（5）
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会（6）
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題（レポート）...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること（様式等は授業中に指示する）。
報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論を記したレジユメを準備すること。
報告者以外の者は（当然のことながら）事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J.-P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論 1
- 4回 読解と議論 2
- 5回 読解と議論 3
- 6回 読解と議論 4
- 7回 読解と議論 5
- 8回 読解と議論 6
- 9回 読解と議論 7
- 10回 読解と議論 8
- 11回 読解と議論 9
- 12回 読解と議論 10
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキストを購入しておくこと (税込735円) 。
本演習は全体の後半部にあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項としてテキストの前半100頁ほどを自分自身で読み通しておくことが必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際、同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「A」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。
 また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして関わりながら、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 キャンプ実習の計画(1)リーダーとしての関わり
- 5回 キャンプ実習の計画(2)安全性と有効性
- 6回 キャンプ実習の計画(3)プログラム作成
- 7回 キャンプ実習の実施
- 8回 キャンプ実習の評価
- 9回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画(1)安全性と有効性
- 10回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画(2)プログラム作成
- 11回 中高齢者にあった身体活動プログラムの計画(3)プログラム作成
- 12回 中高齢者にあった身体活動プログラムの実施(1)
- 13回 中高齢者にあった身体活動プログラムの実施(2)
- 14回 中高齢者にあった身体活動プログラムの評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「生命と物質」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、私たちが普段口にする食物など、身近な話題から対象となる物質を探し出し、生物学的な意義を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回～8回 DNA抽出実験(学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 9回 プレゼンテーション(1)
- 10回 プレゼンテーション(2)
- 11回 プレゼンテーション(3)
- 12回 遺伝学実習
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本の歴史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全履修生から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房、2007年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
 無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週必ず、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作ってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

小林担当の「教養演習A1・II」「教養演習BII」とセットで履修することを希望します。
 A1・IIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。
 この演習は1年生、2年生との合同演習です。
 受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える①：

本演習では、漠然と現代社会に関する問題や異文化に関する問題に関するフィールド調査をすることに興味があり、漠然と卒業論文などでこれらの問題を扱いたいと考えている学生を対象とする。

漠然と卒業論文で（インタビュー調査、参与観察などの）質的調査をとりいれてみたいと考えている学生はいると思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、受講者の関心に応じて現代社会または異文化に関する文献を購読するとともに、質的調査の方法論に興味関心にどのように生かすことができるかを学び、自身の問題関心を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関する質的調査の結果を用いたテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：春日直樹『人類学で世界を見る』、菅原和孝(編)『フィールドワークへの挑戦』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社

○箕浦康子(編) 1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 具体的な現場から社会を理解することについて(講義)
- 第3回 インタビュー調査の方法と実践①
- 第4回 インタビュー調査の方法と実践②
- 第5回 言葉からわかることの限界
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第10回 参与観察の方法と記録のつけかた
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められる。具体的な説明は第1回で行う。
- ・具体的に何らかのフィールドワークを行う必要は特にありませんが、各自で、なんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

- ・教養演習BIIも続けて受講することが望ましいです。
- ・輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・履修を希望する場合、第1回か第2回のいずれかに必ず出席してください。

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会や異文化に関する具体的な問題に関心があるけれど、どんな本を読めばいいのかわからないという学生同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。
- ・ 担当者のほかの授業（教養基礎演習、人間と文化、文化と政治）を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、質的調査、

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)を義務づける。

1学期は、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会学的なものの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) レポート・論文の書き方

さらに、社会学的な調査を用いた基礎的な文献を報告してもらう。

同時並行的に、自らが書く論文・レポートについても準備をすすめる。まず、各自が「テーマ」と「問い」をたてる。その上で、自らのたてた「問い」について関連する文献のリストを作成する。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

教科書 /Textbooks

- 『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002
- 『「二ート」って言うな』、本田由紀・内藤朝雄・後藤和智、光文社新書、2006

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
- 『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書
- その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 社会学的なものの見方・考え方(1) - 『知的複眼思考法』
- 第3回 社会学的なものの見方・考え方(2) - 『知的複眼思考法』
- 第4回 社会学的なものの見方・考え方(3) - 『知的複眼思考法』
- 第5回 第1回レポート検討会
- 第6回 論文・レポートの書き方
- 第7回 情報収集の仕方(1)
- 第8回 情報収集の仕方(2)
- 第9回 第2回レポート検討会
- 第10回 分析実例(1) - 『「二ート」って言うな』第1部
- 第11回 分析実例(2) - 『「二ート」って言うな』第2部
- 第12回 分析実例(3) - 『「二ート」って言うな』第3部
- 第13回 調査倫理について
- 第14回 第3回レポート検討会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
- 報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
- 報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J. -P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス1 (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンス2 (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論1
- 4回 読解と議論2
- 5回 読解と議論3
- 6回 読解と議論4
- 7回 読解と議論5
- 8回 読解と議論6
- 9回 読解と議論7
- 10回 読解と議論8
- 11回 読解と議論9
- 12回 読解と議論10
- 13回 復習と補助学習1
- 14回 復習と補助学習2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望している者は、第三回の授業までに上記のテキストを購入しておく必要がある (税込735円)。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際、同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「A」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査)と「復習」(授業議事録の作成)が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。1・2年生との合同演習になります。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことのない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいのかを見つける術について考えていく。
 また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして関わり、他人と協調し、新たな自己発見や、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム (1)
- 3 回コミュニケーションゲーム (2)
- 4 回地域における健康ニーズ
- 5 回健康と体力
- 6 回地域住民に必要な体力とは
- 7 回健康増進プログラムの計画 (1) 体力測定
- 8 回健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 9 回健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 10 回健康増進プログラムの実施
- 11 回健康増進プログラムの評価
- 12 回スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 13 回スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 14 回スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

身体活動を伴うので、運動のできる服装とシューズを準備すること。
 スキー実習については、別途参加費がかかります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域社会活動を通じ、広義の地域づくりに参加することで、実践力・総合力を養うことを目的とする。
 特に地域共生教育センターの運営スタッフとして、センターの運営や地域活動に直接参加することで、得た学びを各自が報告し、振り返り学習を通じて、上記の目的を達成する。

教科書 /Textbooks
 適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回～4回：事前学習・企画
 第5回～第10回：センター運営活動、地域活動等の実践。
 第11回・12回：活動報告
 第13回・14回：振り返り学習
 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習における議論への参加度20%
 活動への参加度50%
 活動報告書30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 関連活動に関する文献学習。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。本演習では「人間と生命」を主たるテーマとし、簡単な実験・実習を体験することによって、これらに関する基本的知識と興味を身につける。また、新聞記事やニュースなど、身近な話題から対象となるトピックを探し出し、生物学的な背景を学ぶことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「文系のための生命科学 第2版」東京大学生命科学教材書籍編集委員会編 2011年(羊土社)
高校生物およびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認
- 3回 発表方法についての説明
- 4回 プレゼンテーションの準備(1)
- 5回 プレゼンテーションの準備(2)
- 6回 プレゼンテーションの準備(3)
- 7回 実験の準備および説明
- 8回～9回 DNA鑑定実験(学期内のいずれかの土曜日午後に実施)
- 10回 プレゼンテーション(1)
- 11回 プレゼンテーション(2)
- 12回 プレゼンテーション(3)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み40%(配布するカードに記入した内容で評価する)、発表40%、課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでまったく生物の勉強をしなかった者も歓迎します。この演習をきっかけに生命科学に興味を持ってもらうことが狙いです。

キーワード /Keywords

教養演習B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
ゼミ論文をかいてもらう(400字×30枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年)700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～14回 各自の研究報告(同時並行的に論文執筆)。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks
小林担当の「教養演習AI・II」「教養演習BI」とセットで履修することを希望します。
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

問題関心へのアプローチ法を考える②：

本演習では、1学期の演習を踏まえて、自分の問題関心の深めかたについて学ぶ。現代社会または異文化に関するテキストの輪読を行う。自分の興味関心について意見交換することを通し、最終的に各自が設定したテーマに沿ってレポートを作成する（受講者によって多少の変更の可能性はある）。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて現代社会または異文化に関するテキストを1-2冊程度読む。テキストについては第1回で決定する。

(候補：レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』、ジェームス・スコット『モラル・エコノミー』、竹沢尚一郎『社会とは何か』など、または、世界思想社社会学ベーシックシリーズから適宜)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 問題関心をいかに深めるか：テキストの選定
- 第2回 問題関心へのアプローチ法について：1学期のレポート返却とコメント
- 第3回 問題関心共有のための議論
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 テキスト輪読と議論
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告と提出物50%、期末レポート50%、報告の無断欠席と提出物の未提出は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取り、意見を述べるのが求められます。具体的な説明は第1回で行います。
- ・ 本演習は自分の問題関心を深めることが目的です。議論やレポート作成に主体的に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 教養演習BIの受講者を対象とするが、テキスト輪読のみに興味あるなど、教養演習BIIからの受講を希望する者は事前に相談すること。
- ・ 輪読するテキストを準備する資金はそれなりに必要です。注意してください。
- ・ 履修を希望する場合、第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 現代社会に関する問題、文化に関する問題に興味ある学生の受講を歓迎します。
- ・ 担当者のほかの授業(教養基礎演習、人間と文化、文化と政治)を履修したことがあれば、理解がさらに深まります。

キーワード /Keywords

現代社会、文化

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BII【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によって論文・レポート(10000字程度)を書くことをめざす。したがって原則として「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講を義務づける。

BII(2学期)では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告(テキスト批評)をしてもらい、議論を行う。なお、1~2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人とする(それを越える場合、受講者数調整をかける)。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 テキスト批評と議論
- 第3回 テキスト批評と議論
- 第4回 テキスト批評と議論
- 第5回 テキスト批評と議論
- 第6回 レポート検討会(4)
- 第7回 テキスト批評と議論
- 第8回 テキスト批評と議論
- 第9回 テキスト批評と議論
- 第10回 テキスト批評と議論
- 第11回 レポート検討会(5)
- 第12回 テキスト批評と議論
- 第13回 テキスト批評と議論
- 第14回 レポート検討会(6)
- 第15回 レポート報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度・貢献度...20% 課題(レポート)...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポート検討会の際には「研究計画書」を準備すること(様式等は授業中に指示する)。
報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジюмеを準備すること。
報告者以外の者は(当然のことながら)事前に文献を読み、コメントを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、すべての大学生にとって欠かすことのできない人文的な素養を身につけることが、本演習の目的である。
年度ごとに思想上の基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。今回はサルトルの名著『ユダヤ人』を取り上げる。

教科書 /Textbooks

J.-P. サルトル (安堂信也訳) 『ユダヤ人』岩波新書、1956年、735円。
(※本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論 1
- 4回 読解と議論 2
- 5回 読解と議論 3
- 6回 読解と議論 4
- 7回 読解と議論 5
- 8回 読解と議論 6
- 9回 読解と議論 7
- 10回 読解と議論 8
- 11回 読解と議論 9
- 12回 読解と議論 10
- 13回 復習と補助学習 1
- 14回 復習と補助学習 2
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況 (予習・議論・発言の積極性) ...50% 課題 (議事録作成) ...50%
(3回以上無断欠席をした場合は自動的に不合格判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参加を希望する場合は、初回の授業までに上記のテキストを購入しておくこと (税込735円) 。
本演習は全体の後半部にあたるため、1学期に参加していなかった者は、授業前の準備事項としてテキストの前半100頁ほどを自分自身で読み通しておくことが必要になる。

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言・課題作成の機会を得られるよう、受講者の最大人数は15人までとする。それを越える場合は受講者数調整をかける。その際、同担当者による授業科目「思想と現代」を履修済みであり、なおかつその試験で「A」以上の成績を収めている学生は優先的に配慮する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では毎回の「予習」(指定ページの読解、分からない単語の調査) と「復習」(授業議事録の作成) が必須となります。予習・復習に十分な時間をかけることができない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。1・2年生との合同演習になります。

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2011年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：JOB×HUNTER、キャリアーナ、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※履修対象者は2年次以上です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は事前にご相談ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2011年1月現在の、プロジェクト演習Iの対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
- ※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は事前にご相談ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

自然科学のまなざし (ナウシカ) 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然科学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然科学の展開」「自然科学の提唱」今西錦司
「自然科学の未来」黒田未寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 「今西錦司と自然科学」
- 第2講 「私とあなたの自然科学」
- 第3・4講 「バックミンスターフラーと自然科学」
- 第5・6講 「海と人の自然科学1：沖縄の海人たち」
- 第7・8講 「海と人の自然科学2：ソロモンの海洋民たち」
- 第9・10講 「海と人の自然科学：軍艦島を考える」
- 第11・12講 「風の谷のナウシカの自然科学」
- 第13・14講 「人の進化と自然科学」
- 第15講 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 30%
- 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 30%
- 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

履修上の注意 /Remarks

講義は教室の中だけでは終わりません。
そういうのが好きな人だけ受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

自然学のまなざし (ナウシカ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

動物園とのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論 1
- 2回 動物園学概論 2
- 3回 キーパーの仕事 1
- 4回 キーパーの仕事 2
- 5回 キーパーの仕事 3
- 6回 キーパーの仕事 4
- 7回 キーパーの仕事 5
- 8回 キーパーの仕事 6
- 9回 校外実習 1
- 10回 校外実習 2
- 11回 獣医の仕事 1
- 12回 獣医の仕事 2
- 13回 動物園学まとめ 1
- 14回 動物園学まとめ 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【】内はキーワード、（）内は担当学芸員名）。講義の順番は変更となる場合があります。北方キャンパスでの13回の講義のほか、北九州市立自然史・歴史博物館での講義および見学を予定しています。

- 1回 ガイダンス
- 2回・3回 自然史博物館での講義および見学
- 4回 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【学名】【アリストテレス、リンネ、ビュフォン】
- 5回 化石が語る魚類の進化（藪本）：【魚類化石】
- 6回 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 7回 ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- 8回 鳥類の絶滅危機と生物多様性の保全（武石）：【絶滅危機】【生物多様性】
- 9回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- 10回 カエルとサンショウウオのはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
- 11回 ヒスイが語る地下深部の世界（森）：【宝石】【鉱物】
- 12回 深海生物～その形と適応の意義～（下村）：【深海】
- 13回 アンモナイトの古生物学（御前）：【化石】【進化】【古生態】
- 14回 骨から知る脊椎動物進化（大橋）：【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

2回の博物館見学は必須となります。
 講義への積極的な参加30%、期末レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

博物館見学は10月第2日曜日と11月最終日曜日を予定していますが、日程を変更する可能性もあります。見学についての説明がありますので、第1回目の授業には必ず出席するとともに、掲示物に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

化学知識は生活に不可欠な知識です。化学物質は身近な物質として生活を豊かにするのに貢献しています。また"生命とは宇宙とは"豊かな発想や、豊かな未来社会を展望する上での必要な知識です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また金銭を中心とする消費社会では、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養でなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

そのためにまず化学と身近な問題の関係を学習し、そのかわりから化学への興味をもち、そして化学的知識の理解・習得に至る過程に関わることがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳 (丸善)
2,310円 1996年09月発行 ISBN 978-4-621-04227-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著 (丸善) 2200円、ISBN 978-4-621-08016-0
- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳 (新潮社)
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、入門的に高校の理科・化学のまとめと補足を行い。引き続いて、教科書に与えられたテーマに基づき、補足、関連話題や解説を進めて理解の促進をはかる。

- 1化学の基礎
- 2砂糖と甘味料
- 3アルコール・・・酒と百薬の長・・・アルコールの体内挙動
- 4コレステロール、その働き
- 5脂肪、食物繊維・・・ダイエットとメタボ対策
- 6くすり その1・・・毒と薬は紙一重
- 7くすり その2・・・その開発と副作用
- 8原子力と放射性物質 (教科書外)
- 9洗剤・・・洗淨、きれいさ、その歴史と洗剤の多機能性 (教科書外)
- 10洗剤・・・洗剤と環境問題 (教科書外)
- 11塩化ビニルとダイオキシン・・・プラスチックと高分子の歴史
- 12塩化ビニルとダイオキシン・・・化学汚染と環境問題史
- 13二酸化炭素その1・・・二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、
- 14二酸化炭素その2・・・二酸化炭素の地球循環
- 15まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。
テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむ終えない欠席時はノート模写をしておくこと。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代人の教養としての心理学を理解する。本講義では、乳児期から青年期までに出会う人間関係、すなわち親子関係、家族関係、そして友人関係に着目し、それらが人間の成長にどのような影響を及ぼすかについて、発達心理学、臨床心理学、及び青年心理学の観点から考究する。(ちなみに、本講義の単位取得は容易ではないので、受講に際しては慎重に判断されたい)

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、講義時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本講義の概要について
- 第2回 人間関係を探る【エゴグラムテスト】
- 第3回 親子関係を探る(1)：人間関係の芽生え【生得的解発機構】【応答性】
- 第4回 親子関係を探る(2)：自己の起源【分離 - 個体化】【アタッチメント】
- 第5回 親子関係を探る(3)：「三つ子の魂、百までも」【個人差】【内的作業モデル】
- 第6回 家族関係を探る(1)：子どもにとっての家族【家族の病理】
- 第7回 家族関係を探る(2)：思春期の家族関係【第2の分離 - 個体化】【個性性と結合性】
- 第8回 友人関係を探る(1)：児童期から思春期にかけて【チャムシップ】【ヤマアラシのジレンマ】
- 第9回 友人関係を探る(2)：現代若者事情【対人恐怖心性】【ふれあい恐怖心性】
- 第10回 青年期を考える(1)：アイデンティティ【モラトリアム】
- 第11回 青年期を考える(2)：アイデンティティの諸問題【不適応】【同一性拡散】
- 第12回 青年期を考える(3)：ストレスとメンタルヘルス
- 第13回 青年期を考える(4)：進路選択決定についての自己理解【職業的アイデンティティ】
- 第14回 青年期を考える(5)：進路選択にかかわる諸問題【ひきこもり】【フリーター】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト&レポート ... 40% 試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではハンドアウトを配布するので講義中にメモを取っておくと同時に次回講義の前に必ず再度目を通して復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数のたのしみ 【昼】

担当者名 /Instructor 高妻 倫太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中学校・高校で習う「数学」とは異なり、文化的観点を取り入れた「数楽」を体験してもらう。ねらいは次の通り。
 1. 数の世界に対する関心・興味を持ってもらうこと。
 2. 数学的思考法を体感し、「考えることは楽しい」感覚を呼び覚ますこと。
 講義全体のキーワードは、数との親しみ・愉しみ。これを通して世の中に数学的精神が息づいていることを伝えたい。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回準備するため、テキストの指定は特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

心躍る、3世紀にわたる数学者たちの、挫折と栄光と感動の物語として次を推奨する。
 ○サイモン・シン著・青木薫訳『フェルマーの最終定理』新潮社(2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 数の世界はどのようにして発見、発展させられてきたか。数学史を織り交ぜながら述べる。
- 数学的な考え方の紹介。数(や図形)の問題を皆で考える。ただし、予備知識をなるべく仮定せず考えて欲しいと思われる問題。
 - 1回 古代の数学【バビロニア】、【エジプト】、【中国】、【インド】
 - 2回 かぞえること【数の発見】、【数の表記法】、ギリシャ数学のはじまり【ピタゴラス学派】
 - 3回 古代ギリシャの数学者・哲学者たち【ギリシャ三大作図問題】
 - 4回 円周率とは【 π の歴史】、【ビュフォンの針】
 - 5回 ギリシャ数学の末期【ディオファントスの「算術」】、中世の中国
 - 6回 中世の数学【インド】、【イスラーム】、【ヨーロッパ】、ふしぎの黄金比【黄金比】
 - 7回 いろいろな記号の起源、未知数がXになるまでの道のり、方程式の解法をめぐって【数学記号】
 - 8回 究極の折り紙【折り紙の幾何学】
 - 9回 ルネサンスの絵画と幾何、17世紀の幾何学・確率論・数論【近世数学】
 - 10回 和算について【江戸時代】、19世紀の代数学・数論、19世紀までの主な数学分野【近代数学】
 - 11回 フェルマーの最終定理が解かれるまで【フェルマーの最終定理】
 - 12回 「テーマから考えてみよう」
 - 13回 暗号のはなし【公開鍵暗号】、【法の世界】
 - 14回 技術に生きる現代数学【RSA暗号】
 - 15回 技術に生きる現代数学【ISBN】

成績評価の方法 /Assessment Method

アンケート(毎回)およびレポートによる総合評価。
 「アンケート40%+レポート60%-欠席点数」で評価。3回以上の無断欠席は不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予備知識は特に仮定しない。数をたのしんでみようという心構え・やる気が必要である。
 上記の参考文献を読まれるとよい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、高校までの数学とは一味違う、「数楽」の講義です。
 数の神秘やそれにまつわる歴史にふれること、たのしむこと、そして、思考の奥深さを体験することが内容に含まれます。
 講義を通して数学の意義や在り方を各自で感じ取ってもらい、今後の人生を生き抜く上でのひとつの糧となれば幸いです。

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 日本人の宗教観
- 3回 世界の諸宗教
- 4回 宗教の諸類型
- 5回 宗教とはなにか？
- 6回 一神教について1（ユダヤ教の形成）
- 7回 一神教について2（一神教の論理）
- 8回 一神教について3（キリスト教）
- 9回 仏教について1（シャカの教え）
- 10回 仏教について2（大乘仏教とは）
- 11回 仏教について3（中国の宗教風土と仏教）
- 12回 仏教について4（日本の仏教）
- 13回 神道について1（日本の神と祭り）
- 14回 神道について2（神仏習合）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% 平常の学習状況... 30% レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
レポートの作成には数冊の本を読んでもらうことになります。それなりの時間とお金を必要とします。計画的に作業を進めてレポートを提出して下さい。

履修上の注意 /Remarks

レポートを提出しない者は、期末試験を受験することができません。
レポート提出の遅延は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを認識し、日本の宗教風土の特色を理解してもらう授業です。

キーワード /Keywords

宗教 一神教 仏教 神道

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。
本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、イメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点を絞り、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 7回 映画分析①
- 8回 映画分析②
- 9回 映画分析③
- 10回 【テーマ研究】 表象を論じるためのテーマ
- 11回 テーマ研究①
- 12回 テーマ研究②
- 13回 テーマ研究③
- 14回 テーマ研究をふりかえって
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 20% 中間レポート・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、中間レポート・期末テストにおいて十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 花田 伸一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国内外の現代美術の事例を、鑑賞・趣味の対象としてではなく、批評・実践のツールとして紹介します。必要に応じて美術以外の諸分野も取り上げます。

教科書 /Textbooks

ナシ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

今道友信『美について』(講談社現代新書)
佐々木健一『美学への招待』(中公新書)
暮沢剛巳編『現代美術を知るクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社)
ほか、できるかぎり近辺の展覧会に足を運び、現場での実体験をすること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 美をめぐる言葉の整理：美×美術×美術館×美学
- 2回 作品鑑賞1：学内作品鑑賞
- 3回 作品鑑賞2：抽象美術作品鑑賞
- 4回 美術の現場1：美術館展覧会の舞台裏
- 5回 美術の現場2：アートプロジェクトとは
- 6回 美術と近代化1：近代日本美術の成立
- 7回 美術と近代化2：東南アジアの現在：ラオス、カンボジア
- 8回 美術と近代化3：東南アジアの現在：タイ
- 9回 芸術と権力：ファシズムと祝祭性について
- 10回 芸術と宗教：ニューエイジについて
- 11回 美術と教育：美術教育の現場から
- 12回 芸術と生活：限界芸術、民芸
- 13回 美術と地域：福岡県内プロジェクト事例紹介
- 14回 北九州・福岡アートシーン紹介1
- 15回 北九州・福岡アートシーン紹介2

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義内容は変更する場合があります。
また講義室内での受講にとどまらず、できる限り近隣の美術館・ギャラリー等で行われる展覧会・レクチャー・トーク・ワークショップ等に足を運び、「現場」での体験と省察とを心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
伊原木 大祐 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIHIKO / 基盤教育センター
板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに、私たちは「国語」という科目のなかで「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょう？さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値する、どのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見、自明にみえる課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉え直すことがこの科目の目的です。

◎2012年度のテーマ：「ノーベル文学賞」（コーディネーター：文学部・馬場）

毎年メディアで大々的に取り上げられている「ノーベル文学賞」。みなさんはこの賞について何を知っていますか？ その歴史や背景はどのようなものか？ 受賞した作家たちはどのような人で、どのような作品を書いたのか？ 今年度は10名の受賞作家をとりあげ、それぞれを専門とする教員および特別講師によるオムニバス講義を行います。世界中が注目する「ノーベル文学賞」が、政治・社会そして国家の問題をはらみつつ、文学とどのようにきりむすんでいるのか。行動する作家たちの生き様や作品をてがかりに、考えて行きます。

教科書 /Textbooks

担当教員毎に必要な箇所を配布、もしくは提示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○講義でとりあげる作家の作品(リストを、授業の初回で提示します)。
図書館の指定図書コーナーにすべて配架してありますので、各自閲覧してください。
また、本館地下・生協にも専用のコーナーがあり、書籍を購入することができます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「ノーベル文学賞」を考える
- 第3回 ウィリアム・バトラー・イェーツ【アイルランド】 木原担当(外・英米)
- 第4回 トーマス・マン【ドイツ】 岩本担当(文・比較)
- 第5回 ウィンストン・チャーチル【英国】 小林担当(基盤)
- 第6回 アーネスト・ミラー・ヘミングウェイ【アメリカ】 新村担当(特別講師/文・比較)
- 第7回 ジャン・ポール・サルトル【フランス】 伊原木担当(基盤)
- 第8回 川端康成【日本】 馬場担当(文・比較)
- 第9回 トニ・モリスン【アメリカ】 田部井担当(文・比較)
- 第10回 高行健/ガオ・シンジエン【中国・フランス】 板谷担当(外・中国)
- 第11回 ル・クレジオ【フランス】 福島担当(文・比較)
- 第12回 大江健三郎【日本】 服部担当(特別講師)
- 第13回 レポートについて
- 第14回 「ノーベル文学賞」で考える①
- 第15回 「ノーベル文学賞」で考える②

成績評価の方法 /Assessment Method

小レポート... 40%
学期末レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で対象となる作家の作品を事前に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

毎講義、しっかりとノートテイクをすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に関する問い合わせは、コーディネーターの馬場まで

キーワード /Keywords

文学、政治、社会、歴史、伝記、近現代、日本文学、海外文学、文学賞

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員が各々の専門と関心から同一テーマに従って輪番で講義を進行させてゆく「オムニバス授業」である。政治学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、哲学・倫理学(伊原木)を中心とし、他学部の教員も加えて授業展開してゆく予定である。授業テーマや担当者については初回授業で説明するので、必ず出席すること。参考までに、昨年度の共通テーマは「敵概念」であった。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房）
- 平井亮輔編『正義』（嵯峨野書院）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 本講義の構成と概説
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概説(続)
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植①
- 第4回 脳死・臓器移植②
- 第5回 脳死・臓器移植③
- 第6回 安楽死・尊厳死① 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義と多文化主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送され、話題となったマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶応義塾大学出版会、2010年）（○）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィ』（日本経済評論社、2003年）（○）
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）（○）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）（○）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 開講の辞・グローバル化と民主主義 【第三の波】【ベルリンの壁】【東欧革命】【市民社会】
第2-3回 ポリスの民主主義・「デモス」と「クラティア」について 【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
第4-5回 近代の民主主義・民主主義の二つの伝統 【G・セイバイン】【自由】【平等】
第6-7回 近代市民革命と自由民主主義について 【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】【議会制民主主義】
第8-9回 理論としての民主主義・現代民主主義の諸類型 【同質性民主主義】【エリート主義的民主主義】【参加民主主義】【共生の民主主義】【熟議民主主義】【ラディカル民主主義】
第10-11回 制度としての民主主義・議院内閣制民主主義と大統領制民主主義 【政治的安定性】【首相公選制】
第12-13回 民主主義批判の思想について 【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
第14回 運動としての民主主義・デモクラシーの徹底化について 【C・ムフ】【多様性】【複数性】
第15回 まとめ 民主主義の三つのレベル 【思想】【運動】【制度】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組状況考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを多く配布するので、すべてを一つにファイルして、毎回の講義に持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民主主義は「未完のプロジェクト」であると同時に「時代と社会の鏡」です。したがって、民主主義は常に自己検証を繰り返しながら、理念と現実の緊張関係の中から、新たな地平と可能性を切り開かなければなりません。そのためにも、私たちは、民主主義に対する様々な考え方を学ばなければなりません。

キーワード /Keywords

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 国内の人権課題「部落問題について」
- 6 国内の人権課題「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 国内の人権課題「在日外国人と人権課題」
- 8 国内の人権課題「在日コリアンについて」
- 9 国内の人権課題「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「アジアの人権状況 1」
- 14 「アジアの人権状況 2」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 40% レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

人権論【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を認識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振られるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルを身につけておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
山本 光英 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
狭間 直樹 / 政策科学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年				
対象入学年度 /Year of School Entrance		2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いに守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、法と道徳（重松）
- 第2回 裁判とは何か（岡本）
- 第3回 相隣関係とは何か（隣接する土地所有権相互の利用を調整することの意味）（福本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 障害のある人の権利 - 日本国憲法から（植木）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（國武後任）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（矢澤）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（矢澤）
- 第11回 社会保障の必要性と社会保険について考えよう（津田）
- 第12回 規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 Pacta sunt servanda とは何か（「契約」と「約束の違い、契約の成立から終了までのプロセス）（福本）
- 第15回 まとめ(重松)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる(計3本)。

- ①受講者は各講義のテーマの中から指定された3つの課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
- ②レポートの書式等は別途指示する。ただし、各レポート2000字以上とする。③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を明記した表紙を必ず添付すること。④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。⑤授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマに応じて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、原則として全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定します。全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意して下さい。

共生の作法【昼】

キーワード /Keywords

現代社会 共生 作法 ルール マナー

北九州学 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握するために環境問題に関する基礎的な知識を習得し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、行政・企業・NPO・マスコミ等の実務担当者を招へいし、様々な視点から北九州の環境を学習する。また、「環境首都検定」を受験し、市民の立場に立って環境に対する取り組みを幅広く学習する。さらに、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）を見学し、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 持続可能な社会をめざして
- 3回 北九州における環境問題
- 4回 北九州における環境政策
- 5～6回 環境関連施設見学①
- 7回 北九州の自然・生態系
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス
- 9回 環境問題と市民の関わり
- 10～11回 環境関連施設見学②
- 12回 環境首都検定模擬問題学習
- 13回 環境問題とジャーナリズムの役割
- 14回 環境都市としての北九州
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

施設見学参加を原則必須とする。
 環境首都検定（12月16日実施）の成績（50％）、積極的な授業への参加（50％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

施設見学は①環境ミュージアム（12月2日（日）午後）、②エコタウン（10月31日（水）午後）を予定しているが、変更の可能性もある。
 定員は100名とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

すでに検定試験を受けたことのある者も歓迎します。

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業における男女平等とワークライフバランス
日本企業における職場の男女平等、働き方に関して多面的に把握し、21世紀の企業における新しい働き方を追求する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。ただし、参考図書を随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：講義の概要
- 2 日本企業における女性労働の変遷：1960～75年
- 3 日本企業における女性労働の変遷：1975～92年
- 4 日本企業における女性労働の変遷：1992年～現在
- 5 男女別の人事労務管理
- 6 雇用管理の変遷と雇用形態の多様化
- 7 男女別賃金制度とコース別管理
- 8 男女賃金格差と性別職務分離
- 9 非正規社員と女性労働
- 10 男女雇用機会均等法の変遷
- 11 ワークライフバランスと人間らしい働き方
- 12 欧米の女性労働の特徴
- 13 企業における男女平等実現のための世界の流れ
- 14 男女共同参画社会の地平
- 15 21世紀日本の職場の男女平等と人間らしい働き方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言や小テスト・・・20% 試験の成績・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日々の新聞を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中に発言を求められることがあるので、前回の授業で指示した課題について考えをうえて出席することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記の通り。

キーワード /Keywords

職場における男女平等、ワークライフバランス、人間らしい働き方

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜紹介

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す小レポート(50点)+期末レポート試験(50点)=合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

つながりの人間学【昼】

履修上の注意 /Remarks

詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。地域活動に既に参加しているかどうかは関係ありませんので、多くの方に履修していただきたいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、2010年度に開設された地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思えます。また、より深く地域活動をとらえて学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア観形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 6回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 7回 中間のまとめ
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 40% 学期末試験... 60%
(第7回「中間のまとめ」の時間に小テストを実施します。小テストの受験は単位取得のための必須条件となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要と詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となっている。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代社会の諸問題 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 岡 邦信 / 法律学科
岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講義は、現代において生起しているそのような様々な問題の幾つかを取り上げ、それらを正確に理解したうえで問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、「現代正義論の展望」(重松)
- 第2回 「民法(債権法)改正とその問題点」(福本)
- 第3回 「障害のある人の権利 — ADAを中心にして」(植木)
- 第4回 「ドメスティック・バイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「裁判員制度」(山本)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「株式会社とは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「行政活動の実効性」(福重)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「現代型商取引から生じる法律問題」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第15回 まとめ(重松)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる(計3本)。
①受講者は各講義のテーマの中から指定された3つの課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
②レポートの書式等は別途指示する。ただし、各レポート2000字以上とする。③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を明記した表紙を必ず添付すること。④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。⑤授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマに応じて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、原則として全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定します。全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意して下さい。

キーワード /Keywords

現代社会 諸問題

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を思想的に考察する。そのため、近年に国際関係分野においても注目を浴びているポストコロナリズムとその思想課題を主軸とし、講義を進める。

教科書 /Textbooks

姜尚中『ポストコロナリズム』（作品社、2003）、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 第2回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)【植民地主義後】
- 第3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(2)【植民地主義後の可能性】
- 第4回 第IV部の総論 「ポストウォー」から「ポストコロナル」へ【戦後、植民地以後】
- 第5回 第II部の総論 「ポストコロナリズム」の思想的現在性【理論、現実】
- 第6回 第II部の「近代」 【ポストモダニズム、ポスト構造主義】
- 第7回 第II部の「性・文化」 【フェミニズム、カルチュラル・スタディーズ】
- 第8回 第II部の「日本」 【植民地主義、構造的批判】
- 第9回 第II部の「第三世界」 【第三世界、民族解放論】
- 第10回 第II部の「国家」 【ナショナリズム論】
- 第11回 第IV部の1「ポストコロナルとポリティカル・エコノミー」【開発独裁、オリエンタリズム】
- 第12回 第III部の2「帝国と文化」【植民地朝鮮】
- 第13回 第III部の3「記憶と責任」【過去の克服、植民地支配責任】
- 第14回 第III部の4「マイノリティ・ジェンダー・他者」【沖縄、多文化間精神医学】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加への熱意 (30点)、レポート3本 (70点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習と復習。教科書のなかに登場する概念、理論、人物について自主学習すること。

履修上の注意 /Remarks

とくになし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

思想と哲学に関心をもち、勉強しようという意欲をもつこと。

キーワード /Keywords

国際情勢、ポストコロナリズム、思想課題、ポスト構造主義、植民地主義、ナショナリズム、オリエンタリズム、アイデンティティ、過去の克服、他者

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
グローバル化の進展に伴って、定住外国人の「統合」や多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。こうした課題について考えるための基礎知識を提供する。また、グローバルな現象をローカルな場（地域）において実証的に把握していく方法についても学ぶ。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察する。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの紹介
- 第2回 グローバル化の進展と国際労働力移動【グローバル化】【エスニシティ】
- 第3回 出入国管理について【外国人登録】【出入国管理】
- 第4回 エスニシティ理論【道具主義】【原初主義】【分断労働市場】【オリエンタリズム】
- 第5回 在日韓国・朝鮮人と日系ブラジル人について【特別永住者】【定住者】【永住者】
- 第6回 日本と朝鮮半島の近現代史①（外国語学部総田先生による講義）【植民地支配】
- 第7回 日本と朝鮮半島の近現代史②（外国語学部総田先生による講義）【冷戦】【民団と総連】
- 第8回 在日韓国・朝鮮人と日本社会①【民族関係】
- 第9回 在日韓国・朝鮮人と日本社会②【エスニシティ】
- 第10回 日系ブラジル人と日本社会①【国境を越えた雇用システム】
- 第11回 日系ブラジル人と日本社会②【顔の見えない定住化】
- 第12回 日系ブラジル人と日本社会③【非正規雇用】
- 第13回 日系ブラジル人と日本社会④【教育達成】
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「国際」とは何か？
- 第3回 国際社会と主権国家、国際機構
- 第4回 国際社会の組織化(1)～国際機構の誕生
- 第5回 国際社会の組織化(2)～国際連盟の展開
- 第6回 国際社会の組織化(3)～国際連盟の失敗と教訓
- 第7回 国際連合の成立過程(1)～第二次世界大戦と連合国構想
- 第8回 国際連合の成立過程(2)～大西洋憲章からダンバートンオークス会議に向けて
- 第9回 国際連合の成立過程(3)～ヤルタ会談とサンフランシスコ会議
- 第10回 国際連合の展開(1)～国際連合の誕生と国連軍
- 第11回 国際連合の展開(2)～安保理の機能不全
- 第12回 国際連合の展開(3)～日本の戦後処理と国連加盟
- 第13回 国際連合の展開(4)～途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第14回 国際連合の展開(5)～PKOの展開
- 第15回 PKOと日本の国際平和協力

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるネイションとエスニシティ
- 2回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 3回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【オルダム暴動】【多文化主義】
- 4回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【ブリクストン暴動】【スカーマン報告】
- 5回 イギリスにおける民族とエスニシティ(4)【サッチャー主義】【イスラム嫌い】
- 6回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 7回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 8回 東南アジアと「エスニシティ論」
- 9回 「本物・本質」探し(1)ベトナムの事例から
- 10回 「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念の構築
- 11回 「独立か否か」(1)インドネシア・アチエの事例から
- 12回 「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
- 13回 「ニセモノ」のネイション(1)アンダーソンの想像の共同体
- 14回 「ニセモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（統治）」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「開発と統治」をはじめるにあたって	担当：三宅
第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】	担当：伊野
第3回 民主化問題を考える視座(2)	担当：伊野
第4回 理論と現実 -ミャンマーの民主化をめぐる~その1 【ミャンマー】	担当：伊野
第5回 理論と現実 -ミャンマーの民主化をめぐる~その2 【ミャンマー】	担当：伊野
第6回 援助と民主主義：バングラデシュの事例 【援助】	担当：チョウドリ・三宅
第7回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動 【バングラデシュ政治】	担当：チョウドリ・三宅
第8回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
第9回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
第10回 南太平洋からの便り~フィジーを事例に 【フィジー】	担当：三宅
第11回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】	担当：三宅
第12回 日本の子ども会をとりまく環境~グループワーク 【子ども会】	担当：三宅
第13回 日本の子ども会を取り巻く環境~教員による説明	担当：三宅
第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク	担当：指名教員
第15回 まとめ	担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

グループワークでは誰でも気軽に話せるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ フィジー、子ども会 グループ・ワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名
/Instructor

前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

木暮太一(2010)『経済が世界—シンプルにつかめる本』明日香出版社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田稔(監修)(2010)『ポン!とわかる日本経済』宝島SUGOI文庫。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。

第1回	シラバス詳細版配布、授業の説明、イントロダクション	【グローバル化】
第2回	世界で何が起きている?	【サブプライム問題】
第3回	世界で何が起きている?	【WTO】【BRICs】
第4回	商品にまつわる話	【海外進出】【立地】
第5回	商品にまつわる話	【人件費】【為替レート】
第6回	食べ物にまつわる話	【食料自給率】
第7回	食べ物にまつわる話	【エコビジネス】【脱炭素燃料】
第8回	生活環境にまつわる話	【円高・円安】【人件費】
第9回	生活環境にまつわる話	【雇用慣行】【労働移動】
第10回	人の力にまつわる話	【人口減少】【貯蓄率】
第11回	人の力にまつわる話	【年金】
第12回	国の持ち物にまつわる話	【自由貿易】
第13回	国の持ち物にまつわる話	【多国籍企業】
第14回	お金と為替にまつわる話	【基軸通貨】
第15回	お金と為替にまつわる話	【変動相場制】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(ミニテストやレポートなど): 20~30%、学期末試験: 70~80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、必要に応じて配布されるプリントも予習・復習の際に参考にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸は三つある。第一は政治面の軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が主な内容である。第二が経済面の軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』第3版(有斐閣 2010年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【バブル経済】【冷戦の終結】
- 第14回 冷戦後の日本外交【小泉政権】【民主党政権成立】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習をしっかりとください。

キーワード /Keywords

日本政治 歴史 第二次世界大戦後

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 『ラスト・サムライ』と武士道
 - 3回 武士道の成立
 - 4回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 5回 『平家物語』を読む②騎馬戦と【言葉戦】
 - 6回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
 - 7回 県名を読む②県名と県庁所在地
 - 8回 県名を読む③戊辰戦争
 - 9回 「国語」とは何か?
 - 10回 『国語元年』(ビデオ)を読む(ビデオ)①方言とは何か?
 - 11回 『国語元年』(ビデオ)②標準語とは何か?
 - 12回 網野善彦と日本史の枠組み
 - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
 - 14回 「桃太郎」と吉備王国
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合には筆記試験100%、受講生100名以下の場合には授業レポート50%筆記試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山七士殉難事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱 - 西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツ、アメリカ、スペインといった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【パリ五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 スペイン(岡住)【民主化】【自治州国家体制】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題をできるだけ平易に説明してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野口悠紀雄『戦後日本経済史』新潮選書、2008年
三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目標・戦前と戦後
- 2回 戦後改革
- 3回 経済復興
- 4回 高度成長とそのメカニズム
- 5回 高度成長とそのメカニズム
- 6回 高度成長期の企業システム(1)
- 7回 高度成長期の企業システム(2)
- 8回 高度成長のもたらしたもの
- 9回 高度成長の終焉
- 10回 日本企業の国際競争力
- 11回 バブル経済
- 12回 長期不況と不良債権
- 13回 アジアの成長と日本経済
- 14回 金融危機と日本
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト・レポート25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習事項の復習をきちんとしておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 /Instructor 福間 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義には、二つの柱がある。ひとつは、「都市と農村」あるいは「都会と田舎」という区分が、現代社会において、どのような繋がりと存在意義を持っているのかを明らかにすることである。もうひとつは、「世間」というものが、現代の私たちの生活を無意識のうちに律していることを自覚し、その存在理由を文化的に分析することである。

授業においては、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない人々の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 何気ない普段の生活を意識する
- 第2回 はじめに「都市の誘惑」都市と農村のリズム
- 第3回 「世間とは」気づかない日常の拘束力
- 第4回 「言葉の威力」言葉から都市と農村を見る
- 第5回 「新しい世間」電子メディアと文化均一化
- 第6回 「稲の魂」農村と神
- 第7回 「都市と御霊」都市の間と光
- 第8回 「祭と祭礼」都市の指標としての祭礼
- 第9回 「都会の身体 / 田舎の身体」身振りと文化
- 第10回 「人気(じんき)」国民性・県民性 集合的無意識
- 第11回 「都会のハビトゥス1」出会いと社交の技法
- 第12回 「都会のハビトゥス2」結集の技法
- 第13回 「都会のハビトゥス3」不文律の妙
- 第14回 「都市の威力」博多山笠に見る文化伝播
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身近なところから問題点を発見し、自ら分析し、解決する。この知的技法の基本を楽しく伝えていきたいと思ひます。

キーワード /Keywords

日本民俗学 柳田國男 世間 世間体 文化伝播 伝統と創造 変化変容 都市祭礼 フィールドワーク 伝承と電子メディア

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり?【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車発明への道【ガソリン・エンジン】【電気自動車】
- 第6回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第7回 内燃機関と身体【職人文化】
- 第8回 ヘンリー・フォードとアメリカ【ヘンリー・フォード】
- 第9回 フォード・システムと大衆【フォーディズム】
- 第10回 フォード対GM 【柔軟な大量生産システム】
- 第11回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第12回 自動車と道路【道路の歴史】【交通規制】
- 第13回 自動車と都市政治【住宅開発】
- 第14回 自動車と国家【産業政策】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、日本・アメリカ・ヨーロッパの代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、ヨーロッパについては1930年代の世界恐慌とそれを打開しようとしたアメリカのルーズベルト大統領のニューディール政策、ドイツのヒットラーのナチス経済、世界恐慌を救済する理論を考案した経済学者M. ケインズ。ケインズ政策を使って昭和恐慌を救った高橋是清について述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。(新村)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 日本、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 永遠の繁栄のアメリカと賠償支払い問題で苦境のドイツ
 - 第2回 1929年世界恐慌の構造
 - 第3回 ルーズベルト大統領とニューディール政策
 - 第4回 ヒットラーとナチス経済
 - 第5回 M ケインズと不況の経済学「一般理論」
 - 第6回 高橋是清と昭和恐慌
 - 第7回 サッチャーの経済政策とバブル経済
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講I (生命と物質) 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか、生物はどのような物質からできていて、どのようなしくみで成り立っているのか。生命のはじまりと終わりは生物学的にどのように定義されるのか。本講では生命を物質的な側面からとらえ、生きているということについて科学する。また、生命の多様性を生み出すしくみ、放射線や化学物質などが生物に及ぼす影響、遺伝子工学や生命操作についての基礎を学び、現代社会における生命科学の諸問題を理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「文系のための生命科学 第二版」 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年 (羊土社)
 - 「宇宙と生命の起源 ビッグバンから人類誕生まで」 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年 (岩波ジュニア新書)
 - 「生物と無生物のあいだ」 福岡伸一著 2007年 (講談社)
- 高校生物IおよびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地球をつくる物質の起源【元素】【原子】【超新星爆発】
- 3回 地球の進化と環境の変化【太陽活動】【宇宙放射線】【生物絶滅】
- 4回 物質のなりたち【分子】【化学結合】
- 5回 生命の部品となる物質【核酸】【タンパク質】【糖】【脂質】
- 6回 生命を設計する物質【DNA】【遺伝子】
- 7回 生命を動かす物質【ATP】【呼吸】【酵素】
- 8回 生命をとりまく物質【放射線】【変異原】
- 9回 生命の起源と進化【原核生物】【真核生物】
- 10回 多様性を生み出すしくみ【突然変異】【生殖】【減数分裂】
- 11回 生命を操作するという①【遺伝子工学】【遺伝子組換え作物】
- 12回 生命を操作するという②【ES細胞】【生殖医療】
- 13回 映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加40% (質問やコメントの内容で評価する)、確認のための小テスト (2～3回実施) 30%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自然科学系科目が苦手な者も歓迎します。高校の教科書や参考書等を入手し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んでください。興味がある者は、「自然学のみなごし (人間と生命) 【夜間】」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養特講I (生命の境界線) 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 中野 次吉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

< テーマ >

医療倫理を学びます。

< 概要 >

遺伝子治療、安楽死、脳死・臓器移植を通して、現代医療において「いのち」がどう扱われているか学びます。そのことを通して、現代医療が抱える制度的、倫理的課題について考えます。

< 対象 >

医療や科学・技術問題に関心がある学生、とくに医療・福祉分野に進みたい学生を歓迎します。

教科書 /Textbooks

とくに使いません。プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

配布するプリントの末尾で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 授業内容 >

医療技術の発達で、人類は神の力を手に入れました。それは「いのち」を自由に操作する技術です。いまや、多くの病気や死は克服されつつあるようにみえます。しかし、そのことで、人類はかつて経験しなかった難問を抱えこんでしまいました。

たとえば、臨終の場面を想像してみてください。医師はあなたにこう尋ねます。「もはや手は尽くしました。ご家族は生命維持装置なしにはもちません。これからも治療を続けますか?」。あなたが「はい」と答えると、家族は機械の力で生き続けます。「いいえ」と答えると、家族は機械を外され「いのち」を終える、つまり死ぬこととなります。

「いのち」に意図的な境界線を引くこと、これが現代医療の抱える難問です。これまで死はどうすることもできない運命でした。しかし、いまは科学・技術の力でそれを何とかすることができます。上述のように、あなたの一言が人の生死を決定します。わたしたちは人間の死に対して責任を負わなければならなくなりました。そこに倫理が生じてきます。

授業では、現代医療における「いのち」について、医療技術・制度、哲学、法律などの観点から、自分なりの「いのちの境界線」について考えてもらいます。具体的な事例として、遺伝子治療、安楽死、脳死・臓器移植をとり上げます。

< 授業計画 >

- 第1回 : ガイダンス
- 第2回 : 第1章 遺伝子治療① — 「人体製造」技術
- 第3回 : 第1章 遺伝子治療② — 遺伝子治療と倫理
- 第4回 : 第1章 遺伝子治療③ — 操作される生命「救世主兄弟」
- 第5回 : 第2章 安楽死① — 操作される死「カレン事件」
- 第6回 : 第2章 安楽死② — 安楽死と法
- 第7回 : 第2章 安楽死③ — 安楽死の論理「どこで線を引くか?」
- 第8回 : 第2章 安楽死④ — 残された課題
- 第9回 : 第3章 脳死・臓器移植① — 脳死とは?
- 第10回 : 第3章 脳死・臓器移植② — 死の概念「医学と哲学における基準」
- 第11回 : 第3章 脳死・臓器移植③ — 臓器移植という治療の特色
- 第12回 : 第3章 脳死・臓器移植④ — 脳死・臓器移植の倫理、制度的課題
- 第13回 : 第4章 科学・技術と倫理① — 科学・技術における「自然」の考え方
- 第14回 : 第4章 科学・技術と倫理② — 科学・技術に対する倫理
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験で評価します (配布プリント、ノートの持ち込みを可とします) 。

教養特講I (生命の境界線) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくにありません。

履修上の注意 /Remarks

とくにありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

配布するプリントをよく読んでください。

キーワード /Keywords

遺伝子、安楽死、脳死、科学・技術、倫理

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 文学部 河嶋 静代 他

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

性と人権は深く結び付いている。セクシュアル・ライツはあらゆる人間が生まれながらにして有する自由、尊厳、平等にもとづく普遍的権利である。21世紀に切り拓かれる人権の領域である。
本授業では性に関する多様なテーマについて取り上げながら、広く性と人権について考察していく。セクシュアル・ライツについて学ぶことで、自分や人を大切にできる意識や感性を醸成し、性的自己決定能力を向上させていくことがねらいである。
具体的には、セクシュアル・ハラスメントやデートDVの予防など、相互尊重のコミュニケーションやソーシャルスキルの習得できるように、ロールプレイなど一部体験学習を織り交ぜながら授業を進めていく。
本学教員と外部講師によるオムニバス形式での授業を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に配布するプリントに記載

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、セクシュアル・ライツとは 【ジェンダー】 【セクシュアリティ】
- 2回 性の多様性とセクシュアル・マイノリティ 【性自認】 【性的指向】 【性の二元化】
- 3回 トランスジェンダー 【トランスジェンダリズム】 【性同一性障害】
- 4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 【性的自己決定】 【母体保護法】 【人工中絶と優生思想】
- 5回 性感染症の予防 【性教育】 【性的自立】
- 6回 生殖医療の発達と生命倫理 【代理母】 【不妊治療】 【出産ビジネス】
- 7回 大学におけるセクシュアル・ハラスメントと防止 【男女雇用機会均等法】 【アカデミック・ハラスメント】
- 8回 デートDVの予防 【自尊感情】 【アサーション・トレーニング】
- 9回 性暴力被害とトラウマ 【性暴力裁判】 【強姦神話】 【フェミニスト・カウンセリング】
- 10回 日本における売春防止法と「婦人保護」 【公娼制度】 【売春の歴史】
- 11回 日本と諸外国の売買春をめぐる動向 【セックスワーカー】 【性労働】 【売春の合法化】
- 12回 障害者と性 【ADL・QOL】 【性のケアと看護】
- 13回 戦争と性暴力 【軍事化】 【性支配】 【植民地主義】 【民族浄化】
- 14回 メディアと子どもの性被害 【ポルノグラフィ】 【児童ポルノ禁止法】 【メディア・リテラシー】
- 15回 これまでの振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、課題60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講III (誰にも負けない私のイギリス案内) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私の本学教員生活34年間はイギリス経済研究三昧の日々であった。その間、3年間もイギリスで研究生生活を楽しんだ。専門書『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで—』はその成果である。
多くの時間とエネルギーをイギリスに投入した私は、イギリス社会をさまざまな角度から見る機会を得てきた。いわば研究余滴というべき「私だけのイギリス案内」を講義する。
また、留学生を良く連れていく門司港→渡船にて唐戸→唐戸の英国領事館→春帆楼→赤間神宮門→関門歩道トンネルは、「私のデートコース案内」としてイギリスを関門地域」に発見したコースである。
換言すると、イギリスを鏡として日本の姿を改めて見直す。これが講義の目的である。

教科書 /Textbooks

口述であるために教科書はなし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで—』(ミネルヴァ書房、2008年)
M・サッチャー『回顧録』(上、下) (石塚雅彦訳、日本経済評論社、1993年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 なぜイギリスを語るのか
- 第2回 明治維新を支えたスコットランド人
「蛍の光、窓の雪」のルーツを求めて—アダム・スミス「国富論」(1776年) を中心に—
- 第3回 湖水地方; 自然保護は住民の運動によってのみ守られる
- 第4回 世界のケンブリッジ大学—ノーベル賞受賞者との日々
- 第5回 ケンブリッジ大学留学とインド人家族との交流
- 第6回 1929年世界恐慌を救ったM・ケインズ—ケインズ革命「雇用・利子および貨幣の一般理論」(1936) が語りかけるもの
- 第7回 ミュージカル鑑賞でロンドンの夜を楽しもう
- 第8回 ・大英博物館図書館案内—
- 第9回 世界最大の図書館案内—『資本論』がなぜいま人気があるのか—『資本論』の世界紹介
- 第10回 ダウニング街10番地
- 第11回 イギリスの2大政党政治と日本の政治
- 第12回 セイント・アイビス; バーナード・リーチと小鹿田焼き窯
- 第13回 南ウエールズの首都カーディフ市と北九州市との関係
- 第14回 花の都パリで乾杯
- 第15回 私のデートコース案内—イギリスから見た関門地域—

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

拙著『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで—』(ミネルヴァ書房、2008年)
M・サッチャー『回顧録』(上、下) (石塚雅彦訳、日本経済評論社、1993年)
を目に通しておけば、理解し易い。
また、新聞を毎日読んで、伊英関係の記事を見つけてノートに要約しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講Ⅳ (報道・情報・営業、テレビはいま) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所, 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

< 本講義のタイトル > 「報道・情報・営業、テレビはいま (RKB寄付講座) 」

< 目的 >

RKB毎日放送株式会社の現場の第一線で活躍している社員に教壇に立って頂き、番組制作における基本的知識 (特に問題点) をご講演していただいたのち、社員の方から投げられた現場における困難な課題を、グループで取り組み、課題解決 (場合によっては制作および発表) を通して、パースペクティブな視野を持ったクリティカル・シンキングの獲得、および現実に即したメディアリテラシーの理解を目指します。そして、大学生活における学びや活動に対し、意欲を持って実行することに繋げていくことを目的とします。

< 進め方 >

毎回、現場における課題を提示し、グループワークを促し、一部グループに発表していただきます。

①テーマに基づく講演、ダイアログ、作品上映など

②グループワーク

③プレゼンテーション ※講演者が選出。数グループ。

④講評および来週の課題

※講演や上映部分を長くし、レポート提出する回もあり。

< 期待される効果 >

クリティカルシンキング、メディアリテラシー

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
 - 2回 総論
 - 3回 「報道の自由」「国民の知る権利」「人権」の狭間で揺れるテレビ報道
 - 4回 ドキュメンタリー総論
 - 5回 エンタメ・情報系ドキュメンタリー
 - 6回 ハードドキュメンタリー
 - 7回 群像ドキュメンタリー
 - 8回 死闘! 情報ワイド戦争
 - 9回 情報からヒューマンへ
 - 10回 はいどうぞ、親切丁寧地上波テレビ。編成テクニク実戦編
 - 11回 営業第一線からの報告
 - 12回 めざせ放送人! 優れた作り手よ来たれ!
 - 13回 まとめ
 - 15回 最終レポート
- (※期間中、最終レポートとは別にテレビ作品に対するホームワーク提出を持って、全15回となります)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80%、最終レポートおよび途中提出のホームワーク...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

原則、毎回グループワークとプレゼンテーションがありますので、授業で指示する事前準備を行ってください

履修上の注意 /Remarks

※履修者が多かった場合、履修者の調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員までメールなどで連絡をしてください。
※「プロフェッショナルの仕事」を受講していることが望ましい。
※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。
※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の5項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁(マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止 ⑤私語厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、実際の現場で起こっている課題に、社会人がどう取り組んでいるのかを体感することで、みなさんの大学での学びを仕事に試すチャンスです。さらにテレビ局はインターンシップに参加する数名のみしか体験できない現場です。この機会を活かして自分の力を試してみたい、そしてさらに高めたい意欲を持って参加してください。

キーワード /Keywords

マスメディア、メディアリテラシー、テレビ局、アナウンサー、ディレクター、営業、ドキュメンタリー

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた日朝関係
- 第8回 近世的日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 「外国」になった沖縄
- 第13回 「大帝国日本」の解体
- 第14回 「日本人」の戦後問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジア諸地域の特異性について明らかにし、更にはそれを通じて東アジア諸地域の今後の在り方を自らで模索することの出来る能力を養うことを目指す。なお一般的に中国の歴史というと、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収・同化しつつ変容を繰り返しているのである。また、近隣諸地域もその影響を受けつつオリジナルな国家形成を行ってきているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。よってここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐の世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく東アジアという包括的視座に置いて各時代の政治・思想・外交・文化等の多角的な面から理解することを掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度... 20%・定期試験... 80%
(講義では毎回感想カードを配布回収する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては特になし。
復習としては講義中に適宜紹介するものを読んで理解を深めることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界史・東洋史に初めて触れる人にも理解しやすい講義を心がけたいと思います。
先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

社会学 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域について社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代の社会的解読』(山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006)
その他、講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1 : 集合意識と行為
- 第4回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2 : 『自殺論』
- 第5回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1 : 理解社会学
- 第6回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2 : 『プロテスタNティズムの倫理と資本主義の精神』
- 第7回 集団と組織1 - 集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2 - 官僚制の逆機能
- 第9回 家族1 - 家族の種類と機能
- 第10回 家族2 - 近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1 - 階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2 - 階層化のメカニズム
- 第13回 グローバル化とエスニシテイ1 - グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシテイ2 - 統合のメカニズム
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では世界的視野で自然的要素の諸相を明らかにし、自然的条件が人間および人間社会に及ぼす影響を及ぼすかを世界の様々な地域を事例を挙げて検討する。さらに日本において生活の基礎的条件としての自然的条件が人間生活に影響を及ぼしている事例を検討する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井関弘太郎『沖積平野』東京大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
2. 世界の自然 - 気候、地形、地震
3. 世界の自然と農業 - 農業様式と景観
4. 未開発地域の人々の生活
5. 氷雪地域における人間の生活 - シベリア・オイミヤコン
6. 熱帯地域における人間の生活 - 酷暑地域
7. 乾燥地域における人間の生活 - アタカマ砂漠
8. 西ヨーロッパの気候と人間の生活 - イギリス、ドイツ、スペインなど
9. 世界最多雨地域における人間の生活 - マガラヤ
10. 日本の自然条件 - 気候、地形、陸水
11. 日本における気候と農業、生活
12. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 氷河性海面変動と沖積層
13. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 沖積層と地盤沈下
14. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 沖積層と工業立地
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業の取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳持参が望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

機構、地形、極寒地域、酷暑地域、温暖地域、氷河性海面変動、沖積層

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習を行い、地理学的知見を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義・実習)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。
- 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI (講義・実習)。
- 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII (実習)。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 リモートセンシング、衛星データの利用。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域を対象としてとりあげ、「社会的環境の変化と地域の変化」をテーマとする。産業構造の変化、交通の変化、自治体の再編成が地域にどのような変化をもたらすかを明らかにする。
ビデオなども使い、具体的なイメージが湧くように努めたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1)はじめに～地理学とは、地誌とは
- (2)産業構造の変化と地域① - 製鉄業の再編成と地域の変貌 (北九州、釜石、福山など)
- (3)産業構造の変化と地域② - 自動車産業の再編成と地域の変貌 (座間、豊田、刈田など)
- (4)産業構造の変化と地域③ - 造船業の再編成と地域の変貌 (下関、因島など)
- (5)産業構造の変化と地域④ - エネルギー革命と地域の変貌 (宇部)
- (6)産業構造の変化と地域⑤ - エネルギー革命と地域の変貌 (夕張)
- (7)交通の変化と地域の変貌① - 道路輸送、鉄道輸送の整備と地域の変貌 (農業地域、一戸、飯田など)
- (8)交通の変化と地域の変貌② - 高速交通網の整備と地域の変貌 (観光地、角館、小布施、湯布院など)
- (9)交通の変化と地域の変貌③ - 橋、トンネルの開通と地域の変貌 (下関、高松、函館、青森など)
- (10)交通の変化と地域の変貌④ - 空路輸送、海上輸送の整備と地域の変化 (ハブ港とフィーダー輸送)
- (11)自治体の再編成と地域の変貌① - 何のための自治体の再編成か
- (12)自治体の再編成と地域の変貌② - 山口県における自治体再編成と下関市の合併
- (13)自治体の再編成と地域の変貌③ - 合併しなかった自治体について (福島県矢祭町、長野県栄村など)
- (14)自治体の再編成と地域の変貌④ - 合併しなかった自治体について (山口県阿武町)
- (15)まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業の取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域、産業再編成、交通変化、自治体再編成、製鉄業、自動車産業、造船業、エネルギー革命、高速交通網

日本国憲法 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない(第2版)』(青林書院・2011年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権総論
- 第4回 人権各論①(人権享有主体)
- 第5回 人権各論②(幸福追求権)
- 第6回 人権各論③(平等原則)
- 第7回 人権各論④(信教の自由)
- 第8回 人権各論⑤(表現の自由)
- 第9回 統治機構①(国民主権)
- 第10回 統治機構②(権力分立)
- 第11回 統治機構③(日本の政治制度)
- 第11回 平和主義①(憲法9条の意義)
- 第12回 平和主義②(戦後日本の安全保障)
- 第13回 平和主義③(憲法9条と裁判所)
- 第14回 日本憲法史
- 第15回 予備日程

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【概説】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 5回 哲学と倫理 (4) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 6回 哲学と倫理 (5) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ヘレニズム期】
- 7回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【古代イスラエルの宗教】
- 8回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 9回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 10回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理【キリスト教の発展】
- 11回 近代倫理学の誕生 (1) 【イギリス経験論】
- 12回 近代倫理学の誕生 (2) 【契約説】
- 13回 近代倫理学の発展 (1) 【カント】
- 14回 近代倫理学の発展 (2) 【功利主義】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 学期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済・再履修 群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を説明することができるようになります：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割
- Webページの作成元や信頼度
- インターネットを用いた情報収集、情報発信についての基礎的な知識

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】【リスク分析】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【検索エンジン】【フリー百科事典】【情報の引用】
- 8回 情報システムの利用者としての心得(3)【ブログ】【ソーシャルメディア】【掲示板】
- 9回 情報システムの利用者としての心得(4)【クラウドコンピューティング】【スマートフォン】【データベース】
- 10回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 11回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】
- 12回 情報セキュリティ対策(2)【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 13回 情報セキュリティ対策(3)【SSL】【クッキー】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、ソーシャルメディア

エンドユーザコンピューティング 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 営・再履済・群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を説明することができるようになります：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割
- Webページの作成元や信頼度
- インターネットを用いた情報収集、情報発信についての基礎的な知識

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】【リスク分析】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【検索エンジン】【フリー百科事典】【情報の引用】
- 8回 情報システムの利用者としての心得(3)【ブログ】【ソーシャルメディア】【掲示板】
- 9回 情報システムの利用者としての心得(4)【クラウドコンピューティング】【スマートフォン】【データベース】
- 10回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 11回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】
- 12回 情報セキュリティ対策(2)【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 13回 情報セキュリティ対策(3)【SSL】【クッキー】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、ソーシャルメディア

データ処理【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 営 1 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう
な項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう
な項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、HTMLを使ったWebページ作成やプレゼンテーションなどに関する技術を学びます。その過程を通じて、情報収集の基本的な方法、情報の信頼性の吟味、著作権に関する事項、効果的な情報発信手法なども学ぶことができます。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- HTMLを用いた文書構造（タイトル、セクション、段落など）の指定や、CSSを利用した文字飾り、背景色などのWebデザイン、画像・ハイパーリンクなどを用いたWebページ作成の技術
- プレゼンテーションソフトを使った効果的なプレゼンテーション
- 発表のテーマ選定から情報収集、情報の信頼性の吟味、情報の加工から発信までの一連の流れ

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法
- 3回 Webページの構成
- 4回 Webページのデザイン
- 5回 デジタル時代の著作権
- 6回 Webページ作成実習1（テーマ選定、情報収集）
- 7回 Webページ作成実習2（情報加工、情報発信）
- 8回 プレゼンテーション作成技術
- 9回 プレゼンテーション作成演習
- 10回 グループによるスライド作成実習1（発表のストーリー性）
- 11回 グループによるスライド作成実習2（情報の共有化）
- 12回 発表の技術
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を受講していると、この授業の理解が深まります。また、コンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML, プレゼンテーション, マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、HTMLを使ったWebページ作成やプレゼンテーションなどに関する技術を学びます。その過程を通じて、情報収集の基本的な方法、情報の信頼性の吟味、著作権に関する事項、効果的な情報発信手法なども学ぶことができます。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- HTMLを用いた文書構造（タイトル、セクション、段落など）の指定や、CSSを利用した文字飾り、背景色などのWebデザイン、画像・ハイパーリンクなどを用いたWebページ作成の技術
- プレゼンテーションソフトを使った効果的なプレゼンテーション
- 発表のテーマ選定から情報収集、情報の信頼性の吟味、情報の加工から発信までの一連の流れ

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法
- 3回 Webページの構成
- 4回 Webページのデザイン
- 5回 デジタル時代の著作権
- 6回 Webページ作成実習1 (テーマ選定, 情報収集)
- 7回 Webページ作成実習2 (情報加工, 情報発信)
- 8回 プレゼンテーション作成技術
- 9回 プレゼンテーション作成演習
- 10回 グループによるスライド作成実習1 (発表のストーリー性)
- 11回 グループによるスライド作成実習2 (情報の共有化)
- 12回 発表の技術
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90% , 積極的な授業参加 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を受講していると、この授業の理解が深まります。また、コンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、この授業ではグループによる協同学習を導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML, プレゼンテーション, マルチメディア

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラミングとは何か 1【VBA】、【マクロ】
- 2回 プログラミングとは何か 2【フローチャート】
- 3回 プログラミングとは何か 3【構造化プログラミング】
- 4回 VBAの基本構文【Visual Basic Editor】、【Sub】、【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】、【幅と高さ設定】、【線種設定】、【色設定】
- 6回 メッセージボックスとインプットボックス【MsgBox】、【InputBox】
- 7回 シートとセルの操作【Worksheets】、【Cells】
- 8回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 9回 プログラムの構造 1：条件分岐構造【if文】
- 10回 プログラムの構造 2：多重の条件分岐構造【if文のネスト】
- 11回 プログラムの構造 3：ループ構造 1【for文】
- 12回 プログラムの構造 4：ループ構造 2【while文】
- 13回 プログラムの構造 5：多方向分岐構造【select文】
- 14回 フォームの作成【フォーム】、【ボタン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説します。

キーワード /Keywords

プログラミング、VBA、マクロ、フローチャート、GUI

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書く必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラミングとは何か 1【VBA】、【マクロ】
- 2回 プログラミングとは何か 2【フローチャート】
- 3回 プログラミングとは何か 3【構造化プログラミング】
- 4回 VBAの基本構文【Visual Basic Editor】、【Sub】、【デバッグ】
- 5回 VBAを用いた表作成【Borders】、【幅と高さ設定】、【線種設定】、【色設定】
- 6回 メッセージボックスとインプットボックス【MsgBox】、【InputBox】
- 7回 シートとセルの操作【Worksheets】、【Cells】
- 8回 変数【変数のデータ型】、【変数の宣言】、【演算】、【式】
- 9回 プログラムの構造 1：条件分岐構造【if文】
- 10回 プログラムの構造 2：多重の条件分岐構造【if文のネスト】
- 11回 プログラムの構造 3：ループ構造 1【for文】
- 12回 プログラムの構造 4：ループ構造 2【while文】
- 13回 プログラムの構造 5：多方向分岐構造【select文】
- 14回 フォームの作成【フォーム】、【ボタン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作（タイピング等）をある程度経験しておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的な内容から解説します。

キーワード /Keywords

プログラミング、VBA、マクロ、フローチャート、GUI

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題及び基本文法を扱ったテキストを中心に、運用能力の4技能(読む・聴く・話す・書く)のうち特に「読む・聴く」ことに重点をおいて学習する。英語表現の基礎となる基本的な文法項目はTOEIC問題に数多く取り組むことによって身につくよう指導していく。(1学期のTOEIC目標スコアは500点)

教科書 /Textbooks

石井隆之 他著 「Prize Pointers for the TOEIC Test」 南雲堂 1900円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

目標レベル500~600をターゲットとした市販の解説付きTOEIC問題集。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション & 英語力確認テスト(必ず出席のこと)
- 第2回 1章: 動詞と時制(1)
- 第3回 2章: 動詞と時制(2)
- 第4回 3章: 動詞と時制(3)
- 第5回 4章: 動詞と時制(4)
- 第6回 復習テスト(1)
- 第7回 5章: 準動詞(1)
- 第8回 6章: 準動詞(2)
- 第9回 7章: 準動詞(3)
- 第10回 8章: 準動詞(4)
- 第11回 復習テスト(2)
- 第12回 9章: 形容詞・副詞
- 第13回 10章: 不定代名詞
- 第14回 11・12章: 関係詞
- 第15回 まとめ

※復習テストの出題範囲は各授業で配布したプリント問題、期末テストはテキストの問題を中心に出す予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア400点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で一回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト及び配布プリントで出題された英文は精読から速読できるまで繰り返し読む練習をすること。
リスニングはテキストの問題をただやるだけではなく、英語表現を覚えるまで繰り返し聴くこと。
上記の事が日常実行されているかどうかを2回の復習テストにおける出題問題を通して確認する。
また、復習テストの成績結果は成績リスト表を作成し全員に配布する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎日の積み重ねが結果を生むということを念頭に置いて、個人のTOEIC目標スコアを設定し、それに向けて学習に取り組むこと。

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Welcome to the TOEIC Test” 『TOEICテストへようこそ』（北原良夫著）朝日出版社 ￥1,800

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre-test
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Midterm Testおよび解説
- 8回 Unit 6
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：70%、Midterm Test：10%、日常の授業への取り組み（小テスト、課題含む）：20%
最終評価にはTOEICを受験したかどうか反映されるので、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Listening Sectionは毎回宿題として必ずやってくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of management majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Martin Milner, World English 1, Heinle Cengage Learning, 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal : Last of the Woman Divers
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal : Hula. Identify possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal : Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal : Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal : Cheese-Rolling Races
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments : 60%
Final examination : 40%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 晶子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を読んだり、聞いたりしたときの理解度・読解度を高めることが目的です。その到達度をみるためにTOEICで300点を獲得することを目標とします。ここでは、初歩的な英文法を中心に確認していきます。

教科書 /Textbooks

湯舟英一、Bill Benfield 『音声変化で学ぶTOEICテストリスニング/Bottom Up Listening for the TOEIC TEST』 (CD付き) (成美堂) ISBN978-4-7919-5088-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 TOEICの紹介、英語の構造【品詞】
- 2 回 英語の構造【5文型】
- 3 回 動詞の種類【be動詞】【一般動詞】
- 4 回 文の種類【平叙文】【否定文】【疑問文】【命令文】
- 5 回 主語と述語と目的語と補語【文型】
- 6 回 主語と述語と時間の副詞(1)【時制】
- 7 回 主語と述語と時間の副詞(2)【時制】
- 8 回 主語と述語と目的語【態】
- 9 回 名詞の働きをする動詞【動名詞】【不定詞】
- 10 回 名詞・形容詞・副詞の働きをする動詞【不定詞】
- 11 回 節と句の区別【前置詞】【接続詞】
- 12 回 形容詞の働きをする句【分詞】
- 13 回 形容詞の働きをする節【関係代名詞】
- 14 回 名詞の種類【可算名詞】【不可算名詞】【冠詞】
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・課題 40%、期末試験 60%に出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価します。(正当な理由なく、4 回欠席した場合は、期末試験受験を認めません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校入試レベルでよいので、文法書を準備しておくこと役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

TOEIC listening reading

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course aims to improve your TOEIC score and help you go on improving your score in the future after the program of study. The course program follows the curriculum based on the textbook and each unit is designed to teach vocabulary and familiar phrases that are used in different fields of working or business life. We will aim to cover one unit per week. The reading sections will be done as homework. Additionally, all students will keep an English diary to help them personalize their English.

教科書 /Textbooks

Successful Keys to The TOEIC Test 2, Goal 600, Second Edition. Atsushi Mizumoto, Mark D. Stafford

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week One Introduction
Week Two Daily Life
Week Three People
Week Four Travel
Week Five Business
Week Six Office
Week Seven Technology
Week Eight Personnel
Week Nine Management
Week Ten Purchasing
Week Eleven Finances
Week Twelve Media
Week Thirteen Entertainment
Week Fourteen Health
Week Fifteen Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Diary
15% Class Participation
20% Homework
50% Final Test
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading Section for unit used in preceding class, Diary

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I'm looking forward to helping you improve your English

キーワード /Keywords

英語II 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Aim High for the TOEIC Test” 『TOEICテスト総合実践演習』（塩見佳代子共著）
成美堂 ￥2,000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Review Test 1及び解説
- 7回 Unit 5
- 8回 Unit 6
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Review Test 2及び解説
- 12回 Unit 9
- 13回 Unit 10
- 14回 Unit 11
- 15回 Unit 12、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：60%、Review Test（2回）：20%、日常の授業への取り組み（小テスト、課題含む）：20%
ただし最終評価にはTOEICのスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Listening Sectionは毎回宿題として必ずやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of management majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Students must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Martin Milner, World English 1, Heinle Cengage Learning, 2010

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Talk about past vacation trips. Exchange information about vacations.
- 第2回 Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 第3回 Video Journal : Machu Picchu. Talk about plans.
- 第4回 Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 第5回 Discuss the future. Video Journal : Solar Cooking.
- 第6回 Make comparisons. Explain preferences.
- 第7回 Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 第8回 Video Journal : Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 第9回 Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 第10回 Evaluate your lifestyle. Video Journal : The Science of Stress.
- 第11回 Talk about today's chores. Interview for a job.
- 第12回 Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 第13回 Video Journal : Spacewalk. Talk about managing your money.
- 第14回 Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 第15回 Preventing habitat destruction. Video Journal : Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments : 60%

Final examination : 40%

No credit will be given to students who are absent four or more times.

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を扱ったテキストを中心に英語の文章を「読むこと」「聴くこと」に重点を置き学習する。英語力の基盤となる基本文法については各授業でプリントを配布し、問題を解くことを通して文法ルールが身につくように指導していく。(2学期の目標スコアは350点)

教科書 /Textbooks

北原良夫 著 「Welcome to the TOEIC Test」 朝日出版 1800円
湯舟英一 他著 「Bottom Up Listening for the TOEIC Test」 成美堂 1000円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

個人の目標スコアに合わせた解説付きのTOEIC問題集。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション / 文法力確認テスト
- 第2回 Unit 1 動詞と時制(1)
- 第3回 Unit 2 動詞と時制(2)
- 第4回 Unit 3 動詞と時制(3)
- 第5回 Unit 4 動詞と時制(4)
- 第6回 復習テスト(1)
- 第7回 Unit 5 準動詞(1)
- 第8回 Unit 6 準動詞(2)
- 第9回 Unit 7 準動詞(3)
- 第10回 Unit 8 準動詞(4)
- 第11回 復習テスト(2)
- 第12回 Unit 9 形容詞・副詞
- 第13回 Unit 10 不定代名詞
- 第14回 Unit 11/12 関係詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア350点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習・復習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Business Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Money-Introductions
- 第3回 Money-Building Skills
- 第4回 Money-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Presentations-Introduction
- 第7回 Presentations-Building Skills
- 第8回 Presentations-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 Investing-Introduction
- 第11回 Investing-Building Skills
- 第12回 Investing-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 1, Cengage, ISBN 0-534-83572-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Asking for personal information.
- 3 回 Talking about dislikes
- 4 回 Talking about travel jobs
- 5 回 Gender issues
- 6 回 Explaining facilities
- 7 回 Describing locations
- 8 回 Opening times
- 9 回 Talking about schedules
- 1 0 回 Reservation problems
- 1 1 回 Confirming reservations
- 1 2 回 Changing reservations
- 1 3 回 Asking about preferences
- 1 4 回 Checking in
- 1 5 回 Checking out

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy communicating in English. Good luck in 2012-13!

キーワード /Keywords

トラベル英会話

担当者名
/Instructor

ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 営 1 - C
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve the students' communicative English ability through the examination of everyday activities such as shopping and travelling. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal.

教科書 /Textbooks

Interchange 2 Third edition Cambridge University Press by J.C Richards

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The use of dictionaries from the library is encouraged

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. introducing yourself
2. past tense, used to
3. Talking about transportation
4. Adverbs of quantity
5. Describing positive and negatives
6. evaluations and comparisons
7. Thinking about food
8. Simple past versus present perfect
9. describing vacation plans
10. future with be going to and will
11. Making requests
12. two part verbs
13. describing technology
14. infinitives and gerunds
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam: 80% Peer journal: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to have translated all the words for the new unit and to have written their peer journal

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ロイヤル・ウェディングやオリンピックで話題のロンドンを舞台にしたDVD教材をテキストに使用し、生きた会話表現を学びながら、リスニング力の強化を図り、外国語コミュニケーション能力を高めます。テキスト付属のDVDを活用して何度も反復練習しましょう

教科書 /Textbooks

"London Alive : Survival English"
Paul Snowden / Emily Kyoko Snowden著
Asahi Press
ISBN978-4-255-15508-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction, Unit 1 Arriving at the Hotel
- 2回 Unit 2 A Taxi Ride
- 3回 Unit 3 Shakespeare's Globe Theatre
- 4回 Unit 4 A Cruise on the River Thames
- 5回 Unit 5 Hungerford Bridge
- 6回 Unit 6 The Imperial War Museum
- 7回 Unit 7 The London Tube
- 8回 Unit 8 At the Shops
- 9回 Unit 9 At Sally's Flat
- 10回 Unit 10 Car Hire
- 11回 Unit 11 At a London Pub
- 12回 Unit 12 Finding the Way
- 13回 Unit 13 Trafalgar Square
- 14回 Unit 14 Cycle Hire
- 15回 Unit 15 Time to Leave
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 (小テストを含む)・・・20%
課題・・・20%
期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

初回到授業の進め方を説明しますので、必ず出席すること。
予習をして授業に臨むこと。辞書必携。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve the students' communicative English ability through the examination of everyday activities such as shopping and travelling. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal.

教科書 /Textbooks

Interchange 2 Third edition Cambridge University Press Jack C Richards

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encourage to use the Library dictionaries

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. talking about change
2. time contrasts
3. describing abilities
4. gerunds and short responses
5. talking about landmarks
6. passive with by
7. asking about someone
8. past continuous vs. simple past
9. describing movies and books
10. relative clauses
11. body language
12. modals and adverbs
13. speculating about past and future
14. unreal conditionaals
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam: 80% Peer journal: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students will be expected to have reviewed the new vocabulary for the new unit and to have written a peer journal.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 1, Cengage, ISBN 0-534-83572-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Student Presentations – Summer Holidays
- 2 回 Transferring calls
- 3 回 Responding to requests
- 4 回 Travel itineraries
- 5 回 Reacting to schedule changes
- 6 回 Ordering in restaurants
- 7 回 Complaining about problems
- 8 回 Fixing problems
- 9 回 Taking messages
- 1 0 回 Asking and giving directions
- 1 1 回 Recommending and giving travel advice
- 1 2 回 Discussing prices and bargaining
- 1 3 回 Changing money
- 1 4 回 Extra charges
- 1 5 回 Saying goodbye to guests and customers

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy communicating in English. Good luck in 2012-13!

キーワード /Keywords

トラベル英会話

英語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Business Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Money-Introductions
- 第3回 Money-Building Skills
- 第4回 Money-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Presentaitons-Introduction
- 第7回 Presentaitons-Building Skills
- 第8回 Presentaitons-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 Investing-Introduction
- 第11回 Investing-Building Skills
- 第12回 Investing-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 営 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding. Training for academic presentation will be provided using a variety of topics and formats.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Orientation
- 第2回 : Unit 1 and discussion in English (Exchanging Personal Details)
- 第3回 : Unit 2 and discussion in English (Creating a Schedule)
- 第4回 : Unit 3 and discussion in English (Restaurant English)
- 第5回 : Unit 4 and discussion in English (Giving a Guided Tour)
- 第6回 : Unit 5 and discussion in English (Hotels and Facilities)
- 第7回 : Unit 6 and discussion in English (Talking about Experiences)
- 第8回 : Unit 7 and discussion in English (Advice and Recommendations)
- 第9回 : Unit 8 and discussion in English (Exchanging Holiday Plans)
- 第10回 : Unit 9 and discussion in English (Taking an Order)
- 第11回 : Unit 10 and discussion in English (Reply to an Enquiry)
- 第12回 : Unit 11 and discussion in English (Change a Booking)
- 第13回 : Unit 12 and discussion in English (Plan an Entertainment Program)
- 第14回 : Unit 13 and discussion in English (Ecotourism - Plan a Trip)
- 第15回 : Unit 15 and discussion in English (Describe the Local Area)

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Examination ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Make friends - Communicate - Have fun

英語V 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の読解力と聴解力をさらに向上させることを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習も行う。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。TOEICスコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の読む、書く、聞く、3技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際的な訓練を行う。

教科書 /Textbooks

新TOEICテスト全パート対応 ヴォキャブラリー徹底演習 by Satoru Huruya 三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト 2. 以下の問題を解く。Listening は、1文ずつリピートする。
3. 読解も丁寧に訳す。本文の読みを流暢になるまで練習する。

- 1回 Lesson1
- 2回 lesson2
- 3回 Lesson3
- 4回 Lesson4
- 5回 Lesson5
- 6回 Lesson6
- 7回 Lesson7
- 8回 Lesson8
- 9回 Lesson9
- 10回 Lesson10
- 11回 Lesson11
- 12回 Lesson12
- 13回 Lesson13
- 14回 Lesson14
- 15回 Lesson15

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 30% 試験 ... 70%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いて丁寧に予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英辞郎 (アルク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1, 2
- 3回 Unit 3, 4
- 4回 Unit 5, 6
- 5回 まとめ(1)
- 6回 Unit 7, 8
- 7回 Unit 9, 10
- 8回 Unit 11, 12
- 9回 まとめ(2)
- 10回 Unit 13, 14
- 11回 Unit 15, 16
- 12回 まとめ(3)
- 13回 Unit 17, 18
- 14回 Unit 19, 20
- 15回 まとめ(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

①テキストAim High for the TOEIC Testでは、現在世界約90ヶ国で実施されているTOEICを学習する。TOEICは英語のコミュニケーション能力を測るテストで、Listening 100問が45分、Reading 100問が75分と多量に問題が出題される。従って、普段から授業だけでなく自宅学習で各パートの特徴を知り、その出題形式に慣れ、同時に時間配分を考慮しながら問題を解くことが望まれる。本授業では基礎的な語彙の増強、文法の修得、様々な文書の概要把握と情報理解を行い総合的な英語力の向上を目標とする。

②テキストWindows on Readingではリーディングを通じ、英文の内容だけでなく文中の重要な表現にも注目する。重要表現の使い方と特徴を理解し、実際にその重要表現を活用する練習を行う。英文の内容理解だけでなく自分の言いたいことを英語で表現する力を養う。

教科書 /Textbooks

- ① Aim High for the TOEIC Test 「TOEIC テスト総合実践演習」 SEIBIDO
- ② Windows on Reading 「英文理解のための手引き」 CENGAGE Learning

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

随時参考資料を配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①Aim High for the TOEIC Test
- | | | | |
|----------------------|-------------|--------------|------------|
| Unit 1 Shopping | セールへの招待状 | (可算名詞、不可算名詞) | ・ 文書の目的と条件 |
| Unit 2 Restaurant | レストラン情報・案内 | (名詞と冠詞) | ・ 文書の関連 |
| Unit 3 Entertainment | チケット購入法 | (接続詞・副詞) | ・ 文書の主題と |
| | | 詳細把握 | |
| Unit 4 Job Hunting | カバーレター | (前置詞) | ・ 文書の概要把握 |
| Unit 5 Hotel Stay | ホテル宿泊客への挨拶文 | (最上級・比較級) | ・ 2文書の概要把握 |
| Unit 6 Business | ビジネスレター | (動詞の時制) | ・ 要件の整理 |

- ②Window on Reading
- Unit 1 Sign Language
 - Unit 2 Moblogging
 - Unit 3 Palm Reading or Hand Reading?
 - Unit 4 How Do You Celebrate?
 - Unit 5 The Age of Adulthood
 - Unit 6 A Student Budget
 - Unit 7 Oh, No, Not Another Test!

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト40% 学期末テスト60% 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学学習は予習科目であるので必ず辞書を使って予習をすること。予習の段階で理解出来なかった部分を授業で解決する。それには各自の工夫した予習ノートが効果的である。授業には必ず辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

- ①テキストAim High for the TOEC Testでは、授業の最初に当日に学習するUnitのPart1~7までの解答(記号)を記入する小テストを行う。これは必ず予習しておかないと記入出来ない作業である。TOEICの学習は授業より自宅学習の時間的配分がかなり大きい。普段から地道に努力して英語力を向上を目指す。具体的な学習方法は第一回目の授業で詳しく説明する。
- ②テキストWindows on Readingも予習は必要である。毎回授業の最後にその日に学習した内容を小テストするので、授業をしっかりと受けて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Enjoy Reading English!

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor: ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 営 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The course aims to improve your TOEIC score and help you go on improving your score in the future after the program of study. The course program follows the curriculum based on the textbook and each unit is designed to teach vocabulary and familiar phrases that are used in different fields of working or business life. We will aim to cover one unit per week. The reading sections will be done as homework. Additionally, all students will keep an English diary to help them personalize their English.

教科書 /Textbooks

Successful Keys to The TOEIC Test 3, Goal 700, Second Edition. Atsushi Mizumoto, Mark D. Stafford

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week One Introduction
- Week Two Daily Life
- Week Three People
- Week Four Travel
- Week Five Business
- Week Six Office
- Week Seven Technology
- Week Eight Personnel
- Week Nine Management
- Week Ten Purchasing
- Week Eleven Finances
- Week Twelve Media
- Week Thirteen Entertainment
- Week Fourteen Health
- Week Fifteen Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

- 15% Diary
 - 15% Class Participation
 - 20% Homework
 - 50% Test
- 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Diary, Reading Sections for the previous class units

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語の読解力と聴解力をさらに向上させることを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習も行う。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。TOEICスコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

教科書 /Textbooks

未定。テキストは生協の教科書販売リストを確認して、購入してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英辞郎 (アルク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 吉田 禎子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

①テキストAim High for the TOEIC Testでは、現在世界約90ヶ国で実施されているTOEICを学習する。TOEICは英語のコミュニケーション能力を測るテストで、Listening 100問が45分、Reading 100問が75分と多量に問題が出題される。従って、普段から授業だけでなく自宅学習で各パートの特徴を知り、その出題形式に慣れ、同時に時間配分を考慮しながら問題を解くことが望まれる。本授業では基礎的な語彙の増強、文法の修得、様々な文書の概要把握と情報理解を行い、総合的な英語力の向上を目標とする。

②テキストWindows on Readingではリーディングを通じ、英文の内容だけでなく、文中の重要な表現にも注目する。重要表現の使い方と特徴を理解し、実際にその重要表現を活用する練習を行う。英文の内容理解だけでなく自分の言いたいことを英語で表現する力を養う。

教科書 /Textbooks

- ① Aim High for The TOEIC Test 「TOEIC テスト総合実践演習」 SEIBIDO
- ② Windows on Reading 「英文理解のための手引き」 CENGAGE Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時必要資料を配付

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① Aim High for the TOEIC Test
 - Unit 7 Sports (動名詞・分詞 / 詳細な説明内容の把握)
 - Unit 8 Education (to不定詞 / 各パートの内容理解)
 - Unit 9 Services (助動詞 / 指示文の理解)
 - Unit 10 Housing (関係代名詞 / 情報内容の推測)
 - Unit 11 Environment (関係副詞 / 書き手の意図・読み手の行動推測)
 - Unit 12 Vacation (仮定法 / 2文書の概要把握・情報の拾い読み)
- ② Windows on Reading
 - Unit 8 Are Human Beings Getting Smarter?
 - Unit 9 You Are Amazing: You are Human!
 - Unit 10 Combining New and Old Medicine
 - Unit 11 Where's That Music Coming From?
 - Unit 12 Be Your Own Boss
 - Unit 13 Is It Time to Change Jobs?
 - Unit 14 How Advertising Uses Psychology
 - Unit 15 Resources for the Future

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト40% 期末定期試験60% 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①テキストAim High for the TOEC Testでは、授業の最初に当日に学習するUnitのPart1~7までの解答(記号)を記入する小テストを行う。これは必ず予習しておかないと記入出来ない作業である。TOEICの学習は授業より自宅学習の時間的配分がかなり大きい。普段から地道に努力して、英語力を向上しよう。具体的な学習方法は第一回目の授業で詳しく説明する。
- ②テキストWindows on Readingも予習は必要である。毎回授業の最後にその日に学習した内容を小テストするので、授業をしっかりと受けて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

語学学習は予習科目であるので、必ず辞書を使って予習をすること。予習の段階で理解出来なかった部分を授業で解決する。それには各自の工夫した予習ノートが効果的である。授業には必ず辞書を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Enjoy Reading English!

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバ / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction to the course
- 第2回Unit 1: Me and You
- 第3回Meeting new people
- 第4回Unit 2: We get along
- 第5回Talking about families
- 第6回Unit 3: Too scared to watch
- 第7回Talking about the movies you like
- 第8回Review of units 1-3
- 第9回Unit 4: Hanging out
- 第10回Talking about lifestyle
- 第11回Unit 5: Short of cash
- 第12回Talking about how we use money
- 第13回Unit 6: My new place
- 第14回Talking about where you live
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 営2 - B
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for business and communication. Students will practice basic grammar and language skills, which will then be applied to specific business situations.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus review & classroom English practice
- 2回 Asking and answering personal information
- 3回 Expansion activity- personal information
- 4回 Greetings and introductions - familiar friends and new acquaintances
- 5回 Role play/presentation
- 6回 Names & titles - addressing people in business and social situations
- 7回 Checking and understanding new names
- 8回 Expansion activity - new names
- 9回 Occupations & workplaces - jobs in the global community
- 10回 Occupations oral quiz
- 11回 Describing jobs and job responsibilities - I
- 12回 Jobs and job responsibilities - II
- 13回 International business mixer
- 14回 Special project preparation
- 15回 Special project presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10% Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Japanese/English Dictionary

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 営2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名
/Instructor

ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 営 2 - D
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class and being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework must be completed before each class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded in every class on how much you speak and on how active you are.

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 営2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、英語の運用能力向上の基盤となる基本文法及びそれに付随したTOEIC問題を網羅したテキストを使用し、運用能力4技能のうち特にリスニングおよびリーディングの能力を伸ばす学習を行っていく。(目標スコアを各個人が前学期取得したスコアの50点upとする。)

教科書 /Textbooks

安丸雅子 他著 「SEIZE THE ESSENCE OF THE TOEIC TEST」 金星堂 1900円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各個人目標スコアレベルに適応した市販の解説付きTOEIC問題集で習慣的に練習問題に取り組むことを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&文法力確認テスト
- 第2回 Daily Life
- 第3回 Eating Out & Amusement
- 第4回 Cooking & Purchasing
- 第5回 Traffic & Travel
- 第6回 Production & Logistics
- 第7回 Business & Economics
- 第8回 復習テスト
- 第9回 Advertising & ICT
- 第10回 Health & the Environment
- 第11回 Law & Administration
- 第12回 Employment & Personnel
- 第13回 Finance & Banking
- 第14回 Office Work & Correspondence
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

復習テスト40%+期末テスト40%+(今学期のTOEICテストが前回より50点UPのスコア取得の場合)20%
欠席は2回まで。遅刻2回につき1回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を欠かさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 営 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) My summer vacation / true or false.
- 第2回 Unit 7: Time to eat
- 第3回 Talking about where to eat tonight
- 第4回 Unit 8: I found a job!
- 第5回 Talking about part-time jobs
- 第6回 Unit 9: I can't cope
- 第7回 Talking about stress in your life
- 第8回 Review of units 7-9
- 第9回 Unit 10: What's up?
- 第10回 Talking about things you love and hates
- 第11回 Unit 11: Who's your type?
- 第12回 Talking about dating
- 第13回 Unit 12: What tomorrows brings
- 第14回 Talking about your future plans
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 営 2 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances. The course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: 1. Using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and 2. listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Advancing your English 3 by Jamar A. Miller. Lulu Press. ISBN #: 978-0-557-99920-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Topic: Teachers and Students
2. Topic: Indian men volunteer to marry
3. Topic: The Kyoto Protocol
4. Topic: New highways threaten giant pandas
5. Topic: Global warming IS human made
6. Topic: Water supply returns to Chinese city
7. Topic: Climate change threatens fish populations
8. Topic: The Angry Greeks
9. Topic: Arabian nights
10. Topic: Swaziland king buys wives BMWs
11. Topic: Bill Gates knighted by British Queen
12. Topic: Kate Moss best dressed and undressed
13. Topic: Tarantino to make 12th "Friday the 13th"
14. Topic: Eminem wins bully lyrics case
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35%
Writing 15%
Participation / Homework 40%
Final Speaking Exam 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent 5 or more classes.

キーワード /Keywords

なし

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 営 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 営 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance & Classroom Work...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework assignments will be required for each class.

履修上の注意 /Remarks

Being late to class or being absent will lower your grade. Being absent more than three times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 営2 - E
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for business and communication. Students will practice basic grammar and language skills, which will then be applied to specific business situations.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Syllabus review & classroom English practice
- 2 回 How was your summer? – simple past tense, follow up questions & comments
- 3 回 Giving opinions & expressing ideas
- 4 回 Critical thinking – listening for and analyzing key words
- 5 回 Critical thinking – agreeing/disagreeing, point/counterpoint practice
- 6 回 Discussion & debate – using nuanced language for debate
- 7 回 Debate topic 1 - practice
- 8 回 Debate topic 1 – present
- 9 回 Debate topic 2 – practice
- 1 0 回 Debate topic 2 - present
- 1 1 回 Original debate 1 – prepare
- 1 2 回 Original debate 1 - present
- 1 3 回 Original debate 2 - prepare
- 1 4 回 Original debate 2 - practice
- 1 5 回 Original debate 2 - present

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Japanese / English Dictionary

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅸ【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅹ【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また難解なエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング 序章
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング 第2章
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング 第3章
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング 第4章
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング 第5章
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング 第6章
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング 第7章
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング 第8章
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング 第9章
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング 第10章
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング 第11章
- 14回 リスニング 模擬問題演習、リーディング 第12章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 3年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』(2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor
ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営律政3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Longman English Interactive Online, Level 3/American English Student Access』(2008) Rost, M., Pearson Education, ¥ 3500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Making plans, and accepting and declining invitations
- 4回 Telling people news or gossip and responding
- 5回 Proposing ideas and responding, and convincing people to accept ideas
- 6回 Confirming that you know someone and responding
- 7回 Giving orders and making requests
- 8回 Talking about possibilities
- 9回 Keeping a conversation going and asking follow-up questions
- 10回 Expressing certainty and uncertainty
- 11回 Asking, giving, and denying permission and offering help
- 12回 Asking for and giving opinions
- 13回 Expressing and asking questions about necessity
- 14回 Requesting clarification and responding
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『東遊記』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(本文) ポイント説明
- 2回 第二課 東京(本文)
- 3回 第二課 ポイント説明
- 4回 第三課 横浜(本文)
- 5回 第三課 ポイント説明
- 6回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 7回 第四課 ポイント説明
- 8回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 9回 第五課 ポイント説明
- 10回 第六課 京都(本文)
- 11回 第六課 ポイント説明
- 12回 第七課 奈良(本文)
- 13回 第七課 ポイント説明
- 14回 第八課 大阪(本文)
- 15回 第八課 ポイント説明

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 正野 留加 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営人律政群 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『東遊記』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (本文)
- 2回 第九課 ポイント説明
- 3回 第十課 九州 (本文)
- 4回 第十課 ポイント説明
- 5回 第十一課 福岡 (本文)
- 6回 第十一課 ポイント説明
- 7回 第十二課 佐賀 (本文)
- 8回 第十二課 ポイント説明
- 9回 第十三課 長崎 (本文)
- 10回 第一三課 ポイント説明
- 11回 第十四課 四国 (本文)
- 12回 第十四課 ポイント説明
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (本文)
- 14回 第十五課 ポイント説明
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『東遊記』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中日・日中電子辞書(CASIO等)
2. 『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『東遊記』（『東遊記』編集委員会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 中日・日中電子辞書 (CASIO等)
2. 『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関 (会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州 (会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡 (会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀 (会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎 (会話)
- 10回 第一三課 練習
- 11回 第十四課 四国 (会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道 (会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗唱テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひとつおりのり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、作文力を身につけることを目標とする。
テキストを中心に翻訳、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にビデオ、参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 吉祥紅I
- 第2回 吉祥紅II
- 第3回 作文練習
- 第4回 淮揚菜I
- 第5回 淮揚菜II
- 第6回 作文練習
- 第7回 紹興与酒I
- 第8回 紹興与酒II
- 第9回 作文練習
- 第10回 高密剪纸I
- 第11回 高密剪纸II
- 第12回 作文練習
- 第13回 潮州工夫茶I
- 第14回 潮州工夫茶II
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み15% 作文などの練習35% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習および復習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発想力

上級中国語II 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

上級中国語I・IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は前期に続き、文章の購読、理解、作文練習などの技能を修得することを重点に置き、読むおよび書くことの能力の養成に配慮し、中国語の文章の読解能力、ビジネス作文力を身につけることを目標とする。
テキスト、プリントを中心に翻訳し、作文練習を重ねて行う。テキスト以外にプリント、ビデオなどを通して中国の文化やビジネス慣習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂、プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

名和又介『ビデオで学ぶ中国文化』金星堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
第1回 オリエンテーション
第2回 八達嶺I
第3回 八達嶺II
第4回 作文練習
第5回 天壇説九I
第6回 天壇説九II
第7回 作文練習
第8回 ビジネス作文練習I
第9回 ビジネス作文練習II
第10回 ビジネス作文練習III
第11回 ビジネス作文練習IV
第12回 ビジネス作文練習V
第13回 ビジネス作文練習VI
第14回 ビジネス作文練習VII
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み15% 作文練習35% 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習する必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語作文、ビジネス中国語

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英国済営比人 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』[改定版]王占華・劉慶 駿河台出版社
(3回目まではプリントを配布し、授業を実施し、その後相談で決める。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版)王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 ホテルの予約【起点、終点】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心にする反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。

また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立つ能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改訂版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『中国語学概論』 (改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 14回 総合復習
- 15回 試験

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語は単なる知識ではなく、能力である。車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50%(小テスト・課題・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社 (2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこに住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこに住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (小テスト・課題・態度)、 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『新チャレンジ! 韓国語』、白水社 (2009年3月)、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50%(小テスト・課題・態度)、 定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

正確な発音の能力を高めながら、初級文法をもとに会話表現を学び、基礎レベルでの日常会話の能力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』、白水社（2009年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続語1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50%（小テスト・課題・態度）、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ 【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかり学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

楽しくできる韓国語初級II、李志暎外1、アスク出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第1課 動詞の現在連体形
- 3回 第1課 動詞の現在連体形
- 4回 第2課 動詞の過去連体形
- 5回 第2課 動詞の過去連体形
- 6回 第3課 動詞の未来連体形
- 7回 第3課 動詞の未来連体形
- 8回 第4課 形容詞の現在連体形
- 9回 第5課 接続語尾 -는데
- 10回 第5課 接続語尾 -는데
- 11回 第6課 ㄷ不規則活用
- 12回 第7課 ㄹ不規則活用
- 13回 第8課 ㄴ不規則活用
- 14回 第8課 ㄴ不規則活用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざおよび漢字語を習得できるように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

「楽しくできる韓国語初級II」、李志暎外 1、アスク出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 第9課 ㄹ不規則活用
- 3回 第9課 ㄹ不規則活用
- 4回 第10課 ㅎ不規則活用
- 5回 第10課 ㅎ不規則活用
- 6回 第11課 話者の意思・約束
- 7回 第11課 話者の意思・約束
- 8回 第12課 状態の継続
- 9回 第12課 禁止命令
- 10回 第13課 推量表現
- 11回 第13課 推量表現
- 12回 第14課 前後の話法
- 13回 第16課 時間の経過
- 14回 第16課 意向伝達
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書 /Textbooks

ちよこつとチャレンジ! 韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . オリエンテーション、シラバス紹介
- 2 . インタビューする
- 3 . インタビューする
- 4 . 自己紹介する
- 5 . 自己紹介する
- 6 . 自己紹介する
- 7 . 決まりを言う
- 8 . 決まりを言う
- 9 . 約束をする
- 10 . 約束をする
- 11 . 約束をする
- 12 . 道案内をする
- 13 . 道案内をする
- 14 . 道案内をする
- 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

ちよこつとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 感想を言う
- 3回 感想を言う
- 4回 買い物をする
- 5回 買い物をする
- 6回 買い物をする
- 7回 プレゼントをする
- 8回 プレゼントをする
- 9回体の具合を言う
- 10回体の具合を言う
- 11回体の具合を言う
- 12回勉強の仕方を話す
- 13回勉強の仕方を話す
- 14回勉強の仕方を話す
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈『ウリマル』、白帝社(2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時に応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50%(作文・小テスト・課題・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介とウォーミングアップ
- 3回 第1課 紹介①
- 4回 第1課 紹介②
- 5回 第2課 旅行①
- 6回 第2課 旅行②
- 7回 第3課 予約①
- 8回 第3課 予約②
- 9回 第4課 案内①
- 10回 第4課 案内②
- 11回 第5課 ショッピング①
- 12回 第5課 ショッピング②
- 13回 第6課 交通①
- 14回 第6課 交通②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第7課 キャンセル①
- 3回 第7課 キャンセル②
- 4回 第8課 新聞①
- 5回 第8課 新聞②
- 6回 第9課 伝達①
- 7回 第9課 伝達②
- 8回 第10課 食事①
- 9回 第10課 食事②
- 10回 第11課 電話①
- 11回 第11課 電話②
- 12回 第12課 文化①
- 13回 第12課 文化②
- 14回 第13課 美容室①
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 済営比人 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 <СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ> 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 <МАМА И ФУТБОЛ> 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 <МАТЬ> 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 <САЛЮТ> 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 <ГИПНО'З> 不定人称文、「・・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 <ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР> 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 <ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН> 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 <ДОМ ОТДЫХА> 時の表現、動詞の体
- 9回 <БАБУШКА И ВОВКА> 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 <ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ> 複文、動詞の体
- 11回 <О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ> 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 <КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД> 不定法構文、無人称文
- 13回 <ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК> 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 <ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ> 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」のいずれかが必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА	その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА	その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ	その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ	その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ		読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ		読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ		読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА		読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН		読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ		読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА		読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ		読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ	その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

出席者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので、予習が必要。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА?】
- 2回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 3回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ?】
- 4回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 5回 ビデオ学習② 会話練習
- 6回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ?】
- 7回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 8回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ?】
- 9回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 10回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 11回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 12回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ?】
- 13回 第9課② 【買い物】、【値段】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 済営比人律政2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 2回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 3回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 4回 第10課①【モスクワの町】
- 5回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 6回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 7回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 8回 ビデオ学習④【ИСТОРИЯ С УЧЕБНИКОМ ИСТОРИИ】
- 9回 ビデオ学習⑤ 会話【В МАГАЗИНЕ】、【ПОКУПКА КНИГИ】
- 10回 ビデオ学習⑥ 作文
- 11回 読み物 【СОВЕТ ВРАЧА】
- 12回 読み物 【ДВА ТОВАРИЩА】
- 13回 読み物 【ЛЕГЕНДА ОБ АНГАРЕ】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...10% 宿題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大するEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『話すぞドイツ語！ V2』 在間進 朝日出版社 本体2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

最初の時間に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 つづりと発音 読んでみよう！ 挨拶をしてみよう！
- 2回 動詞の形（人称変化）、語順
- 3回 自己紹介をしてみよう！
- 4回 名詞の形1（1格）
- 5回 数字を使ってみよう！
- 6回 名詞の形2（4格）
- 7回 注文をしてみよう！
- 8回 名詞に付けて用いる語（所有冠詞など）
- 9回 趣味を尋ねてみよう！
- 10回 ニつ以上のものを表す表現（複数形）
- 11回 「いくつ？」と尋ねてみよう！
- 12回 名詞の形3（2格と3格）、人称代名詞
- 13回 感想を尋ねてみよう！
- 14回 名詞と一緒に用いる語（前置詞）
- 15回 時刻を尋ねてみよう！

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大するEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を話すことを通して、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識及び理解を深めていきます。
学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会や文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『話すぞドイツ語！ V2』 在間進 朝日出版社 本体2,800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の時間に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 二つの部分に分かれる動詞（分離動詞）
- 2回 週末の予定を尋ねてみよう！
- 3回 動詞を従える動詞（話法の助動詞）/（未来形）
- 4回 電話をかけてみよう！
- 5回 過去のことを表す動詞の形（現在完了形）
- 6回 休暇に何をしたら尋ねてみよう！
- 7回 形容詞の形（形容詞の格変化）
- 8回 誕生日や日付を尋ねてみよう！
- 9回 人や事物を比べる表現（比較級、最高級）
- 10回 何が一番好きか尋ねてみよう！
- 11回 「・・・される」ことを表す動詞の形（受動態）
- 12回 副文を作る接続詞（従属接続詞）
- 13回 話されている言語について尋ねてみよう！
- 14回 非現実的なことを表す動詞の形（接続法第2式）
- 15回 丁寧に頼んでみよう！

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを通して、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』 熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の把握を目的にして講義を行います。同時にフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにしたいと考えています。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく過程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればと思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

新・東京ーパリ、初飛行 (CD付き新装改訂版)、藤田裕二 他著、駿河台出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の子音と母音
- 2回 フランス語の挨拶
- 3回 名前、国籍、職業 (主語人称代名詞、動詞être、形容詞〈1〉)
- 4回 年齢、家族 (名詞の性と数、不定冠詞、動詞avoir、否定文)
- 5回 好きなもの (定冠詞、第一郡規則動詞、疑問文)
- 6回 所有 (指示形容詞、所有形容詞、人称代名詞強勢形)
- 7回 友達 (形容詞〈2〉)
- 8回 復習と確認 (フランス映画鑑賞)
- 9回 質問〈1〉 (疑問代名詞)
- 10回 質問〈2〉 (疑問副詞、第二群規則動詞、動詞faire)
- 11回 近い未来と近い過去〈1〉 (近接未来、近接過去)
- 12回 近い未来と近い過去〈2〉 (前置詞と定冠詞の縮約、中性代名詞〈1〉)
- 13回 時間と天候 (疑問形容詞、非人称構文)
- 14回 数量 (部分冠詞、数量表現、中性代名詞〈2〉)
- 15回 復習と確認 (フランス映画鑑賞)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す課題 (50%)、学期末試験の結果 (50%) を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また6月のフランス語検定5級以上の合格者には、最低合格点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期よりも高いレベルで基本的な文法事項の把握を目的にして講義を行います。同時にフランス語を1学期にまして正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、それまでの学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

新・東京一パリ，初飛行（CD付新装改訂版）、藤田裕二 他 著、駿河台出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 紹介(補語人称代名詞)
- 第2回 ある日曜日(代名動詞)
- 第3回 依頼と命令(命令法と義務を表す表現)
- 第4回 復習と確認(フランス映画鑑賞)
- 第5回 未来(直接法単純未来)
- 第6回 過去1(直接法複合過去<1>)
- 第7回 過去2(直接法複合過去<2>)
- 第8回 過去3(直接法半過去と大過去)
- 第9回 復習と確認(フランス映画鑑賞)
- 第10回 映画(関係代名詞と指示代名詞)
- 第11回 比較(比較級と最上級)
- 第12回 事故(受動態と現在分詞)
- 第13回 仮定(条件法現在と過去)
- 第14回 感情表現(接続法現在と過去)
- 第15回 復習と確認(フランス映画鑑賞)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す課題(50%)、学期末試験の結果を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、は別途考慮します。また11月のフランス語検定4級以上の合格者には、最低点Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義は復習を前提としています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊! 1』 (藤田裕二著 朝日出版社 ¥2500)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 人・物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 代名動詞を使った表現
- 14回 未来のことを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

遅くとも3回目の講義までには教科書を用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『彼女は食いしん坊！2 -フランス美味探訪の旅-』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2500）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

Eメールの文章を中心に、文法、練習問題、聞き取りなどを通して、「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」といった総合的な語学能力の習得を目指す。

- 1回 アルザス地方への旅
- 2回 複合過去を使った表現
- 3回 半過去と大過去を使った表現
- 4回 ブルゴーニュ地方への旅
- 5回 関係代名詞を使った表現
- 6回 現在分詞・ジェロンディフを使った表現
- 7回 ローヌ・アルプ地方への旅
- 8回 受動態の表現
- 9回 強調構文
- 10回 プロヴァンス地方への旅
- 11回 条件法を使った表現
- 12回 接続法の表現
- 13回 ブルターニュ地方への旅
- 14回 間接話法と時制の一致について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランスの地方料理を巡る旅、フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年時に習得した基礎文法事項を復習しながら、さらにフランス語表現力アップを目標とします。同時にフランス社会の多様性や、奥深い文化に対する知見を広げます。

教科書 /Textbooks

澤田直之 他著 『アミカルマンーフランス語、フランス文化への誘いー』 (駿河台出版社) 2625円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プリント1 作文1 <avoir> <etre> を使って"自己紹介文"を作る
- 2回 同上
- 3回 テキスト1課 読解1 "La France"
- 4回 テキスト2課 読解2 "Paris"
- 5回 プリント2 作文2 前置詞の縮約 代名動詞を使って"自分の住む街の紹介文"を作る
- 6回 同上
- 7回 テキスト3課 読解3 "les cafes"
- 8回 同上
- 9回 テキスト4課 読解4 "la vie des etudiants"
- 10回 同上
- 11回 プリント3 作文3 比較級・最上級を使って"大学の課外活動について"を作文する
- 12回 テキスト5課 人称代名詞の復習
- 13回 テキスト5課 読解5 "le pain, le vin et le fromage"
- 14回 同上
- 15回 1学期のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストと同時にプリント学習をする。テキストは必ず購入すること。プリントは受講者人数分しか用意しないので、なくさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語による表現力アップと、フランス社会の多様性や、奥深い文化に対する知見を広げることを目標とします。

教科書 /Textbooks

澤田直之 他著 『アミカルマンーフランス語、フランス文化への誘い』 (駿河台出版社) 2625円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキスト6課 読解6 "La Bretagne"
- 2回 同上
- 3回 テキスト7課 読解7 "La Provence"
- 4回 同上
- 5回 プリント4 作文4 "過去の出来事を語る"手紙文を書く
- 6回 同上
- 7回 テキスト8課 関係代名詞復習 接続詞queを使った表現
- 8回 テキスト8課 読解8 "L'Alsace"
- 9回 同上
- 10回 プリント5 中性代名詞復習
- 11回 プリント5 観光案内文を読む
- 12回 プリント5 作文5 日本の観光案内文を書く
- 13回 テキスト9課 読解9 "Le systeme politique"
- 14回 テキスト10課 条件法と接続法について
- 15回 テキスト10課 読解10 "Le francais dans le monde"

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果70%、平常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストとプリントを使用する。テキストは必ず購入すること。プリントは受講者人数分しか用意しないのでなくさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次に習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストには仏検4級対策問題集を使用するが、授業内容は決して仏検対策ではない。良質の問題集であるため、上記の目的を達成するのに好適だからである。

特につぎの3点を重要視する。

1. 基礎文法事項を徹底的に復習する。
2. 問題を解き理解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。
3. 時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

4級の問題集ではあるが、真摯に取り組めば3級程度の実力をつけることができる。
6月に行われる検定試験3級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

富田正二『ニヴオー・カトル』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、発音の復習
- 2回 冠詞 1
- 3回 冠詞 2
- 4回 動詞の活用 1
- 5回 動詞の活用 2
- 6回 動詞の活用 3
- 7回 代名詞 1
- 8回 代名詞 2
- 9回 代名詞 3
- 10回 単語配列 1
- 11回 単語配列 2
- 12回 単語配列 3
- 13回 前置詞 1
- 14回 前置詞 2
- 15回 前置詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、 日常の授業への取り組み 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語を受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

仏検 文法 発音 文化

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期のフランス語VIIIに引き続き、現在までに習得したフランス語能力を再確認し、さらに応用力を身につけることを目指す。

テキストには仏検4級対策問題集を使用するが、授業内容は決して仏検対策ではない。良質の問題集であるため、上記の目的を達成するのに好適だからである。

特につぎの3点を重要視する。

1. 基礎文法事項を徹底的に復習する。
2. 問題を解き理解するだけでなく、正確に発音できるよう指導し、適宜、暗記することを課す。
3. 時間の許す限り、フランス文化についての知識も教授する。

4級の問題集ではあるが、真摯に取り組めば準2級程度の実力を目指すことができる。
6月に行われる検定試験準2級に合格した受講生には単位取得を保障する。

教科書 /Textbooks

富田正二『ニヴオー・カトル』（駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 応用問題 1
- 2回 応用問題 2
- 3回 応用問題 3
- 4回 応用問題 4
- 5回 応用問題 5
- 6回 短文聞き取り 1
- 7回 短文聞き取り 2
- 8回 会話文 1
- 9回 会話文 2
- 10回 会話文 3
- 11回 会話文聞き取り 1
- 12回 会話文聞き取り 2
- 13回 会話文聞き取り 3
- 14回 長文読解 1
- 15回 長文読解 2

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、 日常の授業への取り組み 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年次のフランス語および前期のフランス語VIIを受講していること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

仏検 文法 発音 文化

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19(含む1自治領)あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいる hispanicの人たちも含めると4億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続くと言われていています。ラテン語(ローマ帝国の言語)を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見(1492年)以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですが、具体的には、スペイン語の初級から中級程度の文法を学びながら基本的な表現をマスターします。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』
青木文夫・辻博子・マリア エルナンデス(共著)、弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典(小学館)
新スペイン語(研究社)
現代スペイン語辞典(白水社)
プログレッシブスペイン語辞典(小学館)
パスポート初級スペイン語辞典(白水社)
他多数有。
白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和和辞典：
和和辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)
クラウン和和辞典(三省堂)
その他
図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)
スペイン(増田監修：新潮社)
スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)
スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)
スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)
スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)
スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)
電子辞書も奨めます。辞書については最初の講義で詳しく説明するので、辞書の購入はそれまで待っててください。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入：スペイン語とはこんな言語
- 2 発音の仕組み
- 3 発音の仕組み
- 4 発音の練習と簡単なテスト
- 5 性数の一致：冠詞と名詞
- 6 性数の一致：冠詞と名詞
- 7 規則動詞の現在形とその用法
- 8 規則動詞の現在形とその用法
- 9 規則動詞の現在形練習問題
- 10 規則動詞の現在形の活用
- 11 serとestarの活用と用法
- 12 serとestarの練習問題
- 13 serとestarの練習問題
- 14 serとestarの練習問題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも平常点を加味して評価します。もちろん60点を超えている場合も平常点を加算して、成績を決めます。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。その年度によって若干の差異はありますが、最大で30点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学、学習その他なんでも相談OKです！
メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作れるようなレベルまで進みます。英語にない文のパターンも、最初は複雑だと思うかもしれませんが、慣れてくると簡潔な表現で多くの情報が伝わる面白さが理解できるでしょう。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)
 スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)
 スペイン(増田監修:新潮社)
 スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)
 スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)
 スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)
 辞書についてはスペイン語Iで述べたのを参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 5回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 6回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 日付の表現
- 9回 時刻
- 10回 天気表現
- 11回 不定語について
- 12回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 13回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 14回 まとめ
- 15回 スペイン語のさらなる習得に向けて

成績評価の方法 /Assessment Method

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。定期試験に今述べた平常点を最大30点まで加算します。もちろん60点を超過している場合でも、平常点を加味して成績を算定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前期に比べて少し複雑な内容になると思いますが、ロマンス語(スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語など)に共通する文法の基礎にもなるので、しっかりと取り組んで、将来の学習につなげましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの会話表現を学んでいきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語(三訂版)』坂東省次 他著、2009、第三書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂2005、
『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 発音とアクセント
- 3回 発音、挨拶 「お願いします」
- 4回 定冠詞、不定冠詞、hay 「空港に銀行はありますか」
- 5回 -ar動詞、否定文、疑問文I 「スペイン語を話しますか」
- 6回 数字1-100、動詞estar 「タクシー乗り場は何処ですか」
- 7回 動詞ir, dar 「どこに行きましょうか」
- 8回 疑問文II、前置詞a
- 9回 estarとhayのまとめ
- 10回 形容詞 「感じのいい人たち」
- 11回 ser動詞、ser/estarと形容詞 「私はスペイン人です」
- 12回 ser/estarまとめ、時間表現 「何時ですか」
- 13回 -er動詞、-ir動詞 新聞は何処で売っていますか」
- 14回 所有詞 「アントニオは私の友人です」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、日常の授業への取り組み 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(『コミュニケーションのためのスペイン語(三訂版)』坂東省次 他著、2009、第三書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習、数字100-100.000
- 2回 語根母音変化動詞 「お勤めは何ですか」
- 3回 指示詞 「この果物は何ですか」
- 4回 間接目的格人称代名詞、感嘆文
- 5回 gustar構文 「頭が痛い」
- 6回 不規則動詞 「兄弟が二人います」
- 7回 不定詞の用法 「日曜の予約をしたい」
- 8回 直接目的格人称代名詞 「君にそれをあげる」
- 9回 命令(！) 「もう一度質問しなさい」
- 10回 再帰動詞 「何時に起きますか」
- 11回 「もう行っちゃうの」
- 12回 自己紹介 「私は石田です」
- 13回 現在分詞
- 14回 不定語と否定語
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 70% 日常の授業への取り組み ... 30% (うち、小テストを行う場合は10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

動詞の活用、既出単語などは授業前に覚えてきてください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済誉比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰ・Ⅱを復習・継続し、初級の文法を完了します。

教科書 /Textbooks

スペイン語Ⅰ・Ⅱと同じ(青木・辻・マリア J. 共著『スペイン語で表現しよう』、弘学社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 接続法とは何か
- 2回 接続法現在・規則活用
- 3回 接続法現在・不規則活用
- 4回 接続法現在の用法
- 5回 命令法・命令形
- 6回 感嘆文
- 7回 比較級
- 8回 相対・絶対最上級
- 9回 不定詞を用いた放任・使役の動詞
- 10回 不定詞を用いた忠告・命令・許可・禁止の動詞
- 11回 SEの受身文
- 12回 SEの無人称文
- 13回 接続法の過去・現在完了・過去完了
- 14回 接続法の用法(独立文)
- 15回 接続法の例文

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅰ・Ⅱを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

スペイン語圏

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 光博 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペインの文化・風土・歴史などを織り込んだ中級程度のスペイン語の文章を読みます。スペイン語及びスペインに関する幅広い知識を身に付けます。

教科書 /Textbooks

青木文夫・辻光博共著『現代スペイン語：文法と表現』（弘学社）の、講読部分（別冊。500円）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。西和辞典又は電子辞書必携。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

* スペイン語講読・説明・解説

- 1回 第一課 【位置】
- 2回 第二課 【風土】
- 3回 第三課 【行政】
- 4回 第四課 【生活】
- 5回 第五課 【バルセローナ】
- 6回 第六課 【マドリード】
- 7回 第七課 【中世文学】
- 8回 第八課 【レコンキスタ】
- 9回 第九課前半 【古代ローマ治下】
- 10回 第九課後半 【イスラーム治下】
- 11回 第十課 【セビージャ】
- 12回 第十一課前半 【レコンキスタの完了】
- 13回 第十一課後半 【スペイン帝国】
- 14回 第十二課 【ドン・キホーテ】
- 15回 第十三課 【バスク自治州】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語Ⅱ・Ⅴを良く理解・学習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

欠席は好ましくありません。

キーワード /Keywords

古代ローマ帝国 イスラーム レコンキスタ

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ(会話表現)を更に発展させていきます。スペイン語テキストの文法事項を押さえ、いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを使用。初回には、前年度スペイン語Ⅲ、Ⅳのテキスト『オラ!』(粕谷てる子著、2010、第三書房)を持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書については開講時に指示します。西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(スペイン語聞き取り)
- 2回 前年度スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習(スペイン語会話練習)
- 3回 「ロラへの手紙」
- 4回 「電話口にて」再帰動詞
- 5回 「モニカの友人が到着した」現在完了、過去形について
- 6回 「サラマンカへの行き方」命令形、接続法について
- 7回 「セビーリャへの電車は何時ですか」
- 8回 「旅行の計画」
- 9回 「買い物：プレゼント用に包んでほしいのですが」
- 10回 「レストランにて：パエーリャは時間かかるんですか」
- 11回 「住居探し：家賃は月にいくら」比較表現
- 12回 「面接：昨日の人物よりよさそうだ」
- 13回 「人物について：新しい恋人」
- 14回 「好きな有名人」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書必携です。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅶを更に発展させていきます。いろいろな場面に応じた会話表現を学んでいきます。また、適宜音声教材やDVD教材などを使用し、ネイティブの話すスペイン語理解(聞き取り)も行います。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを配ります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
辞書についてはスペイン語Ⅶに同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	スペイン語Ⅶの復習
2回	「待ち時間：今週はもう5回目だよ」
3回	「面接：こういった企業で働いたことはありますか」点過去
4回	「そのとき～の部署で働いていました」線過去
5回	過去形のまとめ
6回	「夜8時の船にしよう」直説法未来
7回	「お釣りはありますか」接続法
8回	「私だっ行ってきたいけれど・・・」直説法過去未来
9回	短編教材と聞き取り
10回	短編教材と会話練習
11回	「一番○○なこと」
11回	「都市に住むか、田舎に住むか」
13回	スペイン語でDVDなどを見る(1)
14回	スペイン語でDVDなどを見る(2)
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 60% 日常の授業への取り組み 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書必携です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語(I・II・III・IV・V・VII)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Aでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 小林担当分 >	< 中山担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 高校・日本語学校と大学の違い	2回 大学生と論理的思考力
3回 大学・学部・学科について学ぶ	3回 リストアップする
4回 キャンパスツアー	4回 マッピングする
5回 大学教員・職員との付き合い方	5回 キーワードを繋げる
6回 図書館ツアー	6回 イラストから読み取ったことを表現する
7回 大学生生活のデザイン	7回 定義をする
8回 講義の上手な受け方	8回 日本語の語順に沿って考える
9回 演習に参加するコツ	9回 時間軸に沿って考える
10回 チュートリアル(1)【学習計画】	10回 主張に理由を加えて表現する
11回 チュートリアル(2)【振り返り】	11回 主張に理由や具体例を加えて表現する
12回 チュートリアル(3)【修正】	12回 総合的に表現する
13回 チュートリアル(4)【評価】	13回 論理的に考えて表現する
14回 大学の定期試験	14回 日本語で表現することと自分
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aは、ペア科目です。週2回同じクラスで受講しなければなりません。
日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Aでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」と「日本語表現力」に焦点を当てる。「大学生生活へのオリエンテーション」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。「日本語表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 小林担当分 >	< 中山担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 高校・日本語学校と大学の違い	2回 大学生と論理的思考力
3回 大学・学部・学科について学ぶ	3回 リストアップする
4回 キャンパスツアー	4回 マッピングする
5回 大学教員・職員との付き合い方	5回 キーワードを繋げる
6回 図書館ツアー	6回 イラストから読み取ったことを表現する
7回 大学生生活のデザイン	7回 定義をする
8回 講義の上手な受け方	8回 日本語の語順に沿って考える
9回 演習に参加するコツ	9回 時間軸に沿って考える
10回 チュートリアル(1)【学習計画】	10回 主張に理由を加えて表現する
11回 チュートリアル(2)【振り返り】	11回 主張に理由や具体例を加えて表現する
12回 チュートリアル(3)【修正】	12回 総合的に表現する
13回 チュートリアル(4)【評価】	13回 論理的に考えて表現する
14回 大学の定期試験	14回 日本語で表現することと自分
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70%(学習者評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Aは、ペア科目です。週2回同じクラスで受講しなければなりません。
日本語Aと日本語Bは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) 日本語表現力

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Bでは、大学生に求められる文章を書けるようになることをめざし、その基礎となる日本語表現を学ぶ。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。また、講義を聞き取るための聴解スキルやノートテイキング、批判的思考力を養うためのディベート活動も行う。

教科書 /Textbooks

得丸さと子『TAEによる文章表現ワークブック』図書文化

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
福嶋健伸編著『大学生のための日本語表現トレーニング』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 ノートテイキング【メモ】【構成】
- 3回 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- 4回 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- 5回 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- 6回 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- 7回 「食料自給率」【データ比較】
- 8回 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- 9回 ディベート「ディベートにふさわしいテーマ」
- 10回 「ディベートの流れ」
- 11回 「実践①」【立論】【反論】
- 12回 「実践②」【最終弁論】
- 13回 「実践③」【判定】
- 14回 TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラクソスのワーク】
- 15回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 16回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 17回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 18回 「初級編」【マイセンテンス】
- 19回 「中級編」【パターンを見つける】
- 20回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 21回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 22回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 23回 「中級編」【経験から論じよう】
- 24回 「中級編」【感想文を書こう】
- 25回 「上級編」【理論】
- 26回 「上級編」【～は...である】
- 27回 「上級編」【性質を考えて思考を深めよう】
- 28回 「上級編」【概念を組み込んで理論を作ろう】
- 29回 「上級編」【理論を精緻化しよう】
- 30回 「上級編」【フェルトセンスから理論を作る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。

履修上の注意 /Remarks

日本語AとBは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ノートテイキング デイベート TAE 身体を感じ

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Bでは、大学生に求められる文章を書けるようになることをめざし、その基礎となる日本語表現を学ぶ。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。また、講義を聞き取るための聴解スキルやノートテイキング、批判的思考力を養うためのディベート活動も行う。

教科書 /Textbooks

得丸さと子『TAEによる文章表現ワークブック』図書文化

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
福嶋健伸編著『大学生のための日本語表現トレーニング』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 ノートテイキング【メモ】【構成】
- 3回 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- 4回 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- 5回 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- 6回 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- 7回 「食料自給率」【データ比較】
- 8回 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- 9回 ディベート「ディベートにふさわしいテーマ」
- 10回 「ディベートの流れ」
- 11回 「実践①」【立論】【反論】
- 12回 「実践②」【最終弁論】
- 13回 「実践③」【判定】
- 14回 TAE「ウォーミングアップ編」【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 15回 「ウォーミングアップ編」【色模様のワーク】
- 16回 「初級編」【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 17回 「初級編」【励ます言葉のワーク】
- 18回 「初級編」【マイセンテンス】
- 19回 「中級編」【パターンを見つける】
- 20回 「中級編」【パターンを交差させる】
- 21回 「中級編」【自己PR文を作ろう】
- 22回 「中級編」【資料を使って論じよう】
- 23回 「中級編」【経験から論じよう】
- 24回 「中級編」【感想文を書こう】
- 25回 「上級編」【理論】
- 26回 「上級編」【～は...である】
- 27回 「上級編」【性質を考えて思考を深めよう】
- 28回 「上級編」【概念を組み込んで理論を作ろう】
- 29回 「上級編」【理論を精緻化しよう】
- 30回 「上級編」【フェルトセンスから理論を作る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。

日本語 B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本語AとBは授業内容の関連が深いので同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ノートテイキング ディベート TAE 身体を感じ

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Cでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Aに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ: トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 中山担当分 >	< 小林担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 大学生に求められる読む力	2回 小論文と学術的文章の違い
3回 自己評価	3回 小論文を書く(1)
4回 絵やイラストを読む	4回 小論文を書く(2)
5回 文章を読んで図や表にする	5回 テーマを決める
6回 表やグラフを読み取る	6回 資料を探す(スキミングとスキミング)
7回 表やグラフ以外のものを読み取る	7回 資料を読む(批判的な読み方)
8回 マッピングしながら読む	8回 図解で考える
9回 登場人物になったつもりで読む	9回 表やグラフを描く
10回 どちらがいいかを考えながら読む	10回 レポートの特徴
11回 理由を考えながら読む	11回 主体的に読む・聞く
12回 前後の文脈から推論しながら読む	12回 レジюмеを作成する
13回 総合的に読む	13回 パソコンを使ったプレゼン
14回 日本語で読むことと自分について考える	14回 ポスターを使ったプレゼン
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Cと日本語Dは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 国際教育交流センター 小林浩明、非常勤講師 中山亜紀子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Cでは、特に「読むこと」に焦点を当てる。タスクを用いた読解トレーニングにより、論理的思考力を伸ばすことと、ピア・リーディングによる読み方の変化と読みにおける他者の存在の有用性に気付くことで、留学生一人一人に「日本語で読むこととは何か」を問いかける。また、日本語Aに続き、アカデミックなスタディスキルの練習を行う。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○一橋大学留学生センター『留学生のためのストラテジーを使って学ぶ文章の読み方』スリーエーネットワーク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

< 中山担当分 >	< 小林担当分 >
1回 オリエンテーション	1回 オリエンテーション
2回 大学生に求められる読む力	2回 小論文と学術的文章の違い
3回 自己評価	3回 小論文を書く(1)
4回 絵やイラストを読む	4回 小論文を書く(2)
5回 文章を読んで図や表にする	5回 テーマを決める
6回 表やグラフを読み取る	6回 資料を探す(スキミングとスキミング)
7回 表やグラフ以外のものを読み取る	7回 資料を読む(批判的な読み方)
8回 マッピングしながら読む	8回 図解で考える
9回 登場人物になったつもりで読む	9回 表やグラフを描く
10回 どちらがいいかを考えながら読む	10回 レポートの特徴
11回 理由を考えながら読む	11回 主体的に読む・聞く
12回 前後の文脈から推論しながら読む	12回 レジюмеを作成する
13回 総合的に読む	13回 パソコンを使ったプレゼン
14回 日本語で読むことと自分について考える	14回 ポスターを使ったプレゼン
15回 総括	15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。

履修上の注意 /Remarks

日本語Cと日本語Dは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Dでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 2回 授業の目的及び必要性を知る【課題の条件を確認する】
- 3回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 4回 レポートとは何かを考える【根拠の大切さを知る】
- 5回 レポートのテーマを考える【構想マップ】
- 6回 レポートのテーマを考える【練る】
- 7回 情報をカード化する【情報の信頼性】
- 8回 情報をカード化する【調べる】
- 9回 目標を仮に規定する【情報の整理】
- 10回 目標を仮に規定する【絞る】
- 11回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 12回 アウトラインを作る【組み立てる】
- 13回 パラグラフライティング【中心文】
- 14回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
- 15回 パラグラフライティング【引用】
- 16回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
- 17回 文章を点検する【校正】
- 18回 文章を点検する【表現の点検】
- 19回 文章を点検する【形式の点検】
- 20回 文章を点検する【ピア・レスポンス】
- 21回 レポートの完成【体裁】
- 22回 レポートの完成【最終稿】
- 23回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 24回 発表を準備する【発表の練習】
- 25回 発表する【話し手】
- 26回 発表する【聴き手】
- 27回 発表する【司会】
- 28回 発表する【相互評価】
- 29回 学習プロセスを振り返る
- 30回 まとめ【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

日本語D 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を滋養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Dでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 2回 授業の目的及び必要性を知る【課題の条件を確認する】
- 3回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 4回 レポートとは何かを考える【根拠の大切さを知る】
- 5回 レポートのテーマを考える【構想マップ】
- 6回 レポートのテーマを考える【練る】
- 7回 情報をカード化する【情報の信頼性】
- 8回 情報をカード化する【調べる】
- 9回 目標を仮に規定する【情報の整理】
- 10回 目標を仮に規定する【絞る】
- 11回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 12回 アウトラインを作る【組み立てる】
- 13回 パラグラフライティング【中心文】
- 14回 パラグラフライティング【説明文・指示文】
- 15回 パラグラフライティング【引用】
- 16回 パラグラフライティング【引用文献リスト】
- 17回 文章を点検する【校正】
- 18回 文章を点検する【表現の点検】
- 19回 文章を点検する【形式の点検】
- 20回 文章を点検する【ピア・レスポンス】
- 21回 レポートの完成【体裁】
- 22回 レポートの完成【最終稿】
- 23回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 24回 発表を準備する【発表の練習】
- 25回 発表する【話し手】
- 26回 発表する【聴き手】
- 27回 発表する【司会】
- 28回 発表する【相互評価】
- 29回 学習プロセスを振り返る
- 30回 まとめ【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてみてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語C及びDは、授業内容の関連性が深いので同時に履修することが望ましい。

日本語D 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The major object of this course is to learn basic knowledge of contemporary Japanese culture and society. For the purpose, this course deals with a wide range of the latest topics in Japanese society as shown below. Through the course, students are encouraged to grow their own critical perspective to examine those topics. While this course emphasizes the unique characteristics of contemporary Japanese culture and society, it also discusses some common in our society in the age of globalization.

教科書 /Textbooks

Sugimoto, Y. (2010) An Introduction to Japanese Society. 3rd. edition. Cambridge: Cambridge University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Sugimoto, Y. ed. (2009) The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture. Cambridge: Cambridge University Press.
Hendry, J. (2000) The Empire Strikes Back: A Global View of Cultural Display. Oxford: Berg.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week01: Contemporary Japanese society : an introduction
Week02: The Japanese: class/stratification, and generational variations
Week03: Work and education in Japan
Week04: Tutorial (Japanese society today)
Week05: Japan's establishment: politics, business, and labor
Week06: Family and sexuality in Japan
Week07: Multiethnic Japan: minorities in society
Week08: Tutorial (social issues in contemporary Japan)
Week09: Leisure and tourism in Japan
Week10: Popular culture in Japan
Week11: Visual culture in Japan
Week12: Tutorial (Reading popular culture)
Week13: Japanese popular culture in the world
Week14: Cultural nationalism in the age of globalization
Week15: Japanese culture and society: a summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 30%
Mid-term essay 30%
Final essay 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Basic knowledge of Japanese culture and society

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese society, Japanese culture, sociology, cultural studies, social change, globalization

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to read 'Otaku: Japan's Database Animals', one of the most controversial critiques of contemporary Japanese culture and society in the last decade. In the discussion of the nature of contemporary 'Otaku' culture in Japan, by using a wide range of sociological, cultural and philosophical terms, the author attempts to create a social theory to characterize contemporary Japanese society. Through reading and discussing this exciting text in the course, it expects students to develop the ways in which they consider contemporary Japanese society, after the rise of hyper consumer society in advanced media technologies.

教科書 /Textbooks

Azuma, H. (2009) Otaku: Japan's Database Animals. Minneapolis, MN: University of Minnesota Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TBA

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week01: What is the 'Database Animals'? : an introduction
 Week02: The Otaku's pseudo-Japan (1): What is Otaku culture?
 Week03: The Otaku's pseudo-Japan (2): The postmodernism fad and the expansion of Otaku culture
 Week04: Tutorial
 Week05: Database animals (1): Otaku and postmodernity
 Week06: Database animals (2): The grand nonnarrative
 Week07: Database animals (3): Moe-elements
 Week08: Tutorial
 Week09: Database animals (4): Database consumption
 Week10: Database animals (5): The simulacra and the database
 Week11: Database animals (6): The animal age
 Week12: Tutorial
 Week13: Hyperflatness and multiple personality (1): Hyperflatness and hypervisuality
 Week14: Hyperflatness and multiple personality (2): Multiple personality
 Week15: Summary and conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 30%
 Mid-term essay 30%
 Final essay 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Basic knowledge of Japanese culture and society

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese culture, Japanese society, consumer society, subculture, sociology, media studies, cultural studies, postmodernity

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業概要

第二次世界大戦後、日本経済はどのようにして発展してきたか、発展の過程でどんな問題が生じたかを知り、今後の日本経済のあり方について考えることがこの講義の目標である。日本が経済大国になった高度経済成長の時代、石油ショックとそれを克服した時代、その後のバブル経済とその崩壊、そして“失われた10年”からの回復から現代にいたる問題を取りあげ考えていく。

到達目標

1. 第二次世界大戦後、日本経済がどのような経過をたどって現在に至ったかを理解できる。
2. 1973年、1979年の石油ショックを契機に、日本経済が大きく変わったことを理解できる。
3. 1985年のプラザ合意以降、急激な円高に直面し、対外進出を強めたことを理解できる。
4. バブル経済とその崩壊後の日本経済の諸問題について理解できる。
5. 今後の日本経済のゆくえについて述べるができる。

教科書 /Textbooks

口講義のため指定の教科書なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考図書等

- 半藤利一『昭和史』平凡社、2004年、『昭和史 戦後篇』平凡社2006年
- 井村喜代子『現代日本経済論』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 戦後の荒廃から復興へ

- ①第2次世界大戦後の日本経済 - 戦災と経済の混乱

第2回 ②経済復興へ - 戦後の諸改革

省エネ・省力、ファクトリー・オートメーション、貿易・経済摩擦

第3回 ③占領下の経済から復興へ

第4回 2. 高度経済成長

- ① 高度経済成長へ

第5回 ②重化学工業の発展、国土開発政策の展開

第6回 ③経済発展と公害、四大公害訴訟

- ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第7回 3. 石油ショックと低成長

- ① 石油ショックとその影響

第8回 ②“重厚長大”から“軽薄短小”へ

第9回 ③貿易・経済摩擦

第10回 ④円高と対外直接投資の増大・日本企業の対外進出

第11回 4. バブル崩壊、不況

- ①バブル経済、バブル崩壊と不況、不良債権問題

第12回 ②長引く不況 - 失業の増加、非正規労働者(パートタイマー、派遣労働者、フリーター等)の増加

第13回 ③アジア諸国、中国経済の発展と日本経済

第14回 5. 現在の日本経済の諸問題

- ①少子高齢化社会保障

第15回 ②財政危機と国民生活

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート30%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日本事情 (社会) A 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業以外の学習方法: 受講生へのメッセージ

- ・ 新聞の経済、政治、社会面を毎日読むようにしてほしい。重要な内容の記事は、切り抜いてレポート、報告等に利用する。
- ・ 講義であげる参考文献を読むようにしてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は公的医療制度たる国民皆保険制度のおかげで、世界一の長寿国となった。男性は79歳、女性は86歳である。しかし医療費が年間30兆円を超えて財政難に直面している。

そこで、日本の将来の公的医療制度は如何にあるべきか。解答を得るために世界各国の公的医療制度を比較検討したい。具体的には留学生の出身国である、イギリス、韓国、中国、オーストラリアの公的医療制度を詳細に検討していく。

教科書 /Textbooks

留学生の説明を元に講義を行うので教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示するが、さしあたり、池上直己『ベーシック 医療問題』(日本経済新聞社)を挙げておく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本、イギリス、アメリカの医療制度の特徴
- 第2回 イギリスのNHS(ナショナル・ヘルスサービス)の歴史展開過程
- 第3回 第2次世界大戦とペバリッジ報告書
- 第4回 大戦後のアトリ-労働政権と福祉国家政策
- 第5回 ベバン保健大臣とNHS発足
- 第6回 NHSの組織とヘルスセンターの役割
- 第7回 サッチャー政権とNHS改革(1)
- 第8回 サッチャーの経済改革(2)
- 第9回 トニー・ブレア労働党のNHS改革
- 第10回 アメリカの医療制度
- 第11回 クリントンの医療改革
- 第12回 戦後日本経済史
- 第13回 国民皆保険制度の確立とその特徴
- 第14回 国民会保険制度の問題点
- 第15回 老人介護

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度20%、レポート20%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を毎日読んで 自国の政治や経済、社会文化に目を通しておくこと。特に公的医療制度の変更事項には注意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名
/Instructor

隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

1学期

授業形態 演習
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

入門演習では興味のあるテーマについてグループ単位で協力して調査し、その内容をプレゼンテーション資料にまとめ、講義後半に学科ごとに実施されるプレゼンテーション大会で発表をすることが目的です。プレゼンテーション大会への準備を通じて、大学での学習に必要な行動力・コミュニケーション能力・思考力・表現力などを養成します。

教科書 /Textbooks

必要な際には適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

グループ単位で興味を持ったテーマについての書籍、Webページなどを各自で探して参考資料として利用しますが、必要な際には適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

クラス(担当教員)により進行方法は多少異なりますが、概ね、次のような内容についてグループで討論しながら進めていきます。

- 第1回：講義の進め方の説明、自己紹介、グループ決めなど
- 第2回：研究テーマの設定
- 第3回：研究デザインの設定、スケジューリング(1)
- 第4回：研究デザインの設定、スケジューリング(2)
- 第5回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(1)
- 第6回：図書館、インターネットを使った文献、資料収集(2)
- 第7回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(1)
- 第8回：各文献、資料の小まとめ、文献相互の関連付けとまとめ(2)
- 第9回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(1)
- 第10回：PowerPointを用いたプレゼンテーション資料の作成(2)
- 第11回：プレゼンテーションの練習
- 第12回：他のグループの研究に対する意見表明
- 第13回：プレゼンテーション大会(大会日程の詳細は決定次第連絡されます。)
- 第14回：プレゼンテーション大会の反省など
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% プレゼンテーションへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題について、事前に必要な情報収集を図る等、周知な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジメを用いて発表します。
 - * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。出来が良くない場合には、レジメの再提出を課されることがあります。
- 第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。
 - * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジメの再提出を課されることがあります。
- 第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジメの再提出を課されることがあります。
- 第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジメの再提出を課されることがあります。
- 第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジメを用いて発表します。
 - * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 - 出来が良くない場合には、レジメの再提出を課されることがあります。
- 第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。
 - * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 - テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジメを用いて発表します。
 - * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。出来が良くない場合には、レジメの再提出を課されることがあります。
- 第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。
 - * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジメの再提出を課されることがあります。
- 第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジメの再提出を課されることがあります。
- 第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジメを用いて発表します。
 - * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 - 出来が良くない場合には、レジメの再提出を課されることがあります。
- 第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。
 - * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 - テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジユメを用いて発表します。
* テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
出来が良くない場合には、レジユメの再提出を課されることがあります。
- 第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。
* 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 2年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 2年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジメを用いて発表します。
 - * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。出来が良くない場合には、レジメの再提出を課されることがあります。
- 第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。
 - * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

基礎演習【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い、自分の意見を論理的に文章にまとめる練習を行う。よりよいレポート、試験答案(論述)、卒業研究を作成できるようになることが目標です。

教科書 /Textbooks

各教員が指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回～第10回：テキストについて、担当の学生がレジメを用いて発表します。
 - * テキストの論理展開をきちんと踏まえた発表をするよう心がけてください。
 - 出来が良くない場合には、レジメの再提出を課されることがあります。
- 第11回～第15回：最終レポート(A4用紙1枚、1000字超)の作成・提出する。
 - * 論理的で話の流れが明確なレポートを書くよう心がけてください。
 - テキスト以外に、図書館やインターネット等で参考文献を入手して作成してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組み…50% レポート…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を事前に読んでおくこと。課題について周到な準備を行うこと。準備の仕方は第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理的な思考と文章表現

演習I【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、テキストを輪読しながら、演習IIの目的である、実際の財務データ（財務諸表や株価）を用いた企業分析を行うのに必要な基礎知識を習得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講者による報告(1)
- 3回 受講者による報告(2)
- 4回 受講者による報告(3)
- 5回 受講者による報告(4)
- 6回 受講者による報告(5)
- 7回 受講者による報告(6)
- 8回 受講者による報告(7)
- 9回 受講者による報告(8)
- 10回 受講者による報告(9)
- 11回 受講者による報告(10)
- 12回 受講者による報告(11)
- 13回 受講者による報告(12)
- 14回 受講者による報告(13)
- 15回 まとめ

なお、上記に加えて、ゼミ合宿を行う予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の報告・・・50% ゼミへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

遅刻・無断欠席をしないこと。ゼミ中は必ず発言すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コンピュータを用いた経済、経営、株式分析、あるいはコンピュータソフトウェア作成を主なテーマとします。具体的な内容はゼミ生の希望を聞いてから決定しますが、例えば株式投資ロボット（ソフト）作成、株価変動シミュレーション、経済政策の効果の分析、会社の経営状態の数値的分析などです。プログラミングや分析ソフトを利用しますが一応初歩から勉強しますので、パソコンやプログラミングが苦手でも努力する人であれば大丈夫だと思います。

演習Iでは、基礎的な知識を得ることを目標とします。

教科書 /Textbooks

未定（相談して決めます）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ決定後に連絡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ゼミ運営方法、ゼミテーマ決定
- 第2回：報告、報告内容について議論1
- 第3回：報告、報告内容について議論2
- 第4回：報告、報告内容について議論3
- 第5回：報告、報告内容について議論4
- 第6回：報告、報告内容について議論5
- 第7回：報告、報告内容について議論6
- 第8回：報告、報告内容について議論7
- 第9回：報告、報告内容について議論8
- 第10回：報告、報告内容について議論9
- 第11回：報告、報告内容について議論10
- 第12回：報告、報告内容について議論11
- 第13回：報告、報告内容について議論12
- 第14回：報告、報告内容について議論13
- 第15回：報告、報告内容について議論14

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...70% 報告、レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初回に具体的な内容を決定しますので、授業の概要にあるような内容で、ゼミで具体的にどのようなことを勉強してみたいか考えておいてください。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席、遅刻厳禁です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業分析に必要なスキルの獲得を目指す。

教科書 /Textbooks

大津広一『会計と戦略思考力』日経ビジネス人文庫

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤沢晃治『「分かりやすい表現」の技術』講談社
藤沢晃治『「分かりやすい説明」の技術』講談社
藤沢晃治『「分かりやすい文章」の技術』講談社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループ研究①
- 2回 グループ研究②
- 3回 グループ研究③
- 4回 グループ研究④
- 5回 グループ研究⑤
- 6回 グループ研究⑥
- 7回 グループ研究⑦
- 8回 グループ研究⑧
- 9回 グループ研究⑨
- 10回 グループ研究⑩
- 11回 グループ研究⑪
- 12回 グループ研究⑫
- 13回 グループ研究⑬
- 14回 グループ研究⑭
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中の発言など) ... 50% 課題... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日商簿記検定2級程度の簿記の勉強を済ませておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1・2年で学んだ経営学の基礎知識の復習、および、経営戦略論の基礎知識についての学習を目的とします。

教科書 /Textbooks

『経営戦略の論理（第3版）』（伊丹敬之著）日本経済新聞社、1900円。
『ケースブック経営戦略の論理』（伊丹敬之・西野和美編著）日本経済新聞社、1900円。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 基本事項の確認
 - 第3回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第4回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第5回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第6回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第7回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第8回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第9回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第10回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第11回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第12回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第13回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第14回 教科書の輪読とケース研究の反復。
 - 第15回 まとめ
- なお、上記以外に合宿での勉強会を実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1年時からの科目、特に経営学系の科目の復習をしてからのぞむようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

2年次科目 経営戦略の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

演習I【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

UMLを用いたシステムの分析と設計について考える。
UMLの基本から始め、UMLを用いたシステム開発事例を調べることで、UMLのよい活用法について学ぶ。
既存のシステムに対する改善点を考え、UMLを用いて新しいシステムの設計、構築、評価を行う。
参加者の興味に応じて、テーマは変更してもよい。

教科書 /Textbooks

適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミテーマの決定
- 2回～14回 報告、演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 80% 日常の授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自でテーマをしっかりと考えておいて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習II～IVまで継続して履修し、個々の興味に従って実際にデータを取り、それを分析してまとめた卒業論文を書くことを前提としています。基本的には卒業論文でアンケート調査を行い、分析できるようになるための知識を身につけられるような内容にしたいと考えています。具体的な内容は、学生の興味、関心、能力等を確認した上で決定します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～5回 調査法の基礎
- 6～14回 データ解析手法の基礎
- 15回 まとめ

この他に、合宿を実施の予定

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度合い...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

来年度以降に本科目の履修を希望する場合には、なるべく今年度のうちに「データ解析」を履修するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目指すところは、企業に関連して生じる社会現象について深い思考を展開できるような知性を磨くことです。より具体的には、社会現象を自ら読み解き、分析し、自分なりの考えにまとめて発信すること、これらの一連の作業を自分一人のできるようになることです。

教科書 /Textbooks

なお、文献は決まっていないが、組織論、戦略論、社会科学の方法論の本を検討しています

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション(演習の進め方)
第2回～ 輪読
第10回～第15回 輪読+業界分析あるいは企業分析の経過報告
なお、全15回のうち、学生の興味や理解度に応じて、扱うトピックや課題などは変更される可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

輪読のレジュメ...50%、他者へのコメント(授業中の発言)...30%、研究発表のレジュメ...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

輪読にしても、研究発表にしても準備には相当の時間が求められる。
また、輪読のレジュメは、受講生全員が毎回用意しなければならないことに注意されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務会計の基本的・現代的課題について詳細に検討してみたい。財務会計の入門書を輪読しながら、質疑応答形式で進めていく。三年次では財務会計の基礎知識の修得に重点を置く。

教科書 /Textbooks

本年度は未定だが、事例研究を扱ったテキストを使用したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計の基本的・現代的課題について議論する(発表→解説→質疑応答)。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...80% ディスカッションへの参加度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会計学の基礎的な文献を精読することによって、財務会計論で学んだ会計学の知識を整理することが第一の目標である。そして、第二に、会計学とはいかなる学問なのか、会計学にはいかなる問題が内在しているのかを認識し、自ら考え、ゼミ員相互に討論することが目標である。

教科書 /Textbooks

新井清光・川村義則『現代会計学』中央経済社、(2011年3月)、2,730円(当時)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会(2005年)、4,600円(当時)○
西澤健次『負債認識論』国書房(2005年)、2,300円(当時)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会計の役割
- 3回 企業会計の仕組み
- 4回 会計公準
- 5回 会計原則
- 6回 資産の分類
- 7回 資産の評価基準
- 8回 繰延資産など
- 9回 負債会計
- 10回 負債の分類
- 11回 新しい負債
- 12回 純資産会計
- 13回 新しい資本
- 14回 連結会計
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会計学のゼミであるので、管理会計論、監査論、国際会計論、税務会計論などの会計科目を多く履修することを勧める。また、演習の事前、事後に準備、復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゼミでは「新事業」「チャレンジ」をテーマにしています。地元はもとより、国内さらには世界で起こっているさまざまなことに問題意識を持つ敏感な人間になることを目指しています。

そこでゼミでは自分自身が興味を持ち、みんなに知って欲しいと思うことを毎回発表し、意見交換を行います。また月に一度、北九州市内の企業や施設などを訪問して、現場を直に触れ、経営者や担当者の方々から生の声を聞くようにします。さらに必要に応じて、私自身が関与しています企業や行政機関などとの会議や研究会に出席して、実際の仕事がどのように執り行われているのか、体験してもらいます。

教科書 /Textbooks

適宜プリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回：プレゼンテーション&企業等視察

- 毎回2～3人に自分自身が興味を持っていること(例：工場の海外移転、新興国の台頭)を発表してもらい、全員で意見交換します。
 - 月に一度、北九州市内の企業や施設などを訪問します。
 - 必要に応じて、企業や行政機関などとの会議や研究会、イベントに出席します。
- ※ゼミ合宿を予定しています。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習姿勢・・・100%

結果ではなく、プロセス(取り組む姿勢)を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃からいろいろなことに興味を持ち、行動するように心掛けて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いろいろな機会を提供しますので、自らの五感で感じて下さい。そして、自分なりに評価して下さい。言い尽くされた格言ですが、「百聞は一見にしかず」「失敗は成功のもと」です。若い今の時期に、いろいろなことにチャレンジしてください。

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習ではOR (Operations Research: オーアールと略す) と情報技術の2つの視点から実践的な問題解決能力を育成することがねらいです。ORは「経営の科学」です。ORが取扱う問題は、機械やコンピュータだけではどうしようもない、人間が介在する問題です。この問題を解決するための方法がORです。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC
松井泰子ら共著『入門オペレーションズ・リサーチ』2011年、東海大学出版会
藤原丈史著『新基準Javaプログラミング入門』2007年、SoftBank Creative

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大野勝久ら共著『Excelによる経営科学』2007年、コロナ社
堂田津耶乃著『Eclipse3ではじめるJavaプログラミング入門Eclipse3.3対応』2007年、秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

以下の方針で受講生と相談しながらすすめる。
<内容> コンピュータを使って問題解決を行う。
<方法> グループに分けグループゼミを行う。

1~3回 オリエンテーション
4~15回 ORに登場する問題と解決手法を理解し発表する。
【巡回セールスマン問題】【最短経路問題】【線形計画法】【待ち行列】

グループゼミでは協力して、発表者の担当テーマのレジюме作成、発表用資料を作成する。
ゼミではグループの相互交流とプレゼンテーションの場とする。
学習の一環として、ゼミ合宿を実施します。

<モットー> 楽しく、活発な議論で盛り上がる。
「まず、やってみよう」の精神を重んじる。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...40% 発表...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

積極的な受講態度、演習結果、及び報告内容等を総合的に評価する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生にお勧めのゼミです。

キーワード /Keywords

Operations Research OR 経営科学 コンピュータ科学 アプリ開発

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる (=キャリア)、人と組織の能力を引き出す (=人的資源管理) という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。これら2つのテーマについて深く考察することを通じて、高度な論理的思考能力を養成することを目標とします。論理的に考え、物事の本質を捉えることは、みなさんがこれから企業で働くうえでの必須条件です。論理的思考能力の鍛錬に最適です。多くの優れた理論を学び、それを使って現実を分析するとともに、企業に対して一定の政策的提言を行なう練習をしていきます。演習Iでは人的資源管理の基礎知識を習得することを目指します。したがって、入門的な教科書を1回で1章ずつ読み進めていく予定です。毎回、報告者を指名しますので、必ず報告してください。1学期あたり割り当てられる報告回数は、ゼミ人数により変化します。文献講読のほか、可能な限り卒業論文の書き方や文献検索の方法についても概説したいと思っています。

教科書 /Textbooks

白木三秀・梅澤隆(2011)『人的資源管理の基本』文真堂を教科書と指定しますので、必ず購入し毎回持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

このゼミのテーマに関連深い参考書として以下の2冊を挙げておきます。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣
奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan (上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂)。
その他、研究に有用な著書についてはゼミのなかで紹介する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(第1回)ゼミの概要説明と報告者の割当
(第2回~第15回)教科書の輪読、論文作成に関する説明

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50% 期末レポート...50%
※ただし、出席は毎回とることとします。出席率が低い場合には単位を認めない場合もあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「人事管理論」を受講しておくといでしょう。
毎週のゼミに備え各自で予習するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究作成への第一歩として、人的資源管理論の網羅的な理解が目指すべき目標です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミで指定された本以外にも多くの本を読んでください。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理論

演習I【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、企業の経営・マーケティング問題を分析的に解明し、妥当性の高い解決策を提案しうる能力と発表態度を身につけることを狙いとし、ケース討論を中心に行っていく。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤允一「問題構造学入門」ダイヤモンド社 等々

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～3回 オリエンテーション, 基礎知識の確認
第4～6回 問題解決の考え方
第7～15回 グループ別ケース討論

成績評価の方法 /Assessment Method

勉学姿勢や発表・レポート等を総合的に評価(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【昼】

担当者名 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

わが国は、バブル崩壊後、経済構造の大転換を迫られるとともに、これに対応すべき幾多の制度上の大改正を実施した。企業論・株式会社論のレベルにおいては、商法から会社法への制度転換や証券取引法から金融商品取引法への改正もみられる。また、企業形態そのものに即して言えば、戦後の企業社会におけるもうひとつの9条といわれた独禁法を改正して、純粋持株会社を解禁した。

かくして今や、日本の企業社会においては、その基底にメガバンクが君臨するにいたっている。演習では、わが国が体験しつつある、この未曾有の大転換の中でも、この持株会社の解禁に焦点をあてて演習を展開していくことにする。演習Iでは、まず、企業形態論といわれる分野で展開されているアプローチにより、単純な企業形態から持株会社にいたるまでの理論展開の基礎を学習していく。

教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

下谷正弘『持株会社の時代』有斐閣(2006)〔○〕と小松章『企業形態論第3版』新世社(2006)〔○〕・佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房(2006年)・ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書(2006年)・上村達男・金見昭『株式会社はどこへ行くのか』日経(2007)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業形態～私企業・公企業・公私混合企業の分類。【企業形態】
- 2回 公企業と公私混合企業～公企業の成熟・衰退および民営化。【民営化】
- 3回 私企業～私企業の分類。営利企業と非営利企業。【私企業】【営利企業】
- 4回 私企業(営利企業)の分類～法人企業と非法人企業。【法人企業】
- 5回 法人と自然人～法人・組合。組合的規律。【法人】【組合】
- 6回 会社～会社法上の会社。会社法上の会社の種類。【会社】【会社法】
- 7回 いわゆる人的会社と物的会社。人的資本会社。【人的会社】【物的会社】
- 8回 株式会社～公開株式会社と非公開株式会社。【公開】【非公開】
- 9回 公開(上場)・非公開(非上場)と会社法上の公開会社。【公開会社】
- 10回 会社機関～株主総会・取締役会・監査役会。【会社機関】
- 11回 企業間結合～企業間の集中。企業集団。【企業間結合】【企業集団】
- 12回 持株会社～持株会社の解禁。独禁法9条。【持株会社】【コンツェルン】
- 13回 二つの持株会社～純粋持株会社と事業持株会社。【純粋持株会社】【分社化】
- 14回 持株会社の機能～組織再編機能としての持株会社【持株会社の機能】
- 15回 まとめ(原則として期末試験を行う)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の実施状況を勘案して、原則として期末試験を実施するので、注意すること。

期末試験(演習で学習・議論したテーマに関連した問題を出题)...100%、ボーナスとしてレジュメの作成と報告...20%(この割合を100点満点で換算する)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、真摯なレジュメの作成と報告、②、わからないことを解明(理解)しようとする熱意、③、繰り返し読書する熱意、④、指定されたテキストは必ず用意すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別企業・会社法の会社・会社機関・企業集団・持株会社

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会では、氾濫する情報の中で予測が難しいものになりつつあります。情報の不確実な性質を論じ、その中で経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考えます。本演習では、ファジイ関係表現をもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析します。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「ファジイ集合とその応用」森北出版、西田俊夫、竹田英二著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 5回 基礎の学習：【不確実性】、【あいまい性の数理表現】、【ファジイ集合とファジイ関係】
- 6回～ 7回 パソコンによる基礎的な計算
- 8回～ 10回 基礎の学習：【ファジイ関係の基本性質】、【好みの数理表現と計算】
- 11回～ 15回 アンケート作成の基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のゼミへの積極的な取り組み・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基礎的なことから説明しますので、できる限り毎回出席してください。

履修上の注意 /Remarks

高等学校や大学で数学や統計を修得していることが望ましいですが、理論を最初から学ぶので必ずしも必要ではありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期の終わりからはグループでパソコン(エクセル)による簡単な計算を行います。

キーワード /Keywords

アンケート、ファジイ関係

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ヘンリ - ミンツバ - グの経営先般について考察し、例えば、「戦略は優れた実践を導く。そして、実践から優れた戦略が形成される」といった命題に基づき全員で討議する。

教科書 /Textbooks

ミンツバ - グの『戦略サファリ』(東洋経済新報社)、『戦略計画』(産能大学)など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1~3 経営の潮流 経営史からのアプロ - チ
- 4~8 経営戦略 創発的アプロ - チ
- 9~14 戦略計画 分析と直観の統合
- 15 新しいパラダイム

成績評価の方法 /Assessment Method

報告発表(60%)、 討議への参画(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献の精読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に関連する実例の収集

キーワード /Keywords

学習

演習I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営学に関する基礎知識の学習を材料として、「組織と個人の統合」について考えます。またその中で、全体を通じて、読み・書き・話す力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論[第3版]』有斐閣，2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『ドロッカー，その思想』文真堂，2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読および議論
- 3回 文献輪読および議論
- 4回 文献輪読および議論
- 5回 文献輪読および議論
- 6回 文献輪読および議論
- 7回 文献輪読および議論
- 8回 文献輪読および議論
- 9回 文献輪読および議論
- 10回 文献輪読および議論
- 11回 文献輪読および議論
- 12回 文献輪読および議論
- 13回 文献輪読および議論
- 14回 文献輪読および議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度 ... 50% 報告内容・準備度 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、「組織と個人の統合」に関する論文・文献を輪読します。各回一人ずつ担当を割り当て、レジメを作成し、報告を行ってもらう予定です。その報告を元に、全員で議論します。各自準備して臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

状況に合わせて臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

統合，責任，自由

演習I【昼】

担当者名
/Instructor

王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際ビジネスの仕組み、国際競争の様相と企業の対策を中心に、代表的な多国籍企業の事例を通して学んでいく。今まで学んできた経営学全般の知識や基礎的な分析技法を活用しながら、グローバル化した経済・経営に対する関心を高めていき、独自の見解・認識を自分の言葉で語られるように、共に努力していきたい。小グループに分けて、討論形式で進めていく。

教科書 /Textbooks

最初に候補本数冊を用意し、議論して選定する。
適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 自己紹介、グループ分け
- 第 2～3回 問題意識醸成のための手がかりを与え、進行法を決める
- 第 4～13回 課題別にグループ発表、討論
- 第 14～15回 報告集を作成する

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度40% 報告の努力・出来栄60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- レジメの事前作成・報告前の配布をすること
- 各回配布参考資料の予習・復習をしっかりとっておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、受講者がファイナンスの基本的な理論をふまえて、実際の財務データ（財務諸表や株価）を用いた企業分析を行い、その分析結果を第三者に説得的に伝えるスキルを身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講者による報告(1)
- 3回 受講者による報告(2)
- 4回 受講者による報告(3)
- 5回 受講者による報告(4)
- 6回 受講者による報告(5)
- 7回 受講者による報告(6)
- 8回 受講者による報告(7)
- 9回 受講者による報告(8)
- 10回 受講者による報告(9)
- 11回 受講者による報告(10)
- 12回 受講者による報告(11)
- 13回 受講者による報告(12)
- 14回 受講者による報告(13)
- 15回 まとめ

なお、上記に加えて、ゼミ合宿を行う予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の報告・・・50% ゼミへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

遅刻・無断欠席をしないこと。ゼミ中は必ず発言すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コンピュータを用いた経済、経営、株式分析、あるいはコンピュータソフトウェア作成を主なテーマとします。具体的な内容はゼミ生の希望を聞いて決定しますが、例えば株式投資ロボット(ソフト)作成、株価変動シミュレーション、経済政策の効果の分析、会社の経営状態の数値的分析などです。プログラミングや分析ソフトを利用しますが一応1から勉強しますので、パソコンやプログラミングが苦手でも努力する人であれば大丈夫だと思います。

演習IIでは、演習Iで身に付けた基礎的な知識を応用することを目標とします。

教科書 /Textbooks

未定(相談して決めます)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ決定後連絡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：報告、報告内容について議論1
- 第2回：報告、報告内容について議論2
- 第3回：報告、報告内容について議論3
- 第4回：報告、報告内容について議論4
- 第5回：報告、報告内容について議論5
- 第6回：報告、報告内容について議論6
- 第7回：報告、報告内容について議論7
- 第8回：報告、報告内容について議論8
- 第9回：報告、報告内容について議論9
- 第10回：報告、報告内容について議論10
- 第11回：報告、報告内容について議論11
- 第12回：報告、報告内容について議論12
- 第13回：報告、報告内容について議論13
- 第14回：報告、報告内容について議論14
- 第15回：報告、報告内容について議論15

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...70% 報告、レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習Iで勉強したことを元により深い内容を勉強します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業分析に必要なスキルの獲得を目指す。

教科書 /Textbooks

大津広一『会計と戦略思考力』日経ビジネス人文庫

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤沢晃治『「分かりやすい表現」の技術』講談社
藤沢晃治『「分かりやすい説明」の技術』講談社
藤沢晃治『「分かりやすい文章」の技術』講談社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループ研究①
- 2回 グループ研究②
- 3回 グループ研究③
- 4回 グループ研究④
- 5回 グループ研究⑤
- 6回 グループ研究⑥
- 7回 グループ研究⑦
- 8回 グループ研究⑧
- 9回 グループ研究⑨
- 10回 グループ研究⑩
- 11回 グループ研究⑪
- 12回 グループ研究⑫
- 13回 グループ研究⑬
- 14回 グループ研究⑭
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中の発言など) ... 50% 課題... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日商簿記検定2級程度の簿記の勉強を済ませておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ケース研究をつうじて経営分析の能力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特になし。様々なメディアに掲載されているケース資料を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 ケース研究および討議。
 - 第3回 ケース研究および討議。
 - 第4回 ケース研究および討議。
 - 第5回 ケース研究および討議。
 - 第6回 ケース研究および討議。
 - 第7回 ケース研究および討議。
 - 第8回 ケース研究および討議。
 - 第9回 ケース研究および討議。
 - 第10回 ケース研究および討議。
 - 第11回 ケース研究および討議。
 - 第12回 ケース研究および討議
 - 第13回 ケース研究および討議。
 - 第14回 ケース研究。
 - 第15回 まとめ
- なお、受講生と相談のうえ、上記以外に企業訪問、工場見学なども実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習Iで学んだ理論研究、ケース研究の復習をしておくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

2年時科目の経営戦略の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習IIに引き続き、UMLを用いたシステムの分析、設計、構築、評価などを行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 報告、演習

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 80% 日常の授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業研究に対するテーマを考えること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Iに引き続き、アンケート調査を行い、データを分析し、それをまとめてプレゼンテーションできるようになるための基礎を身につけてもらいます。

教科書 /Textbooks

適宜指示します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～5回 論文検索，報告の練習
- 6～9回 質問紙作成の実習
- 10～14回 質問紙調査の実習と発表練習
- 15回 まとめ

この他に，合宿を実施の予定

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度合い...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ解析」を未履修の学生は，同時に履修するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目指すところは、企業に関連して生じる社会現象について深い思考を展開できるような知性を磨くことです。より具体的には、社会現象を自ら読み解き、分析し、自分なりの考えにまとめて発信すること、これらの一連の作業を自分一人で行えるようになることです。また、演習Iから通じた輪読や企業・業界研究をベースに、4年次に取り組む卒業研究のテーマも決定していきます。

教科書 /Textbooks

なお、文献は決まっていますが、組織論、戦略論、社会科学の方法論の本を検討しています。
(受講生と相談の上、決定します)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション(演習の進め方)
第2回～ 輪読+業界分析あるいは企業分析の経過報告
第12回～第15回 輪読+業界分析あるいは企業分析の経過報告+卒業研究テーマ報告
なお、全15回のうち、受講生の理解度や興味に応じて、扱うトピックや課題は変更される可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

輪読のレジュメ...40%、他者へのコメント(授業中の発言)...30%、研究発表のレジュメ...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

輪読にしても、研究発表にしても準備には相当の時間が求められる。
また、輪読のレジュメは、受講生全員が毎回用意しなければならないことに注意されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務会計の基本的・現代的課題について詳細に検討してみたい。財務会計の入門書を輪読しながら、質疑応答形式で進めていく。三年次では財務会計の基礎知識の修得に重点を置く。

教科書 /Textbooks

本年度は未定だが、事例研究を扱ったテキストを使用したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計の基本的・現代的課題について議論する(発表→解説→質疑応答)。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...80% ディスカッションへの参加度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会計学の基礎的な文献を精読することによって、財務会計論で学んだ会計学の知識を整理することが第一の目標である。そして、第二に、会計学とはいかなる学問なのか、会計学にはいかなる問題が内在しているのかを認識し、自ら考え、ゼミ員相互に討論することが目標である。

教科書 /Textbooks

新井清光・川村義則『現代会計学』中央経済社、2,730円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会、4,690円○
西澤健次『負債認識論』国元書房、2,415円○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 損益会計の意義
- 2回 営業収益と営業費用
- 3回 営業外損益と特別損益
- 4回 財務諸表の種類
- 5回 財務諸表の作成方法
- 6回 連結財務諸表
- 7回 実現概念の検討(1)
- 8回 実現概念の検討(2)
- 9回 企業会計原則(1)
- 10回 企業会計原則(2)
- 11回 企業会計基準(1)
- 12回 企業会計基準(2)
- 13回 企業会計基準(3)
- 14回 財務報告のあり方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) 50% 課題 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会計学のゼミであるので、管理会計論、監査論、国際会計論、税務会計論などの会計科目を多く履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Iに引き続き、自分自身が興味を持ち、みんなに知って欲しいと思うことを毎回発表し、意見交換を行います。また月に一度、北九州市内の企業や施設などを訪問して、現場を直に触れ、経営者や担当者の方々から生の声を聞くようにします。さらに必要に応じて、私自身が関与しています企業や行政機関などの会議や研究会に出席して、実際の仕事がどのように執り行われているのか、体験してもらいます。

教科書 /Textbooks

適宜プリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回：プレゼンテーション&工場等視察

- 毎回2～3人に自分自身が興味を持っていること(例：新事業開発、雇用問題)を発表してもらい、全員で意見交換します。
 - 月に一度、北九州市内の企業や施設などを訪問します。
 - 必要に応じて、企業や行政機関などの会議や研究会、イベントに出席します。
- ※終盤で卒業研究のテーマを検討します。

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の学習姿勢・・・100%
結果ではなく、プロセス(取り組む姿勢)を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃からいろいろなことに興味を持ち、行動するように心掛けて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

やろうか、やるまいか、迷ったときは、やって下さい。何もしなければ、何も得ることができません。何かすれば、必ず得るものがあります。こじんまり纏ろうとせず、リスクを好んで受け入れて下さい。

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習ではOR (Operations Research: オーアールと略す) と情報技術の2つの視点から実践的な問題解決能力を育成することがねらいです。ORが扱う問題は、機械やコンピュータだけではどうしようもない、人間が介在する問題です。この問題を解決するための方法がORです。ORで取り扱う問題を情報技術を用いてアプリケーションを作成する能力を育成します。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC
松井泰子ら共著『入門オペレーションズ・リサーチ』2011年、東海大学出版会
藤原丈史著『新基準Javaプログラミング入門』2007年、SoftBank Creative

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大野勝久ら共著『Excelによる経営科学』2007年、コロナ社
掌田津耶那著『Eclipse3ではじめるJavaプログラミング入門Eclipse3.3対応』2007年、秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)
以下の方針で受講生と相談しながらすすめる。

<内容> 問題解決のテーマ (卒業論文のテーマ) を見つける。身近な問題を解決するプログラムを作成。

<方法> グループごとに、テキストに沿って、Javaプログラミング技術を習得する。
また、演習Iで学習したOR手法をプログラミングしてみる。

1~15回 ゼミの時間はプレゼンテーションの場とし、卒業研究のテーマについて受講者の研究発表。
【OR】 【環境問題】 【社会問題】

グループゼミでは卒業研究のテーマに沿って、プログラム開発や調査報告を行う。

調査見学旅行も予定

<モットー> 楽しく、活発な議論で盛り上がる。
「まず、やってみよう」の精神を重んじる。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 課題...50% 発表...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

積極的な受講態度、演習結果、及び報告内容等を総合的に評価する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生にお勧めのゼミです。iPhoneやAndroid携帯などスマートフォン上で動くアプリを作成します。

キーワード /Keywords

Operations Research OR 経営科学 コンピュータ科学 アプリ開発 Java iOS AndroidOS

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる (=キャリア)、人と組織の能力を引き出す (=人的資源管理) という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。これら2つのテーマについて深く考察することを通じて、高度な論理的思考能力を養成することを目標とします。論理的に考え、物事の本質を捉えることは、みなさんがこれから企業で働くうえでの必須条件です。論理的思考能力の鍛錬に最適です。多くの優れた理論を学び、それを使って現実を分析するとともに、企業に対して一定の政策的提言を行なう練習をしていきます。演習IIでは、前半7回程度を卒業研究の作成方法概説にあて、後半8回程度は、各自で関心のあるテーマについて報告してもらう予定です。ただし、教科書の進み具合やゼミ人数を勘案し、かつゼミ生からの意見も踏まえた上で、ゼミの進め方を変更する可能性はあります。

教科書 /Textbooks

とくに指定しませんが、下記の教科書に関心のあるものがあれば各自入手しておいてください。卒業研究で大いに参考になると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期に用いる本とは別に、このゼミのテーマに関連深い参考書として以下の3冊を挙げておきます。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣
奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management: Theory and Practice, Macmillan (上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂)。
その他、研究に有用な著書についてはゼミのなかで紹介する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(第1回～第7回)
卒業研究の作成過程(たとえば問題・テーマの設定、資料収集の方法、理論構築など)について段階を追って説明します。

(第8回～第15回)
各自の関心のあるテーマを自由に報告してもらう予定です。具体的には、卒業研究のテーマを念頭においた報告を課します。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50% 期末レポート...50%
※ただし、出席は毎回とることとします。出席率が低い場合には単位を認めない場合もあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「人事管理論」を受講しておくといでしょう。
毎週のゼミに備え各自で予習するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は必修科目であるから、各自がゼミ報告を行なう回以外の回においても、真剣な予習と復習を行なうことが望まれます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目の履修を通じて研究方法のイロハを学んでいただきたい。適宜英文テキストも読みましょう。
また、演習IおよびIIで人的資源管理に詳しくなっておけば、卒業研究の作成が大いに楽になるはずですよ。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理論

演習II【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、企業の経営・マーケティング問題を分析的に解明し、妥当性の高い解決策を提案しうる能力と発表態度を身につけることを狙いとし、ケース討論を中心に行っていく。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤允一「問題構造学入門」ダイヤモンド社 等々

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～10回 グループ別ケース討論
第11～15回 卒論準備

成績評価の方法 /Assessment Method

勉学姿勢や発表・レポート等を総合的に評価(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Iでは、企業形態論といわれる分野で展開されているアプローチにより、様々な企業形態を、単純な企業形態から株式会社そして持株会社にいたるまでを俯瞰した。そして、同時にいかなる論理によって、かかる持株会社が生誕（解禁）していくのかについて学習した。

演習IIでは、持株会社に関わる固有の問題（持株会社の定義・持株会社の機能・持株会社とガバナンスに関する基礎）についてさらに学習していく。

教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店（2009年）
下谷正弘『持株会社の時代』有斐閣、2006と小松章『企業形態論第3版』新世社、2006。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房、2006年、ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書、2006年、およびコーポレートガバナンスに関する文献。など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習Iの復習と今後の課題についての確認
- 2回 持株会社解禁の背景～何故、純粋持株会社は解禁されたのか？【持株会社解禁】
- 3回 同上
- 4回 持株会社の定義～持株会社禁止類型と持株会社の定義。【持株会社の定義】
消えた持株会社～持株会社規制の転換。
- 5回 同上
- 6回 持株会社の機能～持株会社のふたつの機能（業界再編機能と組織再編機能）。
M & Aの代替ツールとしての持株会社。【企業再編】
- 7回 同上 8回 同上 9回 同上
- 10回 分社と企業結合～日本企業の歴史からする持株会社解禁の再検討。
【分社】【企業結合】【企業集団】【事業持株会社】
- 11回 同上 12回 同上
- 13回 持株会社とコーポレートガバナンス～持株会社にガバナンスは機能しているのか。
【コーポレートガバナンス】
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の状況を勘案して、原則として期末試験を実施する。
期末試験(演習で学習・議論したテーマに関連した問題を出题)...100%、ボーナスとしてレジユメの作成と報告...20%（この割合を100点満点で換算する）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、指定されたテキストの用意、②、真摯なレジユメの作成と報告、③、わからないことを解明（理解）しようとする熱意、④、繰り返し読書する熱意。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

持株会社解禁・持株会社の機能・持株会社とガバナンス

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会では、氾濫する情報の中で予測が難しいものになりつつあります。情報の不確実な性質を論じ、その中で経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考えます。本演習では、ファジイ関係表現をもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析します。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「ファジイ集合とその応用」森北出版、西田俊夫、竹田英二著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～ 7回 好みの表現とアンケート作成
8回～ 15回 アンケート集計と分析

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のゼミへの積極的な取り組み・・・ 80%
課題・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にはできる限り毎回出席してください。グループでパソコン(エクセル)による簡単な計算を行います。

履修上の注意 /Remarks

高等学校や大学で数学や統計を修得していることが望ましいですが、理論を最初から学ぶので必ずしも必要ではありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループでパソコン(エクセル)によるアンケート作成や分析を行います。

キーワード /Keywords

アンケート、ファジイ関係

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ヘンリ - ・ ミンツバ - グの所説したがって経営者の役割、マネジャ - の仕事、能力開発等について全員で議論する。

教科書 /Textbooks

ミンツバ - グ『マネジャ - の仕事』(白桃書房)など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、指定する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1~2 経営者の役割 能力論からのアプロ - チ
- 3~8 マネジャ - の仕事 職務的アプロ - チ
- 9~14 管理業務の未来 管理者教育の視点
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告発表(60%)、討議への参加(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

文献の精読、関連する資料の整理

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習II【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Iに引き続き、「組織と個人の統合」について考えます。本演習では、「統合」に焦点を合わせて考えていきます。

教科書 /Textbooks

特になし。論文をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

M.P.フォレット(米田清・三戸公訳)『組織行動の原理 動態的管理[新装版]』未来社, 1997年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読および議論
- 3回 文献輪読および議論
- 4回 文献輪読および議論
- 5回 文献輪読および議論
- 6回 文献輪読および議論
- 7回 文献輪読および議論
- 8回 文献輪読および議論
- 9回 文献輪読および議論
- 10回 文献輪読および議論
- 11回 卒業論文準備
- 12回 卒業論文準備
- 13回 卒業論文準備
- 14回 卒業論文準備
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度 ... 50% 報告内容・準備度 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、「組織と個人の統合」に関する論文・文献を輪読します。各回一人ずつ担当を割り当て、レジメを作成し、報告を行ってもらう予定です。その報告を元に、全員で議論します。各自準備して臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

状況に合わせて臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

統合, 責任, 自由

演習II【昼】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア系の多国籍企業または東アジアに進出している日本企業の事例を発掘し、演習Iで培った分析視覚を活用してケース分析を進めていく。

教科書 /Textbooks

教材は使わず、各自が事例資料を収集・整理し、発表用レジメを用意して配布すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介しあうこと

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習Iの成果と課題について話し合う
- 第2回 テーマと発表の順番を決める
- 第3～14回 個別報告、討議
- 第15回 卒論テーマを意識した討論発表

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度40% 報告の努力・出来栄60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- レジメの事前作成・報告前の配布をすること
- 各回配布参考資料の予習・復習をしっかりとっておくこと

履修上の注意 /Remarks

国際経営A、Bの履修を合わせてするように薦める

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 就活が始まって、演習への出席を前提に日程を組むこと
- 確実に連絡がとれるようにすること

キーワード /Keywords

経営学入門【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせて企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。(2,520円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2007)『経営学への招待(第3版)』白桃書房。
- 吉田和夫・大橋一編(2003)『基本経営学用語辞典(三訂版)』同文館出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 人材育成制度【OJT】【キャリア・デザイン】
- 13回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくこと。また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。準備事項にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

経営学入門【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせて企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。(2,520円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2007)『経営学への招待(第3版)』白桃書房。
- 吉田和夫・大橋昭一編(2003)『基本経営学用語辞典(三訂版)』同文館出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 人材育成制度【OJT】【キャリア・デザイン】
- 13回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくことよい。また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。準備事項にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

プログラミングI【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 営1 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。
解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算子】
 - 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
 - 5回 繰り返し(whileループ)【whileループ】【do-whileループ】
 - 6回 配列の利用【配列宣言】
 - 7回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 8回 問題演習1【forループ】
 - 9回 値の入力【例外処理】【BufferedReaderクラス】
 - 10回 コマンドライン引数【コマンドライン】【例外処理】
 - 11回 問題演習2【whileループ】
 - 12回 問題演習3【条件分岐】
 - 13回 問題演習4【値の入力】
 - 14回 総合問題演習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんプログラムを作成してもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 営 1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。
解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算子】
 - 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
 - 5回 繰り返し(whileループ)【whileループ】【do-whileループ】
 - 6回 配列の利用【配列宣言】
 - 7回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 8回 問題演習1【forループ】
 - 9回 値の入力【例外処理】【BufferedReaderクラス】
 - 10回 コマンドライン引数【コマンドライン】【例外処理】
 - 11回 問題演習2【whileループ】
 - 12回 問題演習3【条件分岐】
 - 13回 問題演習4【値の入力】
 - 14回 総合問題演習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんのプログラムを作成してもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 営 1 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。
解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算子】
 - 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
 - 5回 繰り返し(whileループ)【whileループ】【do-whileループ】
 - 6回 配列の利用【配列宣言】
 - 7回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 8回 問題演習1【forループ】
 - 9回 値の入力【例外処理】【BufferedReaderクラス】
 - 10回 コマンドライン引数【コマンドライン】【例外処理】
 - 11回 問題演習2【whileループ】
 - 12回 問題演習3【条件分岐】
 - 13回 問題演習4【値の入力】
 - 14回 総合問題演習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんのプログラムを作成してもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名
/Instructor

隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年(再履修)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。

解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
- 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
- 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算子】
- 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
- 5回 繰り返し(whileループ)【whileループ】【do-whileループ】
- 6回 配列の利用【配列宣言】
- 7回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
- 8回 問題演習1【forループ】
- 9回 値の入力【例外処理】【BufferedReaderクラス】
- 10回 コマンドライン引数【コマンドライン】【例外処理】
- 11回 問題演習2【whileループ】
- 12回 問題演習3【条件分岐】
- 13回 問題演習4【値の入力】
- 14回 総合問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんのプログラムを作成してもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
- 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
- 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
- 4回 簿記の要素【収益】【費用】
- 5回 取引と勘定
- 6回 仕訳と転記【仕訳】
- 7回 仕訳と転記【転記】
- 8回 仕訳帳と元帳
- 9回 試算表
- 10回 精算表
- 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
- 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
- 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
- 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕巨・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕巨・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】【ファイル】
 - 2回 通信技術とコンピュータの融合の進展【LAN】【TCP/IP】【インターネット】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】【クリティカルパス】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【フローチャート】【デジジョンテーブル】
 - 9回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【誤差】
 - 10回 問題演習【条件分岐】【PERT】
 - 11回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 12回 これからのコンピュータ【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
 - 13回 身の回りの情報技術やメディア【携帯端末】【電子マネー】【画像認識】
 - 14回 問題演習【暗号】【コンピュータ用語】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

コンピュータシステム【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】【ファイル】
 - 2回 通信技術とコンピュータの融合の進展【LAN】【TCP/IP】【インターネット】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】【クリティカルパス】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【フローチャート】【デジジョンテーブル】
 - 9回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【誤差】
 - 10回 問題演習【条件分岐】【PERT】
 - 11回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 12回 これからのコンピュータ【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
 - 13回 身の回りの情報技術やメディア【携帯端末】【電子マネー】【画像認識】
 - 14回 問題演習【暗号】【コンピュータ用語】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

コンピュータシステム【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】【ファイル】
 - 2回 通信技術とコンピュータの融合の進展【LAN】【TCP/IP】【インターネット】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】【クリティカルパス】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【フローチャート】【デジジョンテーブル】
 - 9回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【誤差】
 - 10回 問題演習【条件分岐】【PERT】
 - 11回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 12回 これからのコンピュータ【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
 - 13回 身の回りの情報技術やメディア【携帯端末】【電子マネー】【画像認識】
 - 14回 問題演習【暗号】【コンピュータ用語】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○
伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果(90%)によりますが、学期中の小レポートの結果(10%)も加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学系の科目の基礎科目なので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○
伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果(90%)によりますが、学期中の小レポートの結果(10%)も加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学系の科目の基礎科目なので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営学を学習するには、「学説(史)」・「経営組織論」・「経営戦略論」や「経営学各論(人事・ファイナンス・マーケティングなど)」・「現代企業の経営」という各分野をカバーしなければならない。
この講義では、上記の分類からすると「現代企業の経営」につき発展的に関連するように、企業形態・株式会社制度・日本の企業と経営・経営史(経営事情)について学習していく。ことに講義の前半2/3で株式会社制度の特徴を理解して、コーポレートガバナンスの問題を、後半1/3では持株会社の基本的な仕組みについて理解してもらいたい。

教科書 /Textbooks

細川孝・桜井徹編『転換期の株式会社』ミネルヴァ書房、2009年。
テキストは、各自で予め必ず用意してください。講義で毎回、使用する。また、数回、実施する小テストでは、教科書持ち込みで、実施します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房(2006年)[○]やロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書(2006年)および下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店(2009年)[○]。日本の会社制度に関わる資料集として、落合誠一編『会社法Visual Materials』有斐閣、2011[○]。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1回 企業形態と会社 | 【起業】【企業】【会社】【私企業】【公企業】【公私混合企業】 |
| 2回 企業形態の分布 | 【税務統計からみた法人企業の実態】 |
| 3回 私企業1 | 【会社法と企業形態】【持分会社】【公開会社と非公開会社】 |
| 4回 私企業2 | 【企業集中】【持株会社】【多国籍企業】 |
| 5回 私企業3 | 【株式会社と証券市場】【所有と経営との分離】【経営者支配】 |
| 6回 株式会社制度1 | 【会社機関】【会社法と会社機関】【企業のガバナンス】 |
| 7回 株式会社制度2 | 【企業のファイナンス】【直接金融】【間接金融】 |
| 8回 株式会社制度3 | 【株式所有構造】【株主行動の変化】 |
| 9回 株式会社の国際比較1 | 【米国の株式会社】【ドイツの株式会社】 |
| 10回 株式会社の国際比較2 | 【中国における株式会社】【資本主義・社会主義市場経済】 |
| 11回 企業統治1 | 【機関設計の多様化】【委員会設置会社】 |
| 12回 企業統治2 | 【取締役会の改革と会社経営者】 |
| 13回 持株会社の解禁 | 【独禁法】【企業集団】【持株会社】 |
| 14回 株式会社の社会的責任 | 【現代と株式会社】【企業不祥事】【CSR】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとしての小テスト...20%(この割合を100点満点で換算する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、講義の際、レジユメを用意するが、レジユメだけにしがみつかない。②、現実の日本企業に関心をもつこと。③、経営学全体を意識しながら学習してほしい。④、自分にあつた参考文献を見つけよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態・会社法の会社・株式会社(上場会社)・会社機関・ガバナンス・株式会社の国際比較・持株会社解禁とそのブーム

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営学を学習するには、「学説(史)」・「経営組織論」・「経営戦略論」や「経営学各論(人事・ファイナンス・マーケティングなど)」・「現代企業の経営」という各分野をカバーしなければならない。

この講義では、上記の分類からすると「現代企業の経営」につき発展的に関連するように、企業形態・株式会社制度・日本の企業と経営・経営史(経営事情)について学習していく。ことに講義の前半2/3で株式会社制度の特徴を理解して、コーポレートガバナンスの問題を、後半1/3では持株会社の基本的な仕組みについて理解してもらいたい。

教科書 /Textbooks

細川孝・桜井徹編『転換期の株式会社』ミネルヴァ書房、2009年。

テキストは、各自で予め必ず用意してください。講義で毎回、使用する。また、数回、実施する小テストでは、教科書持ち込みで、実施します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房(2006年)[○]やロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書(2006年)および下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店(2009年)[○]。日本の会社制度に関わる資料集として、落合誠一編『会社法Visual Materials』有斐閣、2011[○]。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1回 企業形態と会社 | 【起業】【企業】【会社】【私企業】【公企業】【公私混合企業】 |
| 2回 企業形態の分布 | 【税務統計からみた法人企業の実態】 |
| 3回 私企業1 | 【会社法と企業形態】【持分会社】【公開会社と非公開会社】 |
| 4回 私企業2 | 【企業集中】【持株会社】【多国籍企業】 |
| 5回 私企業3 | 【株式会社と証券市場】【所有と経営との分離】【経営者支配】 |
| 6回 株式会社制度1 | 【会社機関】【会社法と会社機関】【企業のガバナンス】 |
| 7回 株式会社制度2 | 【企業のファイナンス】【直接金融】【間接金融】 |
| 8回 株式会社制度3 | 【株式所有構造】【株主行動の変化】 |
| 9回 株式会社の国際比較1 | 【米国の株式会社】【ドイツの株式会社】 |
| 10回 株式会社の国際比較2 | 【中国における株式会社】【資本主義・社会主義市場経済】 |
| 11回 企業統治1 | 【機関設計の多様化】【委員会設置会社】 |
| 12回 企業統治2 | 【取締役会の改革と会社経営者】 |
| 13回 持株会社の解禁 | 【独禁法】【企業集団】【持株会社】 |
| 14回 株式会社の社会的責任 | 【現代と株式会社】【企業不祥事】【CSR】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとしての小テスト...20%(この割合を100点満点で換算する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、講義の際、レジュメを用意するが、レジュメだけにしがみつかない。②、現実の日本企業に関心をもつこと。③、経営学全体を意識しながら学習してほしい。④、自分にあった参考文献を見つけよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態・会社法の会社・株式会社(上場会社)・会社機関・ガバナンス・株式会社の国際比較・持株会社解禁とそのブーム

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習III~IVでは演習I~IIで学んだことを元に、各自テーマを決めて卒業論文、卒業作品に向けて研究を進めます。

教科書 /Textbooks

テーマごとに相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマごとに連絡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：テーマ報告
- 第2回：研究経過報告1
- 第3回：研究経過報告2
- 第4回：研究経過報告3
- 第5回：研究経過報告4
- 第6回：研究経過報告5
- 第7回：研究経過報告6
- 第8回：研究経過報告7
- 第9回：研究経過報告8
- 第10回：研究経過報告9
- 第11回：研究経過報告10
- 第12回：研究経過報告11
- 第13回：研究成果報告1
- 第14回：研究成果報告2
- 第15回：研究成果報告3

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...70% 報告、レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

どのようなテーマで研究するか決めておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業研究の指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業研究指導①
- 2回 卒業研究指導②
- 3回 卒業研究指導③
- 4回 卒業研究指導④
- 5回 卒業研究指導⑤
- 6回 卒業研究指導⑥
- 7回 卒業研究指導⑦
- 8回 卒業研究指導⑧
- 9回 卒業研究指導⑨
- 10回 卒業研究指導⑩
- 11回 卒業研究指導⑪
- 12回 卒業研究指導⑫
- 13回 卒業研究指導⑬
- 14回 卒業研究指導⑭
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中の発言など) ... 50% 課題... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日商簿記検定2級程度の簿記の勉強を済ませておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業研究の作成を通じて経営学・経営戦略論の知識の総仕上げをします。

教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文作成の基本知識習得のための文献講読。
- 第3回 同上。
- 第4回 同上。
- 第5回 同上。
- 第6回 同上。
- 第7回 同上。
- 第8回 同上。
- 第9回 学生による卒業研究発表。
- 第10回 学生による卒業研究発表。
- 第11回 学生による卒業研究発表。
- 第12回 学生による卒業研究発表。
- 第13回 学生による卒業研究発表。
- 第14回 学生による卒業研究発表。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習I・IIで学習した理論研究、ケース研究の復習をしておくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

演習I・II(テーマ 経営戦略)を履修し、経営戦略論に関する基本知識を取得した学生に限る。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

3年次に引き続き、パブリックセクターである地方自治体を巡るさまざまな経営に関する課題などについて学びます。特に、卒業論文作成に向けて、論文を作成するための基本的な考え方やリサーチクエスト、フィールド調査の方法などについて、多方面から学びます。

教科書 /Textbooks

授業の際に、必要に応じて資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 論文テーマの検討 (問題意識の発見I)
- ② 論文テーマの検討 (問題意識の発見II)
- ③ 論文テーマの検討 (問題意識の醸成I)
- ④ 論文テーマの検討 (問題意識の醸成II)
- ⑤ 論文テーマの概要発表、論議I
- ⑥ 論文テーマの概要発表、論議II
- ⑦ 論文テーマの概要発表、論議III
- ⑧ リサーチクエストの考え方I
- ⑨ リサーチクエストの考え方II
- ⑩ 仮説の立て方I
- ⑪ 仮説の立て方II
- ⑫ 仮説の立て方III
- ⑬ 資料・データ収集の方法I
- ⑭ 資料・データ収集の方法II
- ⑮ 論文の概要論議

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、プレゼンテーション 60%、授業での議論、態度 40% をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の際に、適宜参考図書などについて紹介する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生の皆さんの活発な議論や質疑を期待します。

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習I、IIに引き続き、各自のテーマに従ってネットワークの構築、プログラムの作成などを行う
また、卒業研究に向けて設定したテーマに対する資料収集などを行う。

教科書 /Textbooks

適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 報告、演習

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...80% 日常の授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習IIに引き続き、アンケート調査を行い、データを分析し、それをまとめてプレゼンテーションできるようになるための基礎を身につけてもらいます。

教科書 /Textbooks

適宜指示します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
2～6回 卒業論文のテーマを決めるための先行研究調査，発表．
7～10回 卒業論文のテーマ決定，調査計画の設定．
11回～14回 質問紙の作成．
15回 まとめ

この他に，合宿を実施の予定

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度合い...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

来年度以降に本科目の履修を希望する場合には，なるべく今年度のうちに「データ解析」を履修するようにしてください．

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務会計の基本的・現代的課題について詳細に検討してみたい。財務会計の中級・上級書を輪読しながら質疑応答形式で進めたい。併せて卒業論文作成のための指導も行う。

教科書 /Textbooks

本年度は未定だが、事例研究を扱ったテキストを使用したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松章編『現代の財務経営〈6〉経営分析・企業評価』(中央経済社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計の基本的・現代的課題について議論する(発表→解説→質疑応答)。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...80% ディスカッションへの参加度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会計学の基礎的な文献を精読することによって、財務会計論で学んだ会計学の知識を整理することが第一の目標である。そして、第二に、会計学とはいかなる学問なのか、会計学にはいかなる問題が内在しているのかを認識し、自ら考え、ゼミ員相互に討論することが目標である。

教科書 /Textbooks

各回で、レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業研究報告
- 3回 論文輪読
- 4回 卒業研究報告
- 5回 論文輪読
- 6回 卒業研究報告
- 7回 論文輪読並びにまとめ
- 8回 卒論研究報告
- 9回 論文の形式について
- 10回 卒論研究報告
- 11回 論文の形式について
- 12回 卒論研究報告
- 13回 論文輪読
- 14回 卒論研究報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会計学のゼミであるので、管理会計論、監査論、国際会計論、税務会計論などの会計科目を多く履修することを勧める。また、演習の事前、事後に準備、復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習ではOR (Operations Research: オーアールと略す) と情報技術の2つの視点から実践的な問題解決能力を育成することが狙いです。問題は経済、経営、環境、情報など様々な分野の問題を取り扱いたいと考えています。卒業論文提出を必修とします。

教科書 /Textbooks

テーマにあわせて適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマにあわせて適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

以下の方針で受講生と相談しながら個別指導。

<内容> 卒業研究のテーマに沿って、調査・開発を進める。

<方法> 卒論を書くための、【研究計画】を立てる。

1~15回 テーマの中から興味のある分野について、文献調査やプログラム開発と行い、発表する。

【OR】、【情報】、【Java】、【システム】、【経済問題】、【環境問題】

適宜、進捗を報告してもらう。

期末に【卒業論文中間発表会】を行う。

<モットー> 創造力を働かせ、楽しく、けじめをつけてやる。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文中間発表

日常の授業への取り組み...10% 課題...50% 発表...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習IIで決めた卒業研究のテーマに関して、参考文献を3つ以上紹介してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究題目を必ず提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生生活の集大成となる卒業研究のため、面白いテーマを探しましょう。

キーワード /Keywords

Operations Research OR 経営科学 コンピュータ科学 環境問題 経済問題 アプリ開発 Java iOS AndroidOS

演習III 【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる (=キャリア)、人と組織の能力を引き出す (=人的資源管理) という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。演習IIIでは、演習Iならびに演習IIで得た知識をもとに、当該領域における応用的内容を含む文献を読解する予定です。それと並行して卒業研究の作成を本格的に開始してもらう予定です。卒業研究は必修科目であることから、演習IIIおよびIVの両方をセットで修得することを学生諸君にはお願いします。なお、4年次は就職活動の時期と重なるので、報告の内容や日程についてはゼミ生の意見を聞きつつ決定します。

教科書 /Textbooks

とくに指定しませんが、適宜論文またはプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

このゼミのテーマに関連深い参考書として以下の3冊を挙げておきます。
 奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。
 上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
 岩出博(2010)『Lecture人事労務管理』泉文堂。
 その他、研究に有用な著書についてはゼミのなかで紹介する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(第1回～第7回)
 人的資源管理論領域における査読付論文を輪読します。

(第8回～第15回)
 各自で卒業研究の進捗状況を報告してもらう予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告... 50% 期末レポート... 50%
 ※就職活動と重なる時期なので、出席状況は参考程度にとどめる。活動に支障のない限り出席し、欠席の際は事前に連絡することが望ましい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「人事管理論」を受講しておくといでしょう。毎週のゼミに備え各自で独習するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

演習IIIおよびIVの単位と、卒業研究の単位は別であることに注意すること。それぞれの科目について履修登録を行なうようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動の期間と重なる人も多いとは思いますが、空いた時間を最大限に活用して卒業研究の作成に取り掛かってください。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理

演習III 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、広く現代企業の経営問題について（マーケティングに限らなくてよい）各自がテーマを選定し、卒業論文として研究・報告発表することを主な内容とする。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自にアドバイスを行う。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～10回 卒論中間発表
第11～15回 グループ別ケース討論

成績評価の方法 /Assessment Method

勉学姿勢と卒業論文の内容・発表等を総合的に評価(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Iと演習IIでは、バブル崩壊後に解禁された持株会社について学習してきた。これまでの学習を基礎にして、演習IIIと演習IVでは、「持株会社とコーポレートガバナンス」というテーマで持株会社のユニークな諸側面について学習していく。わが国では、持株会社が解禁され設立されていく過程において、「株主権の縮減」という事態や「子会社による新たな支配者の創出」というきわめてユニークな現象がみられた。また、最近では、コーポレートガバナンスという問題が盛んに議論されるのだが、持株会社の司令塔はあくまでも親会社にある。そうすると実際の事業を担っている子会社のガバナンスはどのようになっているのだろうか。この点、しばしば持株会社におけるコーポレートガバナンスの虚構性（反ガバナンス）が指摘されるところである。演習では、こうした持株会社のユニークな諸側面に注目して展開していくことにする。そこで演習IIIでは、コーポレートガバナンスという問題の基本的性格から学習していく。

教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下谷正弘『持株会社の時代』有斐閣と小松章『企業形態論第3版』新世社、上村達男・金見昭『株式会社はどこへ行くのか』日本経済新聞社、2007。
佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房、2006年、ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書、2006年、およびコーポレートガバナンスに関する文献。など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コーポレートガバナンスとはなにか。【コーポレートガバナンス】【経営者支配】
- 2回 同上 3回 同上
- 4回 持株会社と会社機関。【会社機関】【戦略経営】【意思決定の迅速化】
- 5回 同上 6回 同上
- 7回 持株会社の隠れた機能～株主権の縮減。子会社による支配株主の創出。【株主権の縮減】
- 8回 同上 9回 同上
- 10回 親会社と子会社～事業の担い手と親会社の関係。子会社における会社機関の簡素化。子会社のガバナンス。【子会社のガバナンス】
- 11回 同上 12回 同上 13回 同上
- 14回 演習IVへむけての各自の問題意識の整理。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習の状況を勘案して、原則として期末試験を実施する。
期末試験(演習で学習・議論したテーマに関連した問題を出題)...100%、ボーナスとしてレジユメの作成と報告...20% (この割合を100点満点で換算する)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、指定されたテキストの用意、②、真摯なレジユメの作成と報告、③、わからないことを解明(理解)しようとする熱意、④、繰り返し読書する熱意、⑤、現実のケースを調査しようとする熱意。
- 尚、原則として期末試験を実施する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コーポレートガバナンス・持株会社とその機能・持株会社ブーム

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会では、氾濫する情報の中で予測が難しいものになりつつあります。情報の不確実な性質を論じ、その中で経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考えます。本演習では、ファジィ関係表現をもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析します。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～ 7回 卒業研究に向けたテーマの設定
8回～ 15回 アンケートの改良と作成

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のゼミへの積極的な取り組み・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループでパソコン(エクセル)による作業を行いますから、できる限り毎回出席してください。

履修上の注意 /Remarks

高等学校や大学で数学や統計を修得していることが望ましいが、理論を最初から学ぶので必ずしも必要ではありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループでパソコン(エクセル)によるアンケート作成や分析を行います。

キーワード /Keywords

アンケート、ファジィ関係

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、演習IIに引き続いて、受講者が実際の財務データ（財務諸表や株価）を用いた企業分析を行い、その分析結果を第三者に説得的に伝えるスキルを身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講者による報告(1)
- 3回 受講者による報告(2)
- 4回 受講者による報告(3)
- 5回 受講者による報告(4)
- 6回 受講者による報告(5)
- 7回 受講者による報告(6)
- 8回 受講者による報告(7)
- 9回 受講者による報告(8)
- 10回 受講者による報告(9)
- 11回 受講者による報告(10)
- 12回 受講者による報告(11)
- 13回 受講者による報告(12)
- 14回 受講者による報告(13)
- 15回 まとめ

なお、上記に加えて、ゼミ合宿を行う予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の報告・・・50% ゼミへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

遅刻・無断欠席をしないこと。ゼミ中は必ず発言すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゼミでは「新事業」「チャレンジ」をテーマにしています。地元はもとより、国内さらには世界で起こっているさまざまなことに問題意識を持つ敏感な人間になることを目指しています。

そこでゼミでは自分自身が興味を持ち、みんなに知って欲しいと思うことを毎回発表し、意見交換を行います。また、以下のテーマ(案)について調査研究を行います。

- ・ 東南アジア諸国の裾野産業育成に向けた職業教育のあり方
- ・ 低炭素化社会に向けた太陽光発電システムの導入とリサイクル
- ・ 北九州市のベンチャー企業創出・育成に向けた支援策のあり方

教科書 /Textbooks

適宜プリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回：経済・経営情勢のプレゼンテーション&調査研究の進捗報告

- 毎回2～3人に自分自身が興味を持っていることを発表してもらい、全員で意見交換をします。
 - 調査研究テーマについて、月に一度、進捗状況を報告し、全員でより良い方向へ進むためのアイデアを考えます。
 - 必要に応じて、企業や行政機関などの会議や研究会、イベントに出席します。
- ※なお、発表・報告は見せることを意識します。よって、資料はパワーポイントで作成し、プロジェクターを使用して発表・報告します。

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の学習態度・・・100%
結果ではなくプロセス(取り組む姿勢)を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

来春からの会社生活に備えて、相手に分からせることを意識して資料の作成や発表・報告を行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動で心身ともに追い詰められている中で、調査研究を行うことは大変なことです。調査研究の成果は、大学生活4年間の学習の集大成(証)になります。卒業して5年、10年経ったときに自信を持って振り返ることができるように、自分自身が納得できるものにして下さい。

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Ⅲ~Ⅳでは演習Ⅰ~Ⅱで学んだことを元に、各自テーマを決めて卒業論文、卒業作品に向けて研究を進めます。

教科書 /Textbooks

テーマごとに相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマごとに連絡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：研究経過報告1
- 第2回：研究経過報告2
- 第3回：研究経過報告3
- 第4回：研究経過報告4
- 第5回：研究経過報告5
- 第6回：研究経過報告6
- 第7回：研究経過報告7
- 第8回：研究経過報告8
- 第9回：研究経過報告9
- 第10回：研究経過報告10
- 第11回：研究経過報告11
- 第12回：研究経過報告12
- 第13回：研究成果報告1
- 第14回：研究成果報告2
- 第15回：研究成果報告3

成績評価の方法 /Assessment Method

ひごろの取り組み...70% 報告、レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習Ⅲの研究からどのように研究を発展させるか考えておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業研究の指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒業研究指導①
- 2回 卒業研究指導②
- 3回 卒業研究指導③
- 4回 卒業研究指導④
- 5回 卒業研究指導⑤
- 6回 卒業研究指導⑥
- 7回 卒業研究指導⑦
- 8回 卒業研究指導⑧
- 9回 卒業研究指導⑨
- 10回 卒業研究指導⑩
- 11回 卒業研究指導⑪
- 12回 卒業研究指導⑫
- 13回 卒業研究指導⑬
- 14回 卒業研究指導⑭
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(授業中の発言など) ... 50% 課題... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日商簿記検定2級程度の簿記の勉強を済ませておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

卒業研究の作成を通じて経営学・経営戦略論の知識の総仕上げをします。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 学生による卒業研究発表。
- 第3回 学生による卒業研究発表。
- 第4回 学生による卒業研究発表。
- 第5回 学生による卒業研究発表。
- 第6回 学生による卒業研究発表。
- 第7回 学生による卒業研究発表。
- 第8回 学生による卒業研究発表。
- 第9回 学生による卒業研究発表。
- 第10回 学生による卒業研究発表。
- 第11回 学生による卒業研究発表。
- 第12回 学生による卒業研究発表。
- 第13回 学生による卒業研究発表。
- 第14回 学生による卒業研究発表。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習Ⅰ・Ⅱで学習した理論研究、ケース研究、および演習Ⅲの復習をしておくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(テーマ 経営戦略)を履修し、経営戦略に関する基礎知識を取得した学生に限る。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 永津 美裕 / NAGATU YOSHIHIRO / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学生生活の集大成としての卒業論文の作成、完成に向けて、各学生のテーマや問題意識に応じた個別的な深く掘り下げた議論を行います。その過程で、他の論文の事例検討、各学生の相互の評価、意見交換なども行います。また、学生間の共同調査など、連携協力の方法や体験も学びます。

教科書 /Textbooks

適宜必要に応じて、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①他の論文の分析・検討I
- ②他の論文の分析・検討II
- ③他の論文の分析・検討III
- ④仮説の検証I
- ⑤仮説の検証II
- ⑥仮説の検証III
- ⑦政策、プランの作成I
- ⑧政策、プランの作成II
- ⑨政策、プランの作成III
- ⑩論文発表I
- ⑪論文発表II
- ⑫論文発表III
- ⑬論文発表IV
- ⑭総括I
- ⑮総括II

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、プレゼンテーション 60%、 授業での議論、態度 40% をもとに総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の際に、適宜資料や文献を紹介します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生の皆さんの活発な議論や質疑を期待します。

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
演習の総仕上げを行う。

教科書 /Textbooks
適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回～15回 報告、演習

成績評価の方法 /Assessment Method
報告内容... 80% 日常の授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

調査をベースとした卒業論文の執筆，指導を行います。

教科書 /Textbooks

適宜指示します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2～6回 調査の実施，卒業論文序論の作成
- 7～10回 調査結果の分析，卒業論文方法，結果部分の作成
- 11～13回 卒業論文考察，まとめの作成
- 14回 卒業論文発表
- 15回 まとめ

この他に，合宿を実施の予定

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度合い...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ解析」を未履修の学生は，同時に履修するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習IV 【昼】

担当者名 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務会計の基本的・現代的課題について詳細に検討してみたい。財務会計の中級・上級書を輪読しながら質疑応答形式で進めたい。併せて卒業論文作成のための指導も行う。

教科書 /Textbooks

本年度は未定だが、事例研究を扱ったテキストを使用したい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小松章編『現代の財務経営〈6〉経営分析・企業評価』(中央経済社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計の基本的・現代的課題について議論する(発表→解説→質疑応答)。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...80% ディスカッションへの参加度...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会計学の基礎的な文献を精読することによって、財務会計論で学んだ会計学の知識を整理することが第一の目標である。そして、第二に、会計学とはいかなる学問なのか、会計学にはいかなる問題が内在しているのかを認識し、自ら考え、ゼミ員相互に討論することが目標である。

教科書 /Textbooks

各回で、レジュメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会(2005年)、4,600円(当時)○
西澤健次『負債認識論』国書房(2005年)、2,300円(当時)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 論文輪読
- 3回 卒業研究報告
- 4回 論文輪読
- 5回 卒業研究報告
- 6回 論文輪読
- 7回 卒業研究報告
- 8回 卒業研究(中間報告)
- 9回 卒業研究報告
- 10回 卒業研究報告
- 11回 卒業研究報告
- 12回 卒業研究報告
- 13回 卒業研究報告
- 14回 卒業研究報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会計学のゼミであるので、管理会計論、監査論、国際会計論、税務会計論などの会計科目を多く履修することを勧める。また、演習の事前、事後に準備、復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習ではOR (Operations Research: オーアールと略す) と情報技術の2つの視点から実践的な問題解決能力を育成することが狙いです。問題は経済、経営、環境、情報など様々な分野の問題を取り扱いたいと考えています。卒業論文提出を必修とします。

教科書 /Textbooks

テーマにあわせて適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマにあわせて適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)
以下の方針で受講生と相談しながら個別指導。

< 内容 >
【研究計画】に基づき、【調査・研究】を進める

< 方法 >
1~15回 卒業研究の進捗を報告してもらい、相談しながら進める。
必要に応じて【コンピュータ実験】を行う。

【卒業論文】を提出する。(論文は製本して、卒業式の際に配布します)
<モットー>創造力を働かせ、楽しく、けじめをつけてやる。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業研究 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

卒業研究の進捗報告を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

卒業論文を必ず提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生生活の集大成となる卒業研究を充実したものにしましょう。

キーワード /Keywords

Operations Research OR 経営科学 コンピュータ科学 環境問題 経済問題 アプリ開発 Java iOS AndroidOS

演習Ⅳ【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる (= キャリア)、人と組織の能力を引き出す (= 人的資源管理) という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。演習Ⅳでは卒業研究の完成を目指します。こちらから特定の課題を出すという形式は取らず、各ゼミ生が研究した内容を毎回報告してもらう予定です。卒業研究は必修科目であることから、演習ⅢおよびⅣの両方をセットで修得することを学生諸君にはお願いします。

教科書 /Textbooks

とくに指定しませんが、適宜論文またはプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

このゼミのテーマに関連深い参考書として以下の3冊を挙げておきます。
 奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。
 上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
 岩出博(2010)『Lecture人事労務管理』泉文堂。
 その他、研究に有用な著書についてはゼミのなかで紹介する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(第1回～第7回)
各自で卒業研究の進捗状況を報告してもらいます(一巡目)
 (第8回～第15回)
各自で卒業研究の進捗状況を報告してもらいます(二巡目)
 12月中旬までに卒業研究の草稿の完成を目指します。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告... 100% (報告内容の充実度・独創性に応じて評価する)
 ※就職活動が終了した後と思われるので、出席状況が低いと単位認定を行わないこととする。活動に支障のない限り出席し、欠席の際は事前に連絡することが望ましい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「人事管理論」を受講しておくといでしょう。
 毎週のゼミに備え各自で独習するようにしてください。卒業研究の作成は学生諸君の自発的な努力にかかっています。

履修上の注意 /Remarks

演習Ⅳと卒業研究の単位は別であるので、それぞれについて履修登録をする必要がある点に注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生時代の集大成ともいえる卒業研究に最大限尽力してほしい。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理論

演習Ⅳ【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、広く現代企業の経営問題について（マーケティングに限らなくてよい）各自がテーマを選定し、卒業論文として研究・報告発表することを主な内容とする。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自にアドバイスを行う。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1～4回 グループ別ケース討論
第5～14回 卒論最終発表
第15回 卒論評価

成績評価の方法 /Assessment Method

勉学姿勢と卒業論文の内容・発表等を総合的に評価(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Ⅲと演習Ⅳでは、「持株会社とコーポレートガバナンス」というテーマで持株会社のユニークな諸側面について学習していくことについては、既にふれていた。
 その際、演習Ⅲでは、「持株会社とコーポレートガバナンス」というテーマのもとに次の三つのユニークな事態に焦点をあてていた。すなわち、
 ①、株主権の縮減、②、子会社による支配株主の創出、③、事業の担い手と親会社の関係。子会社における会社機関の簡素化、であった。
 そこで演習Ⅳでは、コーポレートガバナンスという問題を意識しつつ、とりわけ上記①～③の論点をよりいっそう具体的に展開を図るべき考察をおこなってもらふ。最後にレポートにまとめて報告してもらふことにする。

教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店（2009年）
 下谷正弘『持株会社の時代』有斐閣と小松章『企業形態論第3版』新世社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房、2006年、ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書、2006年、およびコーポレートガバナンスに関する文献。など。レポートをまとめる際にその都度、参考資料を指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のねらいで述べた、三つの点すなわち①、株主権の縮減、②、子会社による支配株主の創出、③、事業の担い手と親会社の関係。子会社における会社機関の簡素化、について各自が整理すること。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 参加者の問題関心によって、三つのうちのどれかに特に焦点をあてて学習していく。
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 各参加者によるレポート作成にむけての中間報告をおこなう。
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 レポートの報告によって、まとめをおこなう。
- 15回 レポートの報告によって、まとめをおこなう。

成績評価の方法 /Assessment Method

①、真摯なレポートの作成と報告（40%）、②、わからないことを解明（理解）しようとする熱意（20%）、③、繰り返し読書する熱意（20%）、④、現実のケースを調査しようとする熱意（20%）。
 尚、原則として期末試験を実施することがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告に備えて、しっかりと準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

持株会社の機能・持株会社とコーポレートガバナンス

演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会では、氾濫する情報の中で予測が難しいものになりつつあります。情報の不確実な性質を論じ、その中で経営的意思決定を適正に行うには何が基本となるのかについて考えます。本演習では、ファジイ関係表現をもとに、経済や経営に関するトピックを人の好みのアンケートを通してデータを分析します。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～ 7回 アンケート集計と分析
8回～ 15回 卒業論文の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

平素のゼミへの積極的な取組み・・・ 50%
卒業研究提出・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループでパソコン(エクセル)による作業を行いますから、できる限り毎回出席してください。

履修上の注意 /Remarks

高等学校や大学で数学や統計を修得していることが望ましいが、理論を最初から学ぶので必ずしも必要ではありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループでパソコン(エクセル)によるアンケート作成や分析を行います。

キーワード /Keywords

アンケート、ファジイ関係

演習Ⅳ【昼】

担当者名 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習Ⅲに引き続き、自分自身が興味を持ち、みんなに知って欲しいと思うことを毎回発表し、意見交換を行います。また、以下のテーマ(案)について調査研究を行い、成果を報告書にまとめます。

- ・ 東南アジア諸国の裾野産業育成に向けた職業教育のあり方
- ・ 低炭素化社会に向けた太陽光発電システムの導入とリサイクル
- ・ 北九州市のベンチャー企業創出・育成に向けた支援策のあり方

教科書 /Textbooks

適宜プリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回：経済・経営情勢のプレゼンテーション&調査研究の進捗報告
15回：調査研究の発表

- 毎回2～3人に自分自身が関心を持っていることを発表してもらい、全員で意見交換をします。
 - 調査研究テーマについて、月に一度、進捗状況を報告し、全員でより良い方向へ進むためのアイデアを考えます。
 - 必要に応じて、企業や行政機関などの会議や研究会、イベントに出席します。
- ※なお発表・報告は見せることを意識します。よって資料はパワーポイントで作成し、プロジェクターを使用して発表・報告します。
※最後に調査研究の成果を報告書にまとめます。
※ゼミ合宿を予定しています。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度・・・100%
結果ではなくプロセス(取り組む姿勢)を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

来春からの会社生活に備えて、相手に分からせることを意識して資料の作成や発表・報告を行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

調査研究を頑張ることはもちろんですが、自由な時は今しかありません。外に出て、いろいろなものを見て、触れて、そして出会い、大いに感動して下さい。

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、受講者に卒業論文(卒業研究)の中間報告をしてもらい、適宜その指導を行います。

教科書 /Textbooks

受講者と相談のうえ、決定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講者による報告(1)
- 3回 受講者による報告(2)
- 4回 受講者による報告(3)
- 5回 受講者による報告(4)
- 6回 受講者による報告(5)
- 7回 受講者による報告(6)
- 8回 受講者による報告(7)
- 9回 受講者による報告(8)
- 10回 受講者による報告(9)
- 11回 受講者による報告(10)
- 12回 受講者による報告(11)
- 13回 受講者による報告(12)
- 14回 受講者による報告(13)
- 15回 まとめ

なお、上記に加えて、ゼミ合宿を行う予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の報告・・・50% ゼミへの貢献度・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

遅刻・無断欠席をしないこと。ゼミ中は必ず発言すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 営 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営や情報で使われる数量によるデータの変化は関数としてあらわされます。関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基礎的な計算方法を身につけます。この講義では、1次関数や2次関数からスタートし、関数と接線の関係や逆関数とグラフの関係を理解します。また、指数法則と対数法則をもとに指数関数と対数関数の性質を学習します。微分では、経済でよく使われる多項式関数、指数関数、対数関数の微分を理解し、微分に関する性質として関数の四則演算についてのルールや合成関数の微分計算を身につけます。さらに、合成関数や逆関数の微分公式と対数微分法を練習します。積分では、不定積分と定積分の概念と置換積分法などの計算練習を行います。

教科書 /Textbooks

「新しい微分積分」培風館、渡辺、厚山、水谷、松本著、1600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「経済・経営系 数学概説」新世社、竹内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：関数とグラフ 【極限】、【連続関数】
- 2回：関数と微分 【接線】、【導関数】
- 3回：指数関数と対数関数 【指数関数のグラフ】
- 4回：指数関数と対数関数 【逆関数】、【対数関数のグラフ】
- 5回：導関数 【n次関数の微分】
- 6回：導関数 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】
- 7回：微分 【関数の和・差の微分】
- 8回：微分 【関数の積・商の微分】
- 9回：微分法 【合成関数の微分】、【対数微分法】
- 10回：微分法 【関数の増減】、【関数の凹凸】
- 11回：不定積分 【n次関数不定積分】
- 12回：不定積分 【指数関数・対数関数の不定積分】
- 13回：定積分 【n次関数の定積分】
- 14回：定積分 【指数関数・対数関数の定積分】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経営数学で学んだことが、経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

経営統計【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

統計学は経営や情報において数量的データを扱う上での基本的な学問です。表やグラフを使い、経営のために必要なデータの統計学的分析方法と考え方を経済・経営・情報などの様々な例題とデータを通して身につけていきます。さらに、経営の数理モデルへの応用方法を学びます。この講義では、データの整理の仕方や平均、分散、標準偏差などの基本的な性質を学びます。つぎに、確率計算の基礎と2項分布、一様分布、正規分布の扱い方を練習します。統計学の基礎である中心極限定理について学習し、各種の推定方法や検定方法などを経営などの例題を通して身につけます。

教科書 /Textbooks

「初等統計学」培風館、P.G.ポーエル著、浅井晃、村上正康訳、1700円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「統計学の基礎」培風館、J.C.ミラー著、村上正康訳

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：データの表現 【度数分布表】、【平均】、【分散】、【標準偏差】
- 2回：確率 【確率】、【条件付き確率】
- 3回：確率分布表 【確率分布表】、【期待値】、【平均と分散の性質】
- 4回：確率分布 【独立試行】、【2項分布】
- 5回：確率分布 【一様分布】、【正規分布】
- 6回：標本抽出 【中心極限定理】、【統計学の基礎理論】
- 7回：推定 【大標本法】
- 8回：推定 【小標本法】、【t分布】
- 9回：仮説検定 【大標本法による平均の検定】、【片側・両側検定】
- 10回：仮説検定 【小標本法による検定】、【2つの平均の差の検定】
- 11回：相関 【相関係数】
- 12回：回帰分析 【最小2乗法】
- 13回：カイ2乗検定 【カイ2乗分布】
- 14回：カイ2乗検定 【適合度の検定】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、問題解決方法を具体的に学びます。授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

授業は「数学」を履修していることは前提としていませんが、履修していれば「経営統計」がより深く理解できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

統計学の基本的な考え方や道具立てを学ぶために、この科目を履修することをぜひお勧めします。

キーワード /Keywords

平均、分散、標準偏差、分布、推定、検定

経済学入門A 【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済学の基礎の1つであるミクロ経済学の導入と初歩的な手法の習得を目指します。
また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築きます。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : イントロダクション
なぜ? 経済学を学ぶのか?、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回 : グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回 : 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回 : 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回 : 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回 : 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回 : 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回 : 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回 : 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回 : 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回 : 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回 : 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回 : 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回 : 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回 : 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門A 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Bグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済学の基礎の1つであるミクロ経済学の導入と初歩的な手法の習得を目指します。
また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築きます。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : イントロダクション
なぜ? 経済学を学ぶのか?、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回 : グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回 : 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回 : 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回 : 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回 : 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回 : 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回 : 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回 : 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回 : 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回 : 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回 : 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回 : 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回 : 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回 : 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年Aグループ
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。
1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】
8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
15回 まとめ
(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。
 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】
 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
 15回 まとめ
 (第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

教科書 /Textbooks

P.G.ホーエル『初等統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森棟公夫『統計学入門』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定(準備)
- 10 割合pに関する仮説検定(本体)
- 11 割合pに関する仮説検定(考察)
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題
- 15 統計的推定と検定のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)

。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習支援フォルダに、各回の講義を受講する前に予習すべき課題を掲載する予定である。必ず、予習しておくように。なお、講義は予習をしていることを前提に行われる。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

ミクロ経済学I【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1): 【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2): 【課税】
- 5回 市場と厚生(1): 【余剰】
- 6回 市場と厚生(2): 市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1): 【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2): 【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】 【費用】 【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】 【限界収入】 【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

マクロ経済学I【昼】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1) 【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングII (新JAVA) 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年 (新カリ)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Java(ジャバ)を用いて、プログラミングスキルを体得することを目指します。Javaプログラミングを通じて論理的思考の育成を目指します。また、グループワークを通じてシステムエンジニアとして不可欠なコミュニケーション能力を育成していきます。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著 『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(上)』 2006年、ソフトバンクパブリッシング
結城浩著 『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(下)』 2006年、ソフトバンクパブリッシング

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 Java開発環境Eclipseの使い方について【JDK】【Eclipse】
 - 3回 プログラミングIの復習【オブジェクト】【クラス】【メソッド】
 - 4回 プログラミングIの復習【変数】【配列】
 - 5回 プログラミングIの復習【引数】【戻り値】
 - 6回 インスタンスメソッドとクラスメソッドについて
 - 7回 コンストラクターについて
 - 8回 ファイルの入出力【I/O】
 - 9回 画面の入出力【GUI】【Displayクラス】【Shellクラス】
 - 10回 各種画面部品1【AWT】【SWT】
 - 11回 各種画面部品2【AWT】【SWT】
 - 12回 グループワーク(設計)
 - 13回 グループワーク(開発)
 - 14回 コンテスト
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...40% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：必修科目「プログラミングI」取得後に履修すると効果的な学習ができます。

履修上の注意 /Remarks

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生、または、3年次以降に情報分野のゼミを履修することを希望する学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

Java Eclipse オブジェクト指向 SWT アプリケーション開発

データ構造【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【ヒープ】
- 11回 ソート法2【クイックソート】【シェルソート】【マージソート】
- 12回 グラフ1【グラフ】【隣接行列】
- 13回 グラフ2【ダイクストラ法】
- 14回 応用例【ハノイの塔】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データ解析【昼】

担当者名 /Instructor 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年Aグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年の、所謂情報化社会においては、情報を如何に読み解くかが重要なキーとなっています。特にデータ・数字の情報の読み取りには統計的な知識・技術が欠かせません。また、自ら情報を発信する際にも、データ・数字を統計的にどう扱うかは重要なテーマとなります。この授業では、データとは何か、どうやって読むかに始まって、実際に統計的手法を用いてデータの情報を記述し、分析して推定を行う段階までを少しずつ丁寧に説明します。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内光悦他著, 実践ワークショップExcel徹底活用 統計データ分析基礎編, 秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【データ解析の使い方】
- 2回 1変量データの要約【変数】，【尺度】，【度数分布表】，【ヒストグラム】
- 3回 変数の代表値について，2変数の散布図について【平均】，【分散】，【標準偏差】
- 4回 確率の考え方【確率分布】，【事象】，【2項分布】
- 5回 連続的な分布の扱い方【正規分布】，【確率密度関数】，【累積分布関数】
- 6回 標本平均の安定性について【大数の法則】，【中心極限定理】，【標準誤差】
- 7回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【信頼区間】，【t分布】
- 8回 統計的仮説検定の考え方【背理法】，【有意】
- 9回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】，【F検定】
- 10回 分割表の分析について【 χ^2 乗検定】
- 11回 多くのグループ間での平均値の比較【分散分析】
- 12回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 13回 様々な分析手法【多変量解析概観】
- 14回 質問受付
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題...50% 試験...50%
宿題と試験の得点に出席率を掛けて最終的な得点を算出します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ解析 【昼】

担当者名 /Instructor 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年Bグループ

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年の、所謂情報化社会においては、情報を如何に読み解くかが重要なキーとなっています。特にデータ・数字の情報の読み取りには統計的な知識・技術が欠かせません。また、自ら情報を発信するに際しても、データ・数字を統計的にどう扱うかは重要なテーマとなります。この授業では、データとは何か、どうやって読むかに始まって、実際に統計的手法を用いてデータの情報を記述し、分析して推定を行う段階までを少しずつ丁寧に説明します。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹内光悦他著, 実践ワークショップExcel徹底活用 統計データ分析基礎編, 秀和システム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【データ解析の使われ方】
- 2回 1変量データの要約【変数】，【尺度】，【度数分布表】，【ヒストグラム】
- 3回 変数の代表値について，2変数の散布図について【平均】，【分散】，【標準偏差】
- 4回 確率の考え方【確率分布】，【事象】，【2項分布】
- 5回 連続的な分布の扱い方【正規分布】，【確率密度関数】，【累積分布関数】
- 6回 標本平均の安定性について【大数の法則】，【中心極限定理】，【標準誤差】
- 7回 母集団の標準偏差が未知の場合の標本平均の評価【信頼区間】，【t分布】
- 8回 統計的仮説検定の考え方【背理法】，【有意】
- 9回 2つのグループ間での検定による比較【t検定】，【F検定】
- 10回 分割表の分析について【 χ^2 乗検定】
- 11回 多くのグループ間での平均値の比較【分散分析】
- 12回 ある変数で他の変数を予測する【回帰分析】
- 13回 様々な分析手法【多変量解析概観】
- 14回 質問受付
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題...50% 試験...50%
宿題と試験の得点に出席率を掛けて最終的な得点を算出します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データベース【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社（2006年1月）、2,394円（税込）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
 - 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
 - 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
 - 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
 - 第5回：リレーショナルデータベース
 - 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
 - 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
 - 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
 - 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
 - 第10回：正規化とは【正規化】
 - 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
 - 第12回：データベース設計【データベース設計】
 - 第13回：データベース設計方法
 - 第14回：データベース設計評価
 - 第15回：まとめ
- (パソコン教室を予定していますが、講義の約2/3は講義で、パソコンの演習は1/3程度です。進行状況等により内容は変更になる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 小テスト・課題...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備は必要ありませんが、データベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

履修上の注意 /Remarks

専門的で難易度は少し高めです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

内容的に単位取得のみを目的とした人には向いていません。データベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

キーワード /Keywords

経営戦略【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
『ケースに学ぶ経営学[新版]』（東北大学経営学グループ著）有斐閣、2600円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略〈新版〉-論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第 2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第 4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第 8回 競争の戦略1【5フォースズ】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第 9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 ビジネスシステム戦略【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部性】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】。
- 第14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果(90%)によるが、必要に応じて学期中の小レポートの結果(10%)を加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことが出来る者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織論の展開を追いながら、そうした組織が、現代においてどのように成り立ち、運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

教科書 /Textbooks

岸田民樹編『組織論から組織学へ -経営組織論の新展開-』文眞堂、2009年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード(山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
三戸公『随伴的結果』文眞堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【現代社会における組織】
- 2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】
- 3回 組織の見方① 【オープンシステム・アプローチ】【organized】【状況適合理論】
- 4回 組織の見方② 【organizing】【組織化の進化モデル】【イナクトメント】
- 5回 組織の見方③ 【現代組織の特徴】【官僚制】
- 6回 組織論と人間観① 【経済人】【社会人】【自己実現人】
- 7回 組織論と人間観② 【全人仮説】【意味充実人】【マズローの自己実現人】
- 8回 組織の環境適応① 【ライン組織】【ファンクショナル組織】【ラインとスタッフ】
- 9回 組織の環境適応② 【組織の大規模化】【職能部門制組織】
- 10回 組織の環境適応③ 【トヨタ生産方式と改善】【自律的作業集団】
- 11回 組織の環境適応④ 【多角化戦略】【事業部制組織】
- 12回 組織の環境適応⑥ 【組織間関係論】
- 13回 組織と社会① 【組織と文化】【家の論理】
- 14回 組織と社会② 【責任】【随伴的結果論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...80% 小レポート・レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」「マネジメント論基礎」の内容を復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

可能な限り、意見を反映させていきたいと考えています。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【組織の3要素】【環境適応】【随伴的結果】【自由と責任】

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には、企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から、企業がどのように資本調達を行い、実物資産へ投資し、また、投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹、『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門』，日本経済新聞社（2004年）
石野雄一、『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション コーポレート・ファイナンスの世界
- 2回～4回 コーポレート・ファイナンスの世界【期待リターン，リスク（標準偏差），証券，発行市場，流通市場，ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
- 5回 投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
- 6回～7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株，ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
- 8回～9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達【普通社債，ワラント債，転換社債，MSCB】
- 10回～11回 配当の基礎知識【配当政策，配当性向，配当利回り，自社株買い戻し，株式分割】
- 12回～14回 コーポレート・ガバナンス【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード 取締役会制度，執行役員制度，大株主，敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート（課題）・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回「電卓」を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講する場合は、「簿記論I」・「簿記論II」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は企業ファイナンスIで学習した内容をふまえて、株主の観点から、企業の財務活動を考える上で必要になる理論的基礎を与えることを目的とします。具体的には、「将来の1万円と現在の1万円ではどちらの方が価値が高いか」、「企業価値を最大化するための資本構成は存在するか」などを学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹, 『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス(改訂版)』, 創成社(2009年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸, 『コーポレート・ファイナンス入門』, 日本経済新聞社(2004年)
石野雄一, 『ざっくり分かるファイナンス』, 光文社(2007年)
大津広一, 『ファイナンスと事業数値化力』, 日本経済新聞社(2010年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 企業ファイナンスIの復習
- 2回~3回 現在価値計算【現在価値(PV), 将来価値(FV), 安全利子率, リスクプレミアム, 投資信託】
- 4回~6回 株式価値・負債価値と企業価値【金融商品, 利付債, 割引債, クーポン, 配当割引モデル(DDM), 企業価値, 株式価値, 負債価値】
- 7回~9回 資本コスト【資本コスト, 最低要求収益率, 安全資産, 加重平均資本コスト, ポートフォリオ, マーケット・ポートフォリオ, 資本資産評価モデル(CAPM), β (ベータ)】
- 10回~11回 投資決定の基礎理論【投資決定, 割引キャッシュフロー(DCF)法, 正味現在価値(NPV), 内部収益率(IRR), 回収期間法】
- 12回~14回 資本構成の基礎理論【レバレッジ効果, MM理論, 裁定取引, 法人税, 倒産コスト, トレード・オフ・モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート(課題)・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回「電卓」を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講する場合は、「企業ファイナンスI」・「経営統計」・「経済学入門A」・「簿記論I」・「簿記論II」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングI【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。しかしこれが企業の戦略行動に具体的に活かされているかどうかは疑問が残り、しかも成熟市場下の現在、マーケティングをめぐる分析フレームワークも高度化してきている。
ここでは、このマーケティングをI(前期)とII(後期)に分け、マーケティングIでは、基礎的知識と科学的方法論をまず身につけることを目標とし、マーケティング概論とマーケティング・リサーチについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣、
伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
P. Gホーエル「初等統計学」培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの仕組みと歴史 【マネジリアル・マーケティング】
- 第3回 マーケティング・マネジメントの考え方【市場細分化】【ターゲティング】
- 第4回 " 【ポジショニング分析】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 科学的方法論とリサーチ
- 第8回 マーケティング・リサーチの進め方【アンケート】【グループインタビュー】
- 第9回 " 【平均値の差の検定】
- 第10回 " 【適合度検定】
- 第11回 " 【回帰分析】
- 第12回 " 【多変量解析】
- 第13回 事例演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験が中心。 授業取組割合・・30% 期末試験・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マーケティングIでは、実務でよく使われる統計学を紹介するため、「経営統計学」ないし「統計学」の履修が効果的学習に繋がる。それができなければ、マーケティングIIから受講しても良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングII 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マーケティングIIでは、戦略ロジックと具体的なスキルの習得を通じて、マーケティングに関する問題解決能力を身につけることを目標とし、戦略的マーケティングとマーケティング・ミックスについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣
伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 戦略的マーケティングの考え方【SWOT分析】
- 第3回 " 【戦略ドメイン】 【製品ポートフォリオ分析】
- 第4回 " 【競争市場戦略】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 製品戦略 【製品ライフサイクル】
- 第8回 " 【ブランド】 【経験価値】
- 第9回 価格戦略 【需要価格弾力性】 【プロスペクト理論】
- 第10回 プロモーション戦略【広告効果測定】
- 第11回 流通戦略 【チャネル政策】
- 第12回 " 【取引コストの経済性】
- 第13回 ケース演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験が中心。
授業取組割合・・・30% 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論 【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを経々側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management: Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文眞堂が公刊されています。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
 - 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
 - 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】、労使関係論の前半【企業別組合】
 - 11回 労使関係論の後半【団体交渉】、非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】
 - 12回 女性労働者と高齢労働者の問題【ダイバーシティ】【再雇用制度】
 - 13回 専門職制度・研究開発技術者の人的資源管理【プロフェSSIONAL】【R&D】
 - 14回 最近の人的資源管理学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ、択一式問題演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくことよ。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語はしないこと、無断で遅刻・退席をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってほしい。
あと教科書は「改訂版」を使用するので、「初版」ではなくこちらを持参されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないであろう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずである。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれないが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえる。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

財務会計論I【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会计学)とは何か?【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計【売上原価について】
- 9回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 資産について【資産概念の変化について】
- 12回 負債について【負債概念の変化について】
- 13回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 14回 会計のルール【企業会計原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』3版新世社、1,890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会、4,830円○
西澤健次『負債認識論』国元書房、2,415円○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 費用配分という考え方【期間損益】
- 4回 減価償却について【定額法】【定率法】
- 5回 引当金の会計(その1)【退職給付会計】
- 6回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 7回 負債概念について【退職給付会計】
- 8回 有価証券の会計【評価益】
- 9回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 10回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 11回 有価証券評価益と実現概念【原価】【時価】
- 12回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 13回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 14回 財務報告【金融商品取引法】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論I【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、まずラーメン屋の事例を用いて原価計算の基本を学習する。次に造船業や土木建設業などの個別受注生産の企業における原価計算の手続き（個別原価計算）を学習する。なお、「原価計算論II」では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を扱う。

教科書 /Textbooks

前半：使用しない。
後半：清水孝・長谷川惠一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第1講～第8講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 ラーメン屋事例① 費用と利益の考え方【損益分岐点】
- 3回 ラーメン屋事例② 機械・設備にかかるお金【減価償却費】
- 4回 ラーメン屋事例③ 在庫と借入金の返済【利息】
- 5回 ラーメン屋事例④ 損益計算表とキャッシュフロー計算書【P/L & CF計算書】
- 6回 ラーメン屋事例⑤ 貸借対照表【B/S】
- 7回 ラーメン屋事例⑥ 財務諸表の作成【F/S】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 テキスト第4講 材料費の計算【材料費】
- 10回 テキスト第5講 労務費の計算【労務費】
- 11回 テキスト第7講 製造間接費の配賦①【実際配賦の限界】
- 12回 テキスト第7講 製造間接費の配賦②【製造間接費配賦差異】
- 13回 テキスト第7講 製造間接費の配賦③【予算差異】【能率差異】【操業度差異】
- 14回 テキスト第8講 部門別個別原価計算【部門別個別原価計算】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30% 期末試験...37% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

電卓を毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論II【昼】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

そもそも価格とはどうやって決まるのであろうか。「価格」=「利益」+「原価」であるが、原価計算論の焦点は「原価」の計算、つまり、製品の製造にいくらかかったのか、にある。本講義では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を学習する。

教科書 /Textbooks

清水孝・長谷川恵一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第3講、第9講～第14講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 テキスト第 3講 総合原価計算の概説【加工費】
- 3回 テキスト第 9講 総合原価計算における月末仕掛品の評価【月末仕掛品】
- 4回 テキスト第10講 工程別総合原価計算①【工程】
- 5回 テキスト第10講 工程別総合原価計算②【前工程費】
- 6回 テキスト第11講 仕損・減損の処理①【仕損】
- 7回 テキスト第11講 仕損・減損の処理②【減損】
- 8回 テキスト第12講 その他の総合原価計算①【組別総合原価計算】
- 9回 テキスト第12講 その他の総合原価計算②【等級別総合原価計算】
- 10回 テキスト第12講 その他の総合原価計算③【積数】
- 11回 テキスト第13講 標準原価計算①【直接材料費差異】
- 12回 テキスト第13講 標準原価計算②【直接労務費差異】
- 13回 テキスト第13講 標準原価計算③【製造間接費差異】
- 14回 テキスト第14講 利益管理のための原価情報【CVP分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...67% レポート...33% (全11回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「原価計算論I」を履修済みであることが望ましい。

電卓を毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論III 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科, 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日商簿記検定2級程度（中級レベル）の講義内容であり、すでに簿記論I・IIを履修していることが絶対的な条件である。できる限り多くの練習問題を解いてもらい、中級レベルの問題に慣れてもらうことに主眼をおきたい。

教科書 /Textbooks

TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（TAC出版）、そのほかプリントを配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 有価証券取引【売買・評価】
- 2回 固定資産取引【減価償却】
- 3回 引当金取引【貸倒引当金】
- 4回 手形【裏書と割引】
- 5回 社債【満期償還と買入償還】
- 6回 本支店会計【内部取引】
- 7回 日商簿記検定演習（解答と解説）【日商簿記検定試験2級（第132回）】
- 8回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第132回）】
- 9回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第131回）】
- 10回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第131回）】
- 11回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第130回）】
- 12回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第130回）】
- 13回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第129回）】
- 14回 日商簿記検定演習（解答と解説）【同上（第129回）】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

工業簿記【昼】

担当者名 /Instructor 大崎 美泉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

工業簿記は、製造業において用いられる簿記であり、商業簿記と対比されます。すなわち、材料を購入して加工し、製品化するまでの製造過程の記録・計算に主眼を置く点で、商業簿記とは大きく異なっています。工業簿記では、製造活動を記録・計算するための特別の勘定を設け、これに原価計算の手続きによって算出された数値を記録してまいります。したがって、工業簿記を理解するためには、原価計算の仕組みを理解し、これと簿記システムとの関連を把握することが必要です。本講義では、工業簿記の基本的な仕組みと手続きを学習していきますが、理論的説明に終始することなく練習問題をできるだけ多く取り入れていく予定です。このような実習を積み重ねることによって、より確実な理解を得ることができます。

教科書 /Textbooks

伊藤博 小林哲夫 『最新 工業簿記(増補改訂版)』 (実教出版 2009)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 工業簿記の基礎と構造
2. 原価と原価計算
3. 材料費の計算
4. 労務費の計算
5. 経費の計算
6. 個別原価計算
7. 製造間接費の配賦
8. 部門別原価計算
9. 総合原価計算
10. 等級別総合原価計算
11. 組別総合原価計算
12. 工程別総合原価計算
13. 標準原価計算
14. 直接原価計算
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (70%)、日常の学習状況 (10%)、提出課題 (20%) を勘案して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

簿記の基礎を理解していることが望まれます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

電卓等を準備してください。

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、ケインズのな財政政策の有効性、貨幣流通量がマクロ経済に与える影響、IS-LMモデル、経済成長の基本メカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性(1) 【45度線モデル】【財政政策】【均衡予算乗数】
- 3回 財政政策の有効性(2) 【消費・貯蓄決定のライフサイクル仮説】
- 4回 財政政策の有効性(3) 【リカードの中立命題】
- 5回 財政政策の有効性(4) 【国債負担】
- 6回 財政政策の有効性(5) 【財政の持続可能性】
- 7回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(1) 【ベビーシッター組合の寓話】
- 8回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(2) 【貨幣の定義・分類】【貨幣供給】【貨幣需要】
- 9回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(3) 【流動性選好理論】
- 10回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(4) 【中央銀行】【金融政策】
- 11回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 12回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 13回 経済成長の基礎理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 14回 経済成長の基礎理論(2) 【貯蓄率】【資本蓄積】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム設計I【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニク』、1989年、日科技連-○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この科目履修後に、「システム設計II」とあわせて受講すれば理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

システム設計II 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は様々なアプリケーションについて考察し、システム設計をおこなうための必要な概念、モデル化技法、プログラミング技法について学習する。開発環境を整えば、スマートフォン向けのアプリケーション開発にも取り組む。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年、SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

永井善王著『Excel VBAマクロ組み方講座』2004年、技術評論社○
結城浩著『Java言語プログラミングレッスン上・下』1999年、ソフトバンクパブリッシング○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、コンピュータシステムの得意なこと
 - 1回 様々なシステムとその役割【生産管理】【財務管理】【人事管理】【情報管理】【ERP】
 - 2回 システム設計とは【システム】【環境】【境界】
 - 3回 システム設計の方法論について【システム開発手法】【プロトタイプ】【ウォーターフロー】
 - 4回 ヒューマンエラーとシステム設計【IO】【例外処理】
 - 5回 システム設計と開発環境について【Android】【コンパイル】
 - 6回 アルゴリズムとプログラミングについて【クラス】【メソッド】【フィールド】
 - 7回 データ構造とアルゴリズムについて【引数】【戻り値】
 - 8～10回 ユーザインタフェースの設計手法について【画面推移】
 - 11～13回 グループ演習【アプリケーション設計】
 - 14回 コンテスト
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業態度...15% 課題...25% コンテスト結果...30% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：「プログラミングI・II」「システム分析」を既に履修している場合は、効率的な学習ができます。学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

オペレーションズ・リサーチ【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

オペレーションズ・リサーチは、最小の労力で最大の効果を挙げるための手段を考えるための方法の一つで、経営の場面においても、工程の管理や店、サービス機関における窓口の管理など様々な場面で利用されています。この授業では、オペレーションズ・リサーチの基礎について、実習も交えてなるべく実践的に講義します。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、ORとは。
- 2回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 3回 【AHP】の実習
- 4回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】
- 5回 【PERT】の実習
- 6回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】
- 7回 【経済性工学】の実習
- 8回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 9回 【線形計画法】の実習
- 10回 競争状態における利得の最大化【ゲーム理論】
- 11回 【ゲーム理論】の実習
- 12回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】
- 13回 【待ち行列理論】の実習
- 14回 質問受付など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%，レポート...30%
ただし、欠席を減点対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報管理 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ITの進展と共に情報が社会、経済環境に大きな影響を与え、個人、企業問わず情報の効率的に必要なデータを収集し、加工、管理し、戦略的に利用する技術は必要不可欠なものとなってきています。本講義では、データ収集の目的に利用可能なWebプログラミング中心に学びます。具体的には、データの収集方法としてのCGIを学びます。

CGIとは、Common Gateway Interfaceの略で、入力欄やボタンのあるWebページからデータを取得し、何らかの処理をすることができる仕組みです。たとえば検索ページで検索語を入力欄へ入力して検索ボタンを押すと検索結果が表示されますが、あのようなページをイメージするとわかりやすいかと思います。その他アンケートや掲示板、Webショップの買い物かごなどを作ることができます。

教科書 /Textbooks

講義の最初に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古田たかし『はじめてのCGI&Perl』ソフトバンクパブリッシング
Rによる統計データ分析入門

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、CGIとは【CGI】
 - 第2回：CGIに必要なソフトのインストール
 - 第3回：CGIの仕組み
 - 第4回：CGI作成のためのPerl言語入門【Perl言語】【変数、配列】
 - 第5回：CGI作成のためのPerl言語入門【条件分岐】
 - 第6回：CGI作成のためのPerl言語入門【繰り返し】
 - 第7回：CGI作成のためのPerl言語入門【ファイル操作】
 - 第8回：乱数の利用【乱数】
 - 第9回：クリッカブルマップの利用【クリッカブルマップ】
 - 第10回：クッキーとは【クッキー】
 - 第11回：CGI技術の応用【CGI応用】
 - 第12回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【アンケート】
 - 第13回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【買い物かご】
 - 第14回：SSI (Server Side Include)
 - 第15回：まとめ
- (進行速度、受講者の希望等により内容は変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 課題・小テスト...40% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義ではPerl言語というプログラミング言語による簡単なプログラミングをします。PerlはJAVAに似ていますので、JAVAの文法を復習しておくとう理解し易いと思います。

履修上の注意 /Remarks

経営情報学科以外の学生はプログラミング科目の受講後の履修が望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「数学」で学んだことをもとに、関数の最大値と最小値の求め方を学習します。つぎに、2変数関数についての微分計算を練習し、その最大値と最小値の求め方を理解します。さらに、条件制約がある場合の2変数関数の最大値と最小値の求め方に進みます。これらの方法を理解して、経済における効用の最大化やリスクの最小化を考えます。また、ここで学んだことの応用として、ファイナンスにおける最適なポートフォリオの計算やリスクの計算方法を練習します。

教科書 /Textbooks

「新しい微分積分」培風館、渡辺、厚山、水谷、松本著、16000円
(必要に応じてプリントを配布します)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「経済数学」新世社、武隈、石村 著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1回：微分の性質 | 【平均値の定理】、【関数の増減】 |
| 2回：微分の性質 | 【極値の判定】、【関数の凹凸】 |
| 3回：微分的应用 | 【効用関数】 |
| 4回：微分的应用 | 【リスク回避係数】 |
| 5回：偏微分法 | 【2変数関数】、【偏微分の性質】 |
| 6回：偏微分法 | 【2変数関数の極値】、【2変数関数の凸性】 |
| 7回：偏微分的应用 | 【条件付き極値】 |
| 8回：偏微分的应用 | 【ラグランジュの未定乗数法】 |
| 9回：偏微分的应用 | 【連立方程式の解法】 |
| 10回：確率・統計 | 【確率分布】、【期待値と分散】 |
| 11回：確率・統計 | 【2変数の確率分布】 |
| 12回：ファイナンスへの応用 | 【ポートフォリオ計算】、【シャープの測度】 |
| 13回：ファイナンスへの応用 | 【不等式制約のポートフォリオ計算】 |
| 14回：ファイナンスへの応用 | 【ポートフォリオとリスクの計算】 |
| 15回：まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

「数学」を履修していることを前提として授業が行われます。「経営統計」は必ずしも履修していなくてもかまいません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進め方：新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、経営や情報における応用問題への適用の仕方と問題解決方法を具体的に学びます。「数学」が理解できファイナンスに興味のある学生には最適な科目です。経営への少し高度な数学の話ですから、後半の回では欠席が続くと理解できなくなる可能性があります。

キーワード /Keywords

関数の増減、極値の判定、効用関数、リスク回避、2変数関数の極値、条件付き極値、ポートフォリオ計算

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていくことを、本コースの目的とする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2011年版中小企業白書」経済産業調査会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】 【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】 【問屋制下請】 【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】 【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取組割合・30% 期末レポート・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学特殊講義 A 【昼】

担当者名 /Instructor 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、企業によるイノベーションのマネジメントに関する基礎知識を取得することである。成熟化し、停滞する国内の経済環境において、企業が成長する上ではイノベーションを持続的に生み出すことができるシステム作りが重要となる。それゆえに、今日の企業経営者には、イノベーションの本質について深い理解が求められる。本講義では、企業経営者がイノベーションをマネジメントする上で必要な基礎的な概念と理論について学習する。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

一橋大学イノベーション研究センター[編]『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 イノベーション・マネジメントとは何か?
- 第3回 イノベーションのプロセス
- 第4回 イノベーションのパターン(1)
- 第5回 イノベーションのパターン(2)
- 第6回 イノベーションと企業のパフォーマンス(1)
- 第7回 イノベーションと企業のパフォーマンス(2)
- 第8回 研究・技術開発のマネジメント(1)
- 第9回 研究・技術開発のマネジメント(2)
- 第10回 新製品開発のマネジメント(1)
- 第11回 新製品開発のマネジメント(2)
- 第12回 新製品開発のマネジメント(3)
- 第13回 イノベーションと企業間システム(1)
- 第14回 イノベーションと企業間システム(2)
- 第15回 まとめ

なお、受講生の興味、理解度に応じて、授業内容は変更される。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト60%、授業中のエクササイズ・小テスト40%を基礎点として、授業中の発言を加味して総合的に判断する。詳細は、オリエンテーション時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営組織論、経営戦略論などを履修していることが望ましい。授業に関する準備や復習に十分な時間が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学特殊講義B 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業が厳しい経営環境の中で競争に打ち勝っていくためには、絶えず「新事業」を企画していかなければなりません。また我々の働き方も変化し、これまでの会社という組織に属する、いわゆる会社員になるものから、自ら「ベンチャー企業」を興す人が増えてきました。そこで本講義では、これまで学習してきた経営学の基礎的科目（例：経営戦略、マーケティング、会計など）をもとに、事業計画「ビジネスプラン」の作成方法について学習します。また3～5人のグループに分かれて実際にビジネスプランを作成します。なお、優秀なビジネスプランについては、九州ニュービジネス協議会が主催する「大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」に応募したいと思います。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメやプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『MBA事業開発マネジメント』（グロービス経営大学院編著）ダイヤモンド社 2,940円
- 『MBAビジネスプラン』（グロービス経営大学院著）ダイヤモンド社 2,940円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ビジネスプランの意義及び構成
- 3回 アイデアの抽出
- 4回 ビジョン・ミッション・経営理念
- 5回 ビジネスモデルと戦略【ビジネスモデル】
- 6回 ビジネスモデルと戦略【事業戦略】
- 7回 ビジネスモデルと戦略【マーケティング・オペレーション】
- 8回 ファイナンス【財務計画】
- 9回 ファイナンス【資金調達】
- 10回 マネジメントチームとリーダーシップ
- 11回 ビジネスプラン作成【演習①】
- 12回 ビジネスプラン作成【演習②】
- 13回 ビジネスプラン作成【演習③】
- 14回 ビジネスプラン発表①
- 15回 ビジネスプラン発表②、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ビジネスプランの出来栄え…50%、 授業への取組み姿勢…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営戦略やマーケティング、会計など、経営学の基礎的科目を履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまで学習してきたことを活かして、実際にビジネスプランを作成してみたい方を希望します。

経営学特殊講義B 【昼】

キーワード /Keywords

生産マネジメントB 【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営工学は、日本では生産分野を中心に展開されてきたが、経営への適用にも注目して、その対象範囲の広がりを理解する。経営工学の代表的手法を概説した上で、実際の適用について、演習問題を通して論理的に身につける。

教科書 /Textbooks

ファイル等を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秋庭雅夫他「経営工学概論」朝倉書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生産・資源・マネジメント
- 2回 競争原理による思考法
- 3回 協調原理による思考法
- 4回 対象が明確な場合の課題分析手法
- 5回 対象が不明確な場合の課題分析手法
- 6回 線形計画法 【シンプレックス法】
- 7回 ネットワークモデル1 【PERT】
- 8回 ネットワークモデル2 【CPM】
- 9回 日程計画1 【山積み表】
- 10回 日程計画2 【ガントチャート】
- 11回 需要予測、在庫管理 【回帰分析】、【安全係数】
- 12回 ゲーム理論1 【純粹戦略】
- 13回 ゲーム理論2 【混合戦略】
- 14回 損益分岐点分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 : 25% 課題 : 25% 試験 : 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

USBメモリーを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経営 A 【昼】

担当者名
/Instructor

王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際経営に関する基礎知識の取得と理解促進にウエイトを置く

以下3部分に分けて講義を進めていく

- ①基礎概念、ビジネス手法の紹介
- ②統計や財務資料の配布・解説
- ③多国籍企業による投資戦略のユニークな事例の紹介

受講生の理解度を確認しながら、難易度を調節できるように工夫していく
質疑は随時受付する

教科書 /Textbooks

プリント配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

湯沢威他『国際競争力の経営史』有斐格、2009年
『国際経営論への招待』有斐閣ブックス、2002年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の狙い、概要、段取りの説明
- 第2回 基礎概念の説明I: 「多国籍企業」、「経営国際化」【企業の国籍】【操作的定義】
- 第3回 基礎概念の説明II: 「直接投資」【対外・対内投資】、【間接投資】【国際収支ベース】
- 第4回 対外進出の主要手法 【単独投資】【合併】【M&A】【技術供与契約】
- 第5回 企業の多国籍化の誘因I【貿易摩擦回避型】【原価削減型】【規制回避】II【PLC説】【資本余剰説】
- 第6回 多国籍企業誕生・成長の歴史【株式会社誕生起源説】【保護貿易】【FORTUNE誌】
- 第7回 多国籍企業の国際事業本部の機能と立地【RHQ】【地域統合】【外資政策】
- 第8回 多国籍企業の所有戦略I 【持ち分型】【完全所有】【共同所有】【非持ち分型】
- 第9回 多国籍企業の所有戦略II 【非持ち分型】【技術供与契約方式】
- 第10回 事例紹介I: 日系多国籍企業【現地調査を踏まえたもの、映像の提供】
- 第11回 事例紹介II: 東アジア系多国籍企業【現地調査を踏まえたもの、映像の提供】
- 第12回 多国籍企業の租税戦略I【法人所得税率】【節税と脱税】
- 第13回 多国籍企業の租税戦略II【タックスヘイブン】
- 第14回 多国籍企業の租税戦略III【移転価格】【関連取引】
- 第15回 総合質疑

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト40%
期末テスト60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際経営 A 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

紹介資料、配布資料を熟読すること
講義中に積極的に質疑・発言する心掛けを！

履修上の注意 /Remarks

私語を謹んで下さい
遅刻・早退を謹んで下さい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経営B 【昼】

担当者名
/Instructor

王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は比較経営の枠組みを押さえた上で、東アジア地域の企業経営、特に同じ漢字文化圏（または儒教文化圏）に属する日中韓の企業経営システムの比較を中心に講義を進めていく。
現地企業調査で得た一時資料を活用し、具体的な企業事例（一部現地調査時の報告書）を織り交ぜながら、3カ国経営様式の異同を分かりやすく紹介する。

教科書 /Textbooks

未定（改めて通知する予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

王効平『日中韓企業の経営比較』税務経理協会、2009年改訂版
末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大学出版会、2000年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較経営の基本的枠組み【定性分析】、【定量分析】、【環境適応理論】
- 2回 比較アプローチの意義と課題
- 3回 東アジア型企業経営の捉え方【儒教文化圏】
- 4回 企業制度比較【企業統治】、【経営権市場】、【同族企業】
- 5回 経営システムの比較
- 6回 経営目標【成長重視】、【利益重視】
- 7回 経営戦略【多角化】、【国際化】、【M&A】、【戦略的提携】
- 8回 経営組織【公式化】、【集権化】【フラット化】、【ミドルアップダウン型】
- 9回 管理特性【業績評価】【人材養成】【情報伝達】
- 10回 資金調達様式の比較【内部調達・外部調達】、【負債比率】、【自己資本比率】
- 11回 ベンチマーク採用の有無【ビジネスモデル】【エクセレントカンパニー】
- 12回 事例紹介I【韓国のケース】
- 13回 事例紹介II【中国のケース】
- 14回 事例紹介III【日本のケース】
- 15回 グローバル化と東アジア型企業経営

成績評価の方法 /Assessment Method

期中小テスト40%
期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストでよく予習・復習すること
配布資料を熟読すること

履修上の注意 /Remarks

私語を謹んで下さい
遅刻・早退を謹んで下さい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

質疑は随時受け付けるが、教員から質問された場合、自分の考えを述べられるように心構えをしてもらいたい。

キーワード /Keywords

情報マネジメントA 【昼】

担当者名 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「情報」を中心とした経営やビジネスモデルの展開方法について考察する。「情報」の本質についてレビューした後、マ-ケティング情報システムや流通情報システムなどを事例とする情報経営、eビジネスの実際を配布資料(VTR含む)をまじえて具体的に検討する。

教科書 /Textbooks

『ナレッジ・クリエイター』(越出著) 創成社 ¥2200

適宜、レジユメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『インタ-ネット・マ-ケティングの原理と戦略』(ワ-ド・ハンソン著) 日本経済新聞社 ¥2800
『サプライチェーン・コラボレーション』(ポアリエ&レイタ-著)中央経済社 ¥4000

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 経営情報学の意義	経営学における「情報と知識」
2 情報の本質	情報行動論の視座
3 情報のダイナミズム	動的情報(意味的情報)のポイント
4 経営情報と意思決定	経営情報システムの発展史
5 経営情報論の整理	企業における情報とマネジメント(小括)
6 電子市場の生成	情報化社会の流通システム
7 バ-チャル・コミュニティ(C to C)	経済社会のネットワ-クと電子場
8 電子商取引 I(B to C)	対消費者のネットビジネス
9 電子商取引 II(B to B)	対企業のネットビジネス
10 サプライチェーン・モデル	仮想企業の最適化システム
11 顧客関係管理とデ-タベ-ス(CRM)	「One to One」顧客管理システム
12 セ-ルス・フォ-ス・オートメ-ション(SFA)	営業支援システム
13 RFID(ICタグ)	非接触型ICカ-ドの活用システム
14 ビジネスモデルの創造	小売業の経営情報システムなど
15 まとめ	ポイントの整理と残された課題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に課す小テスト・レポ-ト・・・40% 学期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

情報マネジメントBとセットで受講することが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席を重視します

キーワード /Keywords

情報化社会の経営

情報マネジメントB 【昼】

担当者名 /Instructor 越出 均 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「組織」と「情報」の議論を中心に意味ある情報(=知識)の共有、ならびに創造の意義を明らかにし、個人・集団・組織はもとより消費社会に関わる「知」のマネジメントについて検討する。日常的な経験知をはじめ、科学的知識の生成・発展に不可欠な組織の仕組み、学習プロセスを実際場・電子場の諸問題として展開。

教科書 /Textbooks

『ナレッジ・クリエイター - 』(越出 著) 創成社 ¥2200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『知識創造企業』(野中&竹中 著) 東洋経済新報社 ¥2100

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1	知識経営の意義	経営における意味の情報(=知識)
2	経営組織の未来	知識社会の展望
3	情報と知識の議論	情報経営のフロンティア
4	知識マネジメント(知識変換メカニズム)	知識マネジメントの「暗黙知」「形式知」
5	知識共有(実際場と電子場)	知識の流通メカニズム
6	知識創造とクリエイター -	知識の創発メカニズム
7	知識マネジメントの整理	学習ポイントの確認(小テスト)
8	顧客知の活用システム	関係性のマネジメントと知識共創
9	組織学習と「知」の蓄積	販売部門のスキルアップと学習
10	熟練者と「知」の伝承	暗黙知の共有化
11	専門家の知識マネジメント	ナレッジ・クリエイター -
12	失敗の「知」に学ぶ	経験知の有効活用
13	事例研究 I	実際場の知識マネジメント
14	事例研究 II	電子場の知識マネジメント
15	まとめ	ポイントの整理

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に課する小テスト、レポート・・・40% 期末試験・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

情報マネジメントAとセットで受講することが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席を重視します

キーワード /Keywords

知識社会

国際会計論【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際会計の研究領域は、主として(1)会計制度の国際比較、(2)会計基準の国際的調和化、(3)企業活動の国際化に伴う会計問題の三領域に分類されるが、本講義では、(2)の会計基準の国際的調和化論、なかでも、国際会計基準審議会の統合化活動について詳細に検討するとともに、併せて国際会計基準および国際財務報告基準の個別具体的な検討も行いたい。また会計に関する重要な新聞記事についてもその都度紹介することにしたい。

教科書 /Textbooks

基本的には講義用レジユメを配布し、それに基づき講義する。講義用レジユメは毎年大幅に改訂しているので注意されたい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際会計の意義と必要性
- 2回 同上
- 3回 コンバージェンスからアドプションへ
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 国際会計基準および国際財務報告基準の個別具体的な検討(IAS2など)
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を忘れずに。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報会計【昼】

担当者名 /Instructor 大崎 美泉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業が厳しい競争環境の中で勝ち抜いていくためには、ITの活用が不可欠です。ITは、企業経営にインパクトを与え、情報システムとしての会計に大きな変革をもたらしました。本講義では、まず財務会計の観点から、コンピュータが企業会計に与えた影響について検討するとともに、コンピュータを用いた簿記・会計のシステム、データベース・システム、インターネットによるディスクロージャーについて、実習を含めて学習していきます。次に管理会計の観点から、ITや情報ネットワークを活用した企業情報システムの展開について考察するとともに、コンピュータを利用した経営分析について実習を行っていきます。これらの学習を通じて、社会人として必要なビジネス・スキルを身につけることができます。

教科書 /Textbooks

特に使用せず、必要な資料を適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

上総康行・上古融『会計情報システム』(中央経済社 2000年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コンピュータの発達と企業会計
2. データベース・システムとDBMS
3. エクセルのデータベース
4. アクセスの基本と商品管理
5. アクセスによる顧客管理と販売管理
6. エクセルによる簿記・会計(ワークシート帳簿)
7. エクセルによる簿記・会計(試算表と精算表)
8. エクセルによる簿記・会計(財務諸表)
9. インターネットと会計ディスクロージャー
10. EDGARシステムとEDINET
11. 企業情報システムの展開(MIS, DSS)
12. ネットワークの活用と企業戦略の展開(SIS, CALS)
13. エクセルによる経営分析(実数法と趨勢法)
14. エクセルによる経営分析(比率法)
15. エクセルによる経営分析(レーダーチャート)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績(50%)、課題の提出状況(30%)、授業への取り組み(20%)を目安とし、これらを総合的に勘案して評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

情報処理の基礎を理解しておくことが望まれます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

USBメモリ、その他の記憶媒体を用意してください。

キーワード /Keywords

会計監査論 【昼】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業から独立した立場にある公認会計士が、財務諸表の信頼性を検証し担保する外部監査について、その本質と目的、手続と報告方法、さらには監査職能の資本市場への関わりについて考察する。経済学部履修者や資格試験受験志望者にとっては、これまで学んできた会計関連科目の総まとめになろう。しかしながら、本講義では会計専門職が社会に対して担う責任の拡がりを、広く考察するので、過去に会計科目を学んだことのない人であっても、興味や関心があれば積極的に受講されたい(簿記の知識が無くても授業内容は十分理解できるはずである)。講義時間中においては、監査に関わりのある社会的な視点や、会計不正事件をも広く紹介し、履修者に関心を持ってもらう意向である。

教科書 /Textbooks

八田進二編著 『(新訂版)監査論を学ぶ』 同文館出版 ISBN4-495-16973-4 (税別3,500円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

教室にて別途指示をすることがある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内は各回の授業内容に関わるキーワード：

- 第1回 : オリエンテーション～会計監査論を学ぶ意義と役立ちを考える～
- 第2回 : 会計専門職の職業倫理【会計専門職】【職業倫理】
- 第3回 : 「一般に公正妥当と認められた監査基準」について【GAAS】
- 第4回 : 「監査基準書」とその体系について【SAS】【実務指針】
- 第5回 : 監査契約と監査計画について【監査計画】
- 第6回 : 内部統制について【内部統制】
- 第7回 : 監査リスクについて【監査リスク】
- 第8回 : 監査一巡の手続について【運用テスト】【実証テスト】
- 第9回 : 監査報告書の意義とその種類について【監査報告書】
- 第10回 : 企業経営環境とゴーイング・コンサーン問題について【GC問題】
- 第11回 : 四半期レビュー報告書と保証水準について【レビュー】【保証水準】
- 第12回 : 企業改革法(SOX)とJ-SOXについて【金融商品取引法】【内部統制ルール】
- 第13回 : 日・米の公認会計士試験問題の一例紹介【CPA試験】
- 第14回 : 利益調整の動機と、粉飾決算について【粉飾決算】
- 第15回 : まとめと展望【批判会計学としての会計監査論】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果 凡そ70%、レポート 凡そ20%、その他積極性等 凡そ10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回出席を確認し、定期試験以外にレポートも課す。特に予習は要らないが、復習ができるよう、教室にては毎回の授業の内容をしっかりとメモしておく必要がある。

履修上の注意 /Remarks

簿記会計の知識があれば良いが、しかし履修科目前提として求めるものではない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目はいわゆる「山カケ」で単位がとれる科目ではない。履修の動機付けをしっかりと持った学生の受講を希望する。

キーワード /Keywords

財務諸表、公認会計士、金融商品取引法、内部統制、ディスクロージャー、粉飾決算

税務会計【昼】

担当者名
/Instructor

畠中 瞳 / HATAKENAKA HITOMI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 3年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

税務会計は課税所得算定の基本規定である法人税法が研究対象の中心である。法人税法の諸規定の主な目的は、課税所得の金額を量的に算定することにある。しかし、法人税法において企業の会計行為をあますところなく法規定をもって規制することは不可能である。したがって、企業が「一般に公正妥当な会計処理の基準」に従う経理を前提としながら、法人税法の目的を果たすために必要な最小限の規定を設け、企業の会計行為を規制している。

故に、法人税法は企業会計上の損益計算（収益 - 費用 = 純損益）を基礎としながら、課税所得計算（益金 - 損金 = 課税所得）による所得金額の算定方法を定めている。したがって、収益と益金、費用と損金との間に一定の差異が生ずる。その差異を法人税申告書の上で調整することにより、税法の定める課税所得を算出するのである。

本講義では、企業会計で計算された利益額をもとにして、これに税法上の規定によって修正し、または調整を行い、税額を算定するもとなる利益額すなわち課税所得を計算することを内容とする課税所得計算原理を中心に税務会計の概要を修得することを目標とする。

教科書 /Textbooks

『税務会計要論 新訂』（中田信正著）同文館出版 ¥2,900

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 税務会計の基本的考え方
- 2回 税金の意義、根拠及び種類
- 3回 企業会計と税務会計の差異
- 4回 課税所得計算の仕組み
- 5回 税務収益(1)【販売収益 特殊販売収益①】
- 6回 税務収益(2)【特殊販売収益② 長期請負工事収益】
- 7回 税務費用(1)【給与 給料 賃金 賞与 退職給与 報酬】
- 8回 税務費用(2)【交際費 寄付金①】
- 9回 税務費用(3)【寄付金② 租税公課 欠損金繰越控除】
- 10回 税務資産(1)【有価証券 意義 範囲 取得価額 譲渡損益 期末評価】
- 11回 税務資産(2)【棚卸資産 意義 範囲 取得価額 期末評価 原価差額の調整】
- 12回 税務資産(3)【固定資産①(意義 範囲 取得価額 減価償却の計算要素)】
- 13回 税務資産(4)【固定資産②(減価償却の計算方法 特別償却) 繰延資産】
- 14回 税務負債・資本(1)【引当金 貸倒引当金 返品調整引当金】
- 15回 税務負債・資本(2)【準備金 海外投資等損失準備金 特別修繕準備金等】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価は、原則として期末試験の結果で評価する。
期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

税務会計要論（テキスト）は税務会計の全般を容易に理解できるように書かれているので、受講するときはその日の講義内容をシラバスで確認してテキストをよく読み込んで受講すると本講義の理解がより深いものとなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

税金 法人税 税法 税務 経理 会計

外書講読【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、テキストの輪読（和訳）を通じて、コーポレート・ファイナンス（企業財務）に関する基礎知識を習得することを目的とします。また、多くの英文に触れることで、英文読解能力の向上も目的とします。コーポレート・ファイナンスは、企業の資金調達・投資・配当といった財務活動を取り扱います。コーポレート・ファイナンスはまた、経済学・経営学・会計学などの分野と関連があり、学際的な学問分野と言えます。

なお、以下の「授業に対する準備事項」・「履修上の注意」・「担当者からのメッセージ」にしっかり目を通して、その内容に納得したうえで履修して下さい。

教科書 /Textbooks

David Hiller, Mark Grinblatt and Sheridan Titman, Financial Markets and Corporate Strategy (European Edition), McGraw-Hill, 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Richard A. Brealey, Stewart Myers and Franklin Allen, Principles of Corporate Finance(10th revised edition) , McGraw-Hill,2010.

David Hiller, Stephen A. Ross, Randolph W. Westerfield, Jeffrey F. Jaffe and Bradford Jordan, Corporate Finance (European edition) , McGraw-Hill,2010.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 受講者全員による報告と質疑・応答(1)
- 第3回 受講者全員による報告と質疑・応答(2)
- 第4回 受講者全員による報告と質疑・応答(3)
- 第5回 受講者全員による報告と質疑・応答(4)
- 第6回 受講者全員による報告と質疑・応答(5)
- 第7回 受講者全員による報告と質疑・応答(6)
- 第8回 受講者全員による報告と質疑・応答(7)
- 第9回 受講者全員による報告と質疑・応答(8)
- 第10回 受講者全員による報告と質疑・応答(9)
- 第11回 受講者全員による報告と質疑・応答(10)
- 第12回 受講者全員による報告と質疑・応答(11)
- 第13回 受講者全員による報告と質疑・応答(12)
- 第14回 受講者全員による報告と質疑・応答(13)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の報告など...50% (出欠・遅刻・宿題・発表・質問・レポート等を含みます)
試験...50% (学期末試験を行います)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から経済や金融に関する新聞記事やニュースには目を通すこと。そして、自分なりにそれらの事柄について考える習慣を身につけること。また、単に単位を修得する目的だけで受講するのではなく、英文を通じて広く金融に関わる知識を貪欲に得ることを目標に受講することで、この講義に貢献しようとする強い意識を持つこと。

外書講読【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・英和辞典を毎回持参すること。
- ・テキストについては、該当ページのコピーを配布します。
- ・英文に慣れてもらうために、毎回（毎週）必ず、受講者全員に宿題（英文の和訳など）を出します。毎回の宿題の分量も多いため、英文に不慣れな学生は毎回講義に参加する準備（宿題を含めた予習）にかなりの時間を割くことになると思います（宿題については、テキストの英文和訳だけでなく、トピックに関するレポートの提出も頻繁に求めます）。
- ・報告者は黒板（あるいはホワイトボード）を利用しながら、（矛盾しますが）予備知識のない人にも分かるように、講義をするつもりで報告を行うこと。
- ・毎回の個人報告（宿題の発表）だけでなく、その報告内容について受講者全員で議論するため、（報告者以外の人も）自分に割り振られていない箇所（ページ）の予習も毎回しっかりしてくること（頻繁に報告者以外の人にも意見を求めます）。
- ・また、報告者以外の参加者は、毎回報告者に対して必ず質問をすることを義務付けます。講義では自発的に発言し、講義に積極的に参加して下さい（この講義では発言せずただ座っているだけでは「欠席」扱います）。
- ・この講義を受講するにあたって、「企業ファイナンスI」、「企業ファイナンスII」、「経営統計」、「簿記論I」、「簿記論II」、「財務会計論I」、「財務会計論II」、「原価計算論I」、「原価計算論II」、「企業論基礎」、「金融論I」、「金融論II」、「経済学入門A」、「ミクロ経済学I」、「ミクロ経済学II」、「統計学I」、「統計学II」等を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無断欠席や遅刻には厳しく対処します。また、受講態度が悪い（常識がない）学生も同様に厳しく対処します。具体的には、無断欠席や遅刻（チャイムが鳴り終わった後の教室への入室）をする度に減点します。また、宿題をきちんとしてきていない、十分にテキストの予習をしてきていない、報告者に対して質問をしない、教員からの質問に答えられない等の場合についても同様に減点します。したがって、場合によっては、学期末試験（テスト）の成績に関係なく単位取得ができないこともありえます。単位取得は容易ではないことを肝に銘じておくこと。

キーワード /Keywords

Corporate Finance

業界研究I【昼】

担当者名 /Instructor 土山 勇 / 北方キャンパス 非常勤講師, 小田 浩史 / Hiroshi Oda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学生活において具体的な将来の職業を考え、そのためのキャリアプランニングをすることを目的にいたします。

- 「大学生」という今の時間をどのように充実して過ごすのか。
- 大学で何をするのか。
- 大学生として何を意識するのか。
- 大学生として何を考え、どう動くのか 等々、

これらのことが将来の職業人生に多大な影響があることを理解し、具体的な「考動」を喚起することを目標といたします。

その目的・目標のために必要な、経済、業界、職種、企業、組織の情報を学びます。また、更なるステップアップの場として用意されている「業界研究II(インターンシップ)」の準備講座の役割を持っています。

教科書 /Textbooks

テキスト：マイナビ2013オフィシャル就活BOOK
内定獲得のメソッド 自己分析 適職へ導く書き込み式ワークシート
岡茂信 著、1,365円(定価)

その他、授業の中で適宜プリントを配布いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

就職情報サイト 「マイナビ」 など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス(オリエンテーション)
- 2回 授業から得た情報の活用法と具体的な就活スケジュール
- 3回 社会を知る(社会の仕組みや「会社・企業」の存在意義)
- 4回 自分を知る(自己理解の必要性)基礎編
- 5回 自分を知る(自己理解の必要性)実践編
- 6回 自分と社会との接点(職業興味の発見)
- 7回 業界研究(研究の方法と調べ方)
- 8回 先輩(OB・OG)から社会の話を聴く
- 9回 業界研究(課題研究・中間報告)
- 10回 業界研究・トピックス(履修者希望の業界を取り上げる①)
- 11回 業界研究・トピックス(履修者希望の業界を取り上げる②)
- 12回 業界研究(将来像を描くための情報収集・働く意味を見つける)
- 13回 現状把握(現役人事担当者から意見とアドバイスを聴く)
- 14回 インターンシップの現状・今後求められる活動
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40%
授業内での小レポート提出(計7回) 35%
最終授業での課題発表・提出 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

業界研究I【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

今後、社会に出て活躍する者として貪欲に情報を知ることや新しい知識を得ること、自分の将来を考えることに高い意識を持って臨む姿勢を希望いたします。

また、この講義は「就職テクニック」や「就活の裏技」を教えるものではありません。受講生皆さんの今後の長期的な職業人生のプランニングから、学生として今必要な情報と経験を理解し、それについて真剣に考え、自分の人生と将来の職業を結びつける授業です。

自らの将来に期待、希望、不安、危機を感じ、何か動かなければならない。と、感じている学生の参加を待っています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

業界研究II【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

当講義のねらいは、(1)就業体験を通して生きた経済活動に触れ、キャリア能力を開発、育成すること、(2)学習体験を現場で活かし、学習意欲を高めるとともに実践的な知識を習得すること、(3)職業意識を涵養し、進路選択に資すること、(4)就業体験を通して、地域や社会に対する認識を深めながら貢献すること、である。
なお、業界研究IIに関するインターンシップ実施要領を参照すること。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回 インターンシップに関わる事前学習
第5回～12回 インターンシップによる実践的活動
第13回～15回 活動報告と事後評価

成績評価の方法 /Assessment Method

就業受け入れ事業体の評価と、学生が提出する報告書、および報告会の発表内容により総合的に評価する。なお、報告書は研修後、1週間以内に提出すること。報告会の報告内容については、経済学部インターンシップ運営委員会で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期開講の「業界研究I」を履修済みであることが受講条件となる。なお、インターンシップ実施要領を参照すること。

履修上の注意 /Remarks

事前研修と事後研修の受講が必須です。詳しくはインターンシップ実施要領を参照すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済・社会 キャリア 実践

ビジネス英語A (選抜クラス) 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年選抜クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and case studies introduce problem solving.

教科書 /Textbooks

Market Leader: New Edition. Cotton, Falvey, and Kent. Longman. 2005.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Getting to know people
- 2 回 Brands; Outsourcing
- 3 回 Discussing Promotions; Taking Part in Meetings; Case Study
- 4 回 Business Travel: Needs and Problems
- 5 回 Making Arrangements on the Phone; Case Study
- 6 回 Company Structure; Successful Organisation
- 7 回 Socializing and Networking; Case Study
- 8 回 Change: Managing and Describing
- 9 回 Taking Part in Meetings 2; Case Study
- 10 回 Money; Financial Terms; Raising Capital
- 11 回 Reporting Success; Describing Trends; Case Study
- 12 回 Advertising Media and Methods; Achieving Success; Planning Ad Campaigns
- 13 回 Presentations; Case Study
- 14 回 Cultural Awareness and Advice
- 15 回 Advice, Obligation and Necessity; Case Study

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from previous week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Introduction Skills
- 3 回 International job situations
- 4 回 Departments in companies
- 5 回 Teamwork Skills
- 6 回 Organization Structures
- 7 回 Describing Companies
- 8 回 Workplace
- 9 回 Describing Location and Direction
- 1 0 回 Presentations
- 1 1 回 Corporate Events
- 1 2 回 Offers, Requests, and Permission
- 1 3 回 Business Costs
- 1 4 回 Orders and Invoices
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from previous class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Introduction Skills
- 3 回 International job situations
- 4 回 Departments in companies
- 5 回 Teamwork Skills
- 6 回 Organization Structures
- 7 回 Describing Companies
- 8 回 Workplace
- 9 回 Describing Location and Direction
- 1 0 回 Presentations
- 1 1 回 Corporate Events
- 1 2 回 Offers, Requests, and Permission
- 1 3 回 Business Costs
- 1 4 回 Orders and Invoices
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from previous class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、基礎的な英語力の底上げをするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】
- 2回 ビジネス英語とは 【レターの構成要素】
- 3回 語学学校に手紙を書く 【問い合わせ】
- 4回 同 【「レタースタイル】
- 5回 同 【商習慣】
- 6回 個人輸入 【ディーラー】
- 7回 同 【会社】
- 8回 取引の申し込み 【取引】
- 9回 同 【要望】
- 10回 同 【商品明細】
- 11回 取引・引き合いに答える。【引き合い】 【見積もり】
- 12回 同 【取引条件】 【インコタームズ】
- 13回 同 【代理店】
- 14回 オファー・注文 【ファクシミリ】
- 15回 同 【構成要素】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予告を毎回する。基本的には、テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B (選抜クラス) 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年選抜クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and case studies introduce problem solving.

教科書 /Textbooks

Market Leader: New Edition. Cotton, Falvey, and Kent. Longman. 2005.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Employment: Recruiting, Retaining, and Headhunting
- 2 回Managing Meetings; Case Study
- 3 回Free Trade; Fair Trade
- 4 回Working Conditions; Negotiating; Case Study
- 5 回Quality Control; Quality Management
- 6 回Making and Dealing with Complaints; Case Study
- 7 回Ethics; Responsible Business
- 8 回Problem Solving; Case Study
- 9 回Describing Character; Leadership Qualities
- 1 0 回Decision Making; Case Study
- 1 1 回Describing Innovations
- 1 2 回Presentation Techniques; Case Study
- 1 3 回Competitive Edge; Staying Competitive
- 1 4 回Being Diplomatic; Case Study
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from previous week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving. This course continues from where ビジネス英語A finished in the first semester.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Project Analysis
- 3 回 Project Discussion
- 4 回 Explaining Problems
- 5 回 Describing Solutions
- 6 回 Product Description
- 7 回 Unusual Markets
- 8 回 Presentations
- 9 回 Discussing Competitors
- 10 回 Market Share
- 11 回 Location Comparison
- 12 回 Giving Opinions
- 13 回 Discussing Careers
- 14 回 Interview Skills
- 15 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from the previous class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course looks at improving English communication in relation to business. A variety of situations will be introduced with a focus on speaking, listening, and reading. Practical examples will provide a springboard for discussion and problem solving. This course continues from where ビジネス英語A finished in the first semester.

教科書 /Textbooks

Intelligent Business: Elementary Business English. Irene Barrall & Nikolas Barrall. Longman. 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Introduction
- 2 回Project Analysis
- 3 回Project Discussion
- 4 回Explaining Problems
- 5 回Describing Solutions
- 6 回Product Description
- 7 回Unusual Markets
- 8 回Presentations
- 9 回Discussing Competitors
- 1 0 回Market Share
- 1 1 回Location Comparison
- 1 2 回Giving Opinions
- 1 3 回Discussing Careers
- 1 4 回Interview Skills
- 1 5 回Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork 40% Assignments 30% Test 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Review material from the previous class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【昼】

担当者名 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、英語力の底上げを更にするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】 【ビジネスレター】
- 2回 オファー 【ファームオファー】 【サブコンオファー】
- 3回 同 信用状 【信用状】
- 4回 同 【「当事者」】
- 5回 オファー・注文への応答 【契約】
- 6回 同 カウンターオファー 【カウンターオファー】
- 7回 同 【船積み】
- 8回 信用状 【発行銀行】 【通知銀行】
- 9回 同 【取り消し不能信用状】
- 10回 同 【決済】
- 11回 積み出し 【売買契約】
- 12回 同 【取引の流れ】
- 13回 同 【外国為替相場】
- 14回 クレームとその解決 【不満】 【仲裁】
- 15回 同 【品質不良】 【損傷】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予告を毎回する。テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。日本語のフォーマルレターの書き方を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の機関(1)【株主総会(1)】
- 6回 株式会社の機関(2)【株主総会(2)】
- 7回 株式会社の機関(3)【代表取締役と取締役会(1)】
- 8回 株式会社の機関(4)【代表取締役と取締役会(2)】
- 9回 株式会社の機関(5)【監査役】【会計監査人】
- 10回 株式会社の機関(6)【委員会設置会社】
- 11回 株式会社の機関(7)【善管注意義務と忠実義務】【利益相反取引】【役員報酬】
- 12回 株式会社の機関(8)【役員等の会社に対する責任】
- 13回 株式会社の機関(9)【役員等の第三者に対する責任】
- 14回 株式会社の機関(10)【株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1) 【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2) 【株式の譲渡】 【自己株式】
- 4回 株式会社の資金調達(3) 【株式の発行】
- 5回 株式会社の資金調達(4) 【株式発行の瑕疵】
- 6回 株式会社の資金調達(5) 【新株予約権】
- 7回 株式会社の資金調達(6) 【新株予約権発行の瑕疵】
- 8回 株式会社の資金調達(7) 【社債】
- 9回 株式会社の計算(1) 【貸借対照表】 【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2) 【剰余金の配当】
- 11回 株式会社の計算(3) 【資本金の減少】 【財務構成の変更】
- 12回 株式会社の組織再編(1) 【概要】 【事業譲渡】
- 13回 株式会社の組織再編(2) 【合併】 【会社分割】
- 14回 株式会社の組織再編(3) 【株式交換】 【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学II 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心に展開される。

教科書 /Textbooks

P.G.ホーエル『初等統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森棟公夫『統計学入門』新世社
鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房(本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イン트로ダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 の推定、 t 変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、 t 変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習支援フォルダに、各回の講義を受講する前に予習すべき課題を掲載する予定である。必ず、予習しておくように。なお、講義は予習をしていることを前提に行われる。

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法の第一篇総則が講義の内容です。民法は、私達が日常営んでいる経済生活や家庭生活における人と人との関係を規律する法律ですが、そのうちの、主として経済生活を規律する部分(財産法)の通則にあたるのが、この総則です。各種の取引活動を円滑にすすめるための具体的な規定や制度に共通する内容がその対象となっていますから、やや抽象的で、難解な部分もありますが、民法の世界の細部に分け入る前に、民法全体を俯瞰し、制度の枠組みを知るとともに、個々の規定や制度に共通する内容や考え方を知り、日常生活における人と人との関係のあるべき姿を考えていただきたいと思います。

教科書 /Textbooks

山田卓生=河内宏=安永正昭=松久三四彦著『民法I-総則(第3版補訂)』有斐閣 2007年 1,600円
中田裕康=潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選①総則・物権[第6版]』有斐閣 2009年 2,095円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 内田 貴『民法I[第3版]総則・物権総論』東京大学出版会 2005年 3,200円
- 川井 健『民法概論1民法総則第3版』有斐閣 2005年 3,800円
- 川島武宜『民法総則』有斐閣 1965年
- 四宮和夫=能見善久『民法総則 第7版』弘文堂 2005年 3,200円
- 我妻 栄『新訂民法総則(民法講義I)』岩波書店 1965年 3,900円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス - 民法の学び方、民法の仕組み、民法の世界観
- 2回 民法上の権利義務、権利の相対性
- 3回 権利の主体 - 「人」、権利能力と行為能力
- 4回 制限行為能力者制度①【未成年】
- 5回 制限行為能力者制度②【成年後見】【保佐】
- 6回 制限行為能力者制度③【補助】【任意成年後見】、住所について
- 7回 法人の必要と役割、法人の種類
- 8回 法人の設立、組織
- 9回 権利の客体 - 「物」
- 10回 法律行為 - 種類と解釈
- 11回 法律行為の有効要件
- 12回 法律行為の自由とその限界① - 【法律行為の自由】【取締規定違反】【脱法行為】
- 13回 法律行為の自由とその限界② - 【公序良俗違反】
- 14回 法律行為の構成要素 - 意思表示
- 15回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示①【心裡留保】
- 16回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示②【通謀虚偽表示】【錯誤】
- 17回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示③【詐欺】【強迫】【誤認・困惑】
- 18回 代理制度、表見代理と無権代理
- 19回 表見代理①代理権授与の表示による表見代理
- 20回 表見代理②権限超越の表見代理
- 21回 表見代理③代理権消滅後の表見代理、表見代理規定の競合
- 22回 無権代理
- 23回 無権代理と相続
- 24回 無効と取り消し
- 25回 条件と期限
- 26回 時効制度①【存在理由】【消滅時効と除斥期間】
- 27回 時効制度②【時効の援用・放棄】
- 28回 時効制度③【時効の中断・停止】
- 29回 取得時効
- 30回 消滅時効

成績評価の方法 /Assessment Method

課題……20% 定期試験……80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法総則 【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではレジユメを配布しますが、教科書の他に毎回必ず六法も持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。

この講義では、都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。

併せて、技術系企業の活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本行政論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書 /Textbooks

今村都南雄 (2009) 『ホーンブック基礎行政学』北樹出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西尾勝 (2001) 『行政学』有斐閣
- 真淵勝 (2009) 『行政学』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
- 3回 行政の歴史②【行政国家化】
- 4回 行政の歴史③【行政改革】【新自由主義】
- 5回 行政学史①【官僚制の理論】
- 6回 行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】【機械的行政学】
- 7回 行政学史③【機能的行政学】【人間関係論】
- 8回 行政学史④【現代組織論】【バーナード】【サイモン】
- 9回 行政統制①【行政の責任】【FF論争】
- 10回 行政統制②【議院内閣制】【大統領制】
- 11回 行政統制③【鉄の三角形】【影響力】
- 12回 行政統制④【政治的任命職】
- 13回 行政統制⑤【公務員制度】【公務員改革】
- 14回 「官から民へ」の意味①【住民と行政の関係変化】
- 15回 「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政、国家、ガバナンス、公務員制度、民主主義

金融論I【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 ブルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「金融論」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

教科書 /Textbooks

無し

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくと、講義内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識できる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解できる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(Ⅰ)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(Ⅱ)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(Ⅲ)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(Ⅳ)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(Ⅴ)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイト】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

2、3、4、5、8、9、10、12回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

国際経済論I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、海外直接投資を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論IIも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】
- 4回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 6回 貿易政策分析の基礎（1）【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 7回 貿易政策分析の基礎（2）【自由貿易の利益】
- 8回 小国の貿易政策（1）【関税政策】、【補助金政策】
- 9回 小国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 10回 大国の貿易政策（1）【関税政策】
- 11回 大国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 12回 経済統合【FTA】【CU】
- 13回 国際要素移動（1）【海外直接投資】
- 14回 国際要素移動（2）【国際労働移動】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出（数回） 20~30 % 期末試験 70~80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、貿易政策、経済統合、海外直接投資

国際経済論II 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表（1）【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表（2）【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎（1）【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎（2）【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引（1）【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引（2）【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論（1）【金利平価】
- 9回 外国為替の決定理論（2）【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定（1）【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定（2）【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策(1)【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策(2)【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策(3)【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出（数回） 20~30 % 期末試験 70~80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

産業組織論I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
経済現象に限らず、様々な分野の分析を行う予定。

2つの演習を行う。
1つは、道具の操作性を高める演習。
もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dixit, Skeath, and Reiley. 2009. Games of Strategy. W. W. Norton & Company.
渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
- 2回 戦略形【利得表と均衡概念】
- 3回 戦略形【支配戦略と均衡概念と応用】
- 4回 戦略形【逐次削除均衡と応用】
- 5回 戦略形【ナッシュ均衡と応用】
- 6回 戦略形【数量競争と価格競争】
- 7回 展開形【時間構造】
- 8回 展開形【後方帰納法】
- 9回 展開形【サブゲーム完全ナッシュ均衡と応用】
- 10回 展開形と戦略形の融合
- 11回 コミットメント・脅し・約束などの概念とゲーム理論
- 12回 Collective Action Game
- 13回 Collective Action GameとNegative Spillover【共有地の悲劇】
- 14回 Collective Action GameとPositive Spillover【ネットワーク外部性とロックイン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 友紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論です。
講義では市場がどのような形態になっており、その中で企業がどのような行動をとるのか、そのときに消費者の効用（余剰）はどういった影響を受けるのか、そのとき政策によってどのように改善がなされるのかについて考えていきます。
学生さんが多角的・論理的なものの見方、考え方を身につける一助となるような講義を行います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

長岡貞男、平尾由紀子(1998)『産業組織の経済学』日本評論社
土井教之(2008)『産業組織論入門』ミネルヴァ書房
Luis Cabral. Introduction to Industrial Organization. MIT Press. 2000.
Carlton & Perloff. Modern Industrial Organization(4th). Addison-Wesley. 2004.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論の説明
- 2回 ミクロ経済学の復習【経済主体の行動】
- 3回 ミクロ経済学の復習【余剰分析】
- 4回 完全競争
- 5回 不完全競争【クールノー複占】
- 6回 不完全競争【ベルトラン複占・シュタッケルベルグ複占】
- 7回 自然独占と価格差別
- 8回 線形都市モデルと複占【均衡】
- 9回 線形都市モデルと複占【政府による規制】
- 10回 カルテル
- 11回 Mixed Bundling
- 12回 排他的取引【短期取引】
- 13回 排他的取引【長期取引】
- 14回 企業の境界【不完備契約の観点から】
- 15回 ネットワーク外部性、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

産業組織論I・ミクロ経済学の知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済I【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 戦後日本の地域構造の変遷を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報劉と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造の高度化【産業構造】
- 4回 工業化の進展【重化学工業化】【高加工度化】
- 5回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 6回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 7回 企業内分業の進展①【大企業の台頭】
- 8回 企業内分業の進展②【工場立地】【オフィス立地】
- 9回 製造業主導の経済発展【太平洋ベルト地帯】
- 10回 大都市主導の経済発展【東京一極集中】【都市システム】
- 11回 情報化の進展と市場の世界化【コンピュータ・ネットワーク】【グローバル市場】
- 12回 経済のグローバル化とローカル化【グローバル】
- 13回 イノベーションと集積【イノベーション】【集積】
- 14回 地域経済の変容【広域経済圏】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 10% 期末試験 ... 90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域経済II』『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済II【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域が現在直面している問題について、具体的なテーマをもとにして解説する。そうした問題の背景にあるもの、地域経済に対して与える影響、解決するためにとられている政策などを幅広い観点から理解してもらうことを目的としている。これまでに学んだ経済学の考え方が、地域経済にどのように適用されるかについても検討してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田知弘・鈴木誠・川瀬光義・富樫幸一『国際化時代の地域経済学(第3版)』有斐閣、2007年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済を取り巻く環境の変化(講義の概要)
- 2回 市町村合併の進展とその影響(1)【地方分権】
- 3回 市町村合併の進展とその影響(2)【合併特例法】
- 4回 観光産業の振興とまちづくり(1)【マストツーリズム】【インバウンド振興】
- 5回 観光産業の振興とまちづくり(2)【新しい観光の形態】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 地域の環境問題(1)【地球環境の変化】
- 8回 地域の環境問題(2)【エコタウン政策】
- 9回 産業クラスター戦略(1)【産業集積】
- 10回 産業クラスター戦略(2)【イノベーション】
- 11回 7～10回の復習とまとめ
- 12回 人口減少の影響とその対策(1)【少子高齢化】
- 13回 人口減少の影響とその対策(2)【中山間地域】【限界集落】
- 14回 人口減少の影響とその対策(3)【コンパクトシティ】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『地域経済I』、『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方分権、環境政策、観光政策、産業クラスター、人口減少

北九州経済分析I【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市の経済産業の歴史を概観しながら、都市としての北九州市の変容過程を説明する。また、北九州市で現在展開されている産業政策を具体的に解説する。よって、受講生には今後の北九州市の経済社会を展望するとともに、経済活性化への施策について検討を加えてもらいたい。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 北九州都市協会『北九州に生きた人々 ものづくりの心を未来へ』(2006年3月)
- 広井良典『コミュニティを問いなおす』(2009年8月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 北九州の発展を支えた筑豊炭田と若松港【石炭産業】、【港湾】、【沖仲士】
- 2回 近代都市・北九州の誕生【官営八幡製鐵所】、【軍都】
- 3回 近代都市・北九州を支えた経営者【鮎川義介】、【出光佐三】、【安川第五郎】
- 4回 企業城下町としての北九州【企業城下町】、【社宅】、【鉄鋼業】
- 5回 北九州市の都市形態の変容【再都市化】、【高速交通】、【再開発】
- 6回 地域産業政策の中の北九州市【傾斜生産方式】、【地域産業】、【企業誘致】
- 7回 北九州学術研究都市の現状と課題【産学連携】、【大学】、【クラスター政策】、【企業誘致】
- 8回 ICT産業と北九州の産業振興【IT】、【クラウド】、【データセンター】、【情報化社会】
- 9回 政令指定都市としての北九州市【人口】、【政令指定都市】
- 10回 少子高齢化の中の北九州市【人口減少】、【少子】、【高齢化】、【地域コミュニティ】
- 11回 成熟社会の到来と市民セクターの台頭【市民セクター】、【協働】、【NPO】
- 12回 北九州におけるNPOの現状と課題【NPO】、【指定管理者制度】、【協働】
- 13回 北九州市で活躍するNPO法人の事例【NPO】、【協働】、【ソーシャル・ビジネス】
- 14回 北九州の経済活性化に向けて【経済活性化】、【地域振興】
- 15回 まとめ

* 11回目、13回目の講義はゲストを招聘する予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で実施する小レポート 20 % レポート 20 % 試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」、「地域経済」、「地域政策」の受講を薦めます。また、教養科目の「北九州学」、「人文地理学」、「地誌学」をあわせて受講すると理解しやすいです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は北九州そのものを対象とした講義なので日常的に街の景観から歴史や経済活動を読み解くことを心がけると関心が深まります。

キーワード /Keywords

地域振興、地域開発、都市形成、再都市化、人口減少社会、成熟社会、情報化社会、協働、パートナーシップ

北九州経済分析II【昼】

担当者名 /Instructor 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州地域を中心とした九州の主要産業の実態を分析しながら、産業のダイナミズムを学びます。また、北九州地域を中心とした北部九州に本社・拠点を置く企業の経営戦略やマーケティング戦略について具体的に考察します。

教科書 /Textbooks

対象分野が多様なため適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 九州経済調査協会編『九州産業読本 改訂版』西日本新聞社(2010年10月)
- P.F.ドラッカー『【エッセンシャル版】マネジメント』ダイヤモンド社(2001年12月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域企業への関心を高めるために【企業広告】、【マーケティング】
- 2回 地域の上場企業の実態【上場企業】、【大企業】、【経営戦略】
- 3回 地域の主要企業におけるグループ経営【グループ経営】、【子会社】、【系列企業】
- 4回 地域の老舗企業の特徴【老舗企業】、【企業の寿命】、【経営戦略】、【倒産】
- 5回 北九州の鉄鋼業の変遷と企業集積【鉄鋼業】、【多角化】、【新規事業創出】
- 6回 北九州の環境産業の展開【エコタウン】、【リサイクル】、【スマートグリッド】【環境産業】
- 7回 北九州の地域開発の現場～響灘地区と東田地区【地域開発】、【植物工場】、【多角化】
- 8回 九州の自動車産業の動向【自動車】、【企業立地】、【下請け】、【産業ピラミッド】
- 9回 《事例研究》自動車産業を担う中小企業の経営戦略【中小企業】、【経営戦略】、【下請け】
- 10回 F Cビジネスと外食産業【店舗展開】、【F Cビジネス】、【メガフランチャイジー】
- 11回 地域における小売業の歴史I【デパート】、【スーパー】、【業態変化】、【大量消費】
- 12回 地域における小売業の歴史II【コンビニ】、【通信販売】、【IT】、【業態変化】
- 13回 《事例研究》地域コンビニの今後の経営戦略【コンビニ】、【マーケティング】、【高齢化対応】
- 14回 産業のダイナミズムと企業戦略【産業構造】、【工業構造】、【成長産業】、【衰退産業】
- 15回 まとめ

* 6回目と13回目の講義はゲストを招聘する予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内で行う小レポート 20 % 課題レポート 20 % 試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は具体的な企業の事例を紹介しながらの講義が中心であるため、日常的に新聞等で地域企業の動向を抑えていると関心が広がります。また、理論的な考察を深めるためには「経済地理学」や「地域経済」の受講を薦めます。また、P.F.ドラッカーの理論などに知見を持っていることを期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今現在は興味はなくても、北九州市立大学の学生として北九州に縁のある企業について少しでも知識を蓄えて欲しいと思っています。

キーワード /Keywords

地域産業、産業構造、地域企業、新事業創出、顧客の創造、マーケティング

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約の留保
- 第4回 条約の無効
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」

- 第6回 慣習国際法
- 第7回 慣習国際法の法典化
- 第8回 条約と第三国
- 第9回 条約の国内的効力
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

国際法I 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法II 【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認
- 第3回 国家と承認制度：政府承認
- 第4回 国家の基本的権利
- 第5回 国家の基本的義務
- 第6回 まとめ

第II部「陸・海・空と国際法」

- 第7回 陸と国際法
- 第8回 海と国際法：海上交通
- 第9回 海と国際法：海洋資源
- 第10回 空と国際法
- 第11回 まとめ

第III部「国際法主体としての個人」

- 第12回 人権の国際的保障
- 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

国際法II 【昼】

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、個別的労働関係法に焦点を当てます。個別的労働関係法は、労働組合（労働者集団）と使用者の関係を規制する集团的労働関係法と異なり、労働契約の成立、展開、終了にかかわる個別の労働者と使用者の関係を規制するものです。本講義の目的は、多くの人々が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働基準法や労働契約法をはじめとした個別的労働関係法の基本事項を学ぶところにあります。労働市場法の意義と内容についても、本講義で言及します。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2012年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

菅野和夫『労働法 第9版』（弘文堂、2010年）、土田道夫『労働法概説』（弘文堂、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「就労」の意義と労働法の役割
- 2回 雇用社会の仕組みと働き方の類型
- 3回 雇用差別禁止法
- 4回 労働契約関係の成立
- 5回 労働条件決定の仕組み
- 6回 労働時間法
- 7回 休暇と休業
- 8回 労働契約における基本的な権利義務関係
- 9回 人事異動
- 10回 労働者の多様な義務とその違反に対する制裁処分
- 11回 就業規則の変更による労働条件の変更
- 12回 労働契約関係の終了
- 13回 企業の組織変動と労働関係
- 14回 労働関係における知的財産
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書は必ず購入して下さい。労使関係法でも同じ教科書を使用します。当たり前のことですが、講義中の私語は厳禁です。

履修上の注意 /Remarks

労使関係法とセットで履修することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

所得保障法 【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「所得保障法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」に属するものと考えられるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。これをどのように分類するかについては、統一的な分類方法・基準はない。
本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。
近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、生活保護の保護基準の問題なども議論となっている。本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン～「所得保障法」とは？
- 第2回 年金保険① ～公的年金保険の構造～
- 第3回 年金保険② ～公的年金保険の保険関係～
- 第4回 年金保険③ ～公的年金保険の保険給付①～
- 第5回 年金保険④ ～公的年金保険の保険給付②～
- 第6回 年金保険⑤ ～公的年金保険の保険給付③～
- 第7回 年金保険⑥ ～公的年金保険の財政及び不服申立～
- 第8回 年金保険⑦ ～公的年金制度と私的年金制度～
- 第9回 公的扶助① ～我が国における公的扶助制度、生活保護制度の基本原則①～
- 第10回 公的扶助② ～生活保護制度の基本原則②～
- 第11回 公的扶助③ ～生活保護実施に関する4つの原則～
- 第12回 公的扶助④ ～保護の種類と方法～
- 第13回 公的扶助⑤ ～保護の実施機関とプロセス～
- 第14回 公的扶助⑥ ～不服申立制度～
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験...100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・「社会保障法」としての体系的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が強いため、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。
六法については、平成22年度版以降であることが必要です。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【 】はキーワード)

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 民法に対する商法の特徴は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 第3回 商人とは何か【固有の商人】【擬製商人】【会社】
- 第4回 商行為とは何か【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 第5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護【周知性・著名性】
- 第9回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人の3類型】【雇用】
- 第10回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【その他の商業使用人】
- 第12回 企業活動と消費者(1) 【普通取引約款の利用】
- 第13回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか【商業登記】
- 第14回 営業・事業に関する重要事項が「公示」されるとどのような効果が生じるか【登記の効力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポートを含む授業への参加度...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象となる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶発的なリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引に「限定」されます。

そして、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の基本的枠組みを理解することにあります。火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する法律問題や犯罪を取り上げながら、保険法の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

教科書 /Textbooks

山下友信・竹濱修・洲崎博史・山本哲生『保険法』（第3版）（有斐閣アルマ・2010年）2,100円
六法については、平成22年度版以降であることが必要です。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順に進めますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。（【】はキーワード）

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約における告知義務（1）告知義務制度の背景・告知者とその相手方
- 第6回 保険契約における告知義務（2）告知義務の内容・告知事項
- 第7回 保険契約における告知義務（3）告知義務違反の効果
- 第8回 保険契約における告知義務（4）事例研究とまとめ
- 第9回 損害保険契約 【被保険利益】
- 第10回 損害保険契約 【保険代位】
- 第11回 各種の損害保険契約一個別の問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第12回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第13回 保険契約における事情変更・失効
- 第14回 保険者（保険会社）の免責と約款における免責条項の有効性
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、授業の理解度を把握するために随時実施する小テストの結果を含む日常的授業への参加度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」を合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
また、私生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠責保険、火災保険、地震保険、医療保険、

社会サービス法【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものと考えられるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。これをどのように分類するかについては、統一的な分類方法・基準はない。本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、介護、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、介護保険法の改正、障害者自立支援法の改正・改変、福祉領域における契約制度の導入など、制度の根本的改革が行われており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。本講義は、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジユメで進行予定。ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保障① ～医療供給体制～
- 第3回 医療保障② ～医療保険の保険関係（保険者・被保険者）～
- 第4回 医療保障③ ～保険医療の仕組み～
- 第5回 医療保障④ ～医療保険の保険給付①～
- 第6回 医療保障⑤ ～医療保険の財政①～
- 第7回 医療保障⑥ ～医療保険の財政②、高齢者医療～
- 第8回 社会福祉① ～社会福祉の法体系とその展開～
- 第9回 社会福祉② ～社会福祉の給付方式～
- 第10回 社会福祉③ ～サービス利用の法律関係～
- 第11回 社会福祉④ ～福祉サービスの提供体制～
- 第12回 社会福祉⑤ ～権利擁護システム～
- 第13回 社会福祉⑥ ～不服申立制度～
- 第14回 質問事項に対する講義（医療・福祉）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・「社会保障法」としての一体的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、集团的労働関係法に焦点を当てます。集团的労働関係法は、労働組合と使用者の関係を規律する労働組合法を中心とするものですが、労働組合の組織率の低下により、そのあり方が問われています。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働組合法を中心とする集团的労働関係法の基本事項を学ぶとともに、集团的労働関係法の将来像を模索するところにあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

菅野和夫『労働法 第9版』（弘文堂、2010年）、土田道夫『労働法概説』（弘文堂、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 労使関係法とは
- 2回 労働組合の機能
- 3回 団体交渉
- 4回 労働協約
- 5回 ストライキ
- 6回 組合活動
- 7回 不当労働行為制度（1）【制度の趣旨とその類型】
- 8回 不当労働行為制度（2）【救済の特徴と近時の傾向】
- 9回 労働組合の衰退
- 10回 労働組合と労働者の対立
- 11回 労働組合法上の労働者
- 12回 従業員代表制度
- 13回 諸外国の労使関係法
- 14回 労使関係の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書は必ず購入して下さい。雇用関係法でも同じ教科書を使用します。当たり前のことですが、講義中の私語は厳禁です。

履修上の注意 /Remarks

雇用関係法とセットで履修することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

都市経営論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

厳しい変革の時代を生き抜くために、企業は経営方針、意思決定の仕組み、組織の運営方法を大転換している。地方公共団体においても、政策の選択と集中によって都市経営方針を明確にし、戦略的な経営が行われるように、簡素で効率的な行政を進める行政改革・組織改革と職員の意識改革を進めている。

この講義では、地方自治体が、都市機能を高め、都市の自律的發展を目指して改革している組織・人的資源管理の現状や在り方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者自身がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 武藤博巳編著『自治体経営改革』自治体改革2(2004)ぎょうせい
- 天野巡一編著『職員・組織改革』自治体改革6(2004)ぎょうせい
- 大住荘四郎『NPMによる行政革命 - 経営改革モデルの構築と実践』(2003)日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経営論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 地方自治制度と地方分権
- 4回 地方自治体の組織と権能
- 5回 都市経営と政策
- 6回 都市経営と行政計画
- 7回 都市経営と行財政改革
- 8回 地方自治体の組織原理の変化
- 9回 新しい都市経営の基本姿勢
- 10回 新しい組織管理
- 11回 新しい人的資源管理
- 12回 地方公務員の雇用環境の変化
- 13回 新しい都市経営の主体【第三セクター、指定管理者】
- 14回 新しい都市経営の主体【PFI、PPP】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際開発援助の視点から途上国が抱える諸課題について学習します。まずは、政府開発援助の仕組みとその役割、国際開発援助レジームの発展についての基礎知識を学びます。次に、個別のイシューごとにどのような取り組みが行われているのかを学びます。

教科書 /Textbooks

勝間靖編『テキスト国際開発論』ミネルヴァ書房、2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下村恭民他『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際開発援助の歴史的発展 1 (1960年代～1970年代)
- 第2回 国際開発援助の歴史的発展 2 (1980年代～現在)
- 第3回 政府開発援助(ODA)の仕組みと働き 1 - 日本の場合を事例に -
- 第4回 政府開発援助(ODA)の仕組みと働き 2 - 欧米の場合を事例に -
- 第5回 国際開発援助レジームの発展と限界
- 第6回 貧困問題を捉える視点
- 第7回 貧困問題解決の手法
- 第8回 飢餓と食糧安全保障
- 第9回 健康問題と感染症
- 第10回 途上国における教育問題
- 第11回 途上国におけるジェンダーの問題
- 第12回 国際開発における国連の役割
- 第13回 国際開発におけるNGOの役割
- 第14回 援助を超える議論 - CSR、社会起業家 -
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際協力機構(JICA)や経済開発協力機構(OECD)のホームページを日頃から参照しておく、本講義の内容が理解しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習します。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

藤原帰一・大芝亮・山田哲也編『平和構築・入門』有斐閣、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○メアリー・B・アンダーソン著、大平剛訳『諸刃の援助 - 紛争地における援助の二面性』明石書店、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 冷戦の終結と新しい戦争
- 第2回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアを事例に -
- 第3回 国家の破綻と崩壊 2 - ルワンダを事例に -
- 第4回 国家の破綻と崩壊 3 - ソマリアを事例に -
- 第5回 P K Oの変容と限界
- 第6回 「人道的介入」
- 第7回 「保護する責任」論
- 第8回 新たな脅威と「テロとの戦い」
- 第9回 平和構築アプローチ
- 第10回 紛争後復興社会における「法の支配」
- 第11回 紛争後復興における開発の役割
- 第12回 紛争再発予防のための紛争分析
- 第13回 Do No Harm原則①
- 第14回 Do No Harm原則②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 4 0 % 学期末試験... 6 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新書や文庫で紛争地のルポルタージュなどを読んでおくと講義の理解に役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

公共経済学【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の目的は、公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について理解し、また1、2年次に学習したミクロ経済学、マクロ経済学を利用して、公共部門の経済活動について分析することです。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏『基礎コース 公共経済学』新成社（1998）○
井堀利宏『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社（2005）○
マンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社（2005）○
スティグリッツ『公共経済学』（上・下）（第2版）（2003）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の目標は、様々な環境問題について理解すること、またそれらの問題について経済学の視点から分析し、解決策を検討することです。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣(2008)
 時政・藪田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房(2007)○
 日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書(2002)○
 マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版)東洋経済新報社(2005)○
 R. K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社(2001)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネッツ曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際マクロ経済学I【昼】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。
本講義を受けることで、「日本経済の動き」及び「世界経済の動き」を国際マクロ経済の視点から理解することができ、また日本経済を世界経済の動向と結び付けて理解できる。

教科書 /Textbooks

* 後日、講義の中で指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第2回 世界経済の現状(Ⅰ)：世界の余剰資金とアメリカ経済 【国際資本】 【ドル通貨】
- 第3回 世界経済の現状(Ⅱ)：世界経済の動向と新興経済大国(BRICs) 【欧州連合】 【ユーロ】 【資源大国】
- 第4回 国際マクロ経済の分析視点(Ⅰ)－マクロ経済学の基本的枠組み(基礎概念)－
【総供給・総需要】 【マクロ均衡・不均衡】
- 第5回 国際マクロ経済の分析視点(Ⅱ)－国際マクロ経済の分析枠組み(基礎理論)－
【輸出・輸入】 【輸入超過】 【輸出超過】
- 第6回 国際マクロ経済の分析視点(Ⅲ)－国際マクロ経済の分析枠組み(応用理論)－
【内需・外需】 【経常収支の黒字・赤字】
- 第7回 国際収支表と国際収支の諸概念(Ⅰ) 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第8回 国際収支表と国際収支の諸概念(Ⅱ) 【経常収支黒字と資本収支赤字】 【外貨準備の増減】
- 第9回 国際収支と日・米経済関係(Ⅰ) 【経常赤字】 【財政赤字】 【双子の赤字】
- 第10回 国際収支と日・米経済関係(Ⅱ) 【資本の輸出】 【対外投資】
- 第11回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス(Ⅰ) 【貯蓄・投資】 【財政収支】 【経常収支】
- 第12回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス(Ⅱ) 【過剰貯蓄】 【資本輸出】 【金融資産】
- 第13回 日本経済現状：経常収支の黒字と外貨準備高 【円高】
- 第14回 世界経済の不均衡問題 【経常収支の黒字・赤字】 【債権大国：日本・中国】 【債務大国：アメリカ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・80%
- (2) レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
- (3) 授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

国際マクロ経済学I【昼】

履修上の注意 /Remarks

* この授業に関連する参考書etcを必ず読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- * 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおく、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- * 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

GDP 貯蓄と投資 内需と外需 総需要と総供給 マクロ需給バランス オープンマクロ
経常収支 資本収支 外貨準備 輸出超過 輸入超過 資本輸出 資本輸入 対外債権 対外債務
貯蓄超過 財政赤字 対外投資 対内投資 金融資産 国際資本 円高・円安 ユーロ

国際マクロ経済学II 【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。
本講義を受けることで、「世界経済の動き」をマクロ経済学の視点から理解することができ、また日本経済の実態を世界経済の動きと結び付けて理解できるようになることを目的としている。

教科書 /Textbooks

* 後日、講義の中で指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：世界経済と日本
- 第2回 国際通貨制度とその変遷 【金本位制度】 【管理通貨制度】 【IMF 体制】
- 第3回 外国為替取引と為替レート 【円建て】 【ドル建て】
- 第4回 外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度 【平価】 【固定レート】 【市場レート】
- 第5回 外国為替レートの決定メカニズム 【ドル買い】 【円売り】
- 第6回 変動為替相場（フロート）制度 【円高】 【円安】
- 第7回 固定為替相場制度 【平価】 【為替介入】 【外貨取引の規制】 【マクロ経済政策】
- 第8回 変動為替相場制度と為替介入（I）
【管理フロート制】
- 第9回 変動為替相場制度と為替介入（II）
【外国為替資金特別会計】 【FB：政府短期証券】
- 第10回 為替介入と外貨準備高 【通貨当局】
- 第11回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 【財政政策】 【金融政策】 【資本移動】
【不胎化介入】 【非不胎化介入】
- 第12回 固定相場制と政策効果 【IS曲線】 【LM曲線】 【BP曲線】
- 第13回 変動相場制と政策効果 同上
- 第14回 グローバル経済化と資本移動 【マンデル＝フレミング・モデル】
- 第15回 まとめ-世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・80%
- (2) レポート・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
- (3) 授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

* この授業に関連する参考書etcを必ず読んでおくこと。

国際マクロ経済学II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- * 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- * 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

国際通貨制度 MF体制 円建レート ドル建レート

円高 円安 通貨当局 管理フロート制 外為特会 FB 平価 為替介入

不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策 財政政策 金融政策 資本移動

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2,000円
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【楽市楽座、自給自足経済】
- 第3回 保護貿易の問題点【保護貿易主義者の主張】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーソン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際経済論を受講すると、より深く講義を理解できるかもしれない。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。講義に参加された人に対して、直接投資に関してどのような選択をするのが尋ねた後、みなさんの先輩方に対して行なった実験結果を紹介し、海外進出先国選択において偏りが見られることを紹介していきたい。

ゲーム理論を紹介するので、算数レベルものに対してアレルギーのある人は避けた方が良いかもしれないが、苦手レベルであれば、ついていけるような講義を目指す。

テーマ：経済的に合理的な選択と非合理的な選択

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2009年、2,000円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 行動経済学を紹介【行動経済学】
- 3回 ゲーム理論紹介【ゲーム理論】
- 4回 ゲーム理論の解き方【ゲーム理論】
- 5回 直接投資理論の紹介【直接投資理論】
- 6回 チキンゲーム【ゲーム理論】【標準偏差】【中央値】
- 7回 3状況提示【意思決定原理】
- 8回 認識と選択【認識と選択の乖離】
- 9回 ストライキリスクと地震リスク【コンジョイント分析】
- 10回 ライバル参入リスク【コンジョイント分析】
- 11回 「対日感情」と「親近感」【コンジョイント分析】
- 12回 模倣リスク【コンジョイント分析】
- 13回 低確率リスク：SARS反日感情
- 14回 反日感情(中国での反日デモ)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行動経済学の関わることを多く説明するので、行動経済学の本に注目しているほうが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視する。

キーワード /Keywords

コンジョイント分析 ゲーム理論 経済的に合理的な選択 反日感情 直接投資理論

ファイナンス論【昼】

担当者名
/Instructor

武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ファイナンスは、学生のみなさんの生活に役立つ知識です。また、ファイナンスは、本質を理解すれば、難しくありません。講義では、始めに、現在の金融環境を俯瞰することによって、ファイナンスの知識の必要性を理解してもらいます。そして、現代ファイナンス理論の根幹である現在価値分析について、プロジェクト・ファイナンス、債券、株式など、具体的な事例を題材にして、理解を深めます。後半は、さまざまな証券を組み合わせた、いわゆるポートフォリオにおける、リターンとリスクについて学びます。ファイナンスの勉強はステップ・バイ・ステップで積み上げていくことが大切なので、講義では理論の説明と問題演習を交互に行い、全員が100%理解することを目指します。学生のみなさんは、直感的・論理的にファイナンスを理解できるようになり、身につけた知識を実生活に活かすことができるようになります。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 講義に関連する日本経済新聞の記事
- 日本証券アナリスト協会編 『証券投資論 第3版』日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：ファイナンスとは、ファイナンスを勉強する効用
- 2回 投資の基本概念【現在価値】【将来価値】【キャッシュ・フロー】
- 3回 投資の基本概念【内部収益率】
- 4回 債券【機関投資家】【債券の種類】【債券のリスク】
- 5回 債券【単利】【複利】
- 6回 株式【インカム・ゲイン】【キャピタル・ゲイン】【株価指数】
- 7回 株式【配当割引モデル】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 ポートフォリオ理論【期待収益率】【投資リスク】【分散】【標準偏差】
- 10回 ポートフォリオ理論【分散】【標準偏差】に関する練習問題
- 11回 ポートフォリオ理論【選好】
- 12回 ポートフォリオ理論【相関度】【相関係数】【分散投資効果】
- 13回 ポートフォリオ理論【効率的フロンティア】【分離定理】
- 14回 CAPM(資本資産評価モデル)【資本市場線】【証券市場線】
- 15回 CAPM(資本資産評価モデル)【ベータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験または中間レポート... 50% 期末試験または期末レポート... 50%
宿題の提出は、成績が境界上にある場合に、プラスに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業に毎回出席して、内容を100%理解するように努めてください。
授業の後、解答を見ないで問題がすらすら解けるようになるまで復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市財政I【昼】

担当者名 /Instructor 大野 正久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義では、近年盛んに議論されている地方分権について、国と地方の財政関係に注目し、経済学的な観点から説明する。地方財政の現状と理論を学習し、地方財政に関する知識のみならず、理論的な考え方ができるようになることを目的とする。
1学期では、地方財政の現状と基本的な理論を中心に授業を進める。

教科書 /Textbooks

佐藤 主光『地方財政論入門』新世社(2009年3月)
適宜レジュメとプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 地方分権改革【地方分権】、【三位一体の改革】
- 3回 地方財政の抱える課題【地域間格差】
- 4回 地方の果たす役割【国と地方の役割分担】
- 5回 地方財政と経済学【バレート効率性】、【応益原則】
- 6回 財政の役割【公共財】、【財政の3機能】
- 7回 機能配分論【資源配分】、【所得再分配】、
- 8回 地方分権化について【課税自主権】
- 9回 分権化定理【分権化定理】
- 10回 「規律づけ」としての競争【足による投票】
- 11回 地域間外部性【NIMBY】
- 12回 地域経済の活性化【地域間競争】
- 13回 分権化と政府のアカウンタビリティ【水平的競争】、【垂直的競争】
- 14回 公共部門のガバナンス【外部性の内部化】、【道州制】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 20% レポート... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方財政、地方分権、経済理論(ミクロ経済学)

都市財政II【昼】

担当者名 /Instructor 大野 正久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義では、近年盛んに議論されている地方分権について、国と地方の財政関係に注目し、経済学的な観点から説明する。地方財政の現状と理論を学習し、地方財政に関する知識のみならず、理論的な考え方ができるようになることを目的とする。
2学期では、税制と政府間財政移転を中心に授業を進める。

教科書 /Textbooks

佐藤 主光『地方財政論入門』新世社(2009年3月)
適宜レジュメとプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 わが国の地方税【所得課税】、【消費課税】、【資産課税】
- 3回 望ましい地方税の条件【課税自主権】
- 4回 租税外部性の理論【租税競争】、【租税輸出】、【垂直的租税外部性】
- 5回 地方税にふさわしい税源は？【地方税】
- 6回 政府間財政移転のタイプと機能【政府間財政移転】
- 7回 地域間財政力格差の是正【財政調整機能】、【財政余剰】
- 8回 政府間補助金の政治経済学【レント・シーキング】、【ソフトな予算制約】
- 9回 政府間財政移転制度【交付税】
- 10回 国庫補助負担金制度【国庫補助金】
- 11回 地方交付税制度の実際【交付税】
- 12回 地方債制度【地方債】
- 13回 効率化の視点【効率性】
- 14回 地方分権改革に向けて【地方分権】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 20% レポート... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方財政、地方分権、経済理論(ミクロ経済学)、地方税、補助金

経済学特殊講義 A 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『組織の経済学』，ポール・ミルグロム，ジョン・ロバーツ著（奥野正寛他 訳）NTT出版．
- 『仕事の経済学』，小池和男著，東洋経済新報社．
- 『人事と組織の経済学』，エドワード・ラジアー著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社．
- 『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』，大橋勇雄，中村二郎著，有斐閣．

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回イントロダクション：経済学の視点から見た労働 【労働】
- 第2回社会的分業と生産性 【分業の利益】 【規模の経済】
- 第3回労働市場という概念と機能（1） 【労働の取引】 【市場】
- 第4回労働市場という概念と機能（2） 【労働需要】 【労働供給】
- 第5回労働市場という概念と機能（3） 【市場メカニズム】
- 第6回労働市場という概念と機能（4） 【市場賃金】
- 第7回労働市場への介入の是非 【市場介入】
- 第8回失業問題（1） 【失業の定義】
- 第9回失業問題（2） 【最低賃金制】 【労働組合】
- 第10回失業問題（3） 【情報の非対称性】 【ミスマッチ】
- 第11回労働市場の内部化 【内部労働市場】
- 第12回日本の雇用システム（1） 【いろいろな雇用形態】
- 第13回日本の雇用システム（2） 【正社員と非正社員】
- 第14回日本の雇用システム（3） 【解雇法制】
- 第15回これまでの復習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60%，小テストあるいはレポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

復習を欠かさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学特殊講義B 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な基礎知識を学びます。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『組織の経済学』, ポール・ミルグロム, ジョン・ロバーツ著 (奥野正寛他 訳) NTT出版.
『仕事の経済学』, 小池和男著, 東洋経済新報社.
『人事と組織の経済学』, エドワード・ラジアー著 (樋口美雄・清家篤訳), 日本経済新聞社.
『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』, 大橋勇雄, 中村二郎著, 有斐閣.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 情報と組織構造 (1) 【情報伝達】【意思決定】
- 第2回 情報と組織構造 (2) 【インセンティブ】【ストックオプション】
- 第3回 情報と組織構造 (3) 【フォーティズム】【事業部制】
- 第4回 情報と組織構造 (4) 【ジャストインタイム方式】
- 第5回 報酬とインセンティブ (1) 【管理職】
- 第6回 報酬とインセンティブ (2) 【チームインセンティブ】
- 第7回 教育・訓練 (1) 【賃金格差】【人的資本】【シグナリング】
- 第8回 教育・訓練 (2) 【教育需要】
- 第9回 教育・訓練 (3) 【OJT】【Off-JT】
- 第10回 公的部門の労働市場 (1) 【公共財】【官民給与】
- 第11回 公的部門の労働市場 (2) 【ラスバイレス比較】
- 第12回 公的部門の労働市場 (3) 【軍事の労働】
- 第13回 データを活用した分析方法の紹介 (1) 【回帰分析】
- 第14回 データを活用した分析方法の紹介 (2) 【賃金分析】
- 第15回 若年労働者の労働事情 【若年労働市場】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60%, 小テストあるいはレポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

復習を欠かさないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主として著作権法と不正競争防止法の領域を扱い、特許法領域については職務発明等の知財管理で要点となる部分のみを扱う。ここでは、単なる法解釈だけでなくコンテンツ産業の契約実務、新コンテンツ産業を立ち上げる際の戦略的立法等まで含めた内容を扱う。音楽産業と法律、映画産業と法律、出版産業と法律、放送事業と法律・・・等々、各産業毎に前述した法領域の諸問題を検討する

教科書 /Textbooks

特許庁標準テキスト「意匠編」「商標編」「総合編」。以上三冊は無償配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有斐閣別冊ジュリスト「著作権判例百選」
鹿毛丈司著「音楽著作権と原盤権ケーススタディ」音楽之友社
有斐閣別冊ジュリスト「商標・意匠・不正競争判例百選」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要
2. 著作権の保護客体～著作物の定義と種類、プログラムの著作物、データベースの著作物二次的著作物および編集著作物、キャラクター、タイプフェイス等
3. 著作者～著作者、法人著作
4. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作権(著作財産権)I
7. 著作権(著作財産権)II
8. 著作隣接権～概論
9. 出版権～概論
10. 著作権侵害
 11. 音楽産業と契約実務
 12. 映画産業と契約実務
 13. 放送事業と契約実務
 14. 商標権侵害・不正競争行為
 15. まとめ
 16. 学年末定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験の比重は約5割、残りは最終判例評釈レポートや授業時の発表内容、授業のリフレクションペーパー等の資料を利用して総合的に評価する。
授業に対する準備事項

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

履修上の注意 /Remarks

単なる教科書の知識だけでなく、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
スカイプID kim-lab
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

著作権 著作者人格権 著作隣接権 原盤権 出版権

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報公開および個人情報保護の法制は、国の法律と各地方公共団体の条例とにより構成されている。情報公開は、国民・住民が国および地方レベルで政治に参画するための手段である。他方で、情報化社会の進展により、情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。それらの仕組みがどのようになっており、具体的にどのように運用され、どのような法律問題が生じているのかということについて概要を把握することがねらいである。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法の逐条解説[第4版]』（有斐閣、2008年）
同 『個人情報保護法の逐条解説[第3版]』（有斐閣、2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業において適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|---|
| 1回 情報公開の意義 | 12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(2)
情報の収集、管理、利用 |
| 2回 情報公開の憲法上の基礎 | |
| 3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(1)
情報・行政文書の意義 | 13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(3)
開示請求と非開示情報、訂正等請求 |
| 4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(2)
開示情報(個人情報) | 14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み(4)
不服申立て、審査会 |
| 5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(3)
法人等情報、意思形成過程情報 | 15回 まとめ |
| 6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(4)
事務事業情報、安全・公安、情報、外交等情報 | |
| 7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(5)
部分開示、応答拒否、裁量的開示 | |
| 8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(6)
開示手続、不服申立て、審査会 | |
| 9回 個人情報保護の意義 | |
| 10回 個人情報保護の憲法上の基礎 | |
| 11回 個人情報保護法。個人情報保護条例の仕組み(1)
個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法 【昼】

担当者名 /Instructor 高場 俊光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の我が国経済は、高度寡占化、政府規制、違法なカルテル等により市場機能が十分発揮できない状況にあり、競争理念がますます重要視されてきている。そのような中で、独占禁止法がどのような切り口で競争を回復・維持しようとしているのかを、法理論面から考える。これにより、自由競争経済の中で、どのような競争が正しい競争であるかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

「独占禁止法」（講義開始後、各受講生にグループウェア上の教材をプリントアウトしてもらう。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『テキスト 独占禁止法（再訂二版）』（佐藤一雄他 青林書院 ￥4,935）
- 『ベーシック経済法 独占禁止法入門（第3版）』（有斐閣アルマ）（川濱 昇他 有斐閣 ￥1,995）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオ『それは独占禁止法違反です①』 【競争の意義・目的】
- 2回 ビデオ『それは独占禁止法違反です②』 【独占禁止法の目的・構成・沿革】
- 3回 不当な取引制限 【カルテル】【談合】【一定の取引分野】【競争の実質的制限】
- 4回 " 【公共の利益】【行政指導】【共同事業】
- 5回 " 【事業者団体によるカルテル】【課徴金】
- 6回 私的独占
- 7回 不正な取引方法 【一般指定】【特殊指定】
- 8回 " 【取引拒絶】【差別的取扱い】
- 9回 " 【事業活動の不当拘束】
- 10回 " 【不当な顧客誘引・取引強制】【取引上の地位の不当利用】【取引妨害】
- 11回 国際取引と独占禁止法
- 12回 企業結合 【市場集中】【水平合併】【垂直合併】【株式保有】【役員兼任】
- 13回 " 【一般集中】【持株会社】【企業集団】【独占的地位】
- 14回 独占禁止法の運用手続
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%。日常の授業への取り組み... 20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。したがって、多くの事例を図解したテキストを使用する。したがって、事例の図解を予め勉強してきて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

- 1、講義の1、2回目に見るビデオは、概要を知るためであるから、必ず出席して欲しい。
- 2、教材のプリントアウトは講義の進行より先行して行い、予習をしておいて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容は、経済社会で頻繁に出てくる事項が多い。したがって、身近な問題として興味を持って勉強して欲しい。

キーワード /Keywords

独占力（市場支配力） カルテル 談合 不当廉売 流通系列化 特約店制度 再販売維持制度
優越的地位の濫用 合併 持株会社 公正取引委員会 課徴金

証券市場と法 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

証券市場は言うまでもなく企業の資金調達場である。また、われわれ一般市民においても、その資産の一部を証券投資に回している。1929年10月24日合衆国を襲った「暗黒の木曜日」は、単に証券取引所での証券価格の大暴落にとどまらず、企業の倒産、大量の失業者・破産者の発生、最終的には世界大戦に至るほどの経済の低迷を招いた。最近でも、やはり合衆国におけるサブプライム問題に端を発した、2008年9月の「リーマン・ショック」は、世界的な金融危機を招いた事件として記憶に新しい。またギリシャ国債等のデフォルト危機は、EUばかりでなく、世界経済全体を揺さぶっている。証券市場は、証券を保有する者に限らず、経済活動のインフラストラクチャーとして、われわれの生活にも大きな影響を持っている。

本講義を受講することで、金融商品、証券市場、上場会社の情報開示、公認会計士による財務諸表監査の意義、証券会社の投資勧誘規制、投資者保護の意味等について、その基本的な仕組みとその関係を知ることができる。おもに「金融商品取引法」を中心に講義が進むが、悪文(！)で知られる同法の条文について、同法の体系、趣旨を踏まえ、個別の問題(粉飾決算に関する損害賠償請求、インサイダー取引規制、証券会社の説明義務違反等)を同法がどのように規制し、どのように解決しようとしているのかを知ることができる。講義は、総論部分(第1回～第4回)の後、情報開示(第5回～第9回)、市場規制(第10回～第11回)および投資勧誘規制(第12回～第15回)まで、全体で4部構成である。

教科書 /Textbooks

松岡啓祐「最新金融商品取引法講義」(中央経済社・2400円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

近藤光男=吉原和志=黒沼悦郎「金融商品取引法入門(第2版)」(商事法務研究会・2011年)、河本一郎=大武泰南「金融商品取引法読本(第2版)」(有斐閣・2011年)、岸田雅雄「金融商品取引法」(新世社・2010年)、松尾直彦「金融商品取引法」(商事法務研究会・2011年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 百年に一度の危機?! 証券市場の大暴落で損をってしまった【大恐慌から生まれた証券取引法】
- 第2回 金融商品とは何か?(1)【有価証券、デリバティブ取引】
- 第3回 金融商品とは何か?(2)【ニクソン・ショック、ポートフォリオ・セレクション、金融自由化】
- 第4回 金融商品取引法の目的【投資者保護、自己責任原則】
- 第5回 発行会社として情報を開示する(1)【有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書】
- 第6回 発行会社として情報を開示する(2)【内部統制システム、内部統制報告書、財務諸表に対する会計士監査】
- 第7回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【粉飾決算】
- 第8回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【有価証券報告書虚偽記載、発行会社・役員等の責任】
- 第9回 企業買収に関する情報開示【TOB、5%ルール】
- 第10回 証券市場はどのように規制されているのか?(1)【相場操縦、風説の流布・偽計取引】
- 第11回 証券市場はどのように規制されているのか?(2)【インサイダー取引】
- 第12回 金融商品取引業者とは何だろうか?【証券会社、登録制】
- 第13回 証券会社は顧客を喰い物にしないか?(1)【適合性原則】
- 第14回 証券会社は顧客を喰い物にしないか?(2)【説明義務】
- 第15回 証券会社は顧客を喰い物にしないか?(3)【金融庁、証券取引等監視委員会】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果の観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。その場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記をするのではなく、考えてみる(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあって、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、金融商品取引法の問題を理解することは困難である(金融商品取引法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

証券市場と法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義中に、金融商品取引法、金融商品の販売等に関する法律、消費者契約法、会社法、商法、手形法、刑法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(金融商品取引法は毎年のように改正されるので)最新の六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融商品 有価証券 株式 株券 社債 デリバティブ取引 セキュリティイゼーション 粉飾決算 有価証券報告書虚偽記載 内部統制システム 公認会計士 TOB 相場操縦 インサイダー取引 証券会社 金融商品取引業者 証券市場 適合性原則 説明義務 金融庁 証券取引等監視委員会 金融商品取引法 証券取引法

知的財産法 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴う新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書 /Textbooks

特許庁編産業財産権標準テキスト「総合編」「特許編」「意匠編」「商標編」以上4冊は無償配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
2. 情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
3. 著作権法～著作物と著作者の権利(著作権、著作人格権)、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
4. 著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
5. 特許法・実用新案法～工業所有権四法(特実意商)の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
6. 特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
7. 特許法・実用新案法～法定通常実施権、特許マッピングの作成、ライセンス契約
8. 意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
9. 商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
10. 商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
11. 不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
12. 不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等(スクランブル解除等)
13. デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
14. ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
15. まとめ
16. 学年末定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の比重は約5割、残りはレポート等の最終提出物や授業中の発表、リフレクションカードの記述内容等、日常的学習の成果を参考にし、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、ネット上の特許サロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
 パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
 最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

履修上の注意 /Remarks

単なる教科書の知識だけでなく、ウェブ上の情報も取捨選択しながら、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
 メールアドレス kimlab01@gmail.com
 スカイプID kim-lab
 研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

知的財産法 【昼】

キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作権者の権利

Advanced Reading and Discussion 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / Denis JONNES / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Aim of this course is further development of reading and discussion skills. Newspaper articles, essays, and short fiction will be used to increase reading speed, expand vocabulary, and improve discussion skills. Reading, comprehension & speaking exercises are conducted on individual basis, as well as in pair and work-group format. Students are expected to keep a reading log and to prepare sample texts and study guides. Exercises are designed to help students prepare for reading sections of standardized tests (TOEIC & TOEFL).

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 "Are We Still Evolving?"
- 3 回 "Intelligent Machines"
- 4 回 Forster, "The Machine Stops"
- 5 回 The Modern Community
- 6 回 Carver, "Neighbors"
- 7 回 "Marriage"
- 8 回 Hemingway, "The Cat in the Rain"
- 9 回 The Consumer Society
- 1 0 回 Media and Privacy
- 1 1 回 Cheever, "The Enormous Radio"
- 1 2 回 Cheever, (continued)
- 1 3 回 Generations
- 1 4 回 O'Connor, "Everything That Rises Must Converge"
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation ... 30% Homework ... 30% Tests ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading & Discussion I; Reading & Discussion II

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Reading; Reading Comprehension; Vocabulary Development.

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 /Instructor 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際ビジネス、経済関係の英文記事を読みこなすことによって、英文を読みながら、経営、経済についての知識、概念を身につけること。
履修登録者の特徴を見て、ミクロ・マクロ経済学の基礎を必要に応じて講義しますので、経済学を学んだことのない学生にも工夫をして英文を読めるように配慮する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。Financial Times, The Economist, Times, Newsweek, Business Week などから、できるだけ最近の国際ビジネス、経済関係の記事を取り上げる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英和辞典、英次郎、英英辞典、文法書など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Session 1: class orientation
Session 2: ビジネス関係の英文に慣れる : 文章自体は易しく、ビジネス・経済の専門用語を含む英文を読む。
Session 3: 同上。
Session 4: 同上。
Session 5: 同上。
Session 6: 同上。

Session 7: ややレベルの高い英文を読む。 : 内容を把握できるように丁寧に解説する。英語の専門用語を増や していく。
Session 8: 同上。
Session 9: 同上。
Session10: 同上。
Session 11: 同上。

Session 12: さらにレベルの高い英文を読む。 : 英文の内容、背景についても丁寧に説明する。
Session 13: 同上。
Session 14: 同上。
Session 15: 同上。

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation: 30 Midterm quiz:30 Final examination : 40

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既に経済、経営関係の講義を受講している場合はさらに効果的な学習ができます。日本の新聞を読み直近の話題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語の発信能力が既にある方は、さらにビジネス・経営関係の専門用語、背景をしっかり学び、知的な英語の発信をできるようになることが期待できる。

キーワード /Keywords

economy, managemnet, current topics, finance, marketing, accounting, bond market, stock market, IMF, WorldBank, fiscal crisis, financial crisis, India, China, Africa, Japanese companies

上級英語I 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will take a critical look at media. We will examine the how and why of media control. Discussion of the various issues is intended to lead to a better understanding of media, the changes that media is currently experiencing, and media's influence on our lives.

教科書 /Textbooks

Puppet on a String: Media Control in Our Lives. Lynch, Jonathan. Cengage Learning. 2010.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction. What really happened?
- 2回 How true is what we read?
- 3回 How the political spectrum affects our news
- 4回 Spinning out of control
- 5回 Staged TV
- 6回 Advertising or brainwashing?
- 7回 Consumerism gone mad
- 8回 Stereotypes and the media
- 9回 The discriminating viewer
- 10回 Another bash on the head
- 11回 So beautiful, so thin
- 12回 Privacy and the media
- 13回 New media same old problems?
- 14回 Depictions of foreigners in the media
- 15回 Like a puppet on a string

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 40%
Assignments 40%
Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Prepare the Warm Up section before coming to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語II 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

In this course we will continue looking at the media in a critical manner. A student centered approach will be used to discuss a variety of current issues. International, domestic, and local items of interest will be presented in various formats using this approach.

教科書 /Textbooks

None.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 Project 1 planning
- 3回 Project 1 preparation
- 4回 Project 1 presentation
- 5回 Project 4 planning
- 6回 Project 2 planning
- 7回 Project 2 preparation
- 8回 Project 2 presentation
- 9回 Project 3 planning
- 10回 Project 3 preparation
- 11回 Project 3 presentation
- 12回 Project 4 planning
- 13回 Project 4 preparation
- 14回 Project 4 presentation
- 15回 Final review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 20%
Projects 60%
Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Complete the tasks and be prepared for your presentation.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
この授業では、「学習指導要領」に規定されている「学校教育」（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における「道徳教育」の理念と具体的な実践方法について学習する。

教科書 /Textbooks
『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 「道徳の時間」と道徳教育	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の指導過程	【指導方法】
7回 「道徳の時間」の指導技術	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】
14回 「道徳の時間」の「指導事例」	【指導技術】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】 内はキーワード)	
1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】 【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】 【教育】 【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】 【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】 【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】 【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】 【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】 【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】 【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】 【食教育】 【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】 【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】 【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」 / まとめ	【指導】 【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
同時に、発達の過程で生じる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達【愛着の個人差、世代間伝達】
- 第8回 共同注意と言語発達
- 第9回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第10回 児童期における社会性の発達
- 第11回 青年期における論理的思考の発達
- 第12回 アイデンティティの模索【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期・老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 教育制度の基本原則 教育制度とは 日本の教育法制
- 2 回 学校制度の基本的事項 (1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 3 回 学校制度の基本的事項 (2) 義務教育、学校体系等
- 4 回 教員に関する制度 教員免許法制、公務員としての教師、教員の指導力と研修等
- 5 回 教育行財政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校等
- 6 回 生涯学習の制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携等
- 7 回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価等
- 8 回 教育課程の意義と編成 (1) 学習指導要領、教科書・教材等
- 9 回 教育課程の意義と編成 (2) 学校の教育課程編成
- 10 回 学校における教育課程経営
- 11 回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 12 回 教育課程の評価
- 13 回 教育課程の開発
- 14 回 今日の課題と教育課程
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商業科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我が国における教育改革の動向及び学習指導要領の改訂の背景について学び、その上で高等学校における商業（ビジネス）教育について、教科「商業」及び商業に関する学科の枠組みの理解を図り、商業に関する各科目の目標、内容、指導方法及び教材研究について科目群別に学ぶとともに、平成25年度カリキュラムへの対応についても触れる。
なお、指導方法等について実践的に学ぶ意味及び教育実習への配慮から、途中において「学習指導案」作成の要点について学ぶこととする。

教科書 /Textbooks

吉野弘一著 「商業科教育法」実教出版、「高等学校学習指導要領解説 商業編」実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本商業教育学会編 「教職必修最新商業科教育法 新訂版」実教出版
雲英道夫他編著 「商業科教育論」多賀出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入講義及び我が国における教育改革の動向
- 第2回 現行学習指導要領改訂の背景
- 第3回 教科「商業」の目標と教科の組織
- 第4回 商業に関する学科とその目標
- 第5回 学習指導案作成の要点
- 第6回 基礎科目
- 第7回 流通ビジネス科目群
- 第8回 国際経済科目群
- 第9回 簿記会計科目群(1) 【簿記】、【会計】
- 第10回 簿記会計科目群(2) 【原価計算】、【会計実務】
- 第11回 経営情報科目群(1) 【文書デザイン】、【情報処理】
- 第12回 経営情報科目群(2) 【ビジネス情報】、【プログラミング】
- 第13回 総合学習科目群(1) 【課題研究】
- 第14回 総合学習科目群(2) 【総合実践】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% , 平素の学習状況(課題等) ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義の受講が高等学校教員免許(商業)取得の要件の一つとなっていることから、受講者は、その志望者であるという前提で講義を進める。

履修上の注意 /Remarks

商業教育の指導内容である専門的知識・技術(複式簿記、マーケティング、情報処理など)については、本学の豊富に用意されている他の講義等で十分に学修しておく、或いはすることが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高等学校における商業教育は、幅広くビジネス教育への転換が図られていますが、高い志と使命感をもって、商業(ビジネス)教育に携わる教員を目指して真摯に励むこと。

キーワード /Keywords

商業教育の意義、教科商業の目標及び組織、ビジネスの基礎・基本の能力、学習指導要領

商業科教育法B 【昼】

担当者名 綾部 真道 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我が国の商業教育の歴史の変遷について理解を深め、改めて商業教育の現状と課題について考察する。また、学力観の転換及び評価について学び、その上で評価基準の設定について演習を行う。さらに、教育課程の編成について理解を深めるとともに、各自、学習指導案を作成し、発表、協議を行い実践的指導力の基礎を身に付ける。

教科書 /Textbooks

吉野弘一著 「商業科教育法」実教出版、「高等学校学習指導要領解説 商業編」実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本商業教育学会編「教職必修最新商業科教育法新訂版」実教出版
雲英道夫他編著「商業科教育論」多賀出版
三好信浩著 「日本商業教育成立史の研究」風間書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 商業教育の生成(明治期以前)
- 第2回 商業教育の生成(明治期)
- 第3回 商業教育の発展(大正、昭和(戦前))
- 第4回 商業教育の試練(戦中、戦後)
- 第5回 戦後の商業における教育課程基準の変遷(商業教育の拡充、商業教育の多様化)
- 第6回 戦後の商業における教育課程基準の変遷(商業教育の集約化)
- 第7回 商業教育の現状と課題(商業に関する学科の生徒数、卒業生の進路)
- 第8回 商業教育の現状と課題(生涯学習社会・知識経済社会への対応)
- 第9回 指導と評価の一体化
- 第10回 評価基準の設定(演習)
- 第11回 教育課程の編成
- 第12回 学習指導案の作成(講義及び演習)
- 第13回 学習指導案の模擬授業(簿記)
- 第14回 学習指導案の模擬授業(商品と流通)
- 第15回 まとめ-商業教育の根底にあるもの-

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80%, 平素の学習状況(課題等) ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義の受講が高等学校教員免許(商業)取得の要件の一つとなっていることから、受講者は、その志望者であるという前提で講義を進める。

履修上の注意 /Remarks

商業教育の指導内容である専門的知識・技術(複式簿記、マーケティング、情報処理など)については、本学の豊富に用意されている他の講義等で十分に学修しておく、或いはすることが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高等学校における商業教育は、幅広くビジネス教育へと転換が図られているが、高い志と使命感をもって、商業(ビジネス)教育に携わる教員を目指して真摯に励むこと。

キーワード /Keywords

商業教育の変遷(明治期~戦前)、森有礼、福澤諭吉、渋沢栄一、商業倫理、戦後の教育課程基準(商業)の変遷、学習指導案、模擬授業

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 子どもたちがお互いの生きづらさや葛藤を理解し、表現しあう中で、お互いを支え合える関係づくりを学級活動の中で築いていくための課題と実践方法を検討していくこと。
- ③ 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ④ 子どもたちの自己効力感、自己有用感を育み、自治の力を育む生徒会活動、学校行事のあり方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- ⑤ 上記の理念と実践を踏まえて、学級経営、学校行事の指導計画の作成方法を学習すること

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 及び高等学校学習指導要領 特別活動
折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 参加者の現実の学校体験から、学級活動の課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級集団指導の留意点
- 8回 学級経営の指導計画案の作成
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題と方法
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 学校行事の指導計画案の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 学期 /Semester 2学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 講義 クラス /Class 2年 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科を実際に指導する授業の場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、情報機器及び教材の活用を含んだ実践的な教育の方法の理論と技術を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「教育の方法」とは何か 【教育の方法の形態】【比喻・モデル】
- 2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
- 3回 「現代」の「教育の方法」 【連続と非連続】【現代化】
- 4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
- 5回 「情報機器」と「教材」の活用 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
- 6回 「情報化社会」における生徒の指導 【情報化社会】【インターネット】
- 7回 「学習遅滞」の指導 【学習遅滞】【SHELLモデル】
- 8回 教師と生徒の「コミュニケーション」 【話す】【聞く】
- 9回 「学習規律」を育てる指導方法 【出席と参加】【学習規律】
- 10回 各教科指導の「具体的システム」 【学習指導要領】【学習のシステム】
- 11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
- 12回 各教科指導の「学習指導案」 【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
- 13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」 【発問】【説明】【指示】【助言】
- 14回 各教科指導における「評価」 【授業評価】【自己評価】
- 15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて - 【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【教育実習】【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】【学級経営】
5回 学級経営について	【学級集団づくり】【学級通信】
6回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】【生徒理解】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】【授業記録シート】
9回 生徒の人権と教育	【人権】【自尊感情】
10回 参加型授業の実践	【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】【学習指導案】
12回 模擬授業①(中学・高校)	【授業構成】【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校)	【授業構成】【展開】
14回 模擬授業③(中学・高校)	【授業構成】【練習】【応用】
15回 模擬授業④(中学・高校)	【指導技術】【発問】【説明】【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談)、学校教育の中での位置づけについての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談、カウンセリングの基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。
4. 子どもの「最善の利益」を一致点とした保護者との共同、関係諸機関との共同に向けての課題を明らかにしていくこと。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1~4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 伊藤美奈子・春日井敏之編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の意義と3つの領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談))
- 3回 学校カウンセリングの教育相談の基本的な理念について
- 4回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 7回 不登校の子どもに対する教育相談
- 8回 発達障害の子どもに対する教育相談
- 9回 子どもの問題をめぐる保護者との共同・連携の課題
- 10回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 11回 教育相談活動における連携について - スクールソーシャルワーカー等との連携
- 12回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 13回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 14回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育相談【昼】

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、いじめ問題、不登校問題

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、生徒指導の目的、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導)の区別と関連などを検討していくこと
- ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
また、実際の生徒指導の場面を想定して、その場面での対応を考える力を養うこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を踏まえた進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 片山紀子 入門 生徒指導 - 「生徒指導提要」を踏まえた新しい生徒指導のありかた 学事出版
- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のすすめ」
- 日本キャリア教育学会 キャリア教育概説 東洋館出版
- 見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 生徒・進路指導論の課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際
- 3回 生徒指導の基本 その1 生徒指導の三機能と、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導
- 4回 生徒指導の基本 その2 毅然たる指導、ゼロトランス他
- 5回 実際の生徒指導場面での紙上応答練習
- 6回 「我が子の非行と向き合う親たちの会」の方の講演
- 7回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(女子生徒の事例から)
- 8回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(男子生徒の事例から)
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 進路指導の場面を想定してのロールプレイ実習
- 14回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート20%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの5, 6章, 8章をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

生徒・進路指導論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、進路指導

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 五十嵐 亮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育現場や地域社会、家庭における子どもの「学び」と、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）の在り様に関して、主に心理学的側面に注目しながら理解を深めていく。
本講義では、子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方、日常的な具体例を取り上げながら学習することを通して、上記の問題に関して、「心理学的視点から自分の考えを持てるようになること」を目標とする。
講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を毎回設けていく。

教科書 /Textbooks

指定せず（毎回配布資料を用いる）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時情報を提供する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション
- 第2回教育心理学の理論と方法 【行動主義・認知主義】、【社会文化理論】
- 第3回子どもの「学力」(1)：関心・意欲 【自己効力】、【学習性無力感】
- 第4回子どもの「学力」(2)：知識・理解 【知識の種類・体制化】、【学力低下論争】
- 第5回子どもの「学力」(3)：思考・判断 【問題解決】、【転移と領域固有性】
- 第6回子どもの「学力」(4)：表現・技能 【リテラシー】、【プロジェクト学習】
- 第7回教育測定・評価(1) 【測定学力】、【目標学力】
- 第8回教育測定・評価(2) 【評価基準】、【テスト作成】
- 第9回教師と授業づくり(1) 【教師の思考様式】、【教師の信念体系】
- 第10回教師と授業づくり(2) 【学級経営】、【グラウンド・ルール】
- 第11回教師と授業づくり(3) 【学びの共同体】、【教師の同僚性】
- 第12回カリキュラムと学習材 【課題分析】、【目標分類】
- 第13回学習環境と教育方法(1) 【学習集団編成】、【集団力学】
- 第14回学習環境と教育方法(2) 【習熟度別学習】、【協働学習理論】
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況（学習態度、ミニレポート等）...30%
レポート...20%
学期末試験...50%
（ミニレポートは、毎回講義時間内（10分）に記述する）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回講義中に情報提供する参考書を読んでもらうと、理解がより深まると思われる（可能な限り、図書館利用可能な書籍を提示する）。
自らの教授学習経験と重ね合わせながら、「自分だったらどうするだろうか」「どうしてほしいだろうか」という当事者意識を持って、積極的に受講してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規
- 2回 生徒の懲戒
- 3回 いじめ・不登校と教育指導
- 4回 組織としての学校における教員
- 5回 教員の指導力と研修
- 6回 教員の懲戒
- 7回 教育活動と著作権
- 8回 教育情報の取り扱い
- 9回 教育情報の発信
- 10回 子どもの健康と学校の安全
- 11回 中央教育行政と地方教育行政
- 12回 地方教育行政と学校
- 13回 保護者・地域と学校
- 14回 保護者・地域の教育参加・連携
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等も含む参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から敗戦（1945）までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【維新の三傑】
- 第3回 不平等条約と条約改正
- 第4回 明治14年政変と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第5回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第6回 明治憲法体制【伊藤博文】
- 第7回 日露戦争【山県有朋】
- 第8回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第9回 21カ条要求【大隈重信】
- 第10回 原敬と協調外交【原敬】
- 第11回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第12回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第13回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【東条英機】【吉田茂】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって - 問題の出発点
- 2回 家族制度の歴史
- 3回 家族の機能
- 4回 ハードウェアとしての家族
- 5回 システムとしての家族① - しつけ・教育
- 6回 システムとしての家族② - 役割・役割分担
- 7回 システムとしての家族③ - 勢力・権威
- 8回 現代家族の課題① - 離婚の原因
- 9回 現代家族の課題② - 離婚制度
- 10回 現代家族の課題③ - 中高年の離婚
- 11回 現代家族の課題④ - 夫婦間暴力
- 12回 現代家族の課題⑤ - 児童虐待
- 13回 現代家族の課題⑥ - 家族の危機
- 14回 現代家族の課題⑦ - 高齢社会と家族
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 定期試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。
(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかで育まれたものである。グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なるものであり、その違いを理解するのが困難なこともある。本講義では、その違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、自分なりの姿勢を身に着けるための手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化
第2回 異文化理解とは
- 第3回 家族は普遍的か？
第4回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
第6回 ジェンダー
第7回 伝統と普遍的価値観
- 第8回 中間試験 / 経済活動に見る文化①：導入
第9回 経済活動にみる文化②：贈与・交換とは
第10回 経済活動にみる文化③：現代の贈与・交換
第11回 開発の現場における「文化の差異」
第12回 「貧しさ」とは何か
- 第13回 中間試験の講評 / 文化と世界観①：儀礼
第14回 文化と世界観②：宗教・呪術・占い

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 20%、期末試験 80% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

中間試験の無断欠席者および授業態度が目には余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。2年次以上対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、世界観、経済活動、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (5) 【分業体制】
- 7回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (6) 【近代科学の勃興】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界論のはじまり【フッサールの近代批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著、ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー -】
 14回 健康な心と身体に行く末について。【老いと死の受容】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特に設けない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
- 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【あるがまま・とらわれ】
- 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
- 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
- 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
- 11回～12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、人権文化について。【人権・平和】
- 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
キャリアプラン 【仕事】【遊び】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(1) (ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ(2) (ふうせんバレー、ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(1)
- 9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習(2)
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(鬼ごっこ、ドッチビー)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(レクリエーション要素の高いバドミントン)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(卓球バレー)
- 13回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(1)
- 14回 (講義) 健康でステキな人生をおくるために(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実習には、ハードな動きのスポーツは含んでいませんので、楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信満々で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く
- 第3回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第4回 学習指導案の発表①
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表②
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①
- 第9回 模擬授業と相互観察②
- 第10回 模擬授業と相互観察③
- 第11回 模擬授業と相互観察④
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

①教育実習1を受講していること、②社会科教育法ないしは公民科教育法を受講していること、を受講の条件とします。
なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

自然学のまなざし (人間と生命) 【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。それぞれの遺伝子はどのような働きをし、何をどこまで決めているのだろうか。遺伝子に傷がつくと細胞や個体にどのようなこと引き起こされるのだろうか。また、細胞が作る社会とはどのようなもので、個体はどのように成り立っているのだろうか。人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学 第二版 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011 (羊土社)
 - 「こころ」は遺伝子でどこまで決まるのか 宮川剛著 2011年 (NHK出版新書)
- 高校生物IおよびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 からだの構成単位・細胞【細胞内小器官】【核】【細胞膜】
- 3回 個体はどのようにつくられていくか【発生】【分化】
- 4回 細胞はどのように増えるか【細胞分裂】【染色体】
- 5回 遺伝子の名前と由来【変異体】【遺伝病】
- 6回 遺伝子とは何をやるものか【遺伝暗号】【タンパク質】
- 7回 遺伝子で決まるもの・決まらないもの【ゲノム】【遺伝子発現】
- 8回 遺伝子の働きはどうやって知るのが【疾患モデル動物】
- 9回 細胞の寿命と個体の老化【テロメア】【iPS細胞】
- 10回 細胞にとっての情報【受容体】【ホルモン】
- 11回 細胞社会とその反逆者【がん細胞】【細胞死】
- 12回 生体防御とそのしくみ【免疫】【抗体】
- 13回 映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加40% (質問やコメントの内容で評価する)、確認のための小テスト (2〜3回実施) 30%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校で生物を履修していなかった者は参考書を入手して備えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自然科学系科目が苦手な者も歓迎します。高校の教科書や参考書等を入手し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

くらしと化学【夜】

担当者名 /Instructor 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

化学知識は生活に不可欠な知識です。化学物質は身近な物質として生活を豊かにするのに貢献しています。また”生命とは宇宙とは”豊かな発想や、豊かな未来社会を展望する上での必要な知識です。一方、地球環境汚染など否定的現象にも関わる知識です。また金銭を中心とする消費社会では、工セ科学を利用した詐欺的商法もあります。市民は其中で、単なる教養でなく、正しい判断のための正確な科学知識が必要とされます。

そのためにまず化学と身近な問題の関係を学習し、そのかわりから化学への興味をもち、そして化学的知識の理解・習得に至る過程に関わることがこの授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳 (丸善)
¥2,310円 1996年09月発行 ISBN 978-4-621-04227-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ゼロからはじめる化学」立屋敷 哲著 (丸善) \2200、ISBN 978-4-621-08016-0
- 「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳 (新潮社)
- 「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著 (翔泳社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義は、入門的に高校の理科・化学のまとめと補足をを行い。引き続いて、教科書に与えられたテーマに基づき、補足、関連話題や解説を進めて理解の促進をはかる。

- 1化学の基礎
- 2砂糖と甘味料
- 3アルコール・・・酒と百薬の長・・・アルコールの体内挙動
- 4コレステロール、その働き
- 5脂肪、食物繊維・・・ダイエットとメタボ対策
- 6くすり その1・・・毒と薬は紙一重
- 7くすり その2・・・その開発と副作用
- 8原子力と放射性物質 (教科書外)
- 9洗剤・・・洗淨、きれいさ、その歴史と洗剤の多機能性 (教科書外)
- 10洗剤・・・洗剤と環境問題 (教科書外)
- 11塩化ビニルとダイオキシン・・・プラスチックと高分子の歴史
- 12塩化ビニルとダイオキシン・・・化学汚染と環境問題史
- 13二酸化炭素その1・・・二酸化炭素と温暖化の科学的仕組み、
- 14二酸化炭素その2・・・二酸化炭素の地球循環
- 15まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

簡単レポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。
テレビ・新聞等の科学関連ニュースには注目して欲しい。疑問点は質問して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

教科書外の内容も講義する。それがテストの範囲になるので、プリントを受け取り、ノートはきちんととること。やむ終えない欠席時はノート模写をしておくこと。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学というと、まずイメージされるのが「カウンセリング」というのが一般的です。カウンセリングは心理学の大切な一分野ですが、実は心理学のごく一部分に過ぎません。心理学は人間の一般的傾向（良い側面、悪い側面の両方）を、実験や調査などで客観的に把握し、日常生活や仕事などに応用することができる学問です。

人間は大きな可能性を持つとともに、弱くて不完全な存在です。それを受け入れ（自分についても他人についても）、問題が生じないように工夫をするために、心理学を活用してみましょう。そのためには、心理学の研究がどのように行われ、何が明らかにされているかという基礎的な理論を学び、考える力が必要です。自分の行動や気持ち（自分の中・誰かに対して・集団の中で）を振り返り、心理学の理論と照らし合わせて考えてみましょう。講義の大枠は暫定的に作っていますが、毎回終了時に感想や質問などのコメントを提出してもらい、それをもとに次回講義を展開していきます。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 【心理学的に効果のあるガイダンス】担当者の心理学や大学教育に対する考え方、講義の狙いや内容やルールとそれらの根拠を紹介し、良いコミュニケーション関係を作るための準備について心理学的に説明します。
- 2回 【人の心の一般的傾向と多様性】心を理論で捉えるとはどういうことか？心をどうやって測定するか？について学びましょう
- 3回 【コミュニケーションを共有という概念から紐解く】「わからない」「わかってもらえない」ということはなぜ起きるのか、なぜわかるのか？コミュニケーションを「共有」という概念から心理学的に紐解いてみましょう。
- 4回 【人から相談されてうまく答えられないという悩みに】相談というコミュニケーションにはどんな機能や効果があるのか？そもそもどうして人に相談したくなるのか？相手の問題解決を支援し心を軽くするのに役立つヒントについて心理学の理論で考えていきましょう。
- 5回 【ネットワークの中の私】私たちはたくさんの人とコミュニケーションし、支え合って暮らしています。そこから得られるもの、一方で人とのやり取りで感じるストレスについて、ソーシャルサポート理論から学び考えましょう。
- 6回 【自分らしさのなりたち】「私って何？」という疑問に、心理学はどこまで答えられるのでしょうか。「自分らしさ」を性格理論で紐解いて、「血液型と性格は関係あるのか？」ということについて考えましょう。
- 7回 【今ここにある私はどうやって私になったか】これまでの人生を振り返るワークを通じて、人が成長する過程と体験するもの、得られるもの、どうしても起きる苦しみについて、発達心理学の視点から学び考えましょう。
- 8回 【「やる気」がなげりゃ「その気」にさせる】「やる気」はどこから来るのか？やる気がない時、やる気のない人にどんな工夫をして「その気」にさせるのか、動機づけ理論から学び考えてみましょう。
- 9回 【人は思い込み、とらわれる】購入した商品の口コミを確認したことはありませんか？都合の良い情報ばかり集め、都合の悪い情報をシャットダウンしてしまう心について心理学の理論で学び考えてみましょう。
- 10回 【偏見はなぜ起きる？】偏見は「ワカラナイ」ものから自分を守るために発生してしまいます。自分の中にある偏見に向き合って、なぜそれが生まれるのか、偏見解消に何が有効か心理学的に考えましょう。
- 11回 【心の揺らぎと痛み】健やかな心とはどんな状態なのか？心が揺れるのはどんな時なのか？健やかな心を保つためにはどんな工夫ができるのかについて学び考えましょう。
- 12回 【集団の中の自分】私たちは様々な集団に属し、それに大きな影響を受けて生活しています。自分の心や行動への集団の影響について、集団で話し合いをするとどんなことが起きるのか、実験を体験して集団の理論から考えてみましょう。
- 13回 【組織事故-なぜ起きるのか？どうやったら防げるのか？】様々な産業組織での事故は、個人の問題だけでなく、人との関わりの中で発生します。事例分析を通じて、なぜ事故が起きるのか、防ぐためにはどうすれば良いのか、を心理学理論を使って考えましょう。
- 14回 【言いたいことを言えていますか？】日常の対人関係において、言いたいことを言えなくて苦しくなったこと、「言えば良かった」と後悔したことはありませんか？言いたいことを言えない気持ち、どうやったらうまく言えるのかについて、心理学的に学び考えましょう。
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【夜】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
評価は、試験の結果のみで行います。
試験は、全て持ち込み可とします。
講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 本講義の構成と概説
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概説(続)
- [第3回~第7回まで「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植①
- 第4回 脳死・臓器移植②
- 第5回 脳死・臓器移植③
- 第6回 安楽死・尊厳死① 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義と多文化主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送され、話題となったマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【夜】

担当者名 /Instructor
重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 岡 邦信 / 法律学科
岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。

本講義は、現代において生起しているそのような様々な問題の幾つかを取り上げ、それらを正確に理解したうえで問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、「現代正義論の展望」(重松)
- 第2回 「民法(債権法)改正とその問題点」(福本)
- 第3回 「障害のある人の権利 — ADAを中心にして」(植木)
- 第4回 「ドメスティック・バイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「裁判員制度」(山本)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「株式会社とは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「行政活動の実効性」(福重)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「現代型商取引から生じる法律問題」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第15回 まとめ(重松)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる(計3本)。

- ①受講者は各講義のテーマの中から指定された3つの課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
- ②レポートの書式等は別途指示する。ただし、各レポート2000字以上とする。
- ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を明記した表紙を必ず添付すること。
- ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
- ⑤授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマに応じて事前に情報を収集し、予習しておくとう理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、原則として全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定します。全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意して下さい。

キーワード /Keywords

現代社会 諸問題

国際社会論【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会学的考察」である。
グローバル化の進展に伴って、定住外国人の「統合」や多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。こうした課題について考えるための基礎知識を提供する。また、グローバルな現象をローカルな場（地域）において実証的に把握していく方法についても学ぶ。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察する。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの紹介
- 第2回 グローバル化の進展と国際労働力移動【グローバル化】【エスニシティ】
- 第3回 出入国管理について【外国人登録】【出入国管理】
- 第4回 エスニシティ理論【道具主義】【原初主義】【分断労働市場】【オリエンタリズム】
- 第5回 在日韓国・朝鮮人と日系ブラジル人について【特別永住者】【定住者】【永住者】
- 第6回 日本と朝鮮半島の近現代史①（外国語学部総田先生による講義）【植民地支配】
- 第7回 日本と朝鮮半島の近現代史②（外国語学部総田先生による講義）【冷戦】【民団と総連】
- 第8回 在日韓国・朝鮮人と日本社会①【民族関係】
- 第9回 在日韓国・朝鮮人と日本社会②【エスニシティ】
- 第10回 日系ブラジル人と日本社会①【国境を越えた雇用システム】
- 第11回 日系ブラジル人と日本社会②【顔の見えない定住化】
- 第12回 日系ブラジル人と日本社会③【非正規雇用】
- 第13回 日系ブラジル人と日本社会④【教育達成】
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

木暮太一(2010)『経済が世界—シンプルにつかめる本』明日香出版社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田稔(監修)(2010)『ポン!とわかる日本経済』宝島SUGOI文庫。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。

第1回	シラバス詳細版配布、授業の説明、イントロダクション	【グローバル化】
第2回	世界で何が起きている?	【サブプライム問題】
第3回	世界で何が起きている?	【WTO】【BRICs】
第4回	商品にまつわる話	【海外進出】【立地】
第5回	商品にまつわる話	【人件費】【為替レート】
第6回	食べ物にまつわる話	【食料自給率】
第7回	食べ物にまつわる話	【エコビジネス】【脱炭素燃料】
第8回	生活環境にまつわる話	【円高・円安】【人件費】
第9回	生活環境にまつわる話	【雇用慣行】【労働移動】
第10回	人の力にまつわる話	【人口減少】【貯蓄率】
第11回	人の力にまつわる話	【年金】
第12回	国の持ち物にまつわる話	【自由貿易】
第13回	国の持ち物にまつわる話	【多国籍企業】
第14回	お金と為替にまつわる話	【基軸通貨】
第15回	お金と為替にまつわる話	【変動相場制】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(ミニテストやレポートなど): 20~30%、学期末試験: 70~80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、必要に応じて配布されるプリントも予習・復習の際に参考にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸は三つある。第一は政治面の軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が主な内容である。第二が経済面の軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』第3版(有斐閣 2010年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【バブル経済】【冷戦の終結】
- 第14回 冷戦後の日本外交【小泉政権】【民主党政権成立】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習をしっかりとください。

キーワード /Keywords

日本政治 歴史 第二次世界大戦後

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、小林道彦『見玉源太郎』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【伊藤博文】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵【原敬】
- 第6回 山東出兵(1)【田中義一】
- 第7回 山東出兵(2)【張作霖】
- 第8回 満州事変(1)【石原莞爾】
- 第9回 満州事変(2)【牧野伸顕】
- 第10回 日中戦争(1)【近衛文麿】
- 第11回 日中戦争(2)【蒋介石】
- 第12回 太平洋戦争(1)【松岡洋右】
- 第13回 太平洋戦争(2)【東条英機】
- 第14回 太平洋戦争(3)【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 義兄の死 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱 - 西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名 /Instructor 福間 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義には、二つの柱がある。ひとつは、「都市と農村」あるいは「都会と田舎」という区分が、現代社会において、どのような繋がりや存在意義を持っているのかを明らかにすることである。もうひとつは、「世間」というものが、現代の私たちの生活を無意識のうちに律していることを自覚し、その存在理由を文化的に分析することである。

授業においては、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない人々の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 何気ない普段の生活を意識する
- 第2回 はじめに「都市の誘惑」都市と農村のリズム
- 第3回 「世間とは」気づかない日常の拘束力
- 第4回 「言葉の威力」言葉から都市と農村を見る
- 第5回 「新しい世間」電子メディアと文化均一化
- 第6回 「稲の魂」農村と神
- 第7回 「都市と御霊」都市の間と光
- 第8回 「祭と祭礼」都市の指標としての祭礼
- 第9回 「都会の身体 / 田舎の身体」身振りと文化
- 第10回 「人気(じんき)」国民性・県民性 集合的無意識
- 第11回 「都会のハビトゥス1」出会いと社交の技法
- 第12回 「都会のハビトゥス2」結集の技法
- 第13回 「都会のハビトゥス3」不文律の妙
- 第14回 「都市の威力」博多山笠に見る文化伝播
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身近なところから問題点を発見し、自ら分析し、解決する。この知的技法の基本を楽しく伝えていきたいと思います。

キーワード /Keywords

日本民俗学 柳田國男 世間 世間体 空気を読む 文化伝播 伝統と創造 都市祭礼 フィールドワーク

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、日本・アメリカ・ヨーロッパの代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、ヨーロッパについては1930年代の世界恐慌とそれを打開しようとしたアメリカのルーズベルト大統領のニューディール政策、ドイツのヒットラーのナチス経済、世界恐慌を救済する理論を考案した経済学者M. ケインズ。ケインズ政策を使って昭和恐慌を救った高橋是清について述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていなとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
- 中村彰彦『保科正之』(中公新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 日本、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 永遠の繁栄のアメリカと賠償支払い問題で苦境のドイツ
 - 第2回 1929年世界恐慌の構造
 - 第3回 ルーズベルト大統領とニューディール政策
 - 第4回 ヒットラーとナチス経済
 - 第5回 M ケインズと不況の経済学「一般理論」
 - 第6回 高橋是清と昭和恐慌
 - 第7回 サッチャーの経済政策とバブル経済
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』(講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球から沖縄へ
- 第7回 対馬からみた日朝関係
- 第8回 近世的日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 「外国」になった沖縄
- 第13回 「大帝国日本」の解体
- 第14回 「日本人」の戦後問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。

履修上の注意 /Remarks

毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 藤野 月子 / FUJINO TSUKIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、東アジアを中心としてその歴史的な変容を考察する。目標として、中国・朝鮮・日本をはじめとする東アジア諸地域の特異性について明らかにし、更にはそれを通じて東アジア諸地域の今後の在り方を自らで模索することの出来る能力を養うことを目指す。なお一般的に中国の歴史というと、単に中国国内のみの問題と捉える傾向があるかもしれない。しかし、古来から中国は近隣の様々な民族を吸収・同化しつつ変容を繰り返しているのである。また、近隣諸地域もその影響を受けつつオリジナルな国家形成を行ってきているのである。つまり、東アジアにおいて両者を巡るこのような関わりは相互に密接なものを有しているといえよう。よってここでは具体的に、中国における古代文明の誕生から隋唐の世界帝国の形成・衰退までを、中国のみに止まることなく東アジアという包括的視座に置いて各時代の政治・思想・外交・文化等の多角的な面から理解することを掲げる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。講義では毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに - 講義のガイダンス・東洋史と中国 -
- 第2回 秦の始皇帝による統一 - 古代文明の誕生から中華思想の形成まで -
- 第3回 秦漢と匈奴 - 中国と北方騎馬民族との関係 -
- 第4回 中国の外交政策 - 羈縻・冊封・互市・和蕃公主の降嫁 -
- 第5回 前漢の政治と思想 - 儒教との関係 -
- 第6回 後漢の政治と思想 - 外戚と宦官 -
- 第7回 三国志の時代 - 三国の領土拡大と卑弥呼の朝貢 -
- 第8回 西晋による三国統一 - 西晋の内乱と諸民族の動向 -
- 第9回 東晋南朝の社会 - 貴族とは -
- 第10回 五胡十六国北朝の時代 - 北中国における民族の融合 -
- 第11回 南北朝と朝鮮・日本 - 朝鮮・日本の中国外交 -
- 第12回 隋唐による統一 - 世界帝国の成立と政治制度 -
- 第13回 唐と朝鮮・日本 - 唐の朝鮮政策と白村江の戦い -
- 第14回 唐代の外交 - 唐の近隣支配体制と商業活動 -
- 第15回 安史の乱後における唐の滅亡 - 世界帝国の衰退と東アジアへの影響 -

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習態度... 20%・定期試験... 80%
(講義では毎回感想カードを配布回収する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習としては特になし。
復習としては講義中に適宜紹介するものを読んで理解を深めることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界史・東洋史に初めて触れる人にも理解しやすい講義を心がけたいと思います。
先入観に振り回されず、
今後の世界に大きな影響を与えることが確実な中国の歴史について学ぶことは必要であると同時に大変有益です。

キーワード /Keywords

東アジア 中国 朝鮮 日本

社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域について社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代の社会的解読』(山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006)
その他、講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 社会学の基本的な考え方
- 第3回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1 : 集合意識と行為
- 第4回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2 : 『自殺論』
- 第5回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1 : 理解社会学
- 第6回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2 : 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- 第7回 集団と組織1 - 集団・組織の種類と機能
- 第8回 集団と組織2 - 官僚制の逆機能
- 第9回 家族1 - 家族の種類と機能
- 第10回 家族2 - 近代化と家族
- 第11回 社会階層と社会移動1 - 階層化の趨勢
- 第12回 社会階層と社会移動2 - 階層化のメカニズム
- 第13回 グローバル化とエスニシティ1 - グローバル化の趨勢
- 第14回 グローバル化とエスニシティ2 - 統合のメカニズム
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では世界的視野で自然的要素の諸相を明らかにし、自然的条件が人間および人間社会に及ぼす影響を及ぼすかを世界の様々な地域を事例を挙げて検討する。さらに日本において生活の基礎的条件としての自然的条件が人間生活に影響を及ぼしている事例を検討する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井関弘太郎『沖積平野』東京大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
2. 世界の自然 - 気候、地形、地震
3. 世界の自然と農業 - 農業様式と景観
4. 未開発地域の人々の生活
5. 氷雪地域における人間の生活 - シベリア・オイミヤコン
6. 熱帯地域における人間の生活 - 酷暑地域
7. 乾燥地域における人間の生活 - アタカマ砂漠
8. 西ヨーロッパの気候と人間の生活 - イギリス、ドイツ、スペインなど
9. 世界最多雨地域における人間の生活 - マガラヤ
10. 日本の自然条件 - 気候、地形、陸水
11. 日本における気候と農業、生活
12. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 氷河性海面変動と沖積層
13. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 沖積層と地盤沈下
14. 自然条件が人間活動に及ぼす影響 - 沖積層と工業立地
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業の取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳持参が望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

機構、地形、極寒地域、酷暑地域、温暖地域、氷河性海面変動、沖積層

土地地理学 【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の緒現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図です。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用した実習を行い、地理学的知見を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「地理的情報の分析手法」(菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著 古今書院 3,675円)
- 「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」大沼一雄著 東洋選書 2,625円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
- 2回 地図の役割。【地図の能力】
- 3回 地図の歴史。
- 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
- 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
- 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
- 7回 山の地形を地形図から描くI (講義・実習)。【等高線】
- 8回 山の地形を地形図から描くII (実習)。
- 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
- 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI (講義・実習)。
- 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII (実習)。
- 12回 空中写真の利用。【リモートセンシング】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
- 14回 リモートセンシング、衛星データの利用。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考書や配布する資料などを読んでおくとより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域を対象としてとりあげ、「社会的環境の変化と地域の変化」をテーマとする。産業構造の変化、交通の変化、自治体の再編成が地域にどのような変化をもたらすかを明らかにする。
ビデオなども使い、具体的なイメージが湧くように努めたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1)はじめに～地理学とは、地誌とは
- (2)産業構造の変化と地域① - 製鉄業の再編成と地域の変貌 (北九州、釜石、福山など)
- (3)産業構造の変化と地域② - 自動車産業の再編成と地域の変貌 (座間、豊田、刈田など)
- (4)産業構造の変化と地域③ - 造船業の再編成と地域の変貌 (下関、因島など)
- (5)産業構造の変化と地域④ - エネルギー革命と地域の変貌 (宇部)
- (6)産業構造の変化と地域⑤ - エネルギー革命と地域の変貌 (夕張)
- (7)交通の変化と地域の変貌① - 道路輸送、鉄道輸送の整備と地域の変貌 (農業地域、一戸、飯田など)
- (8)交通の変化と地域の変貌② - 高速交通網の整備と地域の変貌 (観光地、角館、小布施、湯布院など)
- (9)交通の変化と地域の変貌③ - 橋、トンネルの開通と地域の変貌 (下関、高松、函館、青森など)
- (10)交通の変化と地域の変貌④ - 空路輸送、海上輸送の整備と地域の変化 (ハブ港とフィーダー輸送)
- (11)自治体の再編成と地域の変貌① - 何のための自治体の再編成か
- (12)自治体の再編成と地域の変貌② - 山口県における自治体再編成と下関市の合併
- (13)自治体の再編成と地域の変貌③ - 合併しなかった自治体について (福島県矢祭町、長野県栄村など)
- (14)自治体の再編成と地域の変貌④ - 合併しなかった自治体について (山口県阿武町)
- (15)まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業の取り組み (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域、産業再編成、交通変化、自治体再編成、製鉄業、自動車産業、造船業、エネルギー革命、高速交通網

倫理学 【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。西洋の歴史において倫理思想がどのように発展してきたのかを学びつつ、倫理学についての基本的知識を身につけることが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【概説】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 5回 哲学と倫理 (4) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 6回 哲学と倫理 (5) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ヘレニズム期】
- 7回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【古代イスラエルの宗教】
- 8回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 9回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 10回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理【キリスト教の発展】
- 11回 近代倫理学の誕生 (1)【イギリス経験論】
- 12回 近代倫理学の誕生 (2)【契約説】
- 13回 近代倫理学の発展 (1)【カント】
- 14回 近代倫理学の発展 (2)【功利主義】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 学期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教職科目という性質上、当然ながら一般的な授業よりも採点基準は厳しくなる。テストは持ち込み一切不可。最終的な成績は、日頃の学習態度と記憶力の程度によって大きく異なってくるだろう。

キーワード /Keywords

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 . 夜間主コース /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を説明することができるようになります：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割
- Webページの作成元や信頼度
- インターネットを用いた情報収集、情報発信についての基礎的な知識

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】【リスク分析】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【検索エンジン】【フリー百科事典】【情報の引用】
- 8回 情報システムの利用者としての心得(3)【ブログ】【ソーシャルメディア】【掲示板】
- 9回 情報システムの利用者としての心得(4)【クラウドコンピューティング】【スマートフォン】【データベース】
- 10回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 11回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】
- 12回 情報セキュリティ対策(2)【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 13回 情報セキュリティ対策(3)【SSL】【クッキー】
- 14回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、ソーシャルメディア

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 /Class 夜間主コース

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

英語I【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練する。また口語英語を中心に、文法能力と英文の内容を読み取る力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング プレテスト、リーディング インタロダクション
- 3回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 4回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 5回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 6回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 7回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 8回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 9回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 10回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 11回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 12回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 13回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 14回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course: Self introduction
- 第2回My favourite place in Japan
- 第3回My important friends
- 第4回The sports I enjoy to watch and play
- 第5回The places I want to visit
- 第6回The food I like and what I can make
- 第7回My favourite movies and actors/actresses
- 第8回Countries of the world
- 第9回What I would buy with 10 million yen
- 第10回My family
- 第11回The music I like
- 第12回What I want to have for my dinner
- 第13回What I do in the morning (routine)
- 第14回The season I like
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語IV 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing and discussion. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer holiday
- 第2回The pets I like / the animals I hate
- 第3回Health and fitness
- 第4回The crossword puzzle
- 第5回The person I want to meet
- 第6回What I want to do over New Year
- 第7回My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回Sporting heroes
- 第9回The TV programmes I like to watch
- 第10回My skills
- 第11回My future dream
- 第12回How I get the news in my life
- 第13回My three most important possessions
- 第14回My biggest worry at the moment
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語V 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
						○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (Second Edition) 桐原書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 10 回 Purchasing
- 11 回 Finances
- 12 回 Media
- 13 回 Entertainment
- 14 回 Health
- 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：世界から見た日本
ねらい：英語教材を通して、世界における日本のあり方や、日本が抱える課題、日本文化と他の文かの異同について考える。

教科書 /Textbooks

Takemura, Hideo et al. 2012. The World Watches Japan. Nan'Un-do.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・ Unit 1
- 第2回 Unit 2
- 第3回 Unit 3
- 第4回 Unit 4
- 第5回 Unit 5
- 第6回 Unit 6
- 第7回 Unit 7
- 第8回 Unit 8
- 第9回 Unit 9
- 第10回 Unit 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 12
- 第13回 Unit 13
- 第14回 Unit 14
- 第15回 Unit 15

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class: new edition』 (2009) Richmond, S. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Sounding natural 1: silence and conversation
- 4回 Talking about daily life
- 5回 Sounding natural 2: dynamic conversations
- 6回 Giving longer answers and answering implicit questions
- 7回 Talking about university life
- 8回 Talking about skills
- 9回 Talking about family
- 10回 Talking about travel
- 11回 Talking about free time
- 12回 Talking about money
- 13回 Talking about our hometowns
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営夜2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
 The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks
 『Longman English Interactive Online, Level 2/American English Student Access』 (2008) Rost, M., Pearson Education, ¥ 3500

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 Introduction to the course and online resources
 - 2回 Registering in the online course
 - 3回 Greetings, occupations
 - 4回 Introducing other people
 - 5回 Food and restaurants
 - 6回 Talking about one's weekend
 - 7回 Talking about technology
 - 8回 Talking about illness and health
 - 9回 Giving directions
 - 10回 Making plans
 - 11回 Talking about shopping
 - 12回 Talking about household chores
 - 13回 Giving advice
 - 14回 Talking about apartments and houses
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 一木 達彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『西遊記』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社）定価2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 母音 (1)
3. 子音 (1)
4. 子音 (2)
5. 子音 (3)
6. 子音 (4)
7. 子音 (5)
8. 母音 (2)
9. 終声 (1)
10. 発音の変化
11. 日本語のハングル表記方法
12. ~は~ですか？【指定詞の丁寧形・疑問①】
13. ~は~です。【指定詞の丁寧形】
14. ~は~ではありませんか？【指定詞の丁寧形・疑問②】
15. ~は~ではありません。【指定詞の丁寧形・否定】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩(改訂版)』(叢基珠・金三順・金天鶴・申鉉竣・吉川友丈、白水社) 定価2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 前期のまとめ、
- 2 . 【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3 . 【漢数詞】
- 4 . 【固有数詞】
- 5 . ～ですか?～ますか?【動詞と形容詞の丁寧形・疑問】
- 6 . ～です、～ます。【動詞と形容詞の丁寧形】
- 7 . ～ません、～くありません。【動詞と形容詞の丁寧形・否定】
- 8 . ～ですか?【指定詞の打ちとけた丁寧形】～ではありません。【指定詞の打ちとけた丁寧形・否定】
- 9 . ～です、～ます。【動詞と形容詞の打ちとけた丁寧形】
- 10 . 【尊敬表現】
- 11 . 【動詞と形容詞の丁寧形・過去】
- 12 . 【動詞と形容詞の打ちとけた丁寧形・過去】
- 13 . 【意思・推量・婉曲表現】
- 14 . 【願望表現～したい】
- 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 基本文字について【基本母音と基本子音①】
2. 書き方と発音【基本子音と基本子音②】
3. 書き方と発音【激音と濃音】【合成母音字】
4. パッチム【終声①】
5. パッチム【終声②】
6. 発音のルール【連音化】【濃音化】
7. 発音のルール【激音化】【鼻音化】
8. 単語と音の変化【その他の発音法則】
9. 尋ねる時の表現（～ですか？）【指定詞の丁寧形・疑問】
10. 自己・物を紹介する時の表現①（～です、～ではありません）【指定詞の丁寧形・否定】
11. 自己・物を紹介する時の表現②（～といます）
12. 存在の有無を尋ねる時の表現①（～がありますか？～いますか？）【存在詞のうちとけた丁寧形・疑問】【場所をあらわす助詞】
13. 存在の有無を尋ねる時の表現②（～に～があります。います）【存在詞のうちとけた丁寧形】【時を表す単語および助詞】
14. 存在の有無を尋ねる時の表現③（～に～があります。います）【存在詞のうちとけた丁寧形】【位置を表す単語および助詞】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ
2. 「これは何ですか?」①【指示代名詞】【疑問代名詞】
3. 「これは何ですか?」②【指定詞の打ちとけた丁寧形】
4. 「日曜日に何をしますか?」①【固有数詞】【曜日】【時間】【動詞のうちとけた丁寧形】
5. 「日曜日に何をしますか?」②【漢数詞】【助数詞】【月日】【電話番号】
6. 「日曜日に何をしますか?」③【一週間の予定】
7. 「何が好きですか?」①【動詞と容詞のうちとけた丁寧形・否定】
8. 「何が好きですか?」②【目的/～しに行く・来る】
9. 「何が好きですか?」③【動詞・形容詞の変則】
10. 「週末に何をしましたか?」①【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
11. 「週末に何をしましたか?」②【願望表現～したい】
12. 「週末に何をしましたか?」③【接続表現/～(し)て】【確認表現/～じゃないですか?】
13. 「明日は何をするつもりですか?」①【意思表現/～するつもりです】【推測表現/～でしょう】
14. 「明日は何をするつもりですか?」②【進行や状態の継続表現/～しています】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・20%
学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最初の一步として、フランス語の基本文法を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書の引きかたはもちろん、簡単なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版]フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 冠詞
- 3回 人称代名詞(1) : 主語
- 4回 動詞êtreとavoirの活用
- 5回 否定形
- 6回 形容詞
- 7回 第1群規則動詞
- 8回 疑問形
- 9回 指示形容詞
- 10回 所有形容詞
- 11回 動詞allerとvenirの活用
- 12回 近接未来と近接過去
- 13回 前置詞à、deと定冠詞の縮約
- 14回 疑問形容詞・疑問副詞
- 15回 疑問代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

次の一歩として、フランス語の初級文法のほぼ全体を習得してもらいます。この授業の内容を理解すれば、辞書さえあれば、基本的なフランス語の文章を読み解けるようになります。

教科書 /Textbooks

太田浩一・前田保他『[新装版] フランス語文法の〈基礎〉』（駿河台出版社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第2群規則動詞
- 2回 比較級と最上級
- 3回 命令法
- 4回 非人称表現
- 5回 人称代名詞(2) : 目的語、強勢形
- 6回 複合過去
- 7回 関係代名詞
- 8回 指示代名詞
- 9回 代名動詞
- 10回 単純未来
- 11回 特殊な代名詞
- 12回 半過去
- 13回 受動態
- 14回 現在分詞とジェロンディフ
- 15回 条件法・接続法

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の文法力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現を学びます。フランス語Ⅳとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』（白水社、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 あいさつ(1) : 自己紹介
- 3回 持ちものをたずねる
- 4回 趣味をたずねる
- 5回 onを使った表現
- 6回 あいさつ(2) : お元気ですか?
- 7回 年齢の言い方
- 8回 名前を聞く
- 9回 好きな色を聞く
- 10回 飲み物を頼む
- 11回 時刻の表現
- 12回 あいさつ(3) : 人を紹介する
- 13回 デザートを頼む
- 14回 代名動詞を使った表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検5級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

DVD付きの教科書を使って、目と耳と口からフランス語の初歩的な会話表現をさらに学んでいきます。フランス語Ⅲとあわせて履修することで、一年間で日常的なフランス語を理解できるようになります。

教科書 /Textbooks

小笠原洋子『ピエールとユゴー [DVD付]』(白水社、2500円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 カフェで注文する
- 2回 曜日
- 3回 C'est + 形容詞の表現
- 4回 疑問代名詞のまとめ
- 5回 値段を聞く
- 6回 12ヶ月
- 7回 mondeを使った表現
- 8回 「～できる」という表現
- 9回 季節
- 10回 感嘆文
- 11回 依頼・願望の表現
- 12回 感情の表現
- 13回 義務の表現
- 14回 お礼のメールを出す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...30% 小テスト...20% 学期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞書(電子でも紙でもよい)必携のこと。

履修上の注意 /Remarks

自宅で教材のDVDを再生できる環境を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仏検4級に合格できる程度の力をつけることを目指します。

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書は必要です。授業にも辞書を持参すること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式を採用いたします。また、ときどき、映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
 辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウン西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 規則動詞(1)の活用と基本表現
- 5回 動詞estar、重要な不規則動詞
- 6回 形容詞 不規則動詞serを用いた基本的表現
- 7回 規則動詞(2)の活用と基本表現
- 8回 規則動詞(3)の活用と基本的表現
- 9回 所有形容詞
- 10回 3つの規則動詞活用の復習
- 11回 人称代名詞の目的格と基本用例
- 12回 動詞活用と基本表現のブラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠です。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。この入門編でスペイン語の基礎を学部こととなりますが、出だしが肝心です。意欲的に取り組んでください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『コミュニケーションのためのスペイン語』第三書房、2006年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在：不規則動詞、人称代名詞(目的格)
- 3回 人称代名詞を用いた表現
- 4回 近接未来表現など天候表現、時刻表現
- 5回 不規則動詞、不定詞表現、所有形容詞(その2)
- 6回 gustar(~が好きです)系の表現、間接目的格
- 7回 前置詞に導かれる人称代名詞
- 8回 復習：日常的表現
- 9回 再帰動詞(1)
- 10回 再帰動詞(2)
- 11回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 12回 比較級と最上級
- 13回 現在完了形
- 14回 現在進行形
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 70% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基礎演習【夜】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

輪読を行い，まとめのレポート作成を行うことで，プレゼンテーションとレポートの基礎を身につけてもらうことを目的としています．

教科書 /Textbooks

「分かりやすい表現」の技術，藤沢晃治著，講談社ブルーバックス

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目 オリエンテーション
2～7回目 輪読，レジюме作成と発表の練習．
8～14回目 レジюмеと，オリジナルの調査結果とあわせてレポートの作成．
15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加度合い...70%，最終レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備は必要ではありませんが，遅刻，欠席のないようにしてください．

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習I【夜】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる (=キャリア)、人と組織の能力を引き出す (=人的資源管理) という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。これら2つのテーマについて深く考察することを通じて、高度な論理的思考能力を養成することを目標とします。論理的に考え、物事の本質を捉えることは、みなさんがこれから企業で働くうえでの必須条件です。論理的思考能力の鍛錬に最適です。多くの優れた理論を学び、それを使って現実を分析するとともに、企業に対して一定の政策的提言を行なう練習をしていきます。演習Iでは人的資源管理の基礎知識を習得することを目指します。したがって、入門的な教科書を1回で1章ずつ読み進めていく予定です。毎回、報告者を指名しますので、必ず報告してください。1学期あたり割り当てられる報告回数は、ゼミ人数により変化します。文献講読のほか、可能な限り卒業論文の書き方や文献検索の方法についても概説したいと思っています。

教科書 /Textbooks

受講者が少ないので、基本的な論文のコピーを配布し、それを教科書として用います。何か教科書を購入する必要はとくにはありませんが、もし下記の参考書のなかで関心のあるものがあれば、入手して使ってもらえるとよいです。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

このゼミのテーマに関連深い参考書として以下の2冊を挙げておきます。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣
奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan (上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂)。
その他、研究に有用な著書についてはゼミのなかで紹介する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (第1回) ゼミの概要説明と報告者の割当
- (第2回～第15回) 教科書の輪読、論文作成に関する説明

成績評価の方法 /Assessment Method

報告... 50% 期末レポート... 50%
※ただし、出席は毎回とることとします。出席率が低い場合には単位を認めない場合もあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「人事管理論」を受講しておくといでしょう。
毎週のゼミに備え各自で予習するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

卒業研究作成への第一歩として、人的資源管理論の網羅的な理解が目指すべき目標です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミで指定された本以外にも多くの本を読んでください。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理論

演習II【夜】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このゼミでは、働いて生きる (=キャリア)、人と組織の能力を引き出す (=人的資源管理) という2つのテーマを中心に、これからの社会を研究していきます。これら2つのテーマについて深く考察することを通じて、高度な論理的思考能力を養成することを目標とします。論理的に考え、物事の本質を捉えることは、みなさんがこれから企業で働くうえでの必須条件です。論理的思考能力の鍛錬に最適です。多くの優れた理論を学び、それを使って現実を分析するとともに、企業に対して一定の政策的提言を行なう練習をしていきます。演習IIでは、前半7回程度を卒業研究の作成方法概説にあて、後半8回程度は、各自で関心のあるテーマについて報告してもらう予定です。ただし、教科書の進み具合やゼミ人数を勘案し、かつゼミ生からの意見も踏まえた上で、ゼミの進め方を変更する可能性があります。

教科書 /Textbooks

とくに指定しませんが、下記の教科書に関心のあるものがあれば各自入手しておいてください。卒業研究で大いに参考になると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期に用いる本とは別に、このゼミのテーマに関連深い参考書として以下の3冊を挙げておきます。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣
奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management: Theory and Practice, Macmillan (上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂)。
その他、研究に有用な著書についてはゼミのなかで紹介する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(第1回~第7回)
卒業研究の作成過程(たとえば問題・テーマの設定、資料収集の方法、理論構築など)について段階を追って説明します。

(第8回~第15回)
各自の関心のあるテーマを自由に報告してもらう予定です。具体的には、卒業研究のテーマを念頭においた報告を課します。ちなみに夜間主は受講者数が少ないので、この学期だけで合計5回くらい報告してもらうことになると思います。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50% 期末レポート...50%
※ただし、出席は毎回とることとします。出席率が低い場合には単位を認めない場合もあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「人事管理論」を受講しておくといでしょう。
毎週のゼミに備え各自で予習するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

本科目は必修科目であるから、各自がゼミ報告を行なう回以外の回においても、真剣な予習と復習を行なうことが望まれます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目の履修を通じて研究方法のイロハを学んでいただきたい。適宜英文テキストも読みましょう。
また、演習IおよびIIで人的資源管理に詳しくなっておけば、卒業研究の作成が大いに楽になるはずですよ。

キーワード /Keywords

経営学、人的資源管理論

経営学入門【夜】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っており、経営者はこれらの経営要素を組み合わせて企業の目標を達成することが求められているが、これらの活動を一般的に経営という。15回の講義の中では、経営の仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人的資源管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・奥林康司他(2007)『経験から学ぶ経営学入門』有斐閣。(2,520円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。
- 坂下昭宣(2007)『経営学への招待(第3版)』白桃書房。
- 吉田和夫・大橋昭一編(2003)『基本経営学用語辞典(三訂版)』同文館出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業経営概論【企業経営】【経営資源】
- 2回 企業概念およびその目的【企業の3機能】【社会的責任】
- 3回 コーポレート・ガバナンス【株式会社】【所有と経営の分離】
- 4回 経営理念と経営戦略【経営理念】【経営戦略】
- 5回 組織形態【職能別組織】【事業部制組織】
- 6回 組織間関係【系列・下請】【戦略的提携】
- 7回 生産管理【テイラーシステム】【多品種少量生産方式】
- 8回 組織構造と職務設計【分業】【調整】
- 9回 モチベーションとリーダーシップ【動機づけ】【リーダーシップ】
- 10回 雇用システム【終身雇用】【非正社員】
- 11回 報酬制度【年功賃金】【成果主義】
- 12回 人材育成制度【OJT】【キャリア・デザイン】
- 13回 国際経営【多国籍企業】【海外直接投資】
- 14回 会計制度【企業会計】【財務諸表】
- 15回 社会科学における経営学の位置づけ【社会科学】【概念】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校卒業間もない学生諸君を対象とする講義であるから、予備知識は特に必要としない。ただし、高等学校公民科の「現代社会(とくに政治経済領域)」または「政治・経済」で学習した内容を復習しておくこと。また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。教科書は講義中に参照してもらうので毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにしておくこと、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は必修科目であり、かつ他の経営学関連科目の基礎となっているので、真剣に受講すること。準備事項にも書いたが、毎回の予習と復習を怠ってはならない。

キーワード /Keywords

社会科学、経営学、企業、組織

簿記論I【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業簿記は、企業の資産と資本の変動を一定の理法と組織によって秩序的に記録・計算・整理し、その結果を適正・明瞭に表示する特殊な技術打である。

本講義ではその理法と組織がいかなるものであるかを考察し、併せてその原理が実務でどのように応用されているかを研究する。簿記は実務学科である。したがって、簿記を修得するためには普段の努力が必要である。受講生は努力を惜しまないで欲しい。

教科書 /Textbooks

入門簿記講義 早稲田大会計学研究室編 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 簿記とは何か
- 第2回 簿記の目的
- 第3回 簿記の必要性
- 第4回 計算項目(1) 資産・負債・資本
- 第5回 計算項目(2) 収益・費用
- 第6回 会計取引とは何か
- 第7回 会計取引と帳簿記入(1) 仕訳の法則
- 第8回 会計取引と帳簿記入(2) 元帳転記
- 第9回 仕訳及び元帳の記入練習(1)
- 第10回 仕訳及び元帳の記入練習(2)
- 第11回 試算表の作成
- 第12回 精算表の作成
- 第13回 決算手続(1) 帳簿の修正
- 第14回 決算手続(2) 帳簿の締切
- 第15回 Accounting Cycle

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート 20% 平素の学習状況 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

簿記は極めて簡単な原理から成り立っている。その原理を確実に理解するためには練習が必要である。筆記具と紙を用いて何度も練習してほしい。

ただし、基礎知識が習得できたら次はできるだけ難しい問題に取り組むことが肝要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

後期は前期に修得した簿記の基本的知識を応用するものとし社会会計を講義する。

教科書 /Textbooks

「新検定 簿記講義 2級商業簿記」 加古宜士・渡部裕亘編著 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 帳簿組織(1) 転記の合理化と事務分掌
- 第2回 帳簿組織(2) 補助簿の仕訳帳化および補助元帳
- 第3回 帳簿組織(3) 総合練習問題
- 第4回 特殊商品売買(1) 委託販売と受宅販売
- 第5回 特殊商品売買(2) 未着品販売
- 第6回 特殊商品売買(3) 割賦販売
- 第7回 長期請負工事(1) 工事進行基準と工事完成基準
- 第8回 長期請負工事(2) 練習問題
- 第9回 本支店会計(1) 本支店間の取引の処理
- 第10回 本支店会計(2) 本支店財務諸表の合併
- 第11回 社債(1) 社債の発行と利払いの会計処理
- 第12回 社債(2) 社債償還の会計処理
- 第13回 資本金(1) 株式会社の設立会計
- 第14回 資本金(2) 増資及び減資の会計
- 第15回 資本金(3) 合併の会計

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

後期の講義内容は簿記論Iの理解を前提に株式会社会計を主題にしている。
受講者は簿記論Iの内容を復習しつつ株式会社会計を勉強してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。
また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。
そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。Webを利用して必要な知識を取得することを指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】【ファイル】
 - 2回 通信技術とコンピュータの融合の進展【LAN】【TCP/IP】【インターネット】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データの検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】【クリティカルパス】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【フローチャート】【デジジョンテーブル】
 - 9回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【誤差】
 - 10回 問題演習【条件分岐】【PERT】
 - 11回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 12回 これからのコンピュータ【クラウドコンピューティング】【EA】【公的個人認証】
 - 13回 身の回りの情報技術やメディア【携帯端末】【電子マネー】【画像認識】
 - 14回 問題演習【暗号】【コンピュータ用語】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は、前回までに学習したことを理解しているとの前提で進められるので、それまでの授業の概要については、復習して理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

キーワードは、授業計画・内容の欄に載せています。

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 西村 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、企業をはじめ、学校、政府、地方自治体など、必ず何らかの組織に属して生きています。ですから、組織のマネジメント、すなわち組織をいかに経営するかは、社会にとっても、また私たち自身の生き方にとっても非常に重要なテーマであると言えます。マネジメントを学ぶことは、自分の生活とかけ離れた理論を学ぶということではなく、現代社会に生きる私たちにとって不可欠な、重要な考え方と実践を学ぶことなのです。

本講義では、経営学やマネジメントの基礎について学んでいきます。基本的な考え方を知ることで、自らが生きている組織や社会のマネジメントに興味をもてるようになり、自身が所属する組織において、少しでもマネジメントの考え方を活かしていくことができるようになることを目標として学んでいきます。

教科書 /Textbooks

『ひとりで学べる経営学』（三戸 浩・池内 秀巳・勝部 伸夫 著）文真堂 1,900円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『経営学100年の思想』（宮田 矢八郎 著）ダイヤモンド 3,200円
- 『はじめて学ぶ経営学』（中野 裕治・貞松 茂・勝部 伸夫・嵯峨 一郎 編）ミネルヴァ書房 2,800円
- 『管理とは何か』（三戸 公 著）文真堂 4,200円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代社会と企業
- 2回 企業における所有と支配について
- 3回 古典的管理論に基づくマネジメント(1) 【科学的管理と管理過程】
- 4回 古典的管理論に基づくマネジメント(2) 【ヒューマン・リレーションズ】
- 5回 マネジメントの新次元 【近代管理論の成立】
- 6回 意思決定の科学としてのマネジメント
- 7回 人間性を重視するマネジメント論(1) 【動機づけ理論】
- 8回 人間性を重視するマネジメント論(2) 【リーダーシップ論】
- 9回 現代管理論の展開
- 10回 コンフリクトのマネジメント
- 11回 マネジメントにおける創造性
- 12回 知識社会のマネジメント
- 13回 日本の経営について
- 14回 企業の社会的責任について
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(提出物、受講態度)...40% 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたっては、テキストをしっかりと読んでおいてください。
また、各回の授業で配布するレジュメを導入として、学習を深めていってください。
専門教育科目の「企業論基礎」「経営組織論」とあわせて受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自ら考え学ぶ姿勢を大切にしてください。
授業中の私語は禁止します。

マネジメント論基礎【夜】

キーワード /Keywords

企業と社会	人と組織	組織と管理	機能性と人間性	相違性(異質性)の統合	科学と経験
社会的責任	日本の経営				

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、主として企業の仕組みや役割、社会との関係などをできるだけ平易に説明します。
受講生は「これからの企業に何が求められ、企業はそれにどのように対応しているか」を学ぶことになります。
本講義の目的は、現代企業を理解するために必要な基礎的知識を獲得することです。

教科書 /Textbooks

『現代企業論の基礎』（佐久間信夫編著 学文社 ¥2,800+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(本講義および企業論についての概要説明)
- 2回 企業とは何かI【企業の定義】、【企業の本質】
- 3回 企業とは何かII【企業の目的】、【企業は誰のものか】
- 4回 現代企業の諸形態I【企業形態】
- 5回 現代企業の諸形態II【持分会社】、【株式会社】
- 6回 株式会社の発展I【東インド会社】、【資本の証券化】
- 7回 株式会社の発展II【経営者支配】、【企業統治】
- 8回 企業結合の諸形態【企業連合】、【トラスト】、【コンツェルン】、【M&A】
- 9回 日本の会社機関と企業統治【日本の企業統治】、【委員会設置会社】
- 10回 企業統治の国際比較I、【米国の企業統治】
- 11回 企業統治の国際比較II、【ドイツの企業統治】
- 12回 企業に求められる21世紀型CSR【企業と社会】、【CSR】
- 13回 企業の環境経営【環境マネジメント・システム】
- 14回 SRIの広がりとその課題。【SRI(社会的責任投資)】、【CSR】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学や会社法関連の科目を受講しておくこと、本講義の理解が一層深まるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は大学における「企業論」の入門的科目です。この講義を端緒として企業の分析に本格的に取り組んでくれることを期待します。

キーワード /Keywords

企業形態 株式会社 企業統治(コーポレート・ガバナンス) CSR(企業の社会的責任)

演習III 【夜】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゼミの内容は初回に希望を聞いて決定します。担当教員の専門は情報関係ですが、なるべく希望に沿った内容にします。例えば、ミクロ経済、マクロ経済、ゲーム理論、統計、多変量解析、プログラミング、株式分析、経営分析など。

教科書 /Textbooks

未定 (相談して決めます)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ決定後に連絡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ゼミ運営方法、ゼミテーマ決定
- 第2回：報告、報告内容について議論2
- 第3回：報告、報告内容について議論3
- 第4回：報告、報告内容について議論4
- 第5回：報告、報告内容について議論5
- 第6回：報告、報告内容について議論6
- 第7回：報告、報告内容について議論7
- 第8回：報告、報告内容について議論8
- 第9回：報告、報告内容について議論9
- 第10回：報告、報告内容について議論10
- 第11回：報告、報告内容について議論11
- 第12回：報告、報告内容について議論12
- 第13回：報告、報告内容について議論13
- 第14回：報告、報告内容について議論14
- 第15回：報告、報告内容について議論15

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...70% 報告、レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

初回に具体的な内容を決定しますので、ゼミでどのようなことを勉強してみたいか考えておいてください。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席、遅刻厳禁です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ゼミの内容は初回に希望を聞いて決定します。担当教員の専門は情報関係ですが、なるべく希望に沿った内容にします。例えば、ミクロ経済、マクロ経済、ゲーム理論、統計、多変量解析、プログラミング、株式分析、経営分析など。

教科書 /Textbooks

未定 (相談して決めます)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ決定後連絡します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：報告、報告内容について議論1
- 第2回：報告、報告内容について議論2
- 第3回：報告、報告内容について議論3
- 第4回：報告、報告内容について議論4
- 第5回：報告、報告内容について議論5
- 第6回：報告、報告内容について議論6
- 第7回：報告、報告内容について議論7
- 第8回：報告、報告内容について議論8
- 第9回：報告、報告内容について議論9
- 第10回：報告、報告内容について議論10
- 第11回：報告、報告内容について議論11
- 第12回：報告、報告内容について議論12
- 第13回：報告、報告内容について議論13
- 第14回：報告、報告内容について議論14
- 第15回：報告、報告内容について議論15

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...70% 報告、レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習Ⅲで勉強したことを元により深い内容を勉強します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営統計【夜】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

統計学は経営や情報において数量的データを扱う上での基本的な学問です。表やグラフを使い、経営のために必要なデータの統計学的分析方法と考え方を経済・経営・情報などの様々な例題とデータを通して身につけていきます。さらに、経営の数理モデルへの応用方法を学びます。この講義では、データの整理の仕方や平均、分散、標準偏差などの基本的な性質を学びます。つぎに、確率計算の基礎と2項分布、一様分布、正規分布の扱い方を練習します。統計学の基礎である中心極限定理について学習し、各種の推定方法や検定方法などを経営などの例題を通して身につけます。

教科書 /Textbooks

「初等統計学」培風館、P.G.ポーエル著、浅井晃、村上正康訳、1700円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「統計学の基礎」培風館、J.C.ミラー著、村上正康訳

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：データの表現 【度数分布表】、【平均】、【分散】、【標準偏差】
- 2回：確率 【確率】、【条件付き確率】
- 3回：確率分布表 【確率分布表】、【期待値】、【平均と分散の性質】
- 4回：確率分布 【独立試行】、【2項分布】
- 5回：確率分布 【一様分布】、【正規分布】
- 6回：標本抽出 【中心極限定理】、【統計学の基礎理論】
- 7回：推定 【大標本法】
- 8回：推定 【小標本法】、【t分布】
- 9回：仮説検定 【大標本法による平均の検定】、【片側・両側検定】
- 10回：仮説検定 【小標本法による検定】、【2つの平均の差の検定】
- 11回：相関 【相関係数】
- 12回：回帰分析 【最小2乗法】
- 13回：カイ2乗検定 【カイ2乗分布】
- 14回：カイ2乗検定 【適合度の検定】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、問題解決方法を具体的に学びます。授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

授業は「数学」を履修していることは前提としていませんが、履修していれば「経営統計」がより深く理解できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

統計学の基本的な考え方や道具立てを学ぶために、この科目を履修することをぜひお勧めします。

キーワード /Keywords

平均、分散、標準偏差、分布、推定、検定

経済学入門 A 【夜】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、経済学学習の最初の導入として、ミクロ経済学の初歩的な考え方、分析道具の習得を目指します。また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築きます。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：経済学の考え方
- 2回 財の希少性と合理性による選択行動
- 3回 消費者行動
- 4回 市場需要曲線と弾力性
- 5回 生産者行動
- 6回 市場供給曲線
- 7回 価格調整メカニズムと競争市場均衡
- 8回 市場均衡の変化
- 9回 余剰
- 10回 経済ニュースと経済学：余剰
- 11回 交換による利益
- 12回 生産可能性曲線
- 13回 絶対優位と比較優位
- 14回 経済ニュースと経済学：交換の利益
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80%、講義への積極的な参加...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【夜】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

教科書 /Textbooks

P.G.ホーエル『初等統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森棟公夫『統計学入門』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定(準備)
- 10 割合pに関する仮説検定(本体)
- 11 割合pに関する仮説検定(考察)
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題
- 15 統計的推定と検定のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)

。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習支援フォルダに、各回の講義を受講する前に予習すべき課題を掲載する予定である。必ず、予習しておくように。なお、講義は予習をしていることを前提に行われる。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1): 【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2): 【課税】
- 5回 市場と厚生(1): 【余剰】
- 6回 市場と厚生(2): 市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1): 【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2): 【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1): 【生産】 【費用】 【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2): 【限界分析】 【限界収入】 【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3): 【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1): 【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2): 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

マクロ経済学I【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1) 【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングII (新JAVA) 【夜】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年 (新カリ)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Java(ジャバ)を用いて、プログラミングスキルを体得することを目指します。Javaプログラミングを通じて論理的思考の育成を目指します。また、グループワークを通じてシステムエンジニアとして不可欠なコミュニケーション能力を育成していきます。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著 『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(上)』 2006年、ソフトバンクパブリッシング
結城浩著 『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(下)』 2006年、ソフトバンクパブリッシング

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 Java開発環境Eclipseの使い方について【JDK】【Eclipse】
 - 3回 プログラミングIの復習【オブジェクト】【クラス】【メソッド】
 - 4回 プログラミングIの復習【変数】【配列】
 - 5回 プログラミングIの復習【引数】【戻り値】
 - 6回 インスタンスメソッドとクラスメソッドについて
 - 7回 コンストラクターについて
 - 8回 ファイルの入出力【I/O】
 - 9回 画面の入出力【GUI】【Displayクラス】【Shellクラス】
 - 10回 各種画面部品1【AWT】【SWT】
 - 11回 各種画面部品2【AWT】【SWT】
 - 12回 グループワーク(設計)
 - 13回 グループワーク(開発)
 - 14回 コンテスト
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...40% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：必修科目「プログラミングI」取得後に履修すると効果的な学習ができます。

履修上の注意 /Remarks

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生、または、3年次以降に情報分野のゼミを履修することを希望する学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

Java Eclipse オブジェクト指向 SWT アプリケーション開発

データ構造【夜】

担当者名
/Instructor

隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
- 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
- 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
- 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
- 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
- 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
- 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
- 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
- 9回 探索3【二分探索木】
- 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【ヒープ】
- 11回 ソート法2【クイックソート】【シェルソート】【マージソート】
- 12回 グラフ1【グラフ】【隣接行列】
- 13回 グラフ2【ダイクストラ法】
- 14回 応用例【ハノイの塔】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データベース【夜】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社（2006年1月）、2,394円（税込）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
 - 第2回：データベースシステム【データベースシステム】
 - 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
 - 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
 - 第5回：リレーショナルデータベース
 - 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
 - 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
 - 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
 - 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
 - 第10回：正規化とは【正規化】
 - 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
 - 第12回：データベース設計【データベース設計】
 - 第13回：データベース設計方法
 - 第14回：データベース設計評価
 - 第15回：まとめ
- （パソコン教室を予定していますが、講義の約2/3は講義で、パソコンの演習は1/3程度です。進行状況等により内容は変更になる場合があります。）

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 小テスト・課題...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備は必要ありませんが、データベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

履修上の注意 /Remarks

専門的で難易度は少し高めです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

内容的に単位取得のみを目的とした人には向いていません。データベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

キーワード /Keywords

経営戦略【夜】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
『ケースに学ぶ経営学[新版]』（東北大学経営学グループ著）有斐閣、2600円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略〈新版〉- 論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第 2回 経営戦略論の議論の歴史 1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第 3回 経営戦略論の議論の歴史 2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第 4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第 5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第 6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第 7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第 8回 競争の戦略 1【5フォースズ】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第 9回 競争の戦略 2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第 10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第 11回 ビジネスシステム戦略【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
- 第 12回 経営戦略と組織 1【組織形態】、【事業部性】、【マトリックス組織】
- 第 13回 経営戦略と組織 2【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】。
- 第 14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果(90%)によるが、必要に応じて学期中の小レポートの結果(10%)を加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

経営組織論 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことが出来る者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織論の展開を追いながら、そうした組織が、現代においてどのように成り立ち、運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

教科書 /Textbooks

岸田民樹編『組織論から組織学へ -経営組織論の新展開-』文眞堂、2009年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード(山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
三戸公『随伴的結果』文眞堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【現代社会における組織】
- 2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】
- 3回 組織の見方① 【オープンシステム・アプローチ】【organized】【状況適合理論】
- 4回 組織の見方② 【organizing】【組織化の進化モデル】【イナクトメント】
- 5回 組織の見方③ 【現代組織の特徴】【官僚制】
- 6回 組織論と人間観① 【経済人】【社会人】【自己実現人】
- 7回 組織論と人間観② 【全人仮説】【意味充実人】【マズローの自己実現人】
- 8回 組織の環境適応① 【ライン組織】【ファンクショナル組織】【ラインとスタッフ】
- 9回 組織の環境適応② 【組織の大規模化】【職能部門制組織】
- 10回 組織の環境適応③ 【トヨタ生産方式と改善】【自律的作業集団】
- 11回 組織の環境適応④ 【多角化戦略】【事業部制組織】
- 12回 組織の環境適応⑥ 【組織間関係論】
- 13回 組織と社会① 【組織と文化】【家の論理】
- 14回 組織と社会② 【責任】【随伴的結果論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...80% 小レポート・レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」「マネジメント論基礎」の内容を復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

可能な限り、意見を反映させていきたいと考えています。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【組織の3要素】【環境適応】【随伴的結果】【自由と責任】

企業ファイナンスI【夜】

担当者名 /Instructor 篠崎 伸也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業(株式会社)は銀行や証券市場から資金を調達し、資産(工場、金融資産など)に投資を行います。投資から得られたキャッシュ(現金)の一部を企業内部に保有(内部留保)し、その残りを資金提供者(債権者や株主)に還元します。このような一連の財務行動は、企業価値(株主価値)を高めることを目的としています。しかし企業が株主価値を意識しない財務行動をとると株主価値は低下し、倒産を招く、あるいはM&A(合併・買収)の対象となる可能性が高くなります。

本講義では、このようなコーポレートファイナンスの基本的な考え方について学習していきます。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読めて奥までわかる コーポレート・ファイナンス [改訂版]』創成社、2009年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石野雄一『ざっくり分かるファイナンス 経営センスを磨くための財務』光文社、2007年
砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門』日本経済新聞出版社、2004年
神原茂樹・菊池誠一・新井富雄『現代の財務管理』有斐閣、2003年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション、コーポレートファイナンスの世界【財務活動】
- 第2回～4回 コーポレートファイナンスの世界【期待リターンとリスク、資本提供者(債権者と株主)、証券発行、ゴーイング・コンサーン、会計上の利益とキャッシュフロー、配当、内部留保】
- 第5回 投資の基礎知識【投資の種類、貸借対照表、損益計算書、ROA】
- 第6回～7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達【額面、新株発行、優先株、内部資本調達、ROE】
- 第8回～9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達【社債の種類、クーポン】
- 第10回～11回 配当の基礎知識【配当性向、配当利回り、自社株買い戻し、株式分割】
- 第12回～14回 コーポレートガバナンス【所有と経営の分離、エージェンシー問題、取締役会、社外取締役、執行役員制度、敵対的買収、日本型のコーポレート・ガバナンス】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(宿題)・・・30%

期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 受講希望者は、必ず第1回目の講義に出席してください。
- (2) 「教科書」と「電卓」は毎回、持参してください。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」および「財務諸表論(財務会計)」の講義を履修済みか、あるいは当講義と合わせて受講すると、より理解が深まると思います。

また講義は、教科書とレジユメを使用して進めていきます。

企業ファイナンスI【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII 【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業ファイナンスは企業の財務的意思決定（資本調達、投資、配当）を分析する学問です。その際、株式市場での価格メカニズムを理解し、株式価値を上げるためにはどのような財務政策をとるべきかを考察します。企業ファイナンスIIでは、企業の最適な投資決定、資本構成、配当政策に関するさまざまな理論を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読めて奥までわかる コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。
(注意) 2009年発行の改訂版を使用しますので、注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業ファイナンスの世界【期待収益率】【標準偏差】【レバレッジ効果】
- 2回 現在価値計算1【現在価値】【割引率】
- 3回 現在価値計算2【リスク】【リスク・プレミアム】
- 4回 金融商品の価格決定1【債券価格】
- 5回 金融商品の価格決定2【株価】【配当割引モデル】
- 6回 資本コスト1【自己資本コスト】【負債資本コスト】
- 7回 資本コスト2【WACC】【CAPM】
- 8回 これまでのまとめ
- 9回 投資決定の基礎理論1【正味現在価値法】【内部収益率法】
- 10回 投資決定の基礎理論2【割引率】
- 11回 資本構成の基礎理論1【MMの資本構成無関連命題】
- 12回 資本構成の基礎理論2【負債の節税効果】【倒産コスト】
- 13回 配当政策の基礎理論1【MMの配当政策無関連命題】
- 14回 配当政策の基礎理論2【配当税制】【顧客効果】
- 15回 これまでのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験で評価します。ただし、授業中に練習問題について学生に発表してもらった場合は、成績評価に加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

企業ファイナンスIで扱う現在価値計算、配当割引モデル等の考え方を理解しておく必要があります。テキストの予習・復習を十分に行い、授業で提示する練習問題を繰り返し解くこと。毎回、電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティングI【夜】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マーケティングとは、売れる仕組みづくりを研究する学問であり、今日ではすべてのビジネスマンにこの用語と考え方が普及している。しかしこれが企業の戦略行動に具体的に活かされているかどうかは疑問が残り、しかも成熟市場下の現在、マーケティングをめぐる分析フレームワークも高度化してきている。
ここでは、このマーケティングをI(前期)とII(後期)に分け、マーケティングIでは、基礎的知識と科学的方法論をまず身につけることを目標とし、マーケティング概論とマーケティング・リサーチについて学んでいく。

教科書 /Textbooks

嶋口充輝・石井淳蔵「現代マーケティング」有斐閣、
伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
P. Gホーエル「初等統計学」培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

嶋口充輝「戦略的マーケティングの論理」誠文堂新光社
日本マーケティング協会編「マーケティング・ベーシックス」同文館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 マーケティングの仕組みと歴史 【マネジリアル・マーケティング】
- 第3回 マーケティング・マネジメントの考え方【市場細分化】【ターゲティング】
- 第4回 " 【ポジショニング分析】
- 第5回 ケース演習
- 第6回 " (解説)
- 第7回 科学的方法論とリサーチ
- 第8回 マーケティング・リサーチの進め方【アンケート】【グループインタビュー】
- 第9回 " 【平均値の差の検定】
- 第10回 " 【適合度検定】
- 第11回 " 【回帰分析】
- 第12回 " 【多変量解析】
- 第13回 事例演習
- 第14回 " (解説)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験が中心。 授業取組割合・・30% 期末試験・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マーケティングIでは、実務でよく使われる統計学を紹介するため、「経営統計学」ないし「統計学」の履修が効果的学習に繋がる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論 【夜】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを経々側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management: Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文眞堂が公刊されています。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
 - 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
 - 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】、労使関係論の前半【企業別組合】
 - 11回 労使関係論の後半【団体交渉】、非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】
 - 12回 女性労働者と高齢労働者の問題【ダイバーシティ】【再雇用制度】
 - 13回 専門職制度・研究開発技術者の人的資源管理【プロフェSSIONAL】【R&D】
 - 14回 最近の人的資源管理学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ、択一式問題演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくことよ。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語はしないこと、無断で遅刻・退席をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってほしい。
あと教科書は「改訂版」を使用するので、「初版」ではなくこちらを持参されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないであろう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずである。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれないが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえる。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

財務会計論I【夜】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、(2010年11月)、1,890円(当時)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会计学)とは何か?【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計【売上原価について】
- 9回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 資産について【資産概念の変化について】
- 12回 負債について【負債概念の変化について】
- 13回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 14回 会計のルール【企業会計原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原価計算論I【夜】

担当者名 梅澤 俊浩 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、まずラーメン屋の事例を用いて原価計算の基本を学習する。次に造船業や土木建設業などの個別受注生産の企業における原価計算の手続き（個別原価計算）を学習する。なお、「原価計算論II」では、家庭電気製品製造業や自動車製造業などの標準規格製品を連続的に見込み大量生産している企業における原価計算の手続き（総合原価計算）を扱う。

教科書 /Textbooks

前半：使用しない。
後半：清水孝・長谷川惠一・奥村雅史『入門原価計算』<第2版>中央経済社（第1講～第8講）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 ラーメン屋事例① 費用と利益の考え方【損益分岐点】
- 3回 ラーメン屋事例② 機械・設備にかかるお金【減価償却費】
- 4回 ラーメン屋事例③ 在庫と借入金の返済【利息】
- 5回 ラーメン屋事例④ 損益計算表とキャッシュフロー計算書【P/L & CF計算書】
- 6回 ラーメン屋事例⑤ 貸借対照表【B/S】
- 7回 ラーメン屋事例⑥ 財務諸表の作成【F/S】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 テキスト第4講 材料費の計算【材料費】
- 10回 テキスト第5講 労務費の計算【労務費】
- 11回 テキスト第7講 製造間接費の配賦①【実際配賦の限界】
- 12回 テキスト第7講 製造間接費の配賦②【製造間接費配賦差異】
- 13回 テキスト第7講 製造間接費の配賦③【予算差異】【能率差異】【操業度差異】
- 14回 テキスト第8講 部門別個別原価計算【部門別個別原価計算】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30% 期末試験...37% レポート...33%（全11回×3点）

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

電卓を毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ(中級ミクロ経済学)の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学(微分・積分)の基礎的な知識について復習しておく、本講義内容がより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、ケインズのな財政政策の有効性、貨幣流通量がマクロ経済に与える影響、IS-LMモデル、経済成長の基本メカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財政政策の有効性について(1) 【45度線モデル】【財政政策】【均衡予算乗数】
- 3回 財政政策の有効性について(2) 【消費・貯蓄決定のライフサイクル仮説】
- 4回 財政政策の有効性について(3) 【リカードの中立命題】
- 5回 財政政策の有効性について(4) 【国債負担】
- 6回 財政政策の有効性について(5) 【財政の持続可能性】
- 7回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(1) 【ヘビーシッター組合の寓話】
- 8回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(2) 【貨幣の定義・分類】【貨幣供給】【貨幣需要】
- 9回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(3) 【流動性選好理論】
- 10回 貨幣流通量がGDP・物価・資産価格に与える影響(4) 【中央銀行】【金融政策】
- 11回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 12回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 13回 経済成長の基礎理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 14回 経済成長の基礎理論(2) 【貯蓄率】【資本蓄積】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学Iと連続した内容なので、マクロ経済学Iでの学習内容を十分復習しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報ネットワーク【夜】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3回 データ交換方式1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4回 データ交換方式2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6回 各層のプロトコル1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7回 各層のプロトコル2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8回 各層のプロトコル3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9回 各層のプロトコル4【フレーム】
- 10回 各層のプロトコル5【物理層】
- 11回 経路制御1【経路制御】【IPアドレス】
- 12回 経路制御2【プライベートIPアドレス】
- 13回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14回 問題演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味は、講義中にも説明するが、自分でもきちんと調べて受講してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

情報管理【夜】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ITの進展と共に情報が社会、経済環境に大きな影響を与え、個人、企業問わず情報の効率的に必要なデータを収集し、加工、管理し、戦略的に利用する技術は必要不可欠なものとなってきています。本講義では、データ収集の目的に利用可能なWebプログラミング中心に学びます。具体的には、データの収集方法としてのCGIを学びます。

CGIとは、Common Gateway Interfaceの略で、入力欄やボタンのあるWebページからデータを取得し、何らかの処理をすることができる仕組みです。たとえば検索ページで検索語を入力欄へ入力して検索ボタンを押すと検索結果が表示されますが、あのようなページをイメージするとわかりやすいかと思います。その他アンケートや掲示板、Webショップの買い物かごなどを作ることができます。

教科書 /Textbooks

講義の最初に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古田たかし『はじめてのCGI&Perl』ソフトバンクパブリッシング
Rによる統計データ分析入門

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、CGIとは【CGI】
 - 第2回：CGIに必要なソフトのインストール
 - 第3回：CGIの仕組み
 - 第4回：CGI作成のためのPerl言語入門【Perl言語】【変数、配列】
 - 第5回：CGI作成のためのPerl言語入門【条件分岐】
 - 第6回：CGI作成のためのPerl言語入門【繰り返し】
 - 第7回：CGI作成のためのPerl言語入門【ファイル操作】
 - 第8回：乱数の利用【乱数】
 - 第9回：クリッカブルマップの利用【クリッカブルマップ】
 - 第10回：クッキーとは【クッキー】
 - 第11回：CGI技術の応用【CGI応用】
 - 第12回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【アンケート】
 - 第13回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【買い物かご】
 - 第14回：SSI (Server Side Include)
 - 第15回：まとめ
- (進行速度、受講者の希望等により内容は変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 課題・小テスト...40% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義ではPerl言語というプログラミング言語による簡単なプログラミングをします。PerlはJAVAに似ていますので、JAVAの文法を復習しておくとう理解し易いと思います。

履修上の注意 /Remarks

経営情報学科以外の学生はプログラミング科目の受講後の履修が望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場論【夜】

担当者名 孫 月 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、証券市場の構造を理解した上で、証券投資に関する基礎理論を習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

『入門証券論（新版）』（神原茂樹・城下賢吾・姜喜永・福田司文），有斐閣コンパクト，2005年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【講義の進め方，成績評価の方法】
- 2回 証券と投資【資金の循環，リターンとリスクのトレードオフ】
- 3回 評価の基本原則(1)【貨幣の時間価値，将来価値，現在価値】
- 4回 評価の基本原則(2)【価格決定，投資収益率，投資リスク】
- 5回 企業分析【経営戦略，財務諸表，財務分析】
- 6回 債券市場【債券の種類，債券の発行と流通，格付け】
- 7回 債券分析【債券価格，債券利回り】
- 8回 株式市場【株式の種類，株式の発行と流通，株式指標】
- 9回 株式分析【配当割引モデル，投資尺度】
- 10回 ポートフォリオ理論と資本市場理論(1)【期待収益率，リスク，ポートフォリオ理論】
- 11回 ポートフォリオ理論と資本市場理論(2)【CAPM，証券市場線】
- 12回 市場の効率性と行動ファイナンス【市場の効率性，行動ファイナンス】
- 13回 先物市場と投資戦略【先物の定義と種類，先物価格，先物の投資戦略】
- 14回 オプション市場と投資戦略【オプションの定義と種類，オプションの投資戦略】
- 15回 オルタナティブ投資【プライベート・エクイティ，証券化商品，ヘッジ・ファンド】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70% 課題レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回テキストを持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講する場合は，「企業ファイナンスI」・「企業ファイナンスII」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コーポレートガバナンス【夜】

担当者名 /Instructor 晴山 英夫 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレートガバナンス（企業統治）は日本でも欧米でも大きな注目を集めている。それは、ガバナンス問題が企業の在り方や正当性にかかわっているだけでなく、企業の活力や国際競争力を左右する戦略要因とみなされるようになってきているからである。本講義の狙いは、経営学の視点からその意義と課題を明らかにし、日本におけるガバナンス改革の方向性について検討することにある。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コーポレートガバナンスとは何か
- 第2回 企業支配論からガバナンス論へ
- 第3回 企業主権論：株主理論とステークホルダー論
- 第4回 ガバナンス方法論：内部コントロールと外部コントロール
- 第5回 エージェンシー理論とM&A
- 第6回 アメリカの内部監督システム
- 第7回 ドイツの内部監督システム
- 第8回 日本の内部監督システム
- 第9回 経営者の育成と選択
- 第10回 経営者の報酬制度
- 第11回 ガバナンスの国際比較
- 第12回 日本のガバナンス改革1 監査役設置会社の事例
- 第13回 日本のガバナンス改革2 委員会設置会社の事例
- 第14回 日本的経営の再生に向けて
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（課題、小テストを含む）30%、期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自学自習に努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

管理会計論【夜】

担当者名 /Instructor 梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

管理会計とは、会計学のうちで企業内部者、たとえば経営者や事業部長などの合理的な意思決定に役立つ会計情報について研究する分野である。本講義では、管理会計の基礎理論をできるだけ計算例を用いて解説するように努める。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『学習支援フォルダ』に資料をupしておくので毎回印刷して持参してくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 管理会計の基礎①【企業の目的】
- 3回 管理会計の基礎②【エイジェンシー問題】
- 4回 業績管理会計①【キャッシュフロー計算書】
- 5回 業績管理会計②【キャッシュフロー計算書】
- 6回 業績管理会計③【財務業績の測定】
- 7回 業績管理会計④【財務業績の測定】
- 8回 業績管理会計⑤【責任会計】
- 9回 業績管理会計⑥【部門別業績評価】
- 10回 意思決定会計①【機会原価】
- 11回 意思決定会計②【資本コスト】
- 12回 意思決定会計③【現在価値】
- 13回 意思決定会計④【増資】
- 14回 意思決定会計⑤【リストラクチャリング】
- 15回 意思決定会計⑥【EVA】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...61% レポート...39% (全13回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「企業ファイナンスI・II」「財務会計I・II」「原価計算論I・II」を履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営分析【夜】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表のデータを収集し、経営分析の基本的技法である収益性の分析、安全性の分析、生産性の分析などの技術を習得する。本講義において実際の財務諸表を活用し、その数値を生きた数字として認識することがねらいである。

教科書 /Textbooks

田中弘『会計データの読み方・活かし方-経営分析の基本的技法』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森田松太郎『新版経営分析入門』日本経済新聞社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データの収集と分析【有価証券報告書】
- 3回 収益性の分析【総資本経常利益率】
- 4回 収益性の分析【資本回転率】
- 5回 収益性の分析【経常利益】【営業利益】
- 6回 安全性の分析【流動比率】
- 7回 安全性の分析【固定比率】
- 8回 経営分析の考え方【比率計算】
- 9回 財務指標の読み方【自己資本比率】【負債比率】
- 10回 生産性の分析【付加価値】
- 11回 損益分岐点分析【限界利益】
- 12回 損益分岐点分析【損益分岐点比率】
- 13回 経営分析【総合問題】
- 14回 企業データの読み方【投資情報】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

簿記論、財務会計論のみでなく、原価計算、管理会計、企業ファイナンス、経営学の科目を同時に履修することを推奨する。講義では、財務諸表の比率の練習問題を主に行うので、電卓が必需品である。実際に各企業の財務諸表に触れて、企業を見る眼を養うことが必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語A 【夜】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、基礎的な英語力の底上げをするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】
- 2回 ビジネス英語とは 【レターの構成要素】
- 3回 語学学校に手紙を書く 【問い合わせ】
- 4回 同 【「レタースタイル】
- 5回 同 【商習慣】
- 6回 個人輸入 【ディーラー】
- 7回 同 【会社】
- 8回 取引の申し込み 【取引】
- 9回 同 【要望】
- 10回 同 【商品明細】
- 11回 取引・引き合いに答える。【引き合い】 【見積もり】
- 12回 同 【取引条件】 【インコタームズ】
- 13回 同 【代理店】
- 14回 オファー・注文 【ファクシミリ】
- 15回 同 【構成要素】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予告を毎回する。基本的には、テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語B 【夜】

担当者名 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済の相互依存が進む時代においては、国際分業の利点を生かして経済水準を高めるためにも、海外との貿易取引が必要である。貿易ビジネスの領域は多岐にわたるが、ここでは主たる対象を貿易に限定する。そこでのコミュニケーションに関わる資料を理解することで、貿易の一連の流れを学ぶ。また、英語力の底上げを更にするために、取り組みやすい資格試験の対策も行う。

教科書 /Textbooks

林 純三 「入門ビジネス英語」 成美堂 1993年
林 裕二 他「Seize the Main Point of the TOEIC Test」(CD付き) 金星堂 2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館指定図書コーナーに多数あります。授業で案内します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【ビジネス】 【ビジネスレター】
- 2回 オファー 【ファームオファー】 【サブコンオファー】
- 3回 同 信用状 【信用状】
- 4回 同 【「当事者」】
- 5回 オファー・注文への応答 【契約】
- 6回 同 カウンターオファー 【カウンターオファー】
- 7回 同 【船積み】
- 8回 信用状 【発行銀行】 【通知銀行】
- 9回 同 【取り消し不能信用状】
- 10回 同 【決済】
- 11回 積み出し 【売買契約】
- 12回 同 【取引の流れ】
- 13回 同 【外国為替相場】
- 14回 クレームとその解決 【不満】 【仲裁】
- 15回 同 【品質不良】 【損傷】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献 30% 提出物 20% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回の予告を毎回する。テキストの日本語、英語のチェックをしておくこと。日本語のフォーマルレターの書き方を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

※2007、2008年度入学生のみ受講可

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の機関(1)【株主総会(1)】
- 6回 株式会社の機関(2)【株主総会(2)】
- 7回 株式会社の機関(3)【代表取締役と取締役会(1)】
- 8回 株式会社の機関(4)【代表取締役と取締役会(2)】
- 9回 株式会社の機関(5)【監査役】【会計監査人】
- 10回 株式会社の機関(6)【委員会設置会社】
- 11回 株式会社の機関(7)【善管注意義務と忠実義務】【利益相反取引】【役員報酬】
- 12回 株式会社の機関(8)【役員等の会社に対する責任】
- 13回 株式会社の機関(9)【役員等の第三者に対する責任】
- 14回 株式会社の機関(10)【株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学II【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心に展開される。

教科書 /Textbooks

P.G.ホーエル『初等統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森棟公夫『統計学入門』新世社
鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房(本格的な演習書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
- 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
- 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
- 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
- 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
- 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
- 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 8 回帰分析1 イン트로ダクション
- 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
- 10 回帰分析3 最小自乗法
- 11 回帰分析4 決定係数
- 12 回帰分析5 σ^2 の推定、 t 変量
- 13 回帰分析6 推定量の平均、 t 変量の分布
- 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
- 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点によって評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習支援フォルダに、各回の講義を受講する前に予習すべき課題を掲載する予定である。必ず、予習しておくように。なお、講義は予習をしていることを前提に行われる。

キーワード /Keywords

連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

経済地理学I【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識できる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解できる。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(Ⅰ)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(Ⅱ)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(Ⅲ)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(Ⅳ)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(Ⅴ)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代的地域構造】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

国際経済論I 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、海外直接投資を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論IIも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】
- 4回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 6回 貿易政策分析の基礎（1）【部分均衡分析】【消費者余剰】【生産者余剰】
- 7回 貿易政策分析の基礎（2）【自由貿易の利益】
- 8回 小国の貿易政策（1）【関税政策】、【補助金政策】
- 9回 小国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 10回 大国の貿易政策（1）【関税政策】
- 11回 大国の貿易政策（2）【数量割当政策】
- 12回 経済統合【FTA】【CU】
- 13回 国際要素移動（1）【海外直接投資】
- 14回 国際要素移動（2）【国際労働移動】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出（数回） 20~30 % 期末試験 70~80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、貿易政策、経済統合、海外直接投資

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表（1）【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表（2）【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎（1）【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎（2）【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引（1）【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引（2）【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論（1）【金利平価】
- 9回 外国為替の決定理論（2）【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定（1）【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定（2）【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策（1）【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策（2）【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策（3）【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出（数回） 20~30 % 期末試験 70~80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

地域政策【夜】

担当者名 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、戦後日本の地域政策の手法や特徴、問題点を学び、その上で新しい地域政策の姿を探ります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業のなかで、その都度提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 地域経済と地域問題
- 3回 日本の地域政策体系と政策手段
- 4回 特定地域総合開発計画
- 5回 全国総合開発計画（第一次、第二次）について
- 6回 全国総合開発計画（第三次、第四次）について
- 7回 国土のランドデザインについて
- 8回 国土形成計画について
- 9回 地域政策の転換と今後の政策に必要なもの（ワークショップ）
- 10回 新産業育成と地域政策（環境産業を事例に）
- 11回 地域連携と地域政策
- 12回 地域づくりと地域政策（観光振興を事例に）
- 13回 地域づくりと地域政策（ソーシャルビジネスを事例に）
- 14回 地方分権時代の地域政策のしくみ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストもしくは小レポート... 30% 期末テスト... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済地理学、地域経済、都市地理学、北九州経済分析などと併せて受講すると、より理解が深まるでしょう。

受講にあたっては、単に「授業に出てノートを取り知識を得る」ということではなく、自ら現状を分析し考えるということを意識してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域政策、国土計画、地域づくり

国際法I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約の留保
- 第4回 条約の無効
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」

- 第6回 慣習国際法
- 第7回 慣習国際法の法典化
- 第8回 条約と第三国
- 第9回 条約の国内的効力
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。
課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

国際法I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

雇用関係法 【夜】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、個別的労働関係法に焦点を当てます。個別的労働関係法は、労働組合（労働者集団）と使用者の関係を規制する集团的労働関係法と異なり、労働契約の成立、展開、終了にかかわる個別の労働者と使用者の関係を規制するものです。本講義の目的は、多くの人々が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働基準法や労働契約法をはじめとした個別的労働関係法の基本事項を学ぶところにあります。労働市場法の意義と内容についても、本講義で言及します。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

菅野和夫『労働法 第9版』（弘文堂、2010年）、土田道夫『労働法概説』（弘文堂、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「就労」の意義と労働法の役割
- 2回 雇用社会の仕組みと働き方の類型
- 3回 雇用差別禁止法
- 4回 労働契約関係の成立
- 5回 労働条件決定の仕組み
- 6回 労働時間法
- 7回 休暇と休業
- 8回 労働契約における基本的な権利義務関係
- 9回 人事異動
- 10回 労働者の多様な義務とその違反に対する制裁処分
- 11回 就業規則の変更による労働条件の変更
- 12回 労働契約関係の終了
- 13回 企業の組織変動と労働関係
- 14回 労働関係における知的財産
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書は必ず購入して下さい。労使関係法でも同じ教科書を使用します。当たり前のことですが、講義中の私語は厳禁です。

履修上の注意 /Remarks

労使関係法とセットで履修することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

所得保障法【夜】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「所得保障法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」に属するものと考えられるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。これをどのように分類するかについては、統一な分類方法・基準はない。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、生活保護の保護基準の問題なども議論となっている。本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン～「所得保障法」とは？
- 第2回 年金保険① ～公的年金保険の構造～
- 第3回 年金保険② ～公的年金保険の保険関係～
- 第4回 年金保険③ ～公的年金保険の保険給付①～
- 第5回 年金保険④ ～公的年金保険の保険給付②～
- 第6回 年金保険⑤ ～公的年金保険の保険給付③～
- 第7回 年金保険⑥ ～公的年金保険の財政及び不服申立～
- 第8回 年金保険⑦ ～公的年金制度と私的年金制度～
- 第9回 公的扶助① ～我が国における公的扶助制度、生活保護制度の基本原則①～
- 第10回 公的扶助② ～生活保護制度の基本原則②～
- 第11回 公的扶助③ ～保護実施の4つの原則～
- 第12回 公的扶助④ ～保護の種類と方法～
- 第13回 公的扶助⑤ ～保護の実施機関とプロセス～
- 第14回 公的扶助⑥ ～不服申立制度～
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験...100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・「社会保障法」としての体系的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
- ・応用科目としての性格が強いため、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【 】はキーワード)

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 民法に対する商法の特色は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 第3回 商人とは何か【固有の商人】【擬製商人】【会社】
- 第4回 商行為とは何か【絶対的商行為】【相対的商行為】【附屬的商行為】
- 第5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護【周知性・著名性】
- 第9回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人の3類型】【雇用】
- 第10回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【その他の商業使用人】
- 第12回 企業活動と消費者 【普通取引約款の利用】
- 第13回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか【商業登記】
- 第14回 営業・事業に関する重要事項が「公示」されるとどのような効果が生じるか【登記の効力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際開発援助の視点から途上国が抱える諸課題について学習します。まずは、政府開発援助の仕組みとその役割、国際開発援助レジームの発展についての基礎知識を学びます。次に、個別のイシューごとにどのような取り組みが行われているのかを学びます。

教科書 /Textbooks

勝間靖編『テキスト国際開発論』ミネルヴァ書房、2012年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下村恭民他『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際開発援助の歴史的発展 1 (1960年代～1970年代)
- 第2回 国際開発援助の歴史的発展 2 (1980年代～現在)
- 第3回 政府開発援助(ODA)の仕組みと働き 1 - 日本の場合を事例に -
- 第4回 政府開発援助(ODA)の仕組みと働き 2 - 欧米の場合を事例に -
- 第5回 国際開発援助レジームの発展と限界
- 第6回 貧困問題を捉える視点
- 第7回 貧困問題解決の手法
- 第8回 飢餓と食糧安全保障
- 第9回 健康問題と感染症
- 第10回 途上国における教育問題
- 第11回 途上国におけるジェンダーの問題
- 第12回 国際開発における国連の役割
- 第13回 国際開発におけるNGOの役割
- 第14回 援助を超える議論 - CSR、社会起業家 -
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際協力機構(JICA)や経済開発協力機構(OECD)のホームページを日頃から参照しておく、本講義の内容が理解しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

国際協力論II 【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習します。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

藤原帰一・大芝亮・山田哲也編『平和構築・入門』有斐閣、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○メアリー・B・アンダーソン著、大平剛訳『諸刃の援助 - 紛争地における援助の二面性』明石書店、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 冷戦の終結と新しい戦争
- 第2回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアを事例に -
- 第3回 国家の破綻と崩壊 2 - ルワンダを事例に -
- 第4回 国家の破綻と崩壊 3 - ソマリアを事例に -
- 第5回 P K Oの変容と限界
- 第6回 「人道的介入」
- 第7回 「保護する責任」論
- 第8回 新たな脅威と「テロとの戦い」
- 第9回 平和構築アプローチ
- 第10回 紛争後復興社会における「法の支配」
- 第11回 紛争後復興における開発の役割
- 第12回 紛争再発予防のための紛争分析
- 第13回 Do No Harm原則①
- 第14回 Do No Harm原則②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 4 0 % 学期末試験... 6 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新書や文庫で紛争地のルポルタージュなどを読んでおくと講義の理解に役立ちます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。

キーワード /Keywords

財政学I【夜】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人々が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとする。

財政学Iは、現実の財政制度や事情についての説明を中心に行う。どのような財政のあり方が望ましいのかを、経済理論を用いて説明するのは財政学IIで行う。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社 ○
 「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社 ○
 井堀 利宏「新経済学ライブラリー7 財政学(第3版)」新世社 2006年 ○
 畑農 鋭矢・林 正義・吉田 浩「財政学をつかむ」有斐閣 2008年 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】は講義のキーワード)
- 1回 イントロダクション(財政の3つの機能)
 - 2回 財政とは何か?(財政学の変遷)
 - 3回 日本の財政制度①(【予算制度】)
 - 4回 日本の財政制度②(【財政投融资】)
 - 5回 租税(日本の【租税】制度)
 - 6回 公債(日本の【公債】事情)
 - 7回 演習(これまでの復習)
 - 8回 地方財政①(【地方財政制度】)
 - 9回 地方財政②(【地方財政事情】)
 - 10回 日本の財政事情①(戦後日本【財政史】)
 - 11回 日本の財政事情②(現在の国の【財政事情】)
 - 12回 財政事情の国際比較
 - 13回 財政収支(【財政収支】【世代間の不公平】)
 - 14回 税と社会保障に関する特別講義(外部講師による講義がDVDなどの教材を用いた講義)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50%
 中間レポート課題... 25%
 簡易レポート課題... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

財政に関するニュースはほぼ毎日、ニュースで取り上げられるので、財政に関心を持つようにニュースなどをしっかり見て欲しい。そして、「公共経済学」も併せて履修するのが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

財政学は制度・事情・理論の多岐に渡る学問です。そして、非常に地味な学問です。しかしながら、財政抜きにしてこの社会や私たちの生活を語ることはできません。いかに財政というものが身近であるかを分かってもらい、親近感を持ってもらうことがこの講義のねらいです。テキストのみの解説に留まらず、新聞や雑誌などを適宜説明し、興味を引き付けられるようにするつもりです。

財政学I【夜】

キーワード /Keywords

税と社会保障 予算制度 会計制度 財政赤字 世代間の不公平 地方財政制度

財政学II【夜】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人々が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとしたい。

財政学IIでは、経済理論を用いて、財政制度が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、その上で社会にとって望ましい財政のあり方を説明する。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社 ○
 「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社 ○
 井堀 利宏「新経済学ライブラリ7 財政学(第3版)」新世社 2006年 ○
 小塩 隆士「社会保障の経済学(第3版)」日本評論社 2005年 ○
 畑農 鋭矢・林 正義・吉田 浩「財政学をつかむ」有斐閣 2008年 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】は講義のキーワード)
- 1回 インTRODクシヨN(財政学Iと経済理論のおさらい)
 - 2回 租税①(課税の経済理論【租税理論】(【応益説】と【応能説]))
 - 3回 租税②(課税の経済理論(【転嫁】と【負担]))
 - 4回 租税③(課税の経済理論(【最適課税]))
 - 5回 公債(【公債】の経済理論)
 - 6回 公共財①(【公共財】の最適供給)
 - 7回 公共財②(【投票】・【地方公共財】)
 - 8回 マクロ財政政策(【公共投資】と【減税】)
 - 9回 所得再分配(【ジニ係数】・【相対的貧困率】)
 - 10回 経済政策理論(【外部効果】・【時間的非整合性])
 - 11回 演習(計算問題の復習)
 - 12回 社会保障制度①(【公的年金】・【生活保護])
 - 13回 社会保障制度②(【公的医療保険】・【介護保険])
 - 14回 最近の研究動向の紹介
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50%
 中間レポート... 25%
 簡易レポート... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」の基礎知識を前提として進めるので、これらの科目を履修しておくこと、より理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

経済理論を扱うため、数学や計算を用いた講義となります(2回に1回程度)。また、高校レベルの数学である微分を用いることもありますが、微分を用いる計算については試験の範囲に含めません。

財政学II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では計算をよく行います。よく使う計算は中学レベルなのですが、慣れていないとできないものです。しかしながら、中学レベルの計算は日常では必ず役に立ちますので(お買い物をする時など)、計算が苦手だという人もこの講義で是非慣れて欲しいです。計算問題では答えはただ1つしか出てきません。その答えをしっかりと導出するためには、きちんとルールに従って考える必要があります。計算問題がしっかり解けるということはきちんと理解しているということなので、しっかりと理解するためにも進んで計算問題に取り組んでいきましょう。

キーワード /Keywords

税と社会保障 公平性 効率性 政治経済学 所得格差 経済政策

国際マクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「世界経済の動き」をマクロ経済学の視点から理解することができ、また日本経済の実態を世界経済の動きと結びつけて理解できるようになることを目的としている。

教科書 /Textbooks

* 後日、講義の中で指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済のグローバル化と日本経済の動向
- 第2回 世界経済の現状（Ⅰ）：世界の余剰資金とアメリカ経済 【国際資本】 【ドル通貨】
- 第3回 世界経済の現状（Ⅱ）：世界経済の動向と新興経済大国（BRICs） 【欧州連合】 【ユーロ】 【資源大国】
- 第4回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅰ）-マクロ経済学の基本的枠組み（基礎概念）-
【総供給・総需要】 【マクロ均衡・不均衡】
- 第5回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅱ）-国際マクロ経済の分析枠組み（基礎理論）-
【輸出・輸入】 【輸入超過】 【輸出超過】
- 第6回 国際マクロ経済の分析視点（Ⅲ）-国際マクロ経済の分析枠組み（応用理論）-
【内需・外需】 【経常収支の黒字・赤字】
- 第7回 国際収支表と国際収支の諸概念（Ⅰ） 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第8回 国際収支表と国際収支の諸概念（Ⅱ） 【経常収支黒字と資本収支赤字】 【外貨準備の増減】
- 第9回 国際収支と日・米経済関係（Ⅰ） 【経常赤字】 【財政赤字】 【双子の赤字】
- 第10回 国際収支と日・米経済関係（Ⅱ） 【資本の輸出】 【対外投資】
- 第11回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅰ） 【貯蓄・投資】 【財政収支】 【経常収支】
- 第12回 日本経済の国際マクロ分析：経常収支と貯蓄・投資バランス（Ⅱ） 【過剰貯蓄】 【資本輸出】 【金融資産】
- 第13回 日本経済現状：経常収支の黒字と外貨準備高 【円高】
- 第14回 世界経済の不均衡問題 【経常収支の黒字・赤字】 【債権大国：日本・中国】 【債務大国：アメリカ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
- (3) 授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

* この授業に関連する参考書etcを必ず読んでおくこと。

国際マクロ経済学I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- * 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- * 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

GDP 貯蓄と投資 内需と外需 総需要と総供給 マクロ需給バランス オープンマクロ
経常収支 資本収支 外貨準備 輸出超過 輸入超過 資本輸出 資本輸入 対外債権 対外債務
貯蓄超過 財政赤字 対外投資 対内投資 金融資産 国際資本 円高 ユーロ

国際マクロ経済学II 【夜】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際マクロ経済学を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、外国との経済取引は益々重要性を帯びている。講義では、海外との取引を視野に入れた場合のマクロ経済（オープン・マクロ経済）について、理論と現実経済の両面から分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「世界経済の動き」をマクロ経済学の視点から理解することができ、また日本経済の実態を世界経済の動きと結び付けて理解できるようになることを目的としている。

教科書 /Textbooks

* 後日、講義の中で指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：世界経済と日本
- 第2回 国際通貨制度とその変遷 【金本位制度】【管理通貨制度】【IMF 体制】
- 第3回 外国為替取引と為替レート 【円建て】【ドル建て】
- 第4回 外国為替制度：固定相場制度と変動相場制度 【平価】【固定レート】【市場レート】
- 第5回 外国為替レートの決定メカニズM 【ドル買い】【円売り】
- 第6回 変動為替相場（フロート）制度 【円高】【円安】
- 第7回 固定為替相場制度 【平価】【為替介入】【外貨取引の規制】【マクロ経済政策】
- 第8回 変動為替相場制度と為替介入（I）
【管理フロート制】
- 第9回 変動為替相場制度と為替介入（II）
【外国為替資金特別会計】【FB：政府短期証券】
- 第10回 為替介入と外貨準備高 【通貨当局】
- 第11回 外国為替レートとマクロ経済政策の效果 【財政政策】【金融政策】【資本移動】
【不胎化介入】【非不胎化介入】
- 第12回 固定相場制と政策效果 【IS曲線】【LM曲線】【BP曲線】
- 第13回 変動相場制と政策效果 同上
- 第14回 グローバル経済化と資本移動 【マンデル＝フレミング・モデル】
- 第15回 まとめ-世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1) 経済学部の学生は、事前に「マクロ経済学」を受講していれば授業がわかりやすい。
- (2) 世界経済の動向を載せた新聞や雑誌にも目を通しておくと、授業がより効果的である。
- (3) 授業を受けるにあたっては、授業中に配布する資料をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

* この授業に関連する参考書etcを必ず読んでおくこと。

国際マクロ経済学II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- * 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- * 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

国際通貨制度 MF 体制 円建レート ドル建レート

円高 円安 通貨当局 管理フロート制 外為特会 FB 平価 為替介入

不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策 財政政策 金融政策 資本移動

国際貿易論I 【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 /YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

立石揚志「海外直接投資とアジアの貿易循環」ふくろう出版（2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 貿易とは何か。現代の貿易と経済。貿易の基礎理論
- 2回 貿易と経済・社会
- 3回 貿易と国際収支、為替レート
- 4回 貿易を巡る国際的枠組みとIMF体制
- 5回 GATTからWTO体制へ
- 6回 FTA/EPAを巡る国際的動き
- 7回 東アジア共同体構想の現状と将来
- 8回 日本経済と貿易の歩み
- 9回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 10回 アジアとの生産分業が進んだ90年代以降の貿易
- 11回 貿易を巡る新しい動き（TPP環太平洋経済連携協定）
- 12回 グローバル化と反グローバル化
- 13回 直接投資の増大と貿易
- 14回 日本の貿易の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞や経済雑誌を中心とする貿易に関する情報に常に関心をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論II 【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

立石揚志「海外直接投資とアジアの貿易循環」ふくろう出版（2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 直接投資の増大と貿易
- 2回 同上
- 3回 アジアを中心とするFTA, EPAの動き
- 4回 TPP(環太平洋経済連携協定)との関連
- 5回 東アジア共同体構想の推移
- 6回 1990年代以降の歴史
- 7回 東アジア共同体の現状
- 8回 日中韓のFTA
- 9回 東アジア共同体の課題
- 10回 アメリカのアジア回帰
- 11回 国際経済学と国際貿易論
- 12回 WTOと貿易自由化
- 13回 TPPの今後と国際貿易に関するトピックス
- 14回 アメリカ、中国、日本
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に興味をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法II【夜】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをする事も増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法(とりわけ私法)は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動してただけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名をしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち(振出人、受取人、所持人等)の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍児他「商法III - 手形・小切手(第4版)」(有斐閣Sシリーズ・2011年)2100円。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ①体系書：川村正幸「手形・小切手法(第3版)」(新世社・2005年)、関俊彦「金融手形小切手法(新版)」(商事法務研究会・2003年)。
- ②判例：落合誠一編「手形小切手判例百選(第6版)」(別冊ジュリスト173号)(有斐閣・2004年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手法を学ぶこと
- 第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(1)【有価証券】
- 第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(2)【証拠証券、免責証券、金券】
- 第5回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(3)【原因関係、商業手形、融通手形】
- 第6回 手形・小切手を振り出してみる(1)【手形署名、手形行為】
- 第7回 手形・小切手を振り出してみる(2)【手形理論、権利外観理論】
- 第8回 手形・小切手を振り出してみる(3)【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
- 第9回 手形・小切手を振り出してみる(4)【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
- 第10回 手形・小切手を振り出してみる(5)【手形要件】
- 第11回 手形・小切手を振り出してみる(6)【白地手形】
- 第12回 手形を満期前に譲渡する(1)【裏書、裏書の連続】
- 第13回 手形を満期前に譲渡する(2)【人的抗弁の制限】
- 第14回 手形が盗まれてしまった!(1)【善意取得】
- 第15回 手形が盗まれてしまった!(2)【公示催告、除権決定、手形訴訟】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあつて、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である(手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(できれば最新の)六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

企業取引法II【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

約束手形 為替手形 小切手 有価証券

都市政策論 【夜】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本社会が激変している中で、多くの地方都市は経済的に疲弊しており、同時に都市再生を模索して様々な動きを始めている。

この講義では、多様な人材・施設・機能が集積する都市において、住民・企業・団体の様々なニーズに応えながら、都市機能を高め、地域経済の活性化を進めるためにどのような政策手法が有効であるかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
- 吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
- 小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
- 中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市政策論とは何か
- 2回 都市が直面する課題
- 3回 都市政策の前提とこれからの都市政策
- 4回 都市政策と人材確保
- 5回 魅力ある都市づくり
- 6回 国の産業政策・地域振興政策
- 7回 産業集積の理論と実態
- 8回 産業クラスター政策と課題
- 9回 中小企業振興の取組み
- 10回 新産業創出の取組み
- 11回 企業誘致の実態とその課題
- 12回 小売り商業と商店街の実態と課題
- 13回 中心市街地の再生
- 14回 雇用政策
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

職業指導A【夜】

担当者名 /Instructor 綾部 眞道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、職業と産業および経済社会の発展との関係についての理解を深め、次いで、職業指導・進路指導の係る基礎理論を修得する。さらに、高卒者の職業生活移行への課題を明らかにし、適切な職業指導を行うための資質・能力の育成を目指す。講義全体のキーワードは、生徒が主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図ることに資する教員の資質・能力である。

教科書 /Textbooks

使用しない。その都度、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省編『高等学校進路指導資料第2分冊「個性を生かす進路指導をめざして」』日本進路協会
 仙崎 武他著『新訂 21世紀のキャリア開発』文化書房博文社
 日本進路協会編『高校生のキャリアプラン』実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 本講座のガイダンスおよび職業の概念
- 第 2 回 産業構造の変化と職業
- 第 3 回 望ましい職業観
- 第 4 回 能力・適性」の解釈
- 第 5 回 自己概念と自己変革
- 第 6 回 進路指導（職業指導）の法的規定
- 第 7 回 進路指導（職業指導）の諸活動【個人理解】、【進路情報】、【啓発的経験】
- 第 8 回 進路指導（職業指導）の諸活動【進路相談】、【進路選択・決定の指導】、【追指導】
- 第 9 回 職業適性検査（GATB）・・・（講義及び演習）
- 第 10 回 職業レジネステスト（VRT）・・・（講義及び演習）
- 第 11 回 商業高校卒業生の進路および就職状況の推移。
- 第 12 回 高卒者の職業生活の移行についての現状と課題【就職環境の変化】、【就職の仕組み】
- 第 13 回 高卒者の職業生活の移行についての現状と課題【就職慣行の見直し等】
- 第 14 回 企業が求める人材について。
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 80%， 平常の学習状況（課題等）... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前・事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

職業指導B【夜】

担当者名 /Instructor 綾部 真道 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講座では、「職業指導A」の学習に引き続いて、高等学校における職業指導・進路指導の具体的展開について学び、その上で、キャリア教育への展開やデュアルシステムの動向等について修得し、適切な職業指導を行うための基礎的な実践的指導能力の育成を目指す。講義全体のキーワードは、生徒が主体的に職業を選択・決定し将来の自己実現を図ることに資する教員の資質・能力である。

教科書 /Textbooks

使用しない。その都度、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省編『高等学校進路指導資料第2分冊「個性を生かす進路指導をめざして」』日本進路協会
 仙崎 武他著『新訂 21世紀のキャリア開発』文化書房博文社
 日本進路協会編『高校生のキャリアプラン』実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 職業指導（進路指導）の全体計画の立案。
- 第 2 回 ホームルーム活動における職業指導（進路指導）計画。
- 第 3 回 ホームルーム活動における指導の展開（例 1 - 仕事と生きがい - ）
- 第 4 回 ホームルーム活動における指導の展開（例 2 - 職業レジネステストの活用 - ）
- 第 5 回 進路相談の具体的展開（例 1 - 進路適性の理解を深める就職相談 - ）
- 第 6 回 進路相談の具体的展開（例 1 - 進路計画の立案を助ける進学相談 - ）
- 第 7 回 インターンシップの意義
- 第 8 回 インターンシップの具体的事例
- 第 9 回 インターンシップの評価と課題
- 第 10 回 就職活動のスケジュールと手続きおよび具体的指導内容。
- 第 11 回 職業指導からキャリア教育へ。
- 第 12 回 キャリア教育の基本方向。
- 第 13 回 キャリア教育推進のための方策。
- 第 14 回 デュアルシステムの動向
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 80%, 平常の学習状況(課題等)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前・事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
この授業では、「学習指導要領」に規定されている「学校教育」（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における「道徳教育」の理念と具体的な実践方法について学習する。

教科書 /Textbooks
『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「学校教育」における道徳教育の構造	【学校教育の全領域】
2回 「各教科」と道徳教育	【陶冶】【訓育】
3回 「特別活動」と道徳教育	【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】
4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育	【横断的・総合的な学習】【活動】
5回 「道徳の時間」と道徳教育	【道徳の時間の指導内容】【全体計画】
6回 「道徳の時間」の指導過程	【指導方法】
7回 「道徳の時間」の指導技術	【学習指導案】【指導技術】
8回 「道徳の時間」と「モラルジレンマ」	【ジレンマ教材】【対立・葛藤】
9回 「道徳の時間」と「役割演技」	【動作化】【ロール・プレイ】
10回 「道徳の時間」と「アサーション」	【主張】
11回 「道徳の時間」と「エンカウンター」	【出会い】【構成的グループエンカウンター】
12回 「道徳の時間」と「作文」	【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】
13回 「道徳の時間」と「体験」	【自然体験】【社会体験】
14回 「道徳の時間」の「指導事例」	【指導技術】
14回 「道徳の時間」の「模擬授業」	【評価】
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義、教員の役割、教員の職務内容等に関する知識を習得し、教職についての理解を深め、教職について多角的に考察し、教職についての意欲や適性等を熟考し、「学生が教員としての適格性を持つためにどのような努力をしなければよいか」ということを含めて、進路選択について指導・助言を受ける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

1回 学校教育と教職の意義	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の役割	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の職務内容と「生徒指導」	【教員の職務】【生徒指導の伝統】
6回 キャリア教育	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の使命	【教育の論理】【生活の論理】
8回 「生きる力」と教員の役割	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の役割	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の役割	【生と死の教育課程】
11回 「身体の教育」と教員の役割	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」と教員の役割	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」と教員の役割	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「評価」「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 教員の「資質」と「適格性」/まとめ	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
同時に、発達の過程で生じる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達【愛着の個人差、世代間伝達】
- 第8回 共同注意と言語発達
- 第9回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第10回 児童期における社会性の発達
- 第11回 青年期における論理的思考の発達
- 第12回 アイデンティティの模索【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期・老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 教育制度の基本原則 教育制度とは 日本の教育法制
- 2 回 学校制度の基本的事項 (1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 3 回 学校制度の基本的事項 (2) 義務教育、学校体系等
- 4 回 教員に関する制度 教員免許法制、公務員としての教師、教員の指導力と研修等
- 5 回 教育行財政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校等
- 6 回 生涯学習の制度 成人教育、学校教育と社会教育の連携等
- 7 回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価等
- 8 回 教育課程の意義と編成 (1) 学習指導要領、教科書・教材等
- 9 回 教育課程の意義と編成 (2) 学校の教育課程編成
- 1 0 回 学校における教育課程経営
- 1 1 回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 1 2 回 教育課程の評価
- 1 3 回 教育課程の開発
- 1 4 回 今日の課題と教育課程
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ① 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を理論的、実践的に深めること。
- ② 子どもたちがお互いの生きづらさや葛藤を理解し、表現しあう中で、お互いを支え合える関係づくりを学級活動の中で築いていくための課題と実践方法を検討していくこと。
- ③ 市民社会の担い手に求められる市民的スキルを学級活動などを通じて獲得させていく方法を実践的に学習すること。
- ④ 子どもたちの自己効力感、自己有用感を育み、自治の力を育む生徒会活動、学校行事のあり方について、具体的な実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- ⑤ 上記の理念と実践を踏まえて、学級経営、学校行事の指導計画の作成方法を学習すること

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 及び高等学校学習指導要領 特別活動
折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」の「特別活動」の目的・領域について
- 3回 参加者の現実の学校体験から、学級活動の課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動 その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターン
- 5回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 子どもたちの対人関係スキルを育てるHR活動 その3 - ロールプレイの取り組み
- 7回 すべての子どもの居場所となる学級集団指導の留意点
- 8回 学級経営の指導計画案の作成
- 9回 子どもたちの自治の力を育てる生徒会活動の課題と方法
- 10回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 体育祭の取り組み
- 11回 子ども達の自治の力を育てる学校行事の課題 - 文化祭・合唱コンクールの取り組み
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる学校行事の課題 - 修学旅行の取り組み
- 13回 荒れている学級をどう立て直すか? - 中学校の実践
- 14回 荒れている学級をどう立て直すか? - 高等学校の実践
- 15回 学校行事の指導計画案の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は人間関係学科の専門科目にもなっていますが、基本は教職課程の科目です。教師をめざす学生に求められる真摯な授業態度や積極的な活動への参加を期待します。

キーワード /Keywords

学級集団づくり、対立解決のスキル、自治能力の育成

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、各教科を実際に指導する授業の場面を想定し、学習指導案の作成や教材研究等を組み入れて、将来の高度情報社会に生きる生徒に必要な資質を養うための、情報機器及び教材の活用を含んだ実践的な教育の方法の理論と技術を習得する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著『教育の方法』ミネルヴァ書房、他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「教育の方法」とは何か 【教育の方法の形態】【比喻・モデル】
- 2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産 【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
- 3回 「現代」の「教育の方法」 【連続と非連続】【現代化】
- 4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」 【教師の資質能力】【ファシリテーター】
- 5回 「情報機器」と「教材」の活用 【メディアリテラシー】【情報活用能力】
- 6回 「情報化社会」における生徒の指導 【情報化社会】【インターネット】
- 7回 「学習遅滞」の指導 【学習遅滞】【SHELLモデル】
- 8回 教師と生徒の「コミュニケーション」 【話す】【聞く】
- 9回 「学習規律」を育てる指導方法 【出席と参加】【学習規律】
- 10回 各教科指導の「具体的システム」 【学習指導要領】【学習のシステム】
- 11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」 【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
- 12回 各教科指導の「学習指導案」 【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
- 13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」 【発問】【説明】【指示】【助言】
- 14回 各教科指導における「評価」 【授業評価】【自己評価】
- 15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて - 【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法等を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜事業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法 【教育方法】
 3. 授業と教育技術 【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
 6. 授業実施の技術 【授業技術】
 7. 授業の評価 【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成 【学習指導案】
 11. 教材研究 【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業 【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価 【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上 【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ 【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な構えや学習指導及び生徒指導等の理論や知識・技術を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 オリエンテーション	【教育実習】【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】【学級経営】
5回 学級経営について	【学級集団づくり】【学級通信】
6回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】【生徒理解】
7回 生徒指導と教育相談	【生徒理解】【生徒指導体制】
8回 授業観察の方法	【授業観察の視点】【授業記録シート】
9回 生徒の人権と教育	【人権】【自尊感情】
10回 参加型授業の実践	【参加】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】【学習指導案】
12回 模擬授業①(中学・高校)	【授業構成】【導入】
13回 模擬授業②(中学・高校)	【授業構成】【展開】
14回 模擬授業③(中学・高校)	【授業構成】【練習】【応用】
15回 模擬授業④(中学・高校)	【指導技術】【発問】【説明】【指示・助言】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%) 学期末の提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の事前に指示されたことを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 第 1回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談)、学校教育の中での位置づけについての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談、カウンセリングの基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。
4. 子どもの「最善の利益」を一致点とした保護者との共同、関係諸機関との共同に向けての課題を明らかにしていくこと。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1~4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 伊藤美奈子・春日井敏之編 よくわかる教育相談 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の意義と3つの領域(開発的教育相談、予防的教育相談、治療的教育相談(問題解決的教育相談))
- 3回 学校カウンセリングの教育相談の基本的な理念について
- 4回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 7回 不登校の子どもに対する教育相談
- 8回 発達障害の子どもに対する教育相談
- 9回 子どもの問題をめぐる保護者との共同・連携の課題
- 10回 教育相談活動における連携について - スクールカウンセラーとの連携に視点をあてて
- 11回 教育相談活動における連携について - スクールソーシャルワーカー等との連携
- 12回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 13回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 14回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育相談【夜】

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、いじめ問題、不登校問題

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義と課題について、生徒指導の目的、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導)の区別と関連などを検討していくこと
- ② 養育環境や発達上の困難な課題を抱える子どもの内面に寄り添う生徒指導の課題について検討していくこと。
また、実際の生徒指導の場面を想定して、その場面での対応を考える力を養うこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を踏まえた進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。
また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 片山紀子 入門 生徒指導 - 「生徒指導提要」を踏まえた新しい生徒指導のありかた 学事出版
- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 「キャリア教育のすすめ」
- 日本キャリア教育学会 キャリア教育概説 東洋館出版
- 見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 生徒・進路指導論の課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際
- 3回 生徒指導の基本 その1 生徒指導の三機能と、開発的生徒指導、予防的生徒指導、治療的生徒指導
- 4回 生徒指導の基本 その2 毅然たる指導、ゼロトランス他
- 5回 実際の生徒指導場面での紙上応答練習
- 6回 「我が子の非行と向き合う親たちの会」の方の講演
- 7回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(女子生徒の事例から)
- 8回 対人関係でのトラブルを繰り返す生徒に対する理解と指導(男子生徒の事例から)
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 今日の高등학교の問題状況と進路指導の課題
- 13回 進路指導の場面を想定してのロールプレイ実習
- 14回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート20%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの5, 6章, 8章をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

生徒・進路指導論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、進路指導

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考える。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、家族、学校、地域社会等で観察される諸事象をとりあげて社会的な視点から分析をし、教育社会学の基礎的な概念を提示していきながら、教育に関する事象について、社会的な見方、考え方ができるようになることをめざす。

教科書 /Textbooks

プリント(講義レジュメ・資料)を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

配布プリントに提示する他、授業中、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育社会学の対象と方法
- 2回 家族の諸形態と教育の機能
- 3回 子どもの社会化の課題
- 4回 学校・教室空間と教育過程
- 5回 教師文化と生徒文化の生成・葛藤
- 6回 若者と職業をめぐる課題
- 7回 学校と地域の歴史
- 8回 「地域の教育力」をめぐる課題
- 9回 生涯学習社会における学び
- 10回 友人関係における葛藤
- 11回 高度消費社会に生きる若者
- 12回 新たなメディアのなかの関係
- 13回 少年非行と教育・社会の課題】
- 14回 教育における格差
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたり、配布したレジュメ・資料をよく読むこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「世界が100人の村だったら」【世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ】【非識字者・同性愛者の人権】【人権教育のスキル・技能】
- 第2回 いじめ差別①(現状認識)【いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)】【各種調査(教育白書・国際調査等)】
- 第3回 いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)【いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理】【文部科学省のいじめ定義】【道徳教育と人権教育の相違点】
- 第4回 いじめ差別③(解決への教育創造)【文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」】【金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」】【自尊感情と学力形成の相関関係】【学校文化と子どもの居場所づくり】
- 第5回 子どもの人権と児童虐待防止法【児童虐待の現状認識(新聞記事・教育白書等)】【教師の責務と教育・啓発の教育創造】
- 第6回 ものけ姫①(メッセージからの課題)【物語の時代背景と登場人物から課題の整理】【ハンセン病問題と国の隔離政策】【国家賠償と社会復帰】
- 第7回 ものけ姫②(メッセージからの課題)【女性差別の歴史】【学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える】
- 第8回 同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)【身分差別をつくったのは、誰?】【中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義】
- 第9回 同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)【身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?】【「賤民」身分にされたのは、どんな人々?】【一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義】
- 第10回 同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)【解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?】【一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚】
- 第11回 同和問題との出会い直し④(文学者と部落差別)【小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)】
- 第12回 同和問題との出会い直し⑤(結婚差別)【結婚差別の事例からの課題と解決への展望】【しきたり・ならわし・慣習との出会い直し】
- 第13回 同和問題との出会い直し⑥(人権文化の創造)【教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度】
- 第14回 同和問題との出会い直し⑦(国の施策)【1965年の同和対策審議会・答申の意義】【1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義】
- 第15回 同和問題との出会い直し⑧(人権文化のまちづくり)【各地の人権文化のまちづくりの現状】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で課題を出します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords